

科目名	経済学研究の理論と方法	開講年度	2024 年度春学期
担当者	グスタボ・バルダス	配当年次	修士1・2
科目ナンバリング	—	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	経済学研究科経済学専攻		
テーマ	経済学研究のための数学と経済研究のアプローチ		
授業の目的及び概要	本講義の主な目的は、先ず、受講生が取り組んでいる研究活動を行うための研究方法の知識を修得し、マクロ経済学、ミクロ経済学、計量経済学の学修にとって必要な数学の知識及び手法を修得させることである。更に、研究方法に関して、修士論文の研究テーマに関する問題意識、研究テーマの確定、文献研究の方法、データベースの使い方についての手法を修得させることである。		
履修条件・留意点			
DPとの関連	—		
学修の到達目標	1. 数学的基礎知識を修得し、数学モデルを使う先行文献について説明することができる。 2. 修士論文に必要な研究方法の知識を修得し、研究テーマについて分析することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題への解答にコメントする。課題の再提出も認める。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストを使用しないが、以下の参考書を利用して作成した資料を Learning Portal の「授業内容/教材」にアップする。	ISBN	特にない。
参考書	① Fundamental Methods of Mathematical Economics 4th Edition, Alpha C. Chiang and Kevin Wainwright, McGraw Hill Higher Education, 2005 年 ② 現代経済学の数学基礎[第4版]〈上〉, A.C. チャン・K. ウェインライト, シーエーピー出版, 2010 年	ISBN	①9780071238236 ②9784916092885
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		0
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		50
	成果発表（口頭・実技）		0
	中間試験		0
	【定期試験】レポート試験		50
	【定期試験】筆記試験（対面）		0
	【定期試験】WEB 試験		0
	その他（%）		0
その他の内容			
この科目の受講にあたって	本科目では、様々な経済現象が数学的なモデルによって分析される。授業を理解するための基礎的な数学の知識を丁寧に教えるので、予習と復習に励む学生は問題なく理解できると思う。更に、修士論文の作成に必要な文献やデータの収集法などについてアドバイスをする。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業の案内を行う。	予習：「授業1 授業の案内」を読んで下さい。 復習：「練習1 経済学の分析のための数学」を解いて、オンラインで回答してください。	1 時間
第2回	対面	指数関数の応用問題、単調関数、逆関数について学修する。	予習：「授業2 関数と指数の法則」を読んで下さい。 復習：「練習2 関数と指数の法則」を解いて、オン	4 時間

			ラインで回答してください。	
第3回	対面	方程式の解き方、連立方程式、不等式などについて学修する。	予習：「授業3 方程式の解き方」を読んで下さい。 復習：「練習3 方程式と連立方程式の解き方」を解いて、オンラインで回答してください。	4時間
第4回	対面	極限と微分について学修する。	予習：「授業4 極限と微分」を読んで下さい。 復習：「練習4 極限と微分」を解いて、オンラインで回答してください。	4時間
第5回	対面	微分の法則について学修する。	予習：「授業5 微分の法則」を読んで下さい。 復習：「練習5 微分の法則」を解いて、オンラインで回答してください。	4時間
第6回	対面	指数関数と対数関数について学修する。	予習：「授業6 指数関数と対数関数」を読んで下さい。 復習：「練習6 指数関数と対数関数」を解いて、オンラインで回答してください。	4時間
第7回	対面	1変数の関数の最適化問題について学修する。	予習：「授業7 1変数の関数の最適化問題」を読んで下さい。 復習：「練習7 1変数の関数の最適化問題」を解いて、オンラインで回答してください。	4時間
第8回	対面	関数の解析について学修する。	予習：「授業8 関数の解析」を読んで下さい。 復習：「練習8 関数の解析」を解いて、オンラインで回答してください。	4時間
第9回	対面	積分について学修する。	予習：「授業9 積分」を読んで下さい。 復習：「練習9 積分」を解いて、オンラインで回答してください。	4時間
第10回	対面	2変数の関数の最適化問題について学修する。	予習：「授業10 2変数の関数の最適化問題」を読んで下さい。 復習：「練習10 2変数の関数の最適化問題」を解いて、オンラインで回答してください。	4時間
第11回	対面	企業の利潤最大化問題について学修する。	予習：「授業11 企業の利潤最大化問題」を読んで下さい。 復習：「練習11 企業の利潤最大化問題」を解いて、オンラインで回答してください。	4時間
第12回	対面	等式制約の下での最適化問題について学修する。	予習：「授業12 等式制約の下での最適化問題」を読んで下さい。 復習：「練習12 等式制約の下での最適化問題」を解いて、オンラインで回答してください。	4時間
第13回	対面	効用最大化問題と費用最小化問題について学修する。	予習：「授業13 効用最大化問題と費用最小化問題」を読んで下さい。 復習：「練習13 効用最大化問題と費用最小化問題」を解いて、オンラインで回答してください。 レポート試験の準備を行ってください。	5時間
第14回	対面	産業連関表について学修する。	予習：「授業14 産業連関表」を読んで下さい。 復習：「練習14 産業連関表」の課題を行って、オンラインで回答してください。 レポート試験の準備を行ってください。	5時間
第15回	オンデマンド	日本の産業連関表について学修する。 定期試験に向けて復習を行う。	予習：「授業15 日本の産業連関表」を読んで下さい。 復習：「練習15 日本の産業連関表」の課題を行って、オンラインで回答してください。 レポート試験の準備を行ってください。	5時間

科目名	ミクロ経済学特論 I	開講年度	2024 年度春学期
担当者	朱 東平	配当年次	修士 1・2
科目ナンバリング	—	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	経済学研究科経済学専攻		
テーマ	経済主体の意思決定と競争均衡		
授業の目的及び概要	<p>ミクロ経済学は、家計や企業など、個々の経済主体の行動に着目し、効率的な資源配分を追求・研究する学問である。</p> <p>本講義では、消費者（家計）の理論、生産者（企業）の理論、市場均衡、一般均衡など、ミクロ経済学における各分野の理解と、それを数学的分析によって表現するための手法について講義を行う。</p> <p>本講義は専門知識・能力の高度化を図る科目である。本講義の内容は、修士論文を執筆する上で重要な知識となるほか、国際経済特論、経済政策特論、産業組織特論等の講義科目を受講するためにも必要な知識であり、確実に理解することが望まれる。</p>		
履修条件・留意点	この科目の授業は、微分を中心とした数学を用いて行うので、事前に関連した数学の知識を復習してください。		
DP との関係	—		
学修の到達目標	本講義では、大学院における学修に必要なレベルのミクロ経済学の知識を理解し、現実の経済において企業の戦略や政府の政策が及ぼす影響について研究するための分析力を修得することができる。		
資格・検定試験への対応	—		
フィードバックの方法	小テストは採点した上で返却する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	—		
テキスト	ラーニングポータルで科目担当者作成の講義ノートを配布するので、予習・復習など授業外の学修に活用してください。	ISBN	なし
参考書	予習・復習の際、下記の参考書を授業と並行して読んでください。 Andreu Mas-Colell, Michael D. Whinston, and Jerry R. Green (1995), Microeconomic Theory, Oxford University Press.	ISBN	9.7801950734e+12
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	【定期試験】WEB 試験	0	
	その他（%）	0	
その他の内容	—		
この科目の受講にあたって	ミクロ経済学は経済学の基礎である。この授業の内容は、数学を用いて論証するが、数学そのものではなく、経済学であることに留意してください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	ガイダンス	【予習】ラーニングポータルに掲載される「第 1 回講	4 時間

		授業の概要、進め方、授業中の注意点、成績評価の基準・方法について説明する。 (なお、2回目以降の内容は計画であり、授業の進行に合わせて変更することがあります。)	義ノート」と「第2回講義ノート」を用いて予習してください。 【復習】「第1回講義ノート」と「第2回講義ノート」を読み直して、授業で学修した内容を確認してください。	
第2回	対面	消費者行動の理論(1) 予算制約と効用最大化について説明する。	【予習】ラーニングポータルに掲載される「第2回講義ノート」を用いて予習してください。 【復習】「第2回講義ノート」を読み直して、演習問題を考えてください。	4時間
第3回	対面	消費者行動の理論(2) 需要関数と補償需要関数について説明する。	【予習】ラーニングポータルに掲載される「第3回講義ノート」を用いて予習してください。 【復習】「第3回講義ノート」を読み直して、演習問題を考えてください。	4時間
第4回	対面	消費者行動の理論(3) 代替効果、所得効果とスルツキー方程式について説明する。	【予習】ラーニングポータルに掲載される「第4回講義ノート」を用いて予習してください。 【復習】「第4回講義ノート」を読み直して、演習問題を考えてください。	4時間
第5回	対面	生産者行動の理論(1) 最適化の行動について説明する。	【予習】ラーニングポータルに掲載される「第5回講義ノート」を用いて予習してください。 【復習】「第5回講義ノート」を読み直して、演習問題を考えてください。	4時間
第6回	対面	生産者行動の理論(2) 費用関数について説明する。	【予習】ラーニングポータルに掲載される「第6回講義ノート」を用いて予習してください。 【復習】「第6回講義ノート」を読み直して、演習問題を考えてください。	4時間
第7回	対面	生産者行動の理論(3) 生産関数について説明する。	【予習】ラーニングポータルに掲載される「第7回講義ノート」を用いて予習してください。 【復習】「第7回講義ノート」を読み直して、演習問題を考えてください。	4時間
第8回	対面	市場均衡(1) 財市場の均衡について説明する。	【予習】ラーニングポータルに掲載される「第8回講義ノート」を用いて予習してください。 【復習】「第8回講義ノート」を読み直して、演習問題を考えてください。	4時間
第9回	対面	市場均衡(2) 生産要素市場の均衡について説明する。	【予習】ラーニングポータルに掲載される「第9回講義ノート」を用いて予習してください。 【復習】「第9回講義ノート」を読み直して、演習問題を考えてください。	4時間
第10回	対面	市場均衡(3) 均衡の安定性について説明する。	【予習】ラーニングポータルに掲載される「第10回講義ノート」を用いて予習してください。 【復習】「第10回講義ノート」を読み直して、演習問題を考えてください。	4時間
第11回	対面	一般均衡(1) 純粋交換について説明する。	【予習】ラーニングポータルに掲載される「第11回講義ノート」を用いて予習してください。 【復習】「第11回講義ノート」を読み直して、演習問題を考えてください。	4時間
第12回	対面	一般均衡(2) 生産と交換について説明する。	【予習】ラーニングポータルに掲載される「第12回講義ノート」を用いて予習してください。 【復習】「第12回講義ノート」を読み直して、演習問題を考えてください。	4時間
第13回	対面	一般均衡(3) 均衡の安定性と一意性について説明する。	【予習】ラーニングポータルに掲載される「第13回講義ノート」を用いて予習してください。 【復習】「第13回講義ノート」を読み直して、演習問題を考えてください。	4時間
第14回	対面	厚生経済学 パレート最適性について説明する。	【予習】ラーニングポータルに掲載される「第14回講義ノート」を用いて予習してください。 【復習】「第14回講義ノート」を読み直して、演習問題を考えてください。	4時間

第15回	オンデマンド	定期試験に向けて、これまでの内容の総復習をオンデマンドで配信します。	【復習】オンデマンド動画を視聴した上で、配布された講義ノートの練習問題を解き、これまでの学修内容の総復習を行ってください。	4時間
------	--------	------------------------------------	---	-----

科目名	ミクロ経済学特論Ⅱ	開講年度	2024 年度秋学期
担当者	朱 東平	配当年次	修士1・2
科目ナンバリング	—	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	経済学研究科経済学専攻		
テーマ	戦略的行動とインセンティブ		
授業の目的及び概要	<p>ミクロ経済学は、家計や企業など、個々の経済主体の行動に着目し、効率的な資源配分を追求・研究する学問である。</p> <p>本講義では、ゲーム理論、不完全競争の理論、情報の経済学など、ミクロ経済学における各分野の理解と、それを数学的分析によって表現するための手法について講義を行う。また、現実の経済において、企業の戦略や政府の政策がどのような影響を及ぼすかという問題についても学修する。</p> <p>本講義は専門知識・能力の高度化を図る科目である。本講義の内容は、修士論文を執筆する上で重要な知識となるほか、国際経済特論、経済政策特論、産業組織特論等の講義科目を受講するためにも必要な知識であり、確実に理解することが望まれる。</p>		
履修条件・留意点	この科目の授業は、微分を中心とした数学を用いて行うので、事前に関連した数学の知識を復習してください。		
DP との関連	—		
学修の到達目標	本講義では、大学院における学修に必要なレベルのミクロ経済学の知識を理解し、現実の経済において企業の戦略や政府の政策が及ぼす影響について研究するための分析力を修得することができる。		
資格・検定試験への対応	—		
フィードバックの方法	小テストは採点した上で返却する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	—		
テキスト	ラーニングポータルで科目担当者作成の講義ノートを配布するので、予習・復習など授業外の学修に活用してください。	ISBN	なし
参考書	予習・復習の際、下記の参考書を授業と並行して読んでください。 Andreu Mas-Colell, Michael D. Whinston, and Jerry R. Green (1995), Microeconomic Theory, Oxford University Press.	ISBN	9.7801950734e+12
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	【定期試験】WEB 試験	0	
	その他（%）	0	
その他の内容	—		
この科目の受講にあたって	ミクロ経済学は経済学の基礎である。この授業の内容は、数学を用いて論証するが、数学そのものではなく、経済学であることに留意してください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
-----	------	------	----------------	-----------

第1回	対面	ガイダンス 授業の概要、進め方、授業中の注意点、成績評価の基準・方法について説明する。 (なお、2回目以降の内容は計画であり、授業の進行に合わせて変更することがあります。)	【予習】ラーニングポータルに掲載される「第1回講義ノート」と「第2回講義ノート」を用いて予習してください。 【復習】「第1回講義ノート」と「第2回講義ノート」を読み直して、授業で学修した内容を確認してください。	4時間
第2回	対面	ゲーム理論(1) 戦略型ゲームについて説明する。	【予習】ラーニングポータルに掲載される「第2回講義ノート」を用いて予習してください。 【復習】「第2回講義ノート」を読み直して、演習問題を考えてください。	4時間
第3回	対面	ゲーム理論(2) 展開型ゲームについて説明する。	【予習】ラーニングポータルに掲載される「第3回講義ノート」を用いて予習してください。 【復習】「第3回講義ノート」を読み直して、演習問題を考えてください。	4時間
第4回	対面	ゲーム理論(3) 協力ゲームについて説明する	【予習】ラーニングポータルに掲載される「第4回講義ノート」を用いて予習してください。 【復習】「第4回講義ノート」を読み直して、演習問題を考えてください。	4時間
第5回	対面	不完全競争の理論(1) 独占について説明する。	【予習】ラーニングポータルに掲載される「第5回講義ノート」を用いて予習してください。 【復習】「第5回講義ノート」を読み直して、演習問題を考えてください。	4時間
第6回	対面	不完全競争の理論(2) クールノー均衡について説明する。	【予習】ラーニングポータルに掲載される「第6回講義ノート」を用いて予習してください。 【復習】「第6回講義ノート」を読み直して、演習問題を考えてください。	4時間
第7回	対面	不完全競争の理論(3) シュタッケルベルク均衡について説明する。	【予習】ラーニングポータルに掲載される「第7回講義ノート」を用いて予習してください。 【復習】「第7回講義ノート」を読み直して、演習問題を考えてください。	4時間
第8回	対面	不完全競争の理論(4) ベルトラン均衡について説明する。	【予習】ラーニングポータルに掲載される「第8回講義ノート」を用いて予習してください。 【復習】「第8回講義ノート」を読み直して、演習問題を考えてください。	4時間
第9回	対面	外部性(1) 外部性と市場の失敗について説明する。	【予習】ラーニングポータルに掲載される「第9回講義ノート」を用いて予習してください。 【復習】「第9回講義ノート」を読み直して、演習問題を考えてください。	4時間
第10回	対面	外部性(2) 外部性の解決方法について説明する。	【予習】ラーニングポータルに掲載される「第10回講義ノート」を用いて予習してください。 【復習】「第10回講義ノート」を読み直して、演習問題を考えてください。	4時間
第11回	対面	公共財(1) 公共財の最適供給について説明する。	【予習】ラーニングポータルに掲載される「第11回講義ノート」を用いて予習してください。 【復習】「第11回講義ノート」を読み直して、演習問題を考えてください。	4時間
第12回	対面	公共財(2) 公共財の自発的供給について説明する。	【予習】ラーニングポータルに掲載される「第12回講義ノート」を用いて予習してください。 【復習】「第12回講義ノート」を読み直して、演習問題を考えてください。	4時間
第13回	対面	不確実性と情報(1) 不確実性下の意思決定について説明する。	【予習】ラーニングポータルに掲載される「第13回講義ノート」を用いて予習してください。 【復習】「第13回講義ノート」を読み直して、演習問題を考えてください。	4時間
第14回	対面	不確実性と情報(2) 情報の非対称性について説明する。	【予習】ラーニングポータルに掲載される「第14回講義ノート」を用いて予習してください。 【復習】「第14回講義ノート」を読み直して、演習	4時間

			問題を考えてください。	
第15回	オンデマンド	定期試験に向けて、これまでの内容の総復習をオンデマンドで配信します。	【復習】オンデマンド動画を視聴した上で、配布された講義ノートの練習問題を解き、これまでの学修内容の総復習を行ってください。	4時間

科目名	マクロ経済学特論 I	開講年度	2024 年度春学期
担当者	中嶋 哲也	配当年次	修士 1・2
科目ナンバリング	—	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	経済学研究科経済学専攻		
テーマ	経済成長理論と日本経済の成長		
授業の目的及び概要	本講義では、成長理論を学修する。長期に渡る所得の成長がなぜ起きるか、国家間の所得格差がなぜ生じるかを説明する。まず、近代的な成長理論の出発点であるハロッド・ドーマーモデルを簡単に振り返る。次に、ソロー成長モデル、世代重複モデル、R&D 活動を考慮した成長モデルについて学修する。さらに、日本経済の成長や最近の動向についても学修する。学生の研究テーマを意識しながら授業の内容を説明し、受講生の研究テーマと授業の内容の関連性を説明する。		
履修条件・留意点			
DP との関係	—		
学修の到達目標	本講義は、長期における経済成長を取り上げながら、経済学研究にとって重要であるマクロ経済的な知識を提供することにより、学生自ら日本経済の成長や動向を説明できる能力、そして将来の見通しを予測できる能力を修得させることを目標とする。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業の最後に質疑応答の時間を設け、コミュニケーションをはかる。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは使用しないが、資料を Learning Portal の「授業内容/教材」にアップする。	ISBN	特になし。
参考書	①上級マクロ経済学[原著第 3 版], デビッド ローマー(著) 堀 雅博・岩成 博夫・南條 隆(翻訳), 日本評論社, 2010 年 ②Advanced Macroeconomics 5th edition, David Romer, McGraw-Hill Education, 2018 年	ISBN	① 9784535554931 ② 9781260185218
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表(口頭・実技)	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	70	
	【定期試験】筆記試験(対面)	0	
	【定期試験】WEB 試験	0	
	その他(%)	0	
その他の内容	0		
この科目の受講にあたって	学生が自分自身で行う研究は、何らかの形でマクロ経済の動向と関係していることが多い。マクロ経済学をより深く勉強することによって、問題を広い視野で扱うことができ、より充実した結論が得られるであろう。なお、本講義でマクロ経済モデルを理解するために、基礎的な数学の知識が必要である。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	授業の案内を行う。	予習：自ら予定している研究課題とマクロ経済との関係を考えておく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4 時間

第2回	対面	ハロッド・ドーマーモデル1 近代的成長理論の出発点となったハロッド・ドーマーモデルを説明する。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4時間
第3回	対面	ハロッド・ドーマーモデル2 ハロッド・ドーマーモデルの説明を完了する。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4時間
第4回	対面	ソロー成長モデルを説明する。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4時間
第5回	対面	ソローモデルで貯蓄率と経済成長との関係を検討する。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4時間
第6回	対面	ソローモデルで経済格差を検討する。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4時間
第7回	対面	AKモデルを説明する。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4時間
第8回	対面	ソローモデルとミクロ経済学との接合について説明する。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4時間
第9回	対面	ソローモデルで家計間資産格差を検討する。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4時間
第10回	対面	標準的世代重複モデルを説明する。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4時間
第11回	対面	日本経済の高度成長、低成長、長期停滞について説明する。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4時間
第12回	対面	高度成長のモデルについて説明する。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4時間
第13回	対面	低成長・長期停滞のモデルについて説明する。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4時間
第14回	対面	日本経済の成長に関するモデルについて、まとめを行う。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4時間
第15回	オンデマンド	全体の授業内容を振り返り、今後の課題等について説明する。	予習：今までの資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4時間

科目名	マクロ経済学特論Ⅱ	開講年度	2024 年度秋学期
担当者	中嶋 哲也	配当年次	修士1・2
科目ナンバリング	—	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	経済学研究科経済学専攻		
テーマ	短期におけるマクロ経済政策の効果		
授業の目的及び概要	本講義では、短期のマクロ経済理論を修得する。財・サービス市場、貨幣市場のつながりを表す IS-LM モデル、開放経済モデル（マンデルフレミングモデル）における経済政策の効果について学修する。最後に、日本経済における失業、金融政策・財政政策についても学修する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	—		
学修の到達目標	本講義では、マクロ経済モデルにおける消費と投資の理論や失業の原因、金融政策と財政政策についての理論的なモデルについて説明し、経済学研究にとって重要なマクロ経済学の知識を提供することで、学生自ら日本経済のマクロ経済動向や政策の効果を予測できる能力を修得することを目標とする。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業の最後に質疑応答の時間を設け、議論できるようにする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは使用しないが、資料を Learning Portal の「授業内容/教材」にアップする。	ISBN	特にありません。
参考書	①上級マクロ経済学[原著第3 版], デビッド ローマー(著) 堀 雅博・岩成 博夫・南條 隆(翻訳), 日本評論社, 2010 年 ②Advanced Macroeconomics 5th edition, David Romer, McGraw-Hill Education, 2018 年	ISBN	① 9784535554931 ② 9781260185218
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	70	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	【定期試験】WEB 試験	0	
	その他（%）	0	
その他の内容			
この科目の受講にあたって	学生が自分自身で行う研究には、マクロ経済の動向が関係している場合が多い。マクロ経済学をより深く勉強することによって、より充実した結論が得られる。本講義で勉強するマクロ経済モデルを理解するためには、基礎的数学の知識が必要である。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業の案内を行う。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4 時間
第2回	対面	短期における総生産と政府支出との関係を説明する。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4 時間
第3回	対面	乗数効果の詳しい説明を行う。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4 時間

第4回	対面	均衡財政乗数について説明する。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4時間
第5回	対面	貨幣について説明する。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4時間
第6回	対面	利子率について説明する。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4時間
第7回	対面	金融政策の効果について説明する。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4時間
第8回	対面	財市場と貨幣市場の相互作用について説明する。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4時間
第9回	対面	IS-LM 分析について説明する。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4時間
第10回	対面	IS-LM モデルで不況期の諸問題を説明する。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4時間
第11回	対面	開放経済を分析する基本的枠組みについて説明する。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4時間
第12回	対面	修正マンデルフレミングモデルについて、説明する。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4時間
第13回	対面	修正マンデルフレミングモデルで、いくつかの事例を検討する。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4時間
第14回	対面	金融緩和とバブル経済について説明する。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4時間
第15回	オンデマンド	今までの内容を振り返り、今後の課題等について説明する。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4時間

科目名	経済史特論	開講年度	2024 年度春学期
担当者	脇村 孝平	配当年次	修士1・2
科目ナンバリング	—	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	経済学研究科経済学専攻		
テーマ	「南北問題」再考－経済格差のグローバル・ヒストリー		
授業の目的及び概要	「南北問題」という用語は、この頃あまり聞かれなくなった。かつて、先進国と発展途上国の間の経済格差を指す用語として、よく聞かれた。なぜ、今日それほど聞かれなくなったのか。本授業では、19 世紀にまで遡って、「南北問題」の歴史的起源に触れつつ、主として 20 世紀半ば以降における「南北問題」の歴史的帰趨、すなわち先進国と発展途上国の格差や関係がどのように変化してきたのかを考えることにした。		
履修条件・留意点			
DP との関連	—		
学修の到達目標	「グローバルな不平等 (global inequality)」という問題の理解を通して、20 世紀における世界経済の歴史的展開について学ぶ。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業の際、小テストやコメントシートなど使って、しばしば記述による課題をこなしてもらうが、各個人に対してその度にフィードバックを行う予定。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし	ISBN	なし
参考書	なし	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	65	
	【定期試験】WEB 試験	0	
	その他（%）	0	
その他の内容	なし		
この科目の受講にあたって	経済史のみならず、国際経済学および開発経済学を強く意識した講義であることを認識していただければ幸いである。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	序論－「南北問題」とは何か	【復習】講義資料と資料「エレファント・カーブ」を復習してください。	2 時間
第2回	対面	南北問題の起源をめぐる諸説－世界システム論と大分岐論	【復習】講義資料と資料「A・G・フランク」を復習してください。	4 時間
第3回	対面	19 世紀の世界貿易と「熱帯の発展」	【復習】講義資料と資料「熱帯の発展」を復習してください。	4 時間
第4回	対面	南北問題の起源－要素交易条件	【復習】講義資料と資料「要素交易条件」を復習してください。	4 時間
第5回	対面	南北問題の時代－1950 年代・1960 年代	【復習】講義資料と資料「ラグナー・ヌルクセ」を復習してください。	4 時間

第6回	対面	輸入代替工業化－インド	【復習】講義資料と資料「1930年代のインド経済」を復習してください。	4時間
第7回	対面	外向型発展とは何か	【復習】講義資料と資料「緑の革命」を復習してください。	4時間
第8回	対面	石油危機と累積債務問題－1970年代・1980年代	【復習】講義資料と資料「変動相場制」を復習してください。	4時間
第9回	対面	新国際分業－1970年代・1980年代のアジア経済	【復習】講義資料と資料「アジア NIES」を復習してください。	4時間
第10回	対面	世界市場への復帰－中国とインドの1980年代・1990年代	【復習】講義資料と資料「改革開放と経済自由化」を復習してください。	4時間
第11回	対面	グローバリズム（1）－直接投資	【復習】講義資料と資料「国際収支」を復習してください。	4時間
第12回	対面	グローバリズム（2）－ICT革命	【復習】講義資料と資料「三つのアンバンドリング」を復習してください。	4時間
第13回	対面	グローバリズム（3）－グローバル・バリューチェーン	【復習】講義資料と資料「スマイル・カーブ」を復習してください。	4時間
第14回	対面	エレファント・カーブと「南北問題」の収束	【復習】講義資料と資料「トマ・ピケティ」を復習してください。	4時間
第15回	オンデマンド	復習篇：講義全体を振り返って	毎回の講義で配布した資料を復習してください。	6時間

科目名	計量経済学特論 I	開講年度	2024 年度春学期
担当者	高林 喜久生	配当年次	修士 1・2
科目ナンバリング	—	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	経済学研究科経済学専攻		
テーマ	実証分析に必要な基本的な回帰分析手法の習得。		
授業の目的及び概要	計量経済学特論 I 及び計量経済学特論 II を通じて実証研究に必要な計量経済学的手法をバランスよく身につけることを目的とする。 授業は、テキストの解説と PC 実習を軸に実践的に進めていく。PC 実習にあたっては、EXCEL とフリーの計量分析ソフトである gretl を用いる。計量経済学特論 I では、基本的な回帰モデルの特定化、推定、検定ができるようになることを目的とする。また基本的な時系列モデルの仕組みについても学修する。計量経済学特論 II では、プロビット・モデル、ロジット・モデルなどの質的変数のモデル分析、パネルデータ分析などミクロ計量経済分析手法の修得を目的とする。		
履修条件・留意点			
DP との関連	—		
学修の到達目標	本講義では計量経済学的手法について実践的に習得し、自らの眼と腕で実証研究ができるようになることを目標とする。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題に対して毎回フィードバックをする。必要があれば、改めて説明する。課題の再提出も認める。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、銀行員を 1977 年から 10 年以上経験しており、同期間内には、大蔵省に出身し、財政金融研究所主任研究官を務める等の経験も有している。本科目では、これらの経験を生かした授業を行う。		
テキスト	山本勲『実証分析のための計量経済学』中央経済社、2015 年	ISBN	9. 7845021681e+12
参考書	①加藤久和『やさしい計量経済学』オーム社、2019 年 ②唐渡広志『44 の例題で学ぶ計量経済学』オーム社、2018 年 ③白砂提津耶『初歩からの計量経済学（第 2 版）』日本評論社、2007 年	ISBN	①9784274224539 ②9784274069314 ③9784535554979
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		0
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		50
	成果発表（口頭・実技）		0
	中間試験		0
	【定期試験】レポート試験		50
	【定期試験】筆記試験（対面）		0
	【定期試験】WEB 試験		0
	その他（%）		0
その他の内容			
この科目の受講にあたって	教科書に即して授業を行う。特論 I では教科書の前半部分（第 1 章～第 6 章）を利用して基本的な回帰分析手法を、特論 II では教科書の後半部分（第 7 章～第 12 章）を利用してミクロ計量経済分析手法を学ぶ。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	イントロダクション：授業の概要や到達目	【予習】講義資料を事前に配付しますので目を通し	4 時間

		標、評価方法についてガイダンスを行う。計量経済学の有用性や経済データの扱い方についても解説する。	ておいてください。 【復習】配付資料を読み直してください。「現時点で関心のある研究のテーマ」を記入して、オンラインで提出してください（1時間程度）。	
第2回	対面	計量経済学はどのような学問かを詳しく解説する。計量経済学は、とすると「机上の話」に見える経済理論と現実の経済の動き（データ）のかけはしとなる。	【予習】テキストの「第1章 計量経済学とは何か」を読んでおいて下さい（1時間）。 【復習】テキストの「第1章 計量経済学とは何か」を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第3回	対面	計量経済学のエッセンス（その1）：因果関係の意味や様々なデータの種類（時系列・横断面・パネル）や推定結果を理解するための用語や概念について学修する。	【予習】テキストの「第2章 計量経済学のエッセンス1」を読んでおいて下さい（2時間）。 【復習】テキストの「第2章 計量経済学のエッセンス1」を読み直すとともに、復習課題を用いて行ってください（2時間程度）。	4時間
第4回	対面	計量経済学のエッセンス（その2）：様々な形の回帰分析（単回帰分析や重回帰分析）とその活用方法と多重共線性の問題など注意点について学修する。	【予習】テキストの「第3章 計量経済学のエッセンス2」を読んでおいて下さい（2時間）。 【復習】テキストの「第3章 計量経済学のエッセンス2」を読み直すとともに、復習課題を用いて行ってください（2時間程度）。	4時間
第5回	対面	計量経済学のエッセンス（その3）：質的情報を扱うためのダミー変数の取扱いを学修する。	【予習】テキストの「第3章 計量経済学のエッセンス2」を読んでおいてください（2時間）。 【復習】テキストの「第3章 計量経済学のエッセンス2」を読み直すとともに、復習課題を行ってください（2時間程度）。	4時間
第6回	対面	実証分析例（その1）：回帰分析を用いた推定結果の具体例をいくつかを示すとともに、受講生自らが回帰分析に関する例題を行い、その結果の見方について実践的に解説する。	【予習】テキストの「第4章 計量経済学を用いた実証分析の具体例」を読んでおいてください（2時間）。 【復習】テキストの「第4章 計量経済学を用いた実証分析の具体例」を読み直すとともに、復習課題を行ってください（2時間程度）。	4時間
第7回	対面	実証分析例（その2）：前回に続いて回帰分析を用いた推定結果のさらに具体例をいくつかを示し、受講生自らが回帰分析に関する例題を行い、その結果の見方について実践的に解説する。	【予習】テキストの「第4章 計量経済学を用いた実証分析の具体例」を読んでおいてください（2時間）。 【復習】テキストの「第4章 計量経済学を用いた実証分析の具体例」を読み直すとともに、復習課題を行ってください（2時間程度）。	4時間
第8回	対面	実証分析例（その3）：前回に続いて回帰分析を用いた推定結果のさらに具体例をいくつかを示し、受講生自らが回帰分析に関する例題を、その結果の見方について実践的に解説する。	【予習】テキストの「第4章 計量経済学を用いた実証分析の具体例」を読んでおいてください（2時間）。 【復習】テキストの「第4章 計量経済学を用いた実証分析の具体例」を読み直すとともに、復習課題を行ってください（2時間程度）。	4時間
第9回	対面	最小二乗法の仕組みと適用条件：最小二乗法の仕組みを解説するとともに、最小二乗法を適用しても望ましい結果が得られないケースについて、その対処法として考案されている様々な推定法について説明する。	【予習】テキストの「第5章 最小二乗法の仕組みと適用条件」を読んでおいてください（2時間）。 【復習】テキストの「第5章 最小二乗法の仕組みと適用条件」を読み直すとともに、復習課題を行ってください（2時間程度）。	4時間
第10回	対面	系列相関：誤差項に自己相関がある場合、系列相関があると言われ、そのとき最小二乗法は望ましい結果が得られない。その判断の仕方とその対処法を解説する。	【予習】テキストの「第5章 最小二乗法の仕組みと適用条件」を読んでおいてください（2時間）。 【復習】テキストの「第5章 最小二乗法の仕組みと適用条件」を読み直すとともに、復習課題を行ってください（2時間程度）。	4時間
第11回	対面	加重最小二乗法及び一般化最小二乗法（その1）：誤差項の分散が不均一である場合や共分散がゼロでない場合への対処法としての加重最小二乗法・一般化最小二乗法の解説を行う。	【予習】テキストの「第6章 加重最小二乗法と一般化最小二乗法」を読んでおいてください（2時間）。 【復習】テキストの「第6章 加重最小二乗法と一般化最小二乗法」を読み直すとともに、復習課題を行ってください（2時間程度）。	4時間
第12回	対面	加重最小二乗法及び一般化最小二乗法（その2）：誤差項の分散が不均一である場合や共分散がゼロでない場合への対処法と	【予習】テキストの「第6章 加重最小二乗法と一般化最小二乗法（第1節～第3節）」（第1節～第3節）を読んでおいてください（2時間）。	4時間

		しての加重最小二乗法・一般化最小二乗法のまとめを行う。	【復習】テキストの「第6章 加重最小二乗法と一般化最小二乗法（第1節～第3節）」を読み直すとともに、復習課題を行ってください（2時間程度）。	
第13回	対面	パネルデータ分析入門（その1）：計量経済学特論Ⅱにおいて応用パネルデータ分析を取り上げるが、特論Ⅰにおいては簡単な具体例を用いてパネルデータ分析手法のエッセンスを学修する。	【予習】テキストの「第6章 加重最小二乗法と一般化最小二乗法（第4節）」を読んでおいてください（1時間）。 【復習】テキストの「第6章 加重最小二乗法と一般化最小二乗法（第4節）」を読み直すとともに、復習課題を行ってください（2時間程度）。	4時間
第14回	対面	パネルデータ分析入門（その2）：計量経済学特論Ⅱにおいて応用パネルデータ分析を取り上げるが、特論Ⅰにおいては簡単な具体例を用いてパネルデータ分析手法のエッセンスを学修する。	【予習】パネルデータ分析に関する補足資料を事前に配布するので読んでおいてください（1時間）。 【復習】配布したパネルデータ分析に関する補足資料を読み直すとともに、復習課題を行ってください（2時間程度）。	4時間
第15回	オンデマンド	まとめ：これまでの講義をまとめるとともに、正しい推定手法と推定結果の読み取り方について問題演習を行う。	【予習】テキストの第1章から第6章を読み直しておいてください（2時間）。 【復習】テキストの第1章から第6章を読み直すとともに、全体の復習課題を行ってください（2時間程度）。	4時間

科目名	計量経済学特論Ⅱ	開講年度	2024 年度秋学期
担当者	高林 喜久生	配当年次	修士1・2
科目ナンバリング	—	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	経済学研究科経済学専攻		
テーマ	実証分析に必要な基本的なミクロ計量経済分析手法の修得。		
授業の目的及び概要	計量経済学特論Ⅰ及び計量経済学特論Ⅱを通じて実証研究に必要な計量経済学的手法をバランスよく身につけることを目的とする。 授業は、テキストの解説とPC実習を軸に実践的に進めていく。PC自習にあたっては、EXCELとフリーの計量分析ソフトである gretl を用いる。計量経済学特論Ⅰでは、基本的な回帰モデルの特定化、推定、検定ができるようになることを目的とする。また基本的な時系列モデルの仕組みについても学修する。計量経済学特論Ⅱでは、プロビット・モデル、ロジット・モデルなどの質的変数のモデル分析、パネルデータ分析などミクロ計量経済分析手法の修得を目的とする。		
履修条件・留意点			
DPとの関連	—		
学修の到達目標	本講義では以下の項目について習得し、自らの眼と腕で実証研究ができるようになることを目標とする。 (1) 表計算ソフト EXCEL を用いた経済分析に必要な統計分析手法及びデータベース作成 (2) 計量経済ソフト gretl (フリーソフト) を用いた計量経済学的手法		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題に対して毎回フィードバックをする。必要があれば、改めて説明する。課題の再提出も認める。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、銀行員を1977年から10年以上経験しており、同期間内には、大蔵省に出向し、財政金融研究所主任研究官を務める等の経験も有している。本科目では、これらの経験を生かした授業を行う。		
テキスト	山本勲『実証分析のための計量経済学』中央経済社、2015年	ISBN	9.7845021681e+12
参考書	①加藤久和『やさしい計量経済学』オーム社、2019年 ②唐渡広志『44の例題で学ぶ計量経済学』オーム社、2018年 ③白砂提津耶『初歩からの計量経済学(第2版)』日本評論社、2007年	ISBN	①9784274224539 ②9784274069314 ③9784535554979
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表(口頭・実技)	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	50	
	【定期試験】筆記試験(対面)	0	
	【定期試験】WEB試験	0	
	その他(%)	0	
その他の内容			
この科目の受講にあたって	教科書に即して実習を中心に授業を行います。特論Ⅰでは教科書の前半部分(第1章～第6章)を利用して基本的な回帰分析手法を、特論Ⅱでは教科書の後半部分(第7章～第12章)を利用してミクロ計量経済分析手法を学びます。計量経済分析ソフトはフリーソフトの gretl を使用しますが、ダウンロードやインストールから指導します。		

授業回	授業	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の
-----	----	------	----------------	-------

	形式		学修時間	
第1回	対面	イントロダクション:授業の概要や到達目標、評価方法についてガイダンスを行う。あわせて計量経済学特論Iのまとめを行う。	【予習】テキストの第1章から第6章までを目を通して読んでください(2時間)。 【復習】テキストの第1章から第6章までをあらためて読み返し、講義内容を確認して読んでください(2時間)。	4時間
第2回	対面	プロビット・モデル(その1):線形確率モデルの問題点を取り上げ、その対処法としてのプロビット・モデルの仕組みを説明する。プロビット・モデルなどの非線形モデルの推定に用いられる最尤法の仕組みを解説する。さらにプロビット・モデルの推定結果の読み取り方を説明する。	【予習】テキストの「第7章 加重最小二乗法と一般化最小二乗法」を読んで読んでください(2時間)。 【復習】テキストの「第7章 加重最小二乗法と一般化最小二乗法」をあらためて読み返すとともに、復習課題について gretl を用いて取り組んでください(2時間)。	4時間
第3回	対面	プロビット・モデル(その2):前回の授業で取り上げたプロビット・モデルの仕組みのまとめを行うとともに、gretlによる実習に取り組む。	【予習】テキストの「第7章 加重最小二乗法と一般化最小二乗法」を読んで読んでください(2時間)。 【復習】テキストの「第7章 加重最小二乗法と一般化最小二乗法」をあらためて読み返すとともに、復習課題について gretl を用いて取り組んでください(2時間)。	4時間
第4回	対面	順序ロジット・モデルと多項ロジット・モデル(その1):被説明変数が複数の選択肢からなる順序ロジット・モデルと多項ロジット・モデルの仕組みを解説する。その推定結果の読み取り方を解説する。	【予習】テキストの「第8章 順序ロジットモデルと多項ロジットモデル」を読んで読んでください(2時間)。 【復習】テキストの「第8章 順序ロジットモデルと多項ロジットモデル」をあらためて読み返すとともに、復習課題について gretl を用いて取り組んでください(2時間)。	4時間
第5回	対面	順序ロジット・モデルと多項ロジット・モデル(その2):前回の授業で取り上げた順序ロジット・モデルと多項ロジット・モデルの仕組みのまとめを行うとともに、gretlによる実習に取り組む。	【予習】テキストの「第8章 順序ロジットモデルと多項ロジットモデル」を読んで読んでください(2時間)。 【復習】テキストの「第8章 順序ロジットモデルと多項ロジットモデル」をあらためて読み返すとともに、復習課題について gretl を用いて取り組んでください(2時間)。	4時間
第6回	対面	トービット・モデルとヘーキット・モデル(その1):被説明変数に特定の値が多く含まれる場合や、ある条件を満たすサンプルしか被説明変数が観測されない場合、最小二乗法は正しい結果を得られない。前者への対処法であるトービット・モデル、後者への対処法であるヘーキット・モデルについてそれぞれの仕組みを解説し、推定結果の読み取り方を説明する。	【予習】テキストの「第9章 トービットモデルとヘーキットモデル」を読んで読んでください(2時間)。 【復習】テキストの「第9章 トービットモデルとヘーキットモデル」をあらためて読み返すとともに、復習課題について gretl を用いて取り組んでください(2時間)。	4時間
第7回	対面	トービット・モデルとヘーキット・モデル(その2):前回の授業で取り上げたトービット・モデルとヘーキット・モデルの仕組みの説明のまとめを行うとともに、gretlによる実習に取り組む。	【予習】テキストの「第9章 トービットモデルとヘーキットモデル」を読んで読んでください(2時間)。 【復習】テキストの「第9章 トービットモデルとヘーキットモデル」をあらためて読み返すとともに、復習課題について gretl を用いて取り組んでください(2時間)。	4時間
第8回	対面	非線形モデルの実証分析の具体例:様々な非線形モデルの推定結果の実践的な理解を目指す。	【予習】テキストの「第10章 非線形モデルの実証分析の具体例」を読んで読んでください(2時間)。 【復習】テキストの「第10章 非線形モデルの実証分析の具体例」をあらためて読み返すとともに、復習課題について gretl を用いて取り組んでください(2時間)。	4時間
第9回	対面	操作変数を用いた因果関係の特定:同時決定・内生性バイアスがどのような問題でどのようなときに生じやすいのか解説する。	【予習】テキストの「第11章 操作変数を用いた因果関係の特定」を読んで読んでください(2時間)。 【復習】テキストの「第11章 操作変数を用いた因果関係の特定」を読んで読んでください(2時間)。	4時間

		また、その対処法としての操作変数法について説明する。あわせて gretl による実習に取り組む。	果関係の特定」をあらためて読み返すとともに、復習課題について gretl を用いて取り組んでください(2時間)	
第10回	対面	パネルデータ分析と固定効果モデル(その1):パネルデータを用いた固定効果モデルと変量効果モデルの仕組みについて解説し、その選択の仕方や推定結果の正しい読み取り方を説明する。	【予習】テキストの「第12章 パネルデータ分析と固定効果モデル」を読んでおいてください(2時間)。 【復習】テキストの「第12章 パネルデータ分析と固定効果モデル」をあらためて読み返すとともに、復習課題について gretl を用いて取り組んでください(2時間)	4時間
第11回	対面	パネルデータ分析と固定効果モデル(その2) パネルデータの具体的な作成方法を解説する。具体例を用いて EXCEL と gretl による実習に取り組む。	【予習】テキストの「第12章 パネルデータ分析と固定効果モデル」を読んでおいてください(2時間)。 【復習】テキストの「第12章 パネルデータ分析と固定効果モデル」をあらためて読み返すとともに、復習課題について gretl を用いて取り組んでください(2時間)	4時間
第12回	対面	パネルデータを活用した実証分析の具体例(その1):パネルデータを用いた固定効果モデルと変量効果モデルについて、具体例を用いて gretl による実習に取り組む。	【予習】事前に資料を配付するので読んでおいてください(2時間)。 【復習】資料の内容をあらためて確認するとともに、復習課題について gretl を用いて取り組んでください(2時間)	4時間
第13回	対面	パネルデータを活用した実証分析の具体例(その2):被説明変数のラグ付き変数が説明変数に含まれるダイナミック・パネルデータモデルについて、具体例を用いて gretl による実習に取り組む。	【予習】事前に資料を配付するので読んでおいてください(2時間)。 【復習】資料の内容をあらためて確認するとともに、復習課題について gretl を用いて取り組んでください(2時間)	4時間
第14回	対面	サバイバル分析:パネルデータを用いて、ある事象・状態(イベント)の持続期間の決め方を分析するのがサバイバル分析である。今回ではサバイバル分析の取扱いと結果の読み取り方を学ぶ。	【予習】テキストの「第14章 サバイバル分析」を読んでおいてください(2時間)。 【復習】テキストの「第14章 サバイバル分析」をあらためて読み返すとともに、復習課題について gretl を用いて取り組んでください(2時間)	4時間
第15回	オンデマンド	まとめ:これまでの講義の内容をまとめるとともに、ミクロ計量経済分析結果の読み方について問題演習を行う。	【予習】テキストの後半部分(第6章~第12章、第14章)を読み返しておいてください(2時間)。 【復習】テキストの後半部分(第6章~第12章、第14章)のポイントを確認するとともに、復習課題について gretl を用いて取り組んでください(2時間)	4時間

科目名	国際経済特論	開講年度	2024 年度秋学期
担当者	田畑 理一	配当年次	修士1・2
科目ナンバリング	—	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	経済学研究科経済学専攻		
テーマ	国際経済に関する理論的、制度的な諸問題を考察するとともに、現実の貿易統計、国際収支統計、さらには、いくつかの国の貿易、国際収支統計を検討する。		
授業の目的及び概要	国際経済学は、国家間の経済関係によって生じる問題について考察する学問である。この授業では、グローバル化が進む現代の経済情勢を理解するために必要な国際経済学の知識を身につけることを目標とする。具体的には、マクロ経済の基礎の学修、国際収支と為替レート、「比較優位」等の国際貿易の基礎理論や海外直接投資の理論について学修した後に、経済統合すなわち EC および EU、FTA（自由貿易協定）、TPP（環太平洋連携協定）等の協定の意義について考察する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html</a>		
学修の到達目標	マクロ経済学の基礎、貿易、国際収支、経常収支、為替レートなどの国際経済学の基本概念について理解し、為替レート変動の意味、国際収支表の見方が分かるようになることを目指す。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシートに毎回の授業の中心的テーマについて書いてもらって、適宜フィードバックし、次回の授業の内容に反映させる。また、授業期間の途中に 800 字程度のレポートを書いてもらい、授業の理解度を把握する。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特にありません。	ISBN	なし
参考書	1、『国際日本経済論』（熊倉正修著、昭和堂、2015 年） （本書は、日本経済について論じながら、国際経済の中で日本経済が抱える重要な経済問題を考察し、さらには、日本の政治・経済のあり方についてまで論じる意欲的な書物である。 2、『新・世界経済入門』（西川潤、岩波新書、2014 年）	ISBN	1、『国際日本経済論』（熊倉正修著、昭和堂、2015 年） ISBN 978-4-8122-1431-2 2、『新・世界経済入門』（西川潤、岩波新書、2014 年） ISBN 978-4-00-431482-0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	40	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	【定期試験】WEB 試験	0	
	その他（%）	0	
その他の内容			
この科目の受講にあたって			

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の
-----	----	------	----------------	-------

	形式		学修時間	
第1回	対面	ガイダンス：国際経済概論のガイダンスとして、経済主体（家計、企業、政府）と経済循環、そして国際経済との関係について考察する。経済学的思考についても考える。	熊倉正修『国際日本経済論』の第2章「国民経済の循環と産業構造」（20～36頁）を読んで、復習してください。	4時間
第2回	対面	マクロ経済学（1）	熊倉正修『国際日本経済論』の第2章「国民経済の循環と産業構造」（20～36頁）を読むこと。	4時間
第3回	対面	マクロ経済学（2）：GDPと消費、投資の関係、これらについての単純モデルの説明。	熊倉正修『国際日本経済論』の第1章「一国の経済活動と国民経済計算」（2～19頁）を読んで、復習してください。	4時間
第4回	対面	マクロ経済学（3）：GDPと消費、投資、貿易、海外投資、経常収支の関係（すなわちオープン・モデル）について説明する。	熊倉正修『国際日本経済論』の第4章「国際間の経済取引と国際収支」（55～70頁）を読んで、復習してください。	4時間
第5回	対面	貿易と国際収支：経常収支＝貯蓄－投資、の関係の意味と国際収支との関係について	熊倉正修『国際日本経済論』の第4章「国際間の経済取引と国際収支」（55～70頁）を読んで、復習してください。	4時間
第6回	対面	「国際収支表」：日本の国際収支表について各項目について詳細に説明する。	熊倉正修『国際日本経済論』の第4章「国際間の経済取引と国際収支」（55～70頁）を読んで、復習してください。	4時間
第7回	対面	「貿易と比較優位」：2財2国の比較生産費説から多数国の場合、さらにヘクシャー・オリーンの比較優位説の意味について説明する。	熊倉正修『国際日本経済論』の第6章「比較優位と貿易構造」（92～105頁）を読んで、復習してください。	4時間
第8回	対面	貿易、輸出と外国為替：輸出と支払い、為替取引について、並為替と逆為替の理解を通じて国際決済の仕組みについて学修する。	熊倉正修『国際日本経済論』の第3章「通貨と決済システム」（37～54頁）を読んで、復習してください。	4時間
第9回	対面	為替レートと購買力平価：購買力平価（絶対的、相対的）説と為替レートとの関係の説明。	熊倉正修『国際日本経済論』の第13章「購買力平価と実質為替レート」（209～224頁）を読んで、復習してください。	4時間
第10回	対面	為替レートと金利平価：為替レートと金利平価との関係の説明。為替先物取引についても触れる。	熊倉正修『国際日本経済論』の第13章「購買力平価と実質為替レート」（176～191頁）を読んで、復習してください。	4時間
第11回	対面	直接投資と間接投資：直接投資と間接投資の関係、直接投資の経済発展にとっての意義の説明。	熊倉正修『国際日本経済論』の第5章「日本の経済構造と対外経済関係の変遷」（176～191頁）を読んで、復習してください。	4時間
第12回	対面	直接投資と経済開発：直接投資と経済開発との関連、外貨流入、技術移転、雇用、経済発展について考察する。	『新・世界経済入門』（西川潤、岩波新書）の第3章「変わりゆく多国籍企業と海外投資」（69～92頁）を読んで、復習してください。	4時間
第13回	対面	経済統合：AFTA（アセアン自由貿易協定）、EU（欧州連合）、NAFTA（北アメリカ自由貿易協定）などの経済統合について考察する。	『新・世界経済入門』（西川潤、岩波新書）の第1章「グローバル化 vs. 地域化」（20～49頁）を読んで、復習してください。	4時間
第14回	対面	グローバル経済：グローバル経済における投資や雇用、技術移転の問題の考察。	『新・世界経済入門』（西川潤、岩波新書）の第9章「南北問題、ODAと地域秩序」（220～270頁）を読んで、復習してください。	4時間
第15回	オンデマンド	「保護貿易と自由貿易」：国際経済における保護貿易と自由貿易、金融の自由化の意味について考え、全体のまとめを行う。	熊倉正修『国際日本経済論』の第17章「輸入関税と産業保護」（288～305頁）を読んで、復習してください。	4時間

科目名	経済政策特論	開講年度	2024 年度春学期
担当者	高林 喜久生	配当年次	修士1・2
科目ナンバリング	—	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	経済学研究科経済学専攻		
テーマ	日本経済のパフォーマンスと経済政策。		
授業の目的及び概要	日本経済はほぼ 30 年にわたって低迷が続いている。従来の政策処方箋は通用しなくなったのだろうか。この講義では、経済政策の理論的枠組みや実際の効果について、1980 年代以降の日本経済のケーススタディをもとに実践的に考察する。 なお、当初指定のテキストが品切れで入荷不可能となったために下記のテキストに差し替えた。それに伴い授業計画も変更しているので確認されたい。		
履修条件・留意点			
DP との関係	本科目と学位授与の方針（DP）との関係については、以下の URL から確認してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html</a>		
学修の到達目標	現在の日本経済との関連で、基本的なミクロ・マクロ経済政策理論と実際を把握し、長い低迷から脱却するためにどのような政策処方箋が考えられるか、提言することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	レポートは、コメントした上で返却する。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、銀行員を 1977 年から 10 年以上経験しており、同期間内には、大蔵省に出身し、財政金融研究所主任研究官を務める等の経験も有している。本科目では、これらの経験を生かした授業を行う。		
テキスト	柳川隆・永合位行・藤岡秀英『セオリー&プラクティス 経済政策』有斐閣、2017 年	ISBN	978-4641164994
参考書	①藤川清史編『経済政策入門』法律文化社、2020 年 ②宮川努・細野薫・細谷圭・川上敦之『日本経済論』中央経済社、2017 年	ISBN	①978-4-589-04085-5 ②978-4-502-21891-0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		25
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		0
	成果発表（口頭・実技）		25
	中間試験		0
	【定期試験】レポート試験		50
	【定期試験】筆記試験（対面）		0
	【定期試験】WEB 試験		0
	その他（%）		0
その他の内容			
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	ガイダンス：授業の概要、進め方を説明する。また、授業全体の準備として日本経済の成長鈍化の要因について概観する。 （なお、2 回目以降は授業の進行によって変更することがある）。	【予習】 配付資料を事前に読んでおいてください（2 時間程度）。 【復習】 配付資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください（2 時間程度）。	4 時間
第 2 回	対面	日本経済の歩みと政策：1980 年代以降、日本経済がどのように変化してきたのかを	【予習】 テキストの「第 1 章」を事前に読んでおいてください（2 時間程度）。	4 時間

		振り返り、それに対して実際にどのような政策がとられてきたかを確認する。	【復習】テキストの「第1章」を読み直し、講義で得た知識を確認してください(2時間程度)。	
第3回	対面	経済政策論の基礎：経済政策の目的と手段、経済政策の主体、及び経済政策思想について解説する。	【予習】テキストの「第2章」を事前に読んでおいてください(2時間程度)。 【復習】テキストの「第2章」を読み直し、講義で得た知識を確認してください(2時間程度)。	4時間
第4回	対面	社会政策論の基礎：社会政策とは社会問題への対策であり、社会問題とは何かを検討した上で、社会保険を中心とする社会保障についての発展の経緯を述べ、現代の新しい社会問題について考察する。	【予習】テキストの「第3章」を事前に読んでおいてください(2時間程度)。 【復習】テキストの「第3章」を読み直し、講義で得た知識を確認してください(2時間程度)。	4時間
第5回	対面	マクロ経済政策の基礎：マクロ経済政策を検討するための理論的基礎について解説する。	【予習】テキストの「第4章」を事前に読んでおいてください(2時間程度)。 【復習】テキストの「第4章」を読み直し、講義で得た知識を確認してください(2時間程度)。	4時間
第6回	対面	ミクロ経済政策の基礎：市場メカニズムの成り立ちや概念を基礎としてミクロ経済学に立脚した経済政策について解説する。	【予習】テキストの「第5章」を事前に読んでおいてください(2時間程度)。 【復習】テキストの「第5章」を読み直し、講義で得た知識を確認してください(2時間程度)。	4時間
第7回	対面	国民経済計算の基礎：マクロ経済循環を理解するために、経済活動を多面的かつ体系的にとらえた国民経済計算について基本的な見方について解説する。	【予習】配付資料を事前に読んでおいてください(2時間程度)。 【復習】配付資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください(2時間程度)。	4時間
第8回	対面	産業政策：産業政策を産業育成政策、競争政策、規制政策に分けて、理論と実際を解説する。	【予習】テキストの「第6章」を事前に読んでおいてください(2時間程度)。 【復習】テキストの「第6章」を読み直し、講義で得た知識を確認してください(2時間程度)。	4時間
第9回	対面	農業政策：農業の特殊性や日本の農業政策の理論と実際について解説する。	【予習】テキストの「第7章」を事前に読んでおいてください(2時間程度)。 【復習】テキストの「第7章」を読み直し、講義で得た知識を確認してください(2時間程度)。	4時間
第10回	対面	環境政策：環境が破壊される原因を述べ、環境を保護するための政策手段について解説する。	【予習】テキストの「第8章」を事前に読んでおいてください(2時間程度)。 【復習】テキストの「第8章」を読み直し、講義で得た知識を確認してください(2時間程度)。	4時間
第11回	対面	労働政策：労働市場の特徴について述べ、賃金や就業・解雇及び失業に対する政策についての理論と実際について解説する。	【予習】テキストの「第9章」を事前に読んでおいてください(2時間程度)。 【復習】テキストの「第9章」を読み直し、講義で得た知識を確認してください(2時間程度)。	4時間
第12回	対面	社会保障政策：社会保障の必要性について述べ、社会保障の制度、とくに年金、医療保険、介護保険、生活保護についての考え方と政策の実際について解説する。	【予習】テキストの「第10章」を事前に読んでおいてください(2時間程度)。 【復習】テキストの「第10章」を読み直し、講義で得た知識を確認してください(2時間程度)。	4時間
第13回	対面	【トピックス】デフレと非伝統的金融政策：非伝統的と呼ばれる新しい金融政策が物価や生産に影響する波及経路を検討する。	【予習】事前に講義資料を配付するので読んでおいてください(2時間程度)。 【復習】配付資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください(2時間程度)。	4時間
第14回	対面	【トピックス】財政の維持可能性：巨額の政府債務は維持可能なのか、政府債務が維持可能な条件を検討する。	【予習】事前に講義資料を配付するので読んでおいてください(2時間程度)。 【復習】配付資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください(2時間程度)。	4時間
第15回	オンデマンド	これまでの授業内容の復習を行う。	テキストと配付資料の全体を読み返し、講義で得た知識を再確認してください。	4時間

科目名	金融特論	開講年度	2024 年度秋学期
担当者	小巻 善郎	配当年次	修士1・2
科目ナンバリング	—	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	経済学研究科経済学専攻		
テーマ	金融政策の理論と現状の課題		
授業の目的及び概要	本科目は、わが国の中央銀行である日本銀行の機能と役割を概観した上で、金融政策全般に関する理論的な学修を行うとともに、過去 10 年以上続いている日本銀行の非伝統的金融政策の成果と今後の課題を学修することで、実際の金融市場の動きが理解できる能力を身につけることを目標としています。		
履修条件・留意点	特にありません。		
DP との関連	—		
学修の到達目標	<p>本科目では、以下の3点を学修の到達目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本銀行の機能と役割に関する理解力を身につける</li> <li>・金融政策の理論に対する理解力を身につける。</li> <li>・近年の金融政策に対する分析力を身につける。</li> </ul>		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	発表や課題に対するフィードバックは授業内で行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当者は、都市銀行に26年間在職し、その間、支店や本部、海外支店において内部事務、営業・渉外、調査といった様々な業務に携わってきた。本科目では、そうした長年にわたる実務経験を通じて得た専門知識や知見などを授業に反映し、理論だけでなく具体的な事例の紹介などを基とした実践的な教育を行う。		
テキスト	金融政策（第2版）、小林照義、中央経済社、2015年	ISBN	978-4766428933
参考書	金融政策…理論と実践、白塚重典、慶應義塾大学出版会、2019年	ISBN	978-4502332012
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	40	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	【定期試験】WEB 試験	0	
	その他（%）		
その他の内容			
この科目の受講にあたって	授業ではディスカッションも取り入れますので、事前にテキストを予習して授業に臨むことが大切です。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 授業の概要・目的や運営方法などについてのガイダンスを行います。	【復習】ガイダンスの内容と配布資料を利用して復習してください。	4 時間
第2回	対面	金融政策とマクロ経済の関係 金融政策を学修するための事前準備として、金融政策とマクロ経済との関係を学修します。	【予習】事前にテキストの第1章「金融政策と日本経済」を予習してください。 【復習】テキストの第1章や配布資料を利用して復習してください。	4 時間
第3回	対面	通貨の機能・役割	【予習】事前にテキストの第2章「金融と通貨の意	4 時間

		金融とは何かを概観した上で、市場経済に欠かせない通貨に関してその機能と役割を学修します。	味」を予習してください。 【復習】テキストの第2章や配布資料を利用して復習してください。	
第4回	対面	民間銀行の役割と信用創造 日本銀行の金融政策を理解するための基礎的知識として、信用創造といった民間銀行が果たしている役割を学修します。	【予習】事前にテキストの第3章「民間銀行の役割」を予習してください。 【復習】テキストの第3章や配布資料を利用して復習してください。	4時間
第5回	対面	日本銀行の機能と役割 中央銀行としての日本銀行の機能と役割を概観するとともに、マクロ経済学の観点からの金融政策の課題を学修します。	【予習】事前にテキストの第4章「日本銀行の役割と金融政策」を予習してください。 【復習】テキストの第4章や配布資料を利用して復習してください。	4時間
第6回	対面	金融政策と金融市場 金融政策による金融調節の場としての短期金融市場や、政策手段としての日銀当座預金の内容を学修します。	【予習】事前にテキストの第5章「日本銀行の金融調整①」を予習してください。 【復習】テキストの第5章や配布資料を利用して復習してください。	4時間
第7回	対面	金融政策決定のプロセス 日本銀行の金融政策決定のプロセスを概観するとともに、金融政策の手段としての公開市場操作を学修します。	【予習】事前にテキストの第6章「日本銀行の金融調整②」を予習してください。 【復習】テキストの第6章や配布資料を利用して復習してください。	4時間
第8回	対面	金融政策の波及経路 金融政策の4つの代表的な波及経路(金利チャンネル、バランスシートチャンネル、為替レートチャンネル、リスクテイキングチャンネル)を学修します。	【予習】事前にテキストの第7章「金融政策の波及経路」を予習してください。 【復習】テキストの第7章や配布資料を利用して復習してください。	4時間
第9回	対面	金融政策と金利操作 短期金利と長期金利の関係を概観した上で、テイラールールをはじめとする金利操作の考え方を学修します。	【予習】事前にテキストの第8章「伝統的金融政策」を予習してください。 【復習】テキストの第8章や配布資料を利用して復習してください。	4時間
第10回	対面	非伝統的金融政策① 日本銀行がこれまでに行ってきた非伝統的金融政策(ゼロ金利、マイナス金利・長短金利操作)を学修します。	【予習】事前にテキストの第9章「非伝統的金融政策」を予習してください。 【復習】テキストの第9章や配布資料を利用して復習してください。	4時間
第11回	対面	非伝統的金融政策② 日本銀行がこれまでに行ってきた非伝統的金融政策(量的緩和・信用緩和)を学修します。	【予習】事前にテキストの第10章「非伝統的金融政策」を予習してください。 【復習】テキストの第10章や配布資料を利用して復習してください。	4時間
第12回	対面	非伝統的金融政策の効果と課題 日本銀行のこれまでの非伝統的金融政策による効果と今後の課題を学修します。	【予習】事前にテキストの第11章「非伝統的金融政策のまとめと課題」を予習してください。 【復習】テキストの第11章や配布資料を利用して復習してください。	4時間
第13回	対面	中央銀行の独立性と透明性 中央銀行制度における独立性と透明性の意義や関係を学修するとともに、フォワードガイダンスなどの新たな金融政策を学修します。	【予習】事前にテキストの第12章「金融政策の新たな枠組み」を予習してください。 【復習】テキストの第12章や配布資料を利用して復習してください。	4時間
第14回	対面	システミックリスクとブルーデンス政策 金融市場におけるシステミックリスクの内容を学修し、ミクロに加えてマクロのブルーデンス政策の必要性を学修します。	【予習】事前にテキストの第14章「システミックリスクとブルーデンス政策」を予習してください。 【復習】テキストの第14章や配布資料を利用して復習してください。	4時間
第15回	オンデマンド	総括 これまでの授業の総括を行い、学期末のレポート課題作成に向けての要点を学修します。	【予習】事前にテキストの第13章「日本とアメリカの金融危機」を予習してください。 【復習】学期末のレポート課題作成のための要点整理等の準備を行ってください。	4時間

科目名	環境経済特論	開講年度	2024 年度秋学期
担当者	前鶴 政和	配当年次	修士1・2
科目ナンバリング	—	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	経済学研究科経済学専攻		
テーマ	環境問題の経済学		
授業の目的及び概要	<p>現代社会において、我々は地球温暖化、廃棄物問題、自然破壊等の多様な環境問題に直面しており、世界レベルから地方自治体レベルに渡り、環境問題への対処が重要な政策課題の一つとなっている。本講義では、現実の環境問題の知識とともに、環境問題の経済学的な分析の視点や、ミクロ経済学を応用し、環境税、直接規制、排出権取引などの環境政策の経済学的な意義について学修させる。</p> <p>本講義の内容は、修士論文を執筆する上での重要な知識となるほか、経済政策特論、国際経済特論、地域経済特論等の講義科目の内容とも密接に関連するものであり、確実に理解することが望まれる。</p>		
履修条件・留意点			
DP との関係	—		
学修の到達目標	<p>1. 現代社会が直面する経済的諸問題の解決方を提案するために必要な、政府による政策決定に関して説明できる能力を修得することができる。</p> <p>2. ミクロ経済学の知識を前提とし、環境問題と経済学との関係について研究するための分析力を修得することができる。</p>		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題については、講評、解説を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しない。配布資料を用いて授業を行う。	ISBN	なし
参考書	①コア・テキスト環境経済学，一方井誠治，新世社，2018 年	ISBN	①9784883842797
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	【定期試験】WEB 試験	0	
	その他（％）	0	
その他の内容			
この科目の受講にあたって	経済政策特論を履修することが望ましい。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業の概要を説明する。	【予習】この演習のシラバスを事前によく読んでおくこと。 【復習】授業後に、ガイダンスの内容について復習しておくこと。	2 時間
第2回	対面	「環境経済学の誕生と発展」について学修する。	【予習】配布資料及び参考書の「環境経済学の誕生と発展」に関する内容を事前によく読んでおくこと。	4 時間

			【復習】授業後に、配布資料及び参考書の「環境経済学の誕生と発展」に関する内容について復習しておくこと。	
第3回	対面	「環境問題と市場の機能」について学修する。	【予習】配布資料及び参考書の「環境問題と市場の機能」に関する内容を事前によく読んでおくこと。 【復習】授業後に、配布資料及び参考書の「環境問題と市場の機能」に関する内容について復習しておくこと。	4時間
第4回	対面	「ピグー税」について学修する。	【予習】配布資料及び参考書の「ピグー税」に関する内容を事前によく読んでおくこと。 【復習】授業後に、配布資料及び参考書の「ピグー税」に関する内容について復習しておくこと。	4時間
第5回	対面	「コースの定理」について学修する。	【予習】配布資料及び参考書の「コースの定理」に関する内容を事前によく読んでおくこと。 【復習】授業後に、配布資料及び参考書の「コースの定理」に関する内容について復習しておくこと。	4時間
第6回	対面	「排出量取引制度」について学修する。	【予習】配布資料及び参考書の「排出量取引制度」に関する内容を事前によく読んでおくこと。 【復習】授業後に、配布資料及び参考書の「排出量取引制度」に関する内容について復習しておくこと。	4時間
第7回	対面	「気候変動問題とは」について学修する。	【予習】配布資料及び参考書の「気候変動問題とは」に関する内容を事前によく読んでおくこと。 【復習】授業後に、配布資料及び参考書の「気候変動問題とは」に関する内容について復習しておくこと。	4時間
第8回	対面	「環境税の環境政策への導入」について学修する。	【予習】配布資料及び参考書の「環境税の環境政策への導入」に関する内容を事前によく読んでおくこと。 【復習】授業後に、配布資料及び参考書の「環境税の環境政策への導入」に関する内容について復習しておくこと。	4時間
第9回	対面	「排出量取引制度の環境政策への導入」を学修する。	【予習】配布資料及び参考書の「排出量取引制度の環境政策への導入」に関する内容を事前によく読んでおくこと。 【復習】授業後に、配布資料及び参考書の「排出量取引制度の環境政策への導入」に関する内容について復習しておくこと。	4時間
第10回	対面	「環境問題とゲーム理論」について学修する。	【予習】配布資料及び参考書の「環境問題とゲーム理論」に関する内容を事前によく読んでおくこと。 【復習】授業後に、配布資料及び参考書の「環境問題とゲーム理論」に関する内容について復習しておくこと。	4時間
第11回	対面	「共有資源」について学修する。	【予習】配布資料及び参考書の「共有資源」に関する内容を事前によく読んでおくこと。 【復習】授業後に、配布資料及び参考書の「共有資源」に関する内容について復習しておくこと。	4時間
第12回	対面	「廃棄物問題」について学修する。	【予習】配布資料及び参考書の「廃棄物問題」に関する内容を事前によく読んでおくこと。 【復習】授業後に、配布資料及び参考書の「廃棄物問題」に関する内容について復習しておくこと。	4時間
第13回	対面	「エネルギーと気候変動問題の将来」について学修する。	【予習】配布資料及び参考書の「エネルギーと気候変動問題の将来」に関する内容を事前によく読んでおくこと。 【復習】授業後に、配布資料及び参考書の「エネルギーと気候変動問題の将来」に関する内容について復習しておくこと。	4時間
第14回	対面	「環境経営と ESG 投資」について学修する。	【予習】配布資料及び参考書の「環境経営と ESG 投資」に関する内容を事前によく読んでおくこと。 【復習】授業後に、配布資料及び参考書の「環境経営	4時間

			と ESG 投資」に関する内容について復習しておくこと。	
第15回	オンデマンド	定期試験に向けて、これまでの内容の総復習をオンデマンドで配信する。	【復習】オンデマンド動画を視聴した上で、これまでの学修内容の総復習を行うこと。	6時間

科目名	外国文献研究	開講年度	2024 年度春学期
担当者	今井 健一	配当年次	修士1・2
科目ナンバリング	—	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	経済学研究科経済学専攻		
テーマ	英語で書かれた経済関連の文献に親しむ。		
授業の目的及び概要	<p>世界における経済の動き、そして経済学の理論と実証に関する最新の研究内容を知るためには、英語の文献を読むことが必須となる。よって、経済学の修士論文を執筆していくには英語の文献を読む力が求められる。本授業の目的は、このことを踏まえ、経済関連の英語文献（ニュース記事、雑誌記事、報告書、書籍、論文など）に親しむことである。本授業では、特に、ニュース記事、書籍（参考書である The Asian Economy）、そして論文を教材として用いる。基本的な授業計画として、授業で用いる文献を、ニュース記事、書籍、そして論文といった具合に英語のレベルを上げていく。各回の授業では、全員が、指定文献（あるいは指定文献の指定箇所）を事前に読み、そして、わからない英語表現や経済用語については事前に自ら調べる（能動的な学び）が求められる。書籍を用いる授業では、指定箇所を事前に読むことに加え、全員がその内容について日本語サマリーを作成し、そして、順番に担当者がそのサマリーを日本語で発表する方法を採り入れる。なお、学期末試験は、各自が選択する英語論文内容についての日本語レポート作成とする。</p>		
履修条件・留意点	—		
DP との関連	—		
学修の到達目標	<p>この授業における学修の主な目標は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経済関連の英語文献（ニュース記事、雑誌記事、報告書、書籍、論文など）を読み、正確に内容を理解できる力を身に付ける。</li> <li>2. 経済関連の英語論文を掲載している世界の主要な学術誌についての知識（例えば、どのジャーナルにどのような内容の論文が多く掲載されているか、あるいはどのジャーナルの評価が高いかなど）を深めることによって、英語の文献調査を効率的・効果的に行う力を身に付ける。</li> <li>3. 経済関連の様々な文献に日常的に触れる（読む・聞く）習慣を身に付ける。</li> </ol>		
資格・検定試験への対応	—		
フィードバックの方法	書籍と論文を用いる授業では指定文献（あるいは指定文献の指定箇所）の日本語によるサマリー提出をアサイメントとする。提出されたサマリートのフィードバックは、授業における指定文献の内容についての質疑応答・ディスカッションの中で行っていく。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	—		
テキスト	テキストは指定しないが、授業で使う英語文献については事前に Learning Portal の「授業内容/教材」にアップする。	ISBN	特にありません。
参考書	<ol style="list-style-type: none"> <li>① The Asian Economy: Contemporary Issues and Challenges, Edited by Kenta Goto, Tamaki Endo, and Asei Ito, Routledge, 2021</li> <li>② 経済ニュース英語リーディング教本, 小西和久, 朝日出版社, 2007</li> </ol>	ISBN	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 9780367203719</li> <li>② 9784255004099</li> </ol>
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	50	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	【定期試験】WEB 試験	0	
その他（%）	0		

	その他の内容
この科目の受講にあたって	本科目を履修するにあたっては、(1) ミクロ経済学・マクロ経済学・計量経済学の基礎的知識があること、加えて、(2) 英語力、例えば TOEIC600 点以上であることが、望ましい。但し、以上の2点を満たしていない場合でも、“是非、本科目を履修して、日本国内外における経済の動き、そして経済(特にアジア経済)に関連した理論/実証研究について、英語で学んでみたい”という強い意欲を持っている人は、是非履修してください。また、迷っている人は、第1回目の授業に出席し、担当教員に相談してみてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	対面	①授業の目的及び概要、学修の到達目標、授業計画等について、ガイダンスを行う。 ②授業開始に先立って、簡単なアンケート調査および英語力小テストの実施(事前準備は不要)。	【予習】シラバスと授業資料(Learning Portal の「授業内容/教材」にアップ)を事前に読んでおくこと。 【復習】シラバスと授業資料を読み直し、講義で学んだ重要ポイントの内容を確認する。	2時間
第2回	対面	英語のニュース記事に親しむ(1回目)	【予習】授業資料を事前に読み、わからない英語表現や経済用語については自身で調べておくこと。 【復習】授業資料を読み直し、授業をとおして学んだ英語表現や経済用語を確認する。	4時間
第3回	対面	英語のニュース記事に親しむ(2回目)	【予習】授業資料を事前に読み、わからない英語表現や経済用語については自身で調べておくこと。 【復習】授業資料を読み直し、授業をとおして学んだ英語表現や経済用語を確認する。	4時間
第4回	対面	英語のニュース記事に親しむ(3回目)	【予習】授業資料を事前に読み、わからない英語表現や経済用語については自身で調べておくこと。 【復習】授業資料を読み直し、授業をとおして学んだ英語表現や経済用語を確認する。	4時間
第5回	対面	英語のニュース記事に親しむ(4回目)	【予習】授業資料を事前に読み、わからない英語表現や経済用語については自身で調べておくこと。 【復習】授業資料を読み直し、授業をとおして学んだ英語表現や経済用語を確認する。	4時間
第6回	対面	① 英語のニュース記事に親しむ(5回目) ② 小テストの実施(範囲:第2~第6回授業で学んだ英語表現、英語の経済用語)	【予習】授業資料を事前に読み、わからない英語表現や経済用語については自身で調べておくこと。 【復習】授業資料を読み直し、授業をとおして学んだ英語表現や経済用語を確認する。	5時間
第7回	対面	英語の書籍に親しむ(1回目)	【予習】授業資料を事前に読み、日本語サマリーを作成し、次回授業前日までにLPより提出。発表担当者は、発表の準備。 【復習】授業資料を読み直し、授業をとおして学んだ英語表現、経済用語、そして内容の重要ポイントを確認する。	4時間
第8回	対面	英語の書籍に親しむ(2回目)	【予習】授業資料を事前に読み、日本語サマリーを作成し、次回授業前日までにLPより提出。発表担当者は、発表の準備。 【復習】授業資料を読み直し、授業をとおして学んだ英語表現、経済用語、そして内容の重要ポイントを確認する。	4時間
第9回	対面	英語の書籍に親しむ(3回目)	【予習】授業資料を事前に読み、日本語サマリーを作成し、次回授業前日までにLPより提出。発表担当者は、発表の準備。 【復習】授業資料を読み直し、授業をとおして学んだ英語表現、経済用語、そして内容の重要ポイントを確認する。	4時間
第10回	対面	英語の書籍に親しむ(4回目)	【予習】授業資料を事前に読み、日本語サマリーを作成し、次回授業前日までにLPより提出。発表担当者は、発表の準備。	4時間

			【復習】授業資料を読み直し、授業をとおして学んだ英語表現、経済用語、そして内容の重要ポイントを確認する。	
第11回	対面	英語の書籍に親しむ（5回目）	【予習】授業資料を事前に読み、日本語サマリーを作成し、次回授業前日までにLPより提出。発表担当者は、発表の準備。 【復習】授業資料を読み直し、授業をとおして学んだ英語表現、経済用語、そして内容の重要ポイントを確認する。	4時間
第12回	対面	① 英語の書籍に親しむ（6回目） ② 定期試験（レポート作成・WEB提出）についての説明 *レポート内容は、各自の修士論文テーマに関連した英語参考文献について。 *英語参考文献と自身の論文テーマの関連性などについて日本語で執筆。	【予習】授業資料を事前に読み、日本語サマリーを作成し、次回授業前日までにLPより提出。発表担当者は、発表の準備。 【復習】授業資料を読み直し、授業をとおして学んだ英語表現、経済用語、そして内容の重要ポイントを確認する。	4時間
第13回	対面	英語の論文に親しむ（1回目）	【予習】授業資料を事前に読み、日本語サマリーを作成し、次回授業前日までにLPより提出。発表担当者は、発表の準備。 【復習】授業資料を読み直し、授業をとおして学んだ英語表現、経済用語、そして内容の重要ポイントを確認する。	4時間
第14回	対面	英語の論文に親しむ（2回目）	【予習】授業資料を事前に読み、日本語サマリーを作成し、次回授業前日までにLPより提出。発表担当者は、発表の準備。 【復習】授業資料を読み直し、授業をとおして学んだ英語表現、経済用語、そして内容の重要ポイントを確認する。	4時間
第15回	オンデマンド	① 定期試験用レポートで参照する英語論文のタイトル発表。 ② 第1回～第14回授業を振り返り、何を学んだかを確認すると共に、今後の英語への取組みについてアドバイス	【予習】①定期試験用レポートで参照する英語論文を選択し、その論文情報を第15回授業前までにLPより提出。②本授業の終了にあたり何か質問がある場合は、第15回授業前までにLPより提出してください。	5時間

科目名	中小企業特論	開講年度	2024 年度秋学期
担当者	荒木 康代	配当年次	修士1・2
科目ナンバリング	—	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	経済学研究科経済学専攻		
テーマ	中小企業の現状及び事例から、日本経済について考える。		
授業の目的及び概要	本授業では、個々の中小企業の具体的な事例に基づきながら、激変する現代の産業・経済の中で中小企業が直面する問題について様々な角度から見ることによって、日本経済及び中小企業の現状について学びます。中小企業経営者等にも来ていただいて中小企業の現場について学びます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html</a>		
学修の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の中小企業の現状について説明できる。</li> <li>・現代の中小企業が直面する問題と日本経済への影響及び今後の課題について説明できる。</li> <li>・日本と海外の中小企業の違いについて議論し、自分の意見を表明できる。</li> </ul>		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回のコメント、質問に対してはその場で、あるいは次回の授業で回答します。課題に対してはコメントを付して返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし	ISBN	なし
参考書	「2023 年 中小企業白書概要」及び「2024 年 中小企業白書概要」 URL をラーニングポータルにアップします。 その他、必要に応じて、授業内で紹介します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		20
	成果発表（口頭・実技）		0
	中間試験		0
	【定期試験】レポート試験		60
	【定期試験】筆記試験（対面）		0
	【定期試験】WEB 試験		0
	その他（％）		
その他の内容			
この科目の受講にあたって	日本で働く人の 7 割は中小企業で働いています。企業数では 99% が中小企業です。このような傾向は多くの国で共通しており、経済にもたらす影響について考えるときは、中小企業抜きには考えられません。経済を考えるときには、中小企業について知っていることが必要です。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	ガイダンス 授業の目的、内容、進め方等	「中小企業白書概要」を読んでおくこと。 配布レジメで復習すること。	4 時間
第 2 回	対面	日本の中小企業の現状について	「中小企業白書概要」を読んでおくこと。 配布レジメで復習すること。	4 時間
第 3 回	対面	日本の中小企業の現状と課題	「中小企業白書概要」を読んでおくこと。 配布レジメで復習すること。	4 時間

第4回	対面	日本の中小企業の現状と課題 外部講師 予定	「中小企業白書概要」を読んでもくこと。 配布レジメで復習すること。	4時間
第5回	対面	日本の製造業の現状と課題	「中小企業白書概要」を読んでもくこと。 配布レジメで復習すること。	4時間
第6回	対面	日本の製造業の現状と課題	「中小企業白書概要」を読んでもくこと。 配布レジメで復習すること。	4時間
第7回	対面	日本の製造業の現状と課題	「中小企業白書概要」を読んでもくこと。 配布レジメで復習すること。	4時間
第8回	対面	日本の中小売業の現状と課題	「中小企業白書概要」を読んでもくこと。 配布レジメで復習すること。	4時間
第9回	対面	日本の中小売業の現状と課題	「中小企業白書概要」を読んでもくこと。 配布レジメで復習すること。	4時間
第10回	対面	中小商業と地域社会	「中小企業白書概要」を読んでもくこと。 配布レジメで復習すること。	4時間
第11回	対面	中小企業の人材育成 外部講師予定	「中小企業白書概要」を読んでもくこと。 配布レジメで復習すること。	4時間
第12回	対面	中小企業と社会的責任	「中小企業白書概要」を読んでもくこと。 配布レジメで復習すること。	4時間
第13回	対面	課題レポートの発表 ディスカッション	「中小企業白書概要」を読んでもくこと。 配布レジメで復習すること。	4時間
第14回	対面	課題レポートの発表 ディスカッション	配布レジメで復習すること。 課題レポートの修正	4時間
第15回	オンデ マンド	課題レポートの作成について	発表に対するコメントを参考に課題レポートを修正 し、提出	5時間

科目名	労働経済学特論	開講年度	2024 年度春学期
担当者	牧田 修治	配当年次	修士1・2
科目ナンバリング	—	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	経済学研究科経済学専攻		
テーマ	近年の実証分析結果を通じて日本の労働問題を理解する		
授業の目的及び概要	本講義では、修士課程の研究を進める上で、重要と考えられる労働経済学のトピックについてどこまで解明されているかということ、実証分析を通して理解することを目的とします。日本の内部労働市場や、人的資本と教育政策、女性の社会進出など幅広い実証分析を紹介した教科書にそって学びます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html</a>		
学修の到達目標	学修の到達目標は次の2つです。 1. 実証分析で使用されている分析手法が理解できる。 2. 実証的な論文を正確に理解することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中のコメントでフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、金融機関のシンクタンクや徳島県庁で、長年にわたり統計データ分析や政策分析の業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	『日本の労働市場 経済学者の視点』、川口大司編、有斐閣、2017 年	ISBN	9.7846411651e+12
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	50	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	【定期試験】WEB 試験	0	
	その他（％） その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス、社会経済環境の変化と今後の労働市場の課題（教科書序章） 授業の進め方、教科書の各章の分担者の決定	【予習】教科書の目次に目を通し、関心のある内容を明確にしておいてください。 【復習】序章を読み直してください。	4 時間
第2回	対面	日本的人事の変容と内部労働市場（教科書第1章）	【予習】教科書の該当する章を読み、疑問点等を明確にしておいてください。担当者は発表資料を準備してください。 【復習】授業での議論や授業で得た知識の整理を行ってください。	4 時間
第3回	対面	労働契約・雇用管理の多様化（教科書第2	【予習】教科書の該当する章を読み、疑問点等を明確	4 時間

		章)	にしておいてください。担当者は発表資料を準備してください。 【復習】授業での議論や授業で得た知識の整理を行ってください。	
第4回	対面	人的資本と教育政策(教科書第3章)	【予習】教科書の該当する章を読み、疑問点等を明確にしておいてください。担当者は発表資料を準備してください。 【復習】授業での議論や授業で得た知識の整理を行ってください。	4時間
第5回	対面	地域経済が抱える課題と労働市場(教科書第4章)	【予習】教科書の該当する章を読み、疑問点等を明確にしておいてください。担当者は発表資料を準備してください。 【復習】授業での議論や授業で得た知識の整理を行ってください。	4時間
第6回	対面	高齢者雇用の現状と政策課題(教科書第5章)	【予習】教科書の該当する章を読み、疑問点等を明確にしておいてください。担当者は発表資料を準備してください。 【復習】授業での議論や授業で得た知識の整理を行ってください。	4時間
第7回	対面	女性の活躍が進まない原因(教科書第6章)	【予習】教科書の該当する章を読み、疑問点等を明確にしておいてください。担当者は発表資料を準備してください。 【復習】授業での議論や授業で得た知識の整理を行ってください。	4時間
第8回	対面	移民・外国人労働者のインパクト(教科書第7章)	【予習】教科書の該当する章を読み、疑問点等を明確にしておいてください。担当者は発表資料を準備してください。 【復習】授業での議論や授業で得た知識の整理を行ってください。	4時間
第9回	対面	障がい者雇用の現状と政策課題(教科書第8章)	【予習】教科書の該当する章を読み、疑問点等を明確にしておいてください。担当者は発表資料を準備してください。 【復習】授業での議論や授業で得た知識の整理を行ってください。	4時間
第10回	対面	失業保険政策(教科書第9章)	【予習】教科書の該当する章を読み、疑問点等を明確にしておいてください。担当者は発表資料を準備してください。 【復習】授業での議論や授業で得た知識の整理を行ってください。	4時間
第11回	対面	貧困問題と生活保護政策(教科書第10章)	【予習】教科書の該当する章を読み、疑問点等を明確にしておいてください。担当者は発表資料を準備してください。 【復習】授業での議論や授業で得た知識の整理を行ってください。	4時間
第12回	対面	エビデンス・ベースの労働政策のための計量経済学(教科書第11章)	【予習】教科書の該当する章を読み、疑問点等を明確にしておいてください。担当者は発表資料を準備してください。 【復習】授業での議論や授業で得た知識の整理を行ってください。	4時間
第13回	対面	労働経済理論(教科書第12章)	【予習】教科書の該当する章を読み、疑問点等を明確にしておいてください。担当者は発表資料を準備してください。 【復習】授業での議論や授業で得た知識の整理を行ってください。	4時間
第14回	対面	労働経済学における実験的手法(教科書第13章)	【予習】教科書の該当する章を読み、疑問点等を明確にしておいてください。担当者は発表資料を準備してください。	4時間

			【復習】授業での議論や授業で得た知識の整理を行ってください。	
第15回	オンデマンド	まとめ	【予習】第1回から第14回までの授業の内容を復習してください。 【復習】授業での議論や授業で得た知識の整理を行ってください。	4時間

科目名	財政学特論	開講年度	2024 年度秋学期
担当者	中村 和之	配当年次	修士1・2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html</a>	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	経済学研究科経済学専攻		
テーマ	少子高齢化・グローバル化社会における財政のあり方を学ぶ。		
授業の目的及び概要	少子高齢化やグローバル化などの経済社会の変化のもと、国や地方の財政はどのようにあるべきかを考察・理解することを目的とします。この講義では、財政の資源配分・所得再分配・経済安定の3つの機能から、人口減少社会の政府の役割と租税等の財源調達の方法を学修します。続いて人口減少社会の社会保障、租税原則と税制、国債残高などの「制度」と、純粋公共財のリンダール均衡や租税の超過負担問題などの「理論」を学修します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html</a>		
学修の到達目標	ミクロ経済学の応用としての「公共経済学」と法制度である「財政・租税制度」の学修を通じて、以下の力を修得することを目指します。 1 財政が経済社会に与える影響を経済学の理論を援用して推論できる。 2 政府による公共支出や課税の制度・仕組みを財政の機能と関連させながら説明できる。 3 人口減少やグローバル化などの潮流と財政の関連をその背景も含めて理解・説明できる。 4 わが国の財政が直面する諸問題について理論や制度を踏まえて自分なりの意見を持つことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	各回の授業中に簡単なクイズを出題します。また、授業期間中に何回かレポート課題を出題します。これらの結果を踏まえて、理解度向上を図るためのフィードバックを授業や資料配布の形で行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①現代財政学，有斐閣，横山彰・馬場義久・馬場勇夫，2009 年	ISBN	①9784641123762
参考書	①入門財政学(第2版)，土居丈朗，日本評論社，2021 年 ②図説 日本の財政(令和5年度版)，財經詳報社，2023 年 ③財政学をつかむ 新版，畑農鋭矢・林正義・吉田浩，有斐閣，2015 年	ISBN	①9784535540071 ②9784881776063 ③9784641177239
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		30
	成果発表(口頭・実技)		0
	中間試験		0
	【定期試験】レポート試験		50
	【定期試験】筆記試験(対面)		0
	【定期試験】WEB 試験		0
	その他(%)		0
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	ミクロ経済学やマクロ経済学の基礎的な知識を有しているものとして講義します。不安のある人はミクロ経済学やマクロ経済学の教科書(何でもよい)で自習してください。授業はテキストに沿って進めます。テキストに掲載されている統計はネットなどを活用して直近の動向を把		

握るように心がけてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【財政学を学ぶ】講義計画や授業の進め方を説明するとともに、国民経済における財政の位置づけを学びます。	【予習】シラバスの各回の授業内容を読んでください。また、テキストの第1章「財政学を学ぶ」をあらかじめ読んでおいてください。【復習】授業で取り上げたトピックスについて図書館やネットを通じて調べてください。	2時間
第2回	対面	【財政の役割】財政の3機能（資源配分、所得再分配、経済安定化）の意味とそれらの機能を担う国や地方の役割分担を学びます。	【復習】テキストの第1章の2「政府の目的、財政の役割」はこれからの授業の核となるので必ず復習してください。また、新聞やインターネット等で報じられている財政に関するニュースを探して、それは財政のどのような目的と関係するのかを考えてください。	4時間
第3回	対面	【公共財】公共サービスの供給を理論的に考えるために、公共財や地方公共財のスピルオーバー、クラブ財といった諸概念を学びます。	【予習】テキスト第2章「公共サービスを利用する」を読んだうえでわからないところを復習しておくこと。また、ミクロ経済学（需要と供給の理論）を復習しておくとう理解が容易になります。【復習】現実の財政がここで学んだ理論によってどのように説明できるかを考えてください。	4時間
第4回	対面	【集意的意思決定と政治過程とガバナンスを知る】財政に関する意思決定は政治過程を経て行われます。ここでは政治過程やガバナンスなど財政の意思決定を巡る問題を学びます。	【予習】テキスト第3章「政治過程とガバナンスを知る」をあらかじめ読んだうえでわからないところを抽出しておいてください。【復習】テキスト第3章「政治過程とガバナンスを知る」を読み直し、講義で得た知識を復習してください。	4時間
第5回	対面	【予算】政府の経済活動は予算によって拘束されます。ここでは予算の役割、予算に求められる原則、予算制度と政策評価について学びます。	【予習】テキスト第4章「予算をチェックする」をあらかじめ読んでわからなかったところを抽出しておいてください。【復習】テキスト第4章「予算をチェックする」を読み直すとともに、予算を巡るニュースなどを通じて講義で学んだ知識の定着を図ってください。	5時間
第6回	対面	【財政収入】租税、社会保険料、公債といった一般政府の収入について、その実態やそれらの相違点を学びます。また、地方政府の財政収入である国（中央政府）から地方政府への財政移転の制度と役割を学びます。	【予習】テキスト第5章「財政収入をみつめる」をあらかじめ読んでわからなかったところを抽出しておいてください。【復習】テキスト第5章「財政収入をみつめる」に掲載されている統計について近年の動向を調べてください。	5時間
第7回	対面	【租税】租税の制度と実態を学ぶとともにその経済効果を学びます。	【予習】テキスト第6章「税を徴収される」をあらかじめ読むとともに、ミクロ経済学（需要と供給の理論）を復習しておいてください。【復習】講義で学んだ租税原則や税源配分論が現実の税制でどのように反映されているかを考えてみてください。	4時間
第8回	対面	【地方税】地方政府が課す税（地方税）の制度と仕組みを学びます。	【予習】テキスト第7章「地方税を徴収される」をあらかじめ読むとともに、前回の講義で学んだ国税との違いを考えてみてください。【復習】講義で学んだ地方税固有の考え方や経済効果をテキスト第7章「地方税を徴収される」の再読により復習してください。	4時間
第9回	対面	【公債】政府の経済活動が必要とされる一つの理由である外部性について学びます。	【予習】テキスト第8章「公債発行をとらえる」をあらかじめ読むとともに、マクロ経済学（IS-LM分析）を復習しておくとう理解が容易になります。【復習】テキスト第8章「公債発行をとらえる」を再読して理解の定着を図ってください。	4時間
第10回	対面	【経費を分析する視点】財政の歳出面についてその類型や効果の測定を巡る問題を学びます。	【復習】テキスト第9章「経費を調べる」をあらかじめ読むとともに、国の主要経費別予算に目を通しておくとう理解が深まります。【復習】費用便益分析や費	4時間

			用効果分析の考え方や手法をテキスト第9章「経費を調べる」を再読して復習ください。	
第11回	対面	【社会保障】社会保障の範囲や基本的な考え方、これからの課題を学ぶとともに、生活保護、公的年金、医療保険、介護保険のあらましを学びます。	【復習】テキスト第10章「社会保障を考える」をあらかじめ読んで、わからないところを抽出しておいてください。【復習】テキスト第10章「社会保障を考える」を再読して講義で得た知識や考え方の定着を図ってください。	4時間
第12回	対面	【国と地方の財政関係】国と地方の権限や財源の配分に着目して、地方財政の制度やあり方を学びます。	【復習】テキスト第11章「分権化社会に取り組む」をあらかじめ読むとともに、テキスト第1章、第5章、第7章を読んで地方財政の制度や仕組み、実態を復習しておいてください。【復習】講義の内容の復習やテキスト第11章「分権化社会に取り組む」の再読を通じて知識や考え方の定着を図ってください。	4時間
第13回	対面	【財政の持続可能性と財政再建】不況期に財政支出を増やすことによって国全体の所得を増やそうとする財政政策の考え方を学びます。	【復習】テキスト第12章「財政再建に取り組む」をあらかじめ読むとともに、テキスト第8章で読んで公債発行の経済効果について復習しておいてください。【復習】講義内容の復習やテキスト第12章「財政再建に取り組む」の再読を通じて知識や考え方の定着を図ってください。	4時間
第14回	対面	【税制改革に取り組む】税制改革に対する基本的な考え方や改革の方向性を学びます。	【復習】テキスト第13章「税制改革に取り組む」をあらかじめ読むとともに、テキスト第6章、第7章を読んで税制の基礎知識を復習しておいてください。【復習】講義内容の復習やテキスト第12章「税制改革に取り組む」の再読を通じて知識や考え方の定着を図ってください。	4時間
第15回	オンデマンド	【全体の総括と展望】授業全体の総括を通じて、少子高齢化やグローバル化などの経済社会の変化に伴う財政の課題とあり方を学びます。	【予習】各回の授業の復習を通じて授業の全体像を把握しておいてください。	4時間

科目名	研究指導 I	開講年度	2024 年度春学期、2024 年度秋学期
担当者	中村 和之	配当年次	修士 1
科目ナンバリング	—	単位数	4 単位
グレード	—	授業方法	演習
科目区分	経済学研究科経済学専攻		
テーマ	政府の経済活動を巡る課題を研究する。		
授業の目的及び概要	<p>この授業では、財政学や地方財政論、公共経済学およびその関連分野の理論分析を中心に学修します。</p> <p>前期は大学院での調査・研究の方法や修士論文の執筆方法を学ぶとともに、前述の諸分野の中から受講生が関心ある分野の基礎的文献を学修します。並行して、修士論文の研究テーマを決定するとともにその研究計画を作成します。</p> <p>後期は、受講生の研究テーマに沿って重要だと思われる先行研究論文のレビューを通じて当該分野の研究動向を展望します。最終的には修士論文の一次原稿を完成させることを目指します。</p> <p>ほぼすべての授業は受講生の発表や課題の提出と教員の助言指導や受講生同士の討論をベースに行われます。各自の授業に対する事前準備が極めて重要なので、意欲的な取り組みを期待します。</p>		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html</a>		
学修の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の助言があれば、修士論文の研究計画を立案・作成できる。</li> <li>・教員の助言があれば、修士論文の研究テーマに関する先行研究を展望したレポートを完成させることができる。</li> <li>・教員の指導があれば、修士論文の一次原稿を完成させることができる。</li> <li>・修士論文のテーマに関する背景や先行研究の動向を独力で説明できる。</li> </ul>		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出されたレポートや発表資料に対するコメントを通じて学修のフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	用いません。受講生の研究テーマが決まった後に適宜指示します。資料等は必要に応じて配付します。	ISBN	なし
参考書	授業中に必要に応じて提示します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	30	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	【定期試験】WEB 試験	0	
	その他（％）	50	
	その他の内容	修士論文の一次原稿	
この科目の受講にあたって	財政学特論の受講を薦めます。また、ミクロ経済学の理論が必要とされます。授業でも解説しますが受講生自身でも自習してください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
-----	------	------	----------------	-----------

第1回	対面	【ガイダンス】授業の進め方と前期の学修計画を説明します。	【予習】シラバスを読んでください。自分を取り組みたい研究テーマを口頭で発表できるように準備してください。【復習】前期の学修計画・内容を確認しておいてください。	2時間
第2回	オンデマンド	研究倫理教育 解説動画を視聴して、研究倫理に対する自身の考えを文章にしたための。	【予習】インターネットで研究不正とは何か調べる。 【復習】解説動画を再視聴する。	4時間
第3回	対面	【大学院における調査研究の手法】修士論文を執筆するために必要な資料収集や調査研究の手法を学びます。	【復習】課題を出題するので、資料収集や調査研究の手法を復習の上、取り組んでください。	4時間
第4回	対面	【修士論文の執筆手法】修士論文や大学院での研究レポートを執筆する上で必要となる作法を学びます。	【復習】配布資料等を用いてレポートや論文執筆のルールを復習してください。	4時間
第5回	対面	【公共経済学や財政学に関する基礎的論文の講読 1】あらかじめ指定した文献について、受講生による発表とディスカッションを通じて、研究分野に関する基礎的な知識の習得を目指します。	【予習】第2回から第4回の授業での説明を踏まえて、発表用のスライドもしくは資料を事前に準備してください。【復習】受講生同士のディスカッションや教員からのコメントを踏まえて資料等を修正してください。	4時間
第6回	対面	【公共経済学や財政学に関する基礎的論文の講読 2】あらかじめ指定した文献について、受講生による発表とディスカッションを通じて、研究分野に関する基礎的な知識の習得を目指します。	【予習】第2回から第4回の授業での説明を踏まえて、発表用のスライドもしくは資料を事前に準備してください。【復習】受講生同士のディスカッションや教員からのコメントを踏まえて資料等を修正してください。	4時間
第7回	対面	【公共経済学や財政学に関する基礎的論文の講読 3】あらかじめ指定した文献について、受講生による発表とディスカッションを通じて、研究分野に関する基礎的な知識の習得を目指します。	【予習】第2回から第4回の授業での説明を踏まえて、発表用のスライドもしくは資料を事前に準備してください。【復習】受講生同士のディスカッションや教員からのコメントを踏まえて資料等を修正してください。	4時間
第8回	対面	【研究テーマの決定と研究計画の作成 1】研究テーマを決定するための発表とディスカッションを行います。	【予習】各自の研究テーマの背景と研究方法を発表できるように準備してください。【復習】ディスカッションやコメントを踏まえて研究計画を作成してください。	4時間
第9回	対面	【研究テーマの決定と研究計画の作成 2】研究テーマを決定するための発表とディスカッションを行います。	【予習】各自の研究テーマの背景と研究方法を発表できるように準備してください。【復習】ディスカッションやコメントを踏まえて研究計画を作成してください。	4時間
第10回	対面	【研究テーマの決定と研究計画の作成 3】研究テーマを決定するための発表とディスカッションを行います。	【予習】各自の研究テーマの背景と研究方法を発表できるように準備してください。【復習】ディスカッションやコメントを踏まえて研究計画を作成してください。	4時間
第11回	対面	【研究テーマに関する基本文献の読解 1】各自の研究テーマに関する基礎的な論文・資料を読み、研究テーマに関する理解を深めます。	【予習】スライドや資料などを用いて発表できるように準備してください。【復習】授業でのディスカッションやコメントを踏まえて発表した論文・資料についてのレポートを作成してください。	4時間
第12回	対面	【研究テーマに関する基本文献の読解 2】各自の研究テーマに関する基礎的な要論文・資料を読み、研究テーマに関する理解を深めます。	【予習】スライドや資料などを用いて発表できるように準備してください。【復習】授業でのディスカッションやコメントを踏まえて発表した論文・資料についてのレポートを作成してください。	4時間
第13回	対面	【研究テーマに関する基本文献の読解 3】各自の研究テーマに関する基礎的な論文・資料を読み、研究テーマに関する理解を深めます。	【予習】スライドや資料などを用いて発表できるように準備してください。【復習】授業でのディスカッションやコメントを踏まえて発表した論文・資料についてのレポートを作成してください。	4時間
第14回	対面	【研究テーマに関する研究動向と方法について】各自の研究テーマに関する最新の研究動向と今後の展開についてディスカッションします。	【予習】各自の研究の進捗状況を発表できるように準備してください。【復習】授業を踏まえて、研究テーマや研究手法の計画を修正してください。	4時間
第15回	対面	【後期に向けた研究計画】前期の授業、成	【予習】各自が研究を進める上での課題を発表でき	6時間

		果の総括と後期に向けた課題を考えます。	るように資料やスライドなどを準備してください。 【復習】授業でのディスカッションを踏まえて後期の研究計画を立案してください。	
第16回	対面	【研究の進捗状況と今後の研究方針の決定】研究の進捗状況の発表と一次原稿の作成に向けた今後の研究計画をディスカッションします。	【予習】研究の進捗状況を発表できるように準備してください。	2時間
第17回	オンデマンド	【前期の授業のまとめ】前期の授業で取り上げたことのうち、重要な点をまとめて解説します。	【予習】前期で学んだこと全般を講義資料等で復習してください。【復習】動画の視聴後、修士論文の執筆にあたっての注意事項等を再確認してください。	4時間
第18回	対面	【研究テーマに関する重要文献の検討 1】各自の研究テーマに関する重要文献を取り上げ、その研究の意義や残された課題を検討します。	【予習】スライドや資料などを用いて発表できるように準備してください。【復習】授業でのディスカッションやコメントを踏まえて発表した論文についてのレポートを作成してください。	4時間
第19回	対面	【研究テーマに関する重要文献の検討 2】各自の研究テーマに関する重要文献を取り上げ、その研究の意義や残された課題を検討します。	【予習】スライドや資料などを用いて発表できるように準備してください。【復習】授業でのディスカッションやコメントを踏まえて発表した論文についてのレポートを作成してください。	4時間
第20回	対面	【研究テーマに関する重要文献の報告 3】各自の研究テーマに関する重要文献を取り上げ、その研究の意義や残された課題を検討します。	【予習】スライドや資料などを用いて発表できるように準備してください。【復習】授業でのディスカッションやコメントを踏まえて発表した論文についてのレポートを作成してください。	4時間
第21回	対面	【研究テーマに関する重要文献の報告 4】各自の研究テーマに関する重要文献を取り上げ、その研究の意義や残された課題を検討します。	【予習】スライドや資料などを用いて発表できるように準備してください。【復習】授業でのディスカッションやコメントを踏まえて発表した論文についてのレポートを作成してください。	4時間
第22回	対面	【研究テーマに関する重要文献の報告 5】各自の研究テーマに関する重要文献を取り上げ、その研究の意義や残された課題を検討します。	【予習】スライドや資料などを用いて発表できるように準備してください。【復習】授業でのディスカッションやコメントを踏まえて発表した論文についてのレポートを作成してください。	4時間
第23回	対面	【研究テーマに関する重要文献の報告 6】各自の研究テーマに関する重要文献を取り上げ、その研究の意義や残された課題を検討します。	【予習】スライドや資料などを用いて発表できるように準備してください。【復習】授業でのディスカッションやコメントを踏まえて発表した論文についてのレポートを作成してください。	4時間
第24回	対面	【修士論文一次原稿の発表 1】受講生が作成した修士論文一次原稿の発表とディスカッションを通じてその追加・修正を行います。	【予習】一次原稿の原稿とプレゼン資料をあらかじめ用意しておいてください。【復習】授業でのディスカッションやコメントを踏まえて一次原稿を改訂してください。	4時間
第25回	対面	【修士論文一次原稿の発表 2】受講生が作成した修士論文一次原稿の発表とディスカッションを通じてその追加・修正を行います。	【予習】一次原稿の原稿とプレゼン資料をあらかじめ用意しておいてください。【復習】授業でのディスカッションやコメントを踏まえて一次原稿を改訂してください。	4時間
第26回	対面	【修士論文一次原稿の発表 3】受講生が作成した修士論文一次原稿の発表とディスカッションを通じてその追加・修正を行います。	【予習】一次原稿の原稿とプレゼン資料をあらかじめ用意しておいてください。【復習】授業でのディスカッションやコメントを踏まえて一次原稿を改訂してください。	4時間
第27回	対面	【修士論文一次原稿の作成 1】受講生が作成した修士論文一次原稿の発表とディスカッションを通じてその追加・修正を行います。	【予習】前回（修士論文1次原稿の発表）のコメントを踏まえて作成した改訂原稿と前回からの変更点をまとめたプレゼン資料を用意してください。【復習】授業でのディスカッションやコメントを踏まえてさらに追記・修正してください。	4時間
第28回	対面	【修士論文一次原稿の作成 2】受講生が作成した修士論文一次原稿の発表とディスカッションを通じてその追加・修正を行います。	【予習】前回（修士論文1次原稿の発表）のコメントを踏まえて作成した改訂原稿と前回からの変更点をまとめたプレゼン資料を用意してください。【復習】授業でのディスカッションやコメントを踏まえてさらに追記・修正してください。	4時間
第29回	対面	【修士論文一次原稿の作成 3】受講生が作	【予習】前回（修士論文1次原稿の発表）のコメント	4時間

		成した修士論文一次原稿の発表とディスカッションを通じてその追加・修正を行います。	を踏まえて作成した改訂原稿と前回からの変更点をまとめたプレゼン資料を用意してください。【復習】授業でのディスカッションやコメントを踏まえてさらに追記・修正してください。	
第30回	対面	授業全体の総括と今後の学修計画についてディスカッションします。	【予習】研究計画に照らし合わせて進捗状況の自己評価をしておいてください。【復習】授業全体を復習してください。	6時間

科目名	研究指導 I	開講年度	2024 年度春学期、2024 年度秋学期
担当者	金子 治平	配当年次	修士 1
科目ナンバリング	—	単位数	4 単位
グレード	—	授業方法	演習
科目区分	経済学研究科経済学専攻		
テーマ	研究課題の深化と具体化		
授業の目的及び概要	<p>修士課程に入る前に、研究計画を立てていることと思います。          研究指導 I では、その研究計画の妥当性と実行可能性を検討し、場合によっては研究計画を見直して具体的に実行可能な研究計画に練り上げていくことを目的とします。          具体的には、下記の段階を繰り返すことを考えています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学院生による研究報告</li> <li>2. 教員によるコメント</li> <li>3. 大学院生によるレスポンス（改善と発展）</li> </ol> <p>なお、2においては、研究とは何か、課題設定の方法、研究方法、使用する資料、新たな文献の示唆などの指導も含まれます。</p>		
履修条件・留意点			
DP との関係	—		
学修の到達目標	論文の読解などを通じて、「研究方法の取得」、「資料の収集と読解」、「データの分析」など、修士論文の執筆を行う上での前提となる準備過程を一通り行うことを目標とする。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	大学院生の研究報告に対してコメントするとともに、執筆した文章に対して添削とコメントを行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし	ISBN	なし
参考書	なし	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	30	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	【定期試験】WEB 試験	0	
	その他（％）		
その他の内容			
この科目の受講にあたって	対話の機会を多く持って、相互理解を深めたいと思います。 研究に関連することなど、授業時間外にも遠慮なく、メールや teams で連絡をください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	オリエンテーション 授業のねらいと進め方を説明するとともに、互いに自己紹介を行います。	大学院入学試験時の研究計画書を読み直してください。	4 時間
第 2 回	オンデマンド	研究倫理教育 解説動画を視聴して、研究倫理に対する自	【予習】インターネットで研究不正とは何か調べる。 【復習】解説動画を再視聴する。	4 時間

		身の心構えを文章にしたためる。		
第3回	対面	研究計画の報告と検討(1)	大学院入学試験時の研究計画書を、検討してください。	4時間
第4回	対面	研究計画の報告と検討(2)	大学院入学試験時の研究計画書を、検討してください。	4時間
第5回	対面	関連論文の読解と報告(1)	各自の研究課題に関連する論文を最低1本は読んで、その内容を報告してください。 論文を読む際には、批判的に読むことを心がけてください。	4時間
第6回	対面	関連論文の読解と報告(2)	各自の研究課題に関連する論文を最低1本は読んで、その内容を報告してください。 論文を読む際には、批判的に読むことを心がけてください。	4時間
第7回	対面	関連論文の読解と報告(3)	各自の研究課題に関連する論文を最低1本は読んで、その内容を報告してください。 論文を読む際には、批判的に読むことを心がけてください。	4時間
第8回	対面	関連論文の読解と報告(4)	各自の研究課題に関連する論文を最低1本は読んで、その内容を報告してください。 論文を読む際には、批判的に読むことを心がけてください。	4時間
第9回	対面	関連論文の読解と報告(5)	各自の研究課題に関連する論文を最低1本は読んで、その内容を報告してください。 論文を読む際には、批判的に読むことを心がけてください。	4時間
第10回	対面	関連論文の読解と報告(6)	各自の研究課題に関連する論文を最低1本は読んで、その内容を報告してください。 論文を読む際には、批判的に読むことを心がけてください。	4時間
第11回	対面	関連論文の読解と報告(7)	各自の研究課題に関連する論文を最低1本は読んで、その内容を報告してください。 論文を読む際には、批判的に読むことを心がけてください。	4時間
第12回	対面	関連論文の読解と報告(8)	各自の研究課題に関連する論文を最低1本は読んで、その内容を報告してください。 論文を読む際には、批判的に読むことを心がけてください。	4時間
第13回	対面	関連論文の読解と報告(9)	各自の研究課題に関連する論文を最低1本は読んで、その内容を報告してください。 論文を読む際には、批判的に読むことを心がけてください。	4時間
第14回	対面	関連論文の読解と報告(10)	各自の研究課題に関連する論文を最低1本は読んで、その内容を報告してください。 論文を読む際には、批判的に読むことを心がけてください。	4時間
第15回	対面	研究課題と研究計画の再検討	これまでに読んだ論文をふまえて、各自の研究課題や研究計画を再検討してください。	4時間
第16回	対面	春学期・夏休みの振り返りと秋学期の進め方	夏休み中の研究活動を振り返ってください	4時間
第17回	対面	夏休み中の研究進捗状況の報告(1)	夏休みの研究の進捗状況をまとめる	4時間
第18回	対面	夏休み中の研究進捗状況の報告(2)	夏休みの研究の進捗状況をまとめる	4時間
第19回	対面	関連論文の読解と報告(11)	各自の研究課題に関連する論文を最低1本は読んで、その内容を報告してください。 論文を読む際には、批判的に読むことを心がけてください。	4時間
第20回	対面	関連論文の読解と報告(12)	各自の研究課題に関連する論文を最低1本は読んで	4時間

			で、その内容を報告してください。 論文を読む際には、批判的に読むことを心がけてください。	
第21回	対面	関連論文の読解と報告(13)	各自の研究課題に関連する論文を最低1本は読んで、その内容を報告してください。 論文を読む際には、批判的に読むことを心がけてください。	4時間
第22回	対面	関連論文の読解と報告(14)	各自の研究課題に関連する論文を最低1本は読んで、その内容を報告してください。 論文を読む際には、批判的に読むことを心がけてください。	4時間
第23回	対面	関連論文の読解と報告(15)	各自の研究課題に関連する論文を最低1本は読んで、その内容を報告してください。 論文を読む際には、批判的に読むことを心がけてください。	4時間
第24回	対面	関連論文の読解と報告(16)	各自の研究課題に関連する論文を最低1本は読んで、その内容を報告してください。 論文を読む際には、批判的に読むことを心がけてください。	4時間
第25回	対面	関連論文の読解と報告(17)	各自の研究課題に関連する論文を最低1本は読んで、その内容を報告してください。 論文を読む際には、批判的に読むことを心がけてください。	4時間
第26回	対面	修士論文の中間報告(1)	修士論文の中間報告の発表ができるようにしてください。	4時間
第27回	対面	修士論文の中間報告(2)	修士論文の中間報告を改善してください	4時間
第28回	対面	修士論文の中間報告(3)	修士論文の中間報告を改善してください	4時間
第29回	対面	大学院生による1年間のまとめ	修士論文の中間報告を完成させて、教員に送付してください	4時間
第30回	オンデマンド	教員による1年間のまとめ	教員のコメントをふまえて、修士論文の中間報告を完成させてください	4時間

科目名	研究指導 I	開講年度	2024 年度春学期、2024 年度秋学期
担当者	山垣 真浩	配当年次	修士 1
科目ナンバリング	—	単位数	4 単位
グレード	—	授業方法	演習
科目区分	経済学研究科経済学専攻		
テーマ	社会政策に関連する修士論文のテーマを探究する		
授業の目的及び概要	<p>本演習（研究指導）では、まず労働研究の出発点として、労働力の取引をめぐる制度を詳細に学修する。労働力の取引をめぐるのは、雇用主と従業員とのあいだに指揮命令関係が発生し、また従業員のスキル形成や生活保障という課題があることから、法または労使協定等で、労働基本権、労働時間、労働安全衛生管理、配転、昇進、解雇、賃金等に関するルールを定めている。近年労使の力関係のバランスが崩れ、ブラック企業が増加して深刻な労働問題が発生する一方で、政府は企業をより活動しやすくするための規制改革を検討している。こういう社会状況において、労働をめぐるルールについて学修することは重要である。</p> <p>前期には、すべての受講生に共通の学修内容として、文献に基づく学修に加え、大学院における調査研究の方法や修士論文の執筆方法について修得させる。また、現代社会が直面する経済的諸問題の中から特に地域社会における労働経済に関わる諸問題に関連する研究テーマを受講生に決定させ、そのテーマに応じて修士論文作成計画を作成させる。</p> <p>後期には、すべての受講生に共通の学修内容として、文献に基づく学修に加え、先行研究論文に基づく学修を進め、地域社会における労働経済に関わる諸問題に関する最近の研究動向をレビューさせる。また、受講生の研究テーマに関連する文献や資料の調査を行わせるとともに、修士論文の一次原稿を発表させ、指導教員や他の受講生とのディスカッションなどを通じ、修正させる。</p>		
履修条件・留意点	研究指導科目が、大学院教育の中心科目である。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html</a>		
学修の到達目標	春学期の目標は、さまざまな文献を読みつつ、できるだけ早く修士論文のテーマを決定すること。決めたら、それに関連する文献を収集し、解読すること。秋学期もその続きであるが、年明けに修士論文の一次原稿を完成させること。以上が、M1 の目標である。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内でコメントしたり、添削したものを返却したりする。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しない。	ISBN	—
参考書	指定しない。	ISBN	—
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		50
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		0
	成果発表（口頭・実技）		0
	中間試験		0
	【定期試験】レポート試験		0
	【定期試験】筆記試験（対面）		0
	【定期試験】WEB 試験		0
	その他（%）		50
	その他の内容		修士論文の一次原稿
この科目の受講にあたって	いい修士論文作品に仕上げたい、という気持ちを大事にしてもらいたい。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	前期の授業のねらいと進め方など授業の概要を説明する。 先行研究を収集し、解読する。	先行研究を収集、解読し、報告の準備を行う。	4時間
第2回	対面	大学院における資料収集や調査研究の方法を説明する。 先行研究を収集し、解読する。	先行研究を収集、解読し、報告の準備を行う。	4時間
第3回	オンデマンド	研究倫理に関して説明する。	研究倫理に関する心構えを文章にしたための。	4時間
第4回	対面	修士論文の執筆方法を説明する。 先行研究を収集し、解読する。	先行研究を収集、解読し、報告の準備を行う。	4時間
第5回	対面	地域社会における労働経済に関わる諸問題に関する教材の講読、受講生による発表、ディスカッション 先行研究を収集し、解読する。	先行研究を収集、解読し、報告の準備を行う。	4時間
第6回	対面	地域社会における労働経済に関わる諸問題に関する教材の講読、受講生による発表、ディスカッション 先行研究を収集し、解読する。	先行研究を収集、解読し、報告の準備を行う。	4時間
第7回	対面	地域社会における労働経済に関わる諸問題に関する教材の講読、受講生による発表、ディスカッション 先行研究を収集し、解読する。	先行研究を収集、解読し、報告の準備を行う。	4時間
第8回	対面	地域社会における労働経済に関わる諸問題に関する研究テーマ・分析方法の決定 先行研究を収集し、解読する。	先行研究を収集、解読し、報告の準備を行う。	4時間
第9回	対面	修士論文作成計画の作成指導 先行研究を収集し、解読する。	先行研究を収集、解読し、報告の準備を行う。	4時間
第10回	対面	修士論文作成計画の発表 先行研究を収集し、解読する。	先行研究を収集、解読し、報告の準備を行う。	4時間
第11回	対面	修士論文作成計画の発表 先行研究を収集し、解読する。	先行研究を収集、解読し、報告の準備を行う。	4時間
第12回	対面	修士論文作成計画の発表 先行研究を収集し、解読する。	先行研究を収集、解読し、報告の準備を行う。	4時間
第13回	対面	地域社会における労働経済に関わる諸問題に関する研究テーマに基づくレポートの発表・ディスカッション 先行研究を収集し、解読する。	先行研究を収集、解読し、報告の準備を行う。	4時間
第14回	対面	地域社会における労働経済に関わる諸問題に関する研究テーマに基づくレポートの発表・ディスカッション 先行研究を収集し、解読する。	先行研究を収集、解読し、報告の準備を行う。	4時間
第15回	対面	前期の授業の総括を行う。 先行研究を収集し、解読する。	先行研究を収集、解読し、報告の準備を行う。	4時間
第16回	対面	後期の授業のねらいと進め方など授業の概要を説明する。 提出直前の研究計画書について報告する。	先行研究を収集、解読し、報告の準備を行う。	4時間
第17回	対面	地域社会における労働経済に関する研究テーマに関連する教材の講読、受講生による発表 先行研究を収集し、解読する。	先行研究を収集、解読し、報告の準備を行う。	4時間
第18回	対面	地域社会における労働経済に関わる諸問題に関する研究テーマに関連する教材の講読、受講生による発表 先行研究を収集し、解読する。	先行研究を収集、解読し、報告の準備を行う。	4時間

第19回	対面	地域社会における労働経済に関わる諸問題に関する研究テーマに関連する教材の講読、受講生による発表 先行研究を収集し、解読する。	先行研究を収集、解読し、報告の準備を行う。	4時間
第20回	対面	地域社会における労働経済に関わる諸問題に関する研究テーマに関連する各種文献・資料の検討 先行研究を収集、解読し、一次原稿を執筆する。	先行研究を収集、解読し、報告の準備を行う。	4時間
第21回	対面	地域社会における労働経済に関わる諸問題に関する研究テーマに関連する各種文献・資料の検討 先行研究を収集、解読し、一次原稿を執筆する。	先行研究を収集、解読し、報告の準備を行う。	4時間
第22回	対面	地域社会における労働経済に関わる諸問題に関する研究テーマに関連する各種文献・資料の検討 先行研究を収集、解読し、一次原稿を執筆する。	先行研究を収集、解読し、報告の準備を行う。先行研究を収集、解読し、報告の準備を行う。	4時間
第23回	対面	地域社会における労働経済に関わる諸問題に関する研究テーマに関連する各種文献・資料の検討 先行研究を収集、解読し、一次原稿を執筆する。	先行研究を収集、解読し、報告の準備を行う。	4時間
第24回	対面	一次原稿の発表、ディスカッション 先行研究を収集、解読し、一次原稿を執筆する。	先行研究を収集、解読し、報告の準備を行う。	4時間
第25回	対面	一次原稿の発表、ディスカッション 先行研究を収集、解読し、一次原稿を執筆する。	先行研究を収集、解読し、報告の準備を行う。	4時間
第26回	対面	一次原稿の発表、ディスカッション 先行研究を収集、解読し、一次原稿を執筆する。	先行研究を収集、解読し、報告の準備を行う。	4時間
第27回	対面	指導教員との質疑応答・追加・修正 先行研究を収集、解読し、一次原稿を執筆する。	先行研究を収集、解読し、報告の準備を行う。	4時間
第28回	対面	指導教員との質疑応答・追加・修正 先行研究を収集、解読し、一次原稿を執筆する。	先行研究を収集、解読し、報告の準備を行う。	4時間
第29回	オンデマンド	一次原稿に関する直前指導。	先行研究を収集、解読し、報告の準備を行う。	4時間
第30回	対面	授業全体の総括を行う。 先行研究を収集、解読し、一次原稿を執筆する。	修士論文の一次原稿を仕上げる。	4時間

科目名	研究指導 I	開講年度	2024 年度春学期、2024 年度秋学期
担当者	前鶴 政和	配当年次	修士 1
科目ナンバリング	—	単位数	4 単位
グレード	—	授業方法	演習
科目区分	経済学研究科経済学専攻		
テーマ	国際経済における経済政策の効果		
授業の目的及び概要	<p>この授業では、国際経済学や経済政策の知識に基づき、政府の研究開発政策、貿易政策、環境政策等の政策が企業の利潤や経済厚生にどのような影響を及ぼすかについて学修します。</p> <p>前期には、すべての受講生に共通の学修内容として、文献に基づく学修に加え、大学院における調査研究の方法や修士論文の執筆方法について修得します。また、現代社会が直面する経済的諸問題の中から特に国際経済における経済政策に関連する研究テーマを受講生に決定させ、そのテーマに応じて修士論文作成計画を作成します。</p> <p>後期には、すべての受講生に共通の学修内容として、文献に基づく学修に加え、先行研究論文に基づく学修を進め、国際経済における経済政策に関する最近の研究動向をレビューします。また、受講生の研究テーマに関連する文献や資料の調査を行わせるとともに、修士論文の一次原稿を発表させ、指導教員や他の受講生とのディスカッションなどを通じ、修正します。</p> <p>この授業を通じて、高度の専門的職業人に求められる、経済的諸問題の解決の方策を提案する能力を修得します。</p>		
履修条件・留意点			
DP との関連	—		
学修の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 受講生の関心や問題意識に基づき、修士論文の作成計画及び修士論文の一次原稿を作成することができるようになる。</li> <li>2. 現代社会が直面する経済的諸問題の中から国際経済における経済政策に関する調査・分析ができるようになる。</li> </ol>		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	修士論文の作成計画や一次原稿については、添削して返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。必要な資料を適宜配付します。	ISBN	なし
参考書	①環境経済学の政策デザイン:資源循環・低炭素・自然共生, 細田衛士・大沼 あゆみ, 慶應義塾大学出版会, 2019 年	ISBN	①9784766426007
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表(口頭・実技)	30	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験(対面)	0	
	【定期試験】WEB 試験	0	
	その他(%)	50	
	その他の内容	修士論文の一次原稿	
この科目の受講にあたって	環境経済特論、経済政策特論の履修を推奨します。		

授業回	授業	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の
-----	----	------	----------------	-------

	形式		学修時間	
第1回	対面	前期の授業のねらいと進め方など授業の概要を説明します。	【予習】この授業のシラバスを事前によく読んでおいてください。 【復習】授業後に、ガイダンスの内容について復習してください。	2時間
第2回	オンデマンド	研究倫理教育 解説動画を視聴して、研究倫理に対する自身の心構えを文章にしたためる。	【予習】インターネットで研究不正とは何か調べる。 【復習】解説動画を再視聴する。	4時間
第3回	対面	大学院における資料収集や調査研究の方法を説明します。	【予習】大学院における資料収集や調査研究の方法に関する配布資料を事前によく読んでおいてください。 【復習】授業後に、大学院における資料収集や調査研究の方法に関する配布資料を復習してください。	4時間
第4回	対面	修士論文の執筆方法を説明します。	【予習】修士論文の執筆方法に関する配布資料を事前によく読んでおいてください。 【復習】授業後に、修士論文の執筆方法に関する配布資料を復習してください。	4時間
第5回	対面	国際経済における経済政策に関する教材の講読、受講生による発表、ディスカッションを行います。	【予習】教材に基づく発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて発表資料を修正してください。	4時間
第6回	対面	国際経済における経済政策に関する教材の講読、受講生による発表、ディスカッションを行います。	【予習】教材に基づく発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて発表資料を修正してください。	4時間
第7回	対面	国際経済における経済政策に関する研究テーマ・分析方法を決定します。	【予習】研究テーマ・分析方法の決定に関する配布資料を事前によく読んでおいてください。 【復習】授業後に、研究テーマ・分析方法の決定に関する配布資料を復習してください。	4時間
第8回	対面	修士論文作成計画の作成を行います。	【予習】修士論文作成計画の作成に関する配布資料を事前によく読んでおいてください。 【復習】授業後に、修士論文作成計画の作成に関する配布資料を復習してください。	4時間
第9回	対面	修士論文作成計画の発表を行います。	【予習】修士論文作成計画を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて修士論文作成計画を修正してください。	4時間
第10回	対面	修士論文作成計画の発表を行います。	【予習】修士論文作成計画を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて修士論文作成計画を修正してください。	4時間
第11回	対面	修士論文作成計画の発表を行います。	【予習】修士論文作成計画を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて修士論文作成計画を修正してください。	4時間
第12回	対面	国際経済における経済政策に関する研究テーマに基づくレポートの発表・ディスカッションを行います。	【予習】レポートを事前に作成しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいてレポートを修正してください。	4時間
第13回	対面	国際経済における経済政策に関する研究テーマに基づくレポートの発表・ディスカッションを行います。	【予習】レポートを事前に作成しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいてレポートを修正してください。	4時間
第14回	対面	国際経済における経済政策に関する研究テーマに基づくレポートの発表・ディスカッションを行います。	【予習】レポートを事前に作成しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいてレポートを修正してください。	4時間
第15回	対面	前期の授業の総括を行います。	【予習】これまでの授業の配布資料等を事前によく読んでおいてください。 【復習】授業後に、これまでの授業の配布資料等を総	6時間

			復習してください。	
第16回	対面	後期の授業のねらいと進め方など授業の概要を説明します。	【予習】この授業のシラバスを事前によく読んでおいてください。 【復習】授業後に、ガイダンスの内容について復習してください。	2時間
第17回	オンデマンド	前期に学修した内容の復習を行います。	【復習】オンデマンド動画を視聴した上で、Learning Portalの「確認テスト」を解き、復習を行ってください。	4時間
第18回	対面	国際経済における経済政策に関する研究テーマに関連する教材の講読、受講生による発表を行います。	【予習】教材に基づく発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて発表資料を修正してください。	4時間
第19回	対面	国際経済における経済政策に関する研究テーマに関連する教材の講読、受講生による発表を行います。	【予習】教材に基づく発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて発表資料を修正してください。	4時間
第20回	対面	国際経済における経済政策に関する研究テーマに関連する各種文献・資料の検討を行います。	【予習】研究テーマに関連する各種文献・資料を事前によく読んでおいてください。 【復習】授業後に、研究テーマ関連する各種文献・資料を復習してください。	4時間
第21回	対面	国際経済における経済政策に関する研究テーマに関連する各種文献・資料の検討を行います。	【予習】研究テーマに関連する各種文献・資料を事前によく読んでおいてください。 【復習】授業後に、研究テーマ関連する各種文献・資料を復習してください。	4時間
第22回	対面	国際経済における経済政策に関する研究テーマに関連する各種文献・資料の検討を行います。	【予習】研究テーマに関連する各種文献・資料を事前によく読んでおいてください。 【復習】授業後に、研究テーマ関連する各種文献・資料を復習してください。	4時間
第23回	対面	国際経済における経済政策に関する研究テーマに関連する各種文献・資料の検討を行います。	【予習】研究テーマに関連する各種文献・資料を事前によく読んでおいてください。 【復習】授業後に、研究テーマ関連する各種文献・資料を復習してください。	4時間
第24回	対面	一次原稿の発表、ディスカッションを行います。	【予習】一次原稿の発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて一次原稿を修正してください。	4時間
第25回	対面	一次原稿の発表、ディスカッションを行います。	【予習】一次原稿の発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて一次原稿を修正してください。	4時間
第26回	対面	一次原稿の発表、ディスカッションを行います。	【予習】一次原稿の発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて一次原稿を修正してください。	4時間
第27回	対面	一次原稿に関する指導教員との質疑応答・追加・修正を行います。	【予習】一次原稿の発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて一次原稿を修正してください。	4時間
第28回	対面	一次原稿に関する指導教員との質疑応答・追加・修正を行います。	【予習】一次原稿の発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて一次原稿を修正してください。	4時間
第29回	対面	一次原稿に関する指導教員との質疑応答・追加・修正を行います。	【予習】一次原稿の発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて一次原稿を修正してください。	4時間
第30回	対面	授業全体の総括を行います。	【予習】これまでの授業回の配布資料等を事前によ	6時間

			<p>&lt;読んでおいてください。 【復習】授業後に、これまでの授業回の配布資料等について総復習してください。</p>	
--	--	--	--	--

科目名	研究指導 I	開講年度	2024 年度春学期、2024 年度秋学期
担当者	高林 喜久生	配当年次	修士 1
科目ナンバリング	—	単位数	4 単位
グレード	—	授業方法	演習
科目区分	経済学研究科経済学専攻		
テーマ	税・財政のデータ分析		
授業の目的及び概要	現在、日本の政府部門は様々な問題を抱えているが、それは税・財政データの動きに反映される。この授業は政府部門の様々な問題に対してどのようにアプローチすればよいのかをデータ分析を通じて明らかにし、それを通じて政策的な含意を得ることを目指す。		
履修条件・留意点			
DP との関係	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html</a>		
学修の到達目標	<p>(1) 大学院における調査研究の方法や修士論文の作成方法を修得する。</p> <p>(2) 受講生の問題意識に基づいたテーマをもとに修士論文の 1 次原稿を作成する。</p> <p>(3) 税・財政データを用いた計量経済学的分析の実習を行い、自らの眼と腕で多様な税・財政データを分析する力を修得する。</p> <p>前期には、すべての受講生に共通の学修内容として、文献に基づく学修に加え、大学院における調査研究の方法や修士論文の執筆方法について修得させる。また、現代社会が直面する経済的諸問題の中からとくに税・財政に関連する研究テーマを受講生に決定させ、そのテーマに応じて修士論文作成計画を作成させる。</p> <p>後期には、すべての受講生に共通の学修内容として、文献に基づく学修に加え、先行研究論文に基づく学修を進め、税・財政に関する最近の研究動向をレビューさせる。また、受講生の研究テーマに関連する文献や資料の調査を行わせるとともに、修士論文の一次原稿を発表させ、指導教員や他の受講生とのディスカッションなどを通じ、原稿の完成度を高める。</p>		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	適宜、課題レポートを課し、フィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、銀行員を 1977 年から 10 年以上経験しており、同期間内には、大蔵省に出向し、財政金融研究所主任研究官を務める等の経験も有している。本科目では、これらの経験を生かした授業を行う。		
テキスト	とくに使用しない。資料を配付する。	ISBN	なし。
参考書	①持田信樹『財政学』東京大学出版会、2009 年 ②中井英雄・齊藤慎・堀場勇夫・戸谷裕之『新しい地方財政論（新版）』有斐閣、2020 年 ③加藤久和『やさしい計量経済学』オーム社、2019 年	ISBN	①978-4130421324 ②978-4641221567 ③978-4274224539
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	25	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	25	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	【定期試験】WEB 試験	0	
	その他（%）	50	
	その他の内容	修士論文の一次原稿。	
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 前期の授業のねらいと進め方など授業の概要を説明する。	【予習】この授業のシラバスを事前によく読んでおいてください（1時間程度）。 【復習】授業後に、ガイダンスの内容について復習してください（1時間程度）。	2時間
第2回	対面	大学院における資料収集や調査研究の方法を説明する。	【予習】大学院における資料収集や調査研究の方法に関する配布資料を事前によく読んでおいてください（2時間程度）。 【復習】授業後に、大学院における資料収集や調査研究の方法に関する配布資料を復習してください（2時間程度）。	4時間
第3回	対面	修士論文の執筆方法を説明する。	【予習】教材に基づく発表資料を事前に準備しておいてください（2時間程度）。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて発表資料を修正してください（2時間程度）。	4時間
第4回	対面	税・財政のデータ分析に関する教材の講読、受講生による発表、ディスカッション（その1）。	【予習】教材に基づく発表資料を事前に準備しておいてください（2時間程度）。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて発表資料を修正してください（2時間程度）。	4時間
第5回	対面	税・財政のデータ分析に関する教材の講読、受講生による発表、ディスカッション（その2）。	【予習】教材に基づく発表資料を事前に準備しておいてください（2時間程度）。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて発表資料を修正してください（2時間程度）。	4時間
第6回	対面	税・財政のデータ分析に関する教材の講読、受講生による発表、ディスカッション（その3）。	【予習】教材に基づく発表資料を事前に準備しておいてください（2時間程度）。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて発表資料を修正してください（2時間程度）。	4時間
第7回	対面	税・財政のデータ分析に関する研究テーマ・分析方法の決定。	【予習】研究テーマ・分析方法の決定に関する配布資料を事前によく読んでおいてください（2時間程度）。 【復習】授業後に、研究テーマ・分析方法の決定に関する配布資料を復習してください（2時間程度）。	4時間
第8回	対面	修士論文作成計画の作成指導。	【予習】修士論文作成計画の作成に関する配布資料を事前によく読んでおいてください（2時間程度）。 【復習】授業後に、修士論文作成計画の作成に関する配布資料を復習してください（2時間程度）。	4時間
第9回	対面	修士論文作成計画の発表（その1）。	【予習】修士論文作成計画を事前に準備しておいてください（2時間程度）。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて修士論文作成計画を修正してください（2時間程度）。	4時間
第10回	対面	修士論文作成計画の発表（その2）。	【予習】修士論文作成計画を事前に準備しておいてください（2時間程度）。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて修士論文作成計画を修正してください（2時間程度）。	4時間
第11回	対面	修士論文作成計画の発表（その3）。	【予習】修士論文作成計画を事前に準備しておいてください（2時間程度）。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて修士論文作成計画を修正してください（2時間程度）。	4時間
第12回	対面	税・財政のデータ分析に関する研究テーマに基づくレポートの発表・ディスカッション（その1）。	【予習】レポートを事前に作成しておいてください（2時間程度）。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいてレポートを修正してください（2時間程度）。	4時間
第13回	対面	税・財政のデータ分析に関する研究テーマ	【予習】レポートを事前に作成しておいてください	4時間

		に基づくレポートの発表・ディスカッション（その2）。	（2時間程度）。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいてレポートを修正してください（2時間程度）。	
第14回	対面	税・財政のデータ分析に関する研究テーマに基づくレポートの発表・ディスカッション（その3）。	【予習】レポートを事前に作成しておいてください（2時間程度）。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいてレポートを修正してください（2時間程度）。	4時間
第15回	オンデマンド	前期の授業の総括を行う。	【予習】これまでの授業の配布資料等を事前によく読んでおいてください（3時間程度）。 【復習】授業後に、これまでの授業の配布資料等を総復習してください（3時間程度）。	6時間
第16回	対面	後期の授業のねらいと進め方など授業の概要を説明する。	【予習】この授業のシラバスを事前によく読んでおいてください（1時間程度）。 【復習】授業後に、ガイダンスの内容について復習してください（1時間程度）。	2時間
第17回	対面	税・財政のデータ分析に関する研究テーマに基づくレポートの発表・ディスカッションに関する研究テーマに関連する教材の講読、受講生による発表（その1）。	【予習】教材に基づく発表資料を事前に準備しておいてください（2時間程度）。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて発表資料を修正してください（2時間程度）。	4時間
第18回	対面	税・財政のデータ分析に関する研究テーマに基づくレポートの発表・ディスカッションに関する研究テーマに関連する教材の講読、受講生による発表（その2）。	【予習】教材に基づく発表資料を事前に準備しておいてください（2時間程度）。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて発表資料を修正してください（2時間程度）。	4時間
第19回	対面	税・財政のデータ分析に関する研究テーマに基づくレポートの発表・ディスカッションに関する研究テーマに関連する教材の講読、受講生による発表（その3）。	【予習】教材に基づく発表資料を事前に準備しておいてください（2時間程度）。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて発表資料を修正してください（2時間程度）。	4時間
第20回	対面	税・財政のデータ分析に関する研究テーマに基づくレポートの発表・ディスカッションに関する研究テーマに関連する各種文献・資料の検討（その1）。	【予習】研究テーマに関連する各種文献・資料を事前によく読んでおいてください（2時間程度）。 【復習】授業後に、研究テーマ関連する各種文献・資料を復習してください（2時間程度）。	4時間
第21回	対面	税・財政のデータ分析に関する研究テーマに基づくレポートの発表・ディスカッションに関する研究テーマに関連する各種文献・資料の検討（その2）。	【予習】研究テーマに関連する各種文献・資料を事前によく読んでおいてください（2時間程度）。 【復習】授業後に、研究テーマ関連する各種文献・資料を復習してください（2時間程度）。	4時間
第22回	対面	税・財政のデータ分析に関する研究テーマに基づくレポートの発表・ディスカッションに関する研究テーマに関連する各種文献・資料の検討（その3）。	【予習】研究テーマに関連する各種文献・資料を事前によく読んでおいてください（2時間程度）。 【復習】授業後に、研究テーマ関連する各種文献・資料を復習してください（2時間程度）。	4時間
第23回	対面	税・財政のデータ分析に関する研究テーマに基づくレポートの発表・ディスカッションに関する研究テーマに関連する各種文献・資料の検討（その4）。	【予習】研究テーマに関連する各種文献・資料を事前によく読んでおいてください（2時間程度）。 【復習】授業後に、研究テーマ関連する各種文献・資料を復習してください（2時間程度）。	4時間
第24回	対面	一次原稿の発表、ディスカッション（その1）。	【予習】一次原稿の発表資料を事前に準備しておいてください（2時間程度）。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて一次原稿を修正してください（2時間程度）。	4時間
第25回	対面	一次原稿の発表、ディスカッション（その2）。	【予習】一次原稿の発表資料を事前に準備しておいてください（2時間程度）。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて一次原稿を修正してください（2時間程度）。	4時間
第26回	対面	一次原稿の発表、ディスカッション（その3）。	【予習】一次原稿の発表資料を事前に準備しておいてください（2時間程度）。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて一次原稿を修正してください（2時間程度）。	4時間
第27回	対面	一次原稿に関する指導教員との質疑応答・追加・修正（その1）。	【予習】一次原稿の発表資料を事前に準備しておいてください（2時間程度）。	4時間

			【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて一次原稿を修正してください（2時間程度）。	
第28回	対面	一次原稿に関する指導教員との質疑応答・追加・修正（その2）。	【予習】一次原稿の発表資料を事前に準備しておいてください（2時間程度）。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて一次原稿を修正してください（2時間程度）。	4時間
第29回	対面	一次原稿に関する指導教員との質疑応答・追加・修正（その3）。	【予習】一次原稿の発表資料を事前に準備しておいてください（2時間程度）。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて一次原稿を修正してください（2時間程度）。	4時間
第30回	オンデマンド	授業全体の総括を行う。	【予習】これまでの授業回の配布資料等を事前によく読んでおいてください（3時間程度）。 【復習】授業後に、これまでの授業回の配布資料等について総復習してください（3時間程度）。	6時間

科目名	研究指導Ⅱ	開講年度	2024年度春学期、2024年度秋学期
担当者	金子 治平	配当年次	修士2
科目ナンバリング	—	単位数	4単位
グレード	—	授業方法	演習
科目区分	経済学研究科経済学専攻		
テーマ	修士論文の作成に向けて		
授業の目的及び概要	1年間をかけて修士論文を執筆することを目的とします。 「研究指導Ⅰ」の履修の際に確定した個々の受講生の研究課題に基づきつつ、一年間をかけて修士論文の作成に向けて、段階に応じた指導を行います。		
履修条件・留意点			
DPとの関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下のURLから確認してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html</a>		
学修の到達目標	適切な課題設定と研究方法に基づく、論理性のある修士論文を書き上げることを目標とします。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	受講生の進捗状況に応じて、コメントや添削等を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	使用しません	ISBN	なし
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	【定期試験】WEB試験	0	
	その他（%）	80	
	その他の内容	修士論文の評価	
この科目の受講にあたって	少しずつ行う学習・研究の積み重ねで、修士論文が完成することを目指します。 毎週、きちんと進めることを心がけてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	1年次の総括と、今後の研究の進め方	事前に1年次に作成した一次原稿を読み直して、今後の研究の進め方を検討し、発表の準備をしてください。 事後には、研究の進め方を再検討してください。	4時間
第2回	オンデマンド	研究倫理教育 解説動画を視聴して、研究倫理に対する自身の心構えを文章にしたためる。	【予習】インターネットで研究不正とは何か調べる。 【復習】解説動画を再視聴する。	4時間
第3回	対面	各種文献や資料の検討(1) 各自の報告に基づいて、ディスカッションします。	事前に、各自のテーマに関わる文献を読み、また、資料の調査・整理を行い、報告の準備をしてください。 事後には、課題を整理して、どのように進めるべきかを検討してください。	4時間
第4回	対面	各種文献や資料の検討(2)	事前に、各自のテーマに関わる文献を読み、また、資	4時間

		各自の報告に基づいて、ディスカッションします。	料の調査・整理を行い、報告の準備をしてください。事後には、課題を整理して、どのように進めるべきかを検討してください。	
第5回	対面	各種文献や資料の検討(3) 各自の報告に基づいて、ディスカッションします。	事前に、各自のテーマに関わる文献を読み、また、資料の調査・整理を行い、報告の準備をしてください。事後には、課題を整理して、どのように進めるべきかを検討してください。	4時間
第6回	対面	各種文献や資料の検討(4) 各自の報告に基づいて、ディスカッションします。	事前に、各自のテーマに関わる文献を読み、また、資料の調査・整理を行い、報告の準備をしてください。事後には、課題を整理して、どのように進めるべきかを検討してください。	4時間
第7回	対面	各種文献や資料の検討(5) 各自の報告に基づいて、ディスカッションします。	事前に、各自のテーマに関わる文献を読み、また、資料の調査・整理を行い、報告の準備をしてください。事後には、課題を整理して、どのように進めるべきかを検討してください。	4時間
第8回	対面	各種文献や資料の検討(6) 各自の報告に基づいて、ディスカッションします。	事前に、各自のテーマに関わる文献を読み、また、資料の調査・整理を行い、報告の準備をしてください。事後には、課題を整理して、どのように進めるべきかを検討してください。	4時間
第9回	対面	各種文献や資料の検討(7) 各自の報告に基づいて、ディスカッションします。	事前に、各自のテーマに関わる文献を読み、また、資料の調査・整理を行い、報告の準備をしてください。事後には、課題を整理して、どのように進めるべきかを検討してください。	4時間
第10回	対面	各種文献や資料の検討(8) 各自の報告に基づいて、ディスカッションします。	事前に、各自のテーマに関わる文献を読み、また、資料の調査・整理を行い、報告の準備をしてください。事後には、課題を整理して、どのように進めるべきかを検討してください。	4時間
第11回	対面	各種文献や資料の検討(9) 各自の報告に基づいて、ディスカッションします。	事前に、各自のテーマに関わる文献を読み、また、資料の調査・整理を行い、報告の準備をしてください。事後には、課題を整理して、どのように進めるべきかを検討してください。	4時間
第12回	対面	各種文献や資料の検討(10) 各自の報告に基づいて、ディスカッションします。	事前に、各自のテーマに関わる文献を読み、また、資料の調査・整理を行い、報告の準備をしてください。事後には、課題を整理して、どのように進めるべきかを検討してください。	4時間
第13回	対面	各種文献や資料の検討(11) 各自の報告に基づいて、ディスカッションします。	事前に、各自のテーマに関わる文献を読み、また、資料の調査・整理を行い、報告の準備をしてください。事後には、課題を整理して、どのように進めるべきかを検討してください。	4時間
第14回	対面	修士論文の中間原稿の発表(1) 中間原稿を発表してもらい、ディスカッションします。	事前に、一次原稿を修正・加筆して、中間原稿としてまとめて、発表の準備をしてください。事後には、ディスカッションの結果を受けて、発表内容を修正してください。	4時間
第15回	対面	修士論文の中間原稿の発表(2) 中間原稿を発表してもらい、ディスカッションします。	事前に、一次原稿を修正・加筆して、中間原稿としてまとめて、発表の準備をしてください。事後には、ディスカッションの結果を受けて、発表内容を修正してください。	4時間
第16回	対面	夏休み中の振り返りと、今後の進め方の検討	事前に、春学期までの総括、および、夏季休暇中に進めた研究について、報告の準備をしてください。事後には、ディスカッションを受けて、今後の進め方を再検討してください。	4時間
第17回	対面	各種文献や資料の検討(12) 各自の報告に基づいて、ディスカッションします。	事前に、各自のテーマに関わる文献を読み、また、資料の調査・整理を行い、報告の準備をしてください。事後には、課題を整理して、どのように進めるべきかを検討してください。	4時間
第18回	対面	各種文献や資料の検討(13) 各自の報告に基づいて、ディスカッション	事前に、各自のテーマに関わる文献を読み、また、資料の調査・整理を行い、報告の準備をしてください。	4時間

		します。	事後には、課題を整理して、どのように進めるべきかを検討してください。	
第19回	対面	各種文献や資料の検討(14) 各自の報告に基づいて、ディスカッション します。	事前に、各自のテーマに関わる文献を読み、また、資料の調査・整理を行い、報告の準備をしてください。 事後には、課題を整理して、どのように進めるべきかを検討してください。	4時間
第20回	対面	各種文献や資料の検討(15) 各自の報告に基づいて、ディスカッション します。	事前に、各自のテーマに関わる文献を読み、また、資料の調査・整理を行い、報告の準備をしてください。 事後には、課題を整理して、どのように進めるべきかを検討してください。	4時間
第21回	対面	各種文献や資料の検討(16) 各自の報告に基づいて、ディスカッション します。	事前に、各自のテーマに関わる文献を読み、また、資料の調査・整理を行い、報告の準備をしてください。 事後には、課題を整理して、どのように進めるべきかを検討してください。	4時間
第22回	対面	各種文献や資料の検討(17) 各自の報告に基づいて、ディスカッション します。	事前に、各自のテーマに関わる文献を読み、また、資料の調査・整理を行い、報告の準備をしてください。 事後には、課題を整理して、どのように進めるべきかを検討してください。	4時間
第23回	対面	各種文献や資料の検討(18) 各自の報告に基づいて、ディスカッション します。	事前に、各自のテーマに関わる文献を読み、また、資料の調査・整理を行い、報告の準備をしてください。 事後には、課題を整理して、どのように進めるべきかを検討してください。	4時間
第24回	対面	修士論文の最終原稿の発表(1)	事前に、最終原稿を執筆して、発表の準備をしてください。 事後には、ディスカッションを通した方向に、原稿を追加・修正してください。	4時間
第25回	対面	修士論文の最終原稿の発表(2)	事前に、最終原稿を執筆して、発表の準備をしてください。 事後には、ディスカッションを通した方向に、原稿を追加・修正してください。	4時間
第26回	対面	修士論文の最終原稿の修正(1)	事前に、最終原稿の追加・修正を行なって、発表の準備をしてください。 事後には、ディスカッションを通した方向に、原稿を追加・修正してください。	4時間
第27回	対面	修士論文の最終原稿の修正(2)	事前に、最終原稿の追加・修正を行なって、発表の準備をしてください。 事後には、ディスカッションを通した方向に、原稿を追加・修正してください。	4時間
第28回	対面	修士論文の最終原稿の修正(3)	事前に、最終原稿の追加・修正を行なって、発表の準備をしてください。 事後には、ディスカッションを通した方向に、原稿を追加・修正してください。	4時間
第29回	対面	修士論文の最終原稿の修正(4)	事前に、最終原稿の追加・修正を行なって、発表の準備をしてください。 事後には、ディスカッションを通した方向に、原稿を追加・修正してください。	4時間
第30回	オンデマンド	まとめ	最終原稿の追加・修正を完了してください。	4時間

科目名	研究指導Ⅱ	開講年度	2024年度春学期、2024年度秋学期
担当者	脇村 孝平	配当年次	修士2
科目ナンバリング	—	単位数	4単位
グレード	—	授業方法	演習
科目区分	経済学研究科経済学専攻		
テーマ	修士論文の作成を目指して		
授業の目的及び概要	一年間を通して、論文の各部分を段階的な形で執筆してもらうことによって、学術的な質を有する修士論文の作成を目指してもらう。		
履修条件・留意点			
DPとの関連	—		
学修の到達目標	「学術的な質を有する修士論文」とは、自らの主題に関する問題設定を明確にしつつ、先行研究を十分に検討したうえで、仮説的な推論を立てて、それを論証するような論文を指す。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	院生の研究報告に対するコメント、および執筆した文章に対するコメントと添削		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし	ISBN	なし
参考書	なし	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	25	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	25	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	50	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	【定期試験】WEB試験	0	
	その他（%）	0	
	その他の内容	なし	
この科目の受講にあたって	研究指導は、教員と院生の密なるコミュニケーションが重要です。院生の皆さんとの対話の機会を多く持って、相互理解を深めたいと思います。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション：授業のねらいと進め方などを説明する。	【予習】「学術的論文とは何か」について考えてきてもらう。	2時間
第2回	オンデマンド	研究倫理教育 解説動画を視聴して、研究倫理に対する自身の心構えを文章にしたためる。	【予習】インターネットで研究不正とは何か調べる。 【復習】解説動画を再視聴する。	4時間
第3回	オンデマンド	昨年度末に提出した「M1・修士論文1次原稿」を執筆した後に、進捗した研究活動についての報告（1）	【予習】昨年度末に提出した学期末の論文を執筆した後に、進捗した研究活動についてまとめてもらう。	4時間
第4回	対面	昨年度末に提出した学期末の論文を執筆した後に、進捗した研究活動についての報告（2）	【予習】昨年度末に提出した学期末の論文を執筆した後に、進捗した研究活動についてまとめてもらう。	4時間
第5回	対面	修士論文の問題設定についての報告（1）	【予習】修士論文の問題設定について考える。	4時間

第6回	対面	修士論文の問題設定についての報告(2)	【予習】修士論文の問題設定について考える。	4時間
第7回	対面	修士論文の章別編成に関する報告(1)	【予習】修士論文の章別編成について考える。	4時間
第8回	対面	修士論文の章別編成に関する報告(2)	【予習】修士論文の章別編成について考える。	4時間
第9回	対面	修士論文の仮説的推論に関する報告(1)	【予習】修士論文の仮説的推論について考える。	4時間
第10回	対面	修士論文の仮説的推論に関する報告(2)	【予習】修士論文の仮説的推論について考える。	4時間
第11回	対面	修士論文の論証部分に関する報告(1)	【予習】修士論文の論証部分について考える。	4時間
第12回	対面	修士論文の論証部分に関する報告(2)	【予習】修士論文の論証部分について考える。	4時間
第13回	対面	中間発表会を意識した、修士論文に関する現時点での報告(1)	【予習】修士論文の進捗状況について整理をする。	4時間
第14回	対面	中間発表会を意識した、修士論文に関する現時点での報告(2)	【予習】修士論文の進捗状況について整理をする。	4時間
第15回	オンデマンド	この半年間の教員による総括	【予習】修士論文の原稿を執筆をする	6時間
第16回	対面	秋学期の授業のねらいと進め方などを説明する。	【予習】中間発表会の報告の準備をする。	4時間
第17回	対面	中間発表会の準備報告(1)	【予習】中間発表会の報告の準備をする。	4時間
第18回	対面	中間発表会の準備報告(2)	【予習】中間発表会のプレゼンテーションの作成をする。	4時間
第19回	対面	中間発表会の予行演習	【予習】中間発表会のプレゼンテーションの事前練習をする。	4時間
第20回	対面	中間発表会の反省と総括	【予習】中間発表会の反省と総括をする。	4時間
第21回	対面	修士論文の序論の再検討(1)	【予習】修士論文の序論を再検討する。	4時間
第22回	対面	修士論文の序論の再検討(2)	【予習】修士論文の序論を再検討する。	4時間
第23回	対面	修士論文の本論(前半)の再検討(1)	【予習】修士論文の本論(前半)の再検討をする。	4時間
第24回	対面	修士論文の本論(前半)の再検討(2)	【予習】修士論文の本論(前半)の再検討をする。	4時間
第25回	対面	修士論文の本論(後半)の再検討(1)	【予習】修士論文の本論(後半)の再検討をする。	4時間
第26回	対面	修士論文の本論(後半)の再検討(2)	【予習】修士論文の本論(後半)の再検討をする。	4時間
第27回	対面	修士論文の結論の再検討(1)	【予習】修士論文の結論の再検討をする。	4時間
第28回	対面	修士論文の結論の再検討(2)	【予習】修士論文の結論の再検討をする。	4時間
第29回	対面	修士論文の原稿の検討(1) - 教員による総括的論評	【予習】修士論文の原稿を仕上げる。	4時間
第30回	オンデマンド	修士論文の原稿の検討(2) - 教員による総括的論評	【予習】修士論文の原稿を仕上げる。	4時間

科目名	研究指導Ⅱ	開講年度	2024 年度春学期、2024 年度秋学期
担当者	今井 健一	配当年次	修士 2
科目ナンバリング	—	単位数	4 単位
グレード	—	授業方法	演習
科目区分	経済学研究科経済学専攻		
テーマ	修士論文の完成		
授業の目的及び概要	本演習では、まず前期において、修士論文の中間原稿を完成させ、その後、公開で行われる中間発表会において発表し、他の教員や他の演習クラスの学生も交えたディスカッションなどを通じ、修正していきます。後期においては、前期までの研究内容や前期に実施した中間発表会における指導等を踏まえ、特に、現代社会が直面する経済的諸問題の中から、自身の研究テーマに関連した分野（例えば、環境経済、経済政策）における諸問題に対する解決の方策を提案できているかという点を重視して修正していきます。修正した原稿を本演習（研究指導）において再度発表した後、修士論文の完成を視野に入れた指導を行います。この授業を通じて、高度の専門的職業人に求められる、経済的諸問題の解決の方策を提案する能力を修得します。		
履修条件・留意点	必修科目 先修条件：研究指導Ⅰ		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html</a>		
学修の到達目標	1. 研究指導Ⅰにおいて受講生が作成した修士論文「研究計画書」に沿って、文献・資料収集を行い、修士論文を作成することができるようになる。 2. 現代社会が直面する経済的諸問題の中から自身の研究テーマに関連した分野（例えば、環境経済、経済政策）における諸問題に対する解決の方策について提案し、表現することができるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	修士論文の中間原稿については、添削して返却します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。必要な資料を適宜配付します。	ISBN	なし
参考書	①経済論文の書き方，経済セミナー編集部（編），日本評論社，2022 年 ②経済論文の書き方，ウィリアム・トムソン，東洋経済新報社，2006 年 ③現代アジア経済論―「アジアの世紀」を学ぶ，遠藤環・伊藤亞聖・大泉啓一郎・後藤健太（編），有斐閣，2018 年 ④環境経済学の第一歩，大沼あゆみ・柘植孝弘，有斐閣，2021 年 ⑤経済政策入門，藤川清史（編），法律文化社，2020 年	ISBN	①9784535540422 ②9784492313626 ③9784641184428 ④9784641150898 ⑤9784589040855
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	30	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	【定期試験】WEB 試験	0	
その他（%）	50		

	その他の内容	修士論文の最終原稿
この科目の受講にあたって	<ul style="list-style-type: none"> <li>自身の研究テーマにおける「問い」に対する答えを、自身で能動的に調べ、考え、そして書いていくプロセスを通して、自身で明らかにしていく力を養ってください。</li> <li>修士論文の執筆にあたっては、上述の「調べ」、「考え」、そして「書いていく」の繰り返しになります。多くの人に読んでもらえるような修士論文の完成を目指してください！</li> </ul>	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	前期の授業のねらいと進め方など授業の概要を説明。	<p>【予習】この授業のシラバスを事前によく読んでおいてください。</p> <p>【復習】授業後に、ガイダンスの内容について復習してください。</p>	4時間
第2回	対面	研究倫理教育 解説動画を視聴して、研究倫理に対する自身の心構えを文章にしたためる。	<p>【予習】インターネットで研究不正とは何か調べる。</p> <p>【復習】解説動画を再視聴する。</p>	4時間
第3回	対面	研究テーマに関連した環境経済分野あるいは経済政策分野の文献や資料の調査を行い、報告。	<p>【予習】関連する文献や資料に基づく発表資料を事前に準備しておいてください。</p> <p>【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて発表資料を修正してください。</p>	4時間
第4回	対面	研究テーマに関連した環境経済分野あるいは経済政策分野の文献や資料の調査を行い、報告。	<p>【予習】関連する文献や資料に基づく発表資料を事前に準備しておいてください。</p> <p>【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて発表資料を修正してください。</p>	4時間
第5回	対面	研究テーマに関連した環境経済分野あるいは経済政策分野の文献や資料の調査を行い、報告。	<p>【予習】関連する文献や資料に基づく発表資料を事前に準備しておいてください。</p> <p>【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて発表資料を修正してください。</p>	4時間
第6回	対面	中間原稿の発表、ディスカッション	<p>【予習】中間原稿の発表資料を事前に準備しておいてください。</p> <p>【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて中間原稿を修正してください。</p>	4時間
第7回	対面	中間原稿の発表、ディスカッション	<p>【予習】中間原稿の発表資料を事前に準備しておいてください。</p> <p>【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて中間原稿を修正してください。</p>	4時間
第8回	対面	中間原稿の発表、ディスカッション	<p>【予習】中間原稿の発表資料を事前に準備しておいてください。</p> <p>【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて中間原稿を修正してください。</p>	4時間
第9回	対面	中間原稿に関する指導教員との質疑応答・追加・修正	<p>【予習】中間原稿の発表資料を事前に準備しておいてください。</p> <p>【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて中間原稿を修正してください。</p>	4時間
第10回	対面	中間原稿に関する指導教員との質疑応答・追加・修正	<p>【予習】中間原稿の発表資料を事前に準備しておいてください。</p> <p>【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて中間原稿を修正してください。</p>	4時間
第11回	対面	中間原稿に関する指導教員との質疑応答・追加・修正	<p>【予習】中間原稿の発表資料を事前に準備しておいてください。</p> <p>【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて中間原稿を修正してください。</p>	4時間
第12回	対面	中間原稿（修正版）の発表、ディスカッション	<p>【予習】中間原稿（修正版）の発表資料を事前に準備しておいてください。</p> <p>【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて中間原稿（修正版）を修正してください。</p>	4時間

第13回	対面	中間原稿（修正版）の発表、ディスカッション	【予習】中間原稿（修正版）の発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて中間原稿（修正版）を修正してください。	4時間
第14回	対面	中間原稿（修正版）の発表、ディスカッション	【予習】中間原稿（修正版）の発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて中間原稿（修正版）を修正してください。	4時間
第15回	対面	前期の授業の総括	【予習】これまでの授業の配布資料等を事前によく読んでおいてください。 【復習】授業後に、これまでの授業の配布資料等を総復習してください。	4時間
第16回	対面	後期の授業のねらいと進め方など授業の概要を説明	【予習】この授業のシラバスを事前によく読んでおいてください。 【復習】授業後に、ガイダンスの内容について復習してください。	4時間
第17回	対面	研究テーマに関連した環境経済分野あるいは経済政策分野の文献や資料の調査を行い、報告	【予習】関連文献や資料に基づく発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて発表資料を修正してください。	4時間
第18回	対面	研究テーマに関連した環境経済分野あるいは経済政策分野の文献や資料の調査を行い、報告	【予習】関連文献や資料に基づく発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて発表資料を修正してください。	4時間
第19回	対面	研究テーマに関連した環境経済分野あるいは経済政策分野の文献や資料の調査を行い、報告	【予習】関連文献や資料に基づく発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて発表資料を修正してください。	4時間
第20回	対面	最終原稿の発表、ディスカッション	【予習】最終原稿の発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて最終原稿を修正してください。	4時間
第21回	対面	最終原稿の発表、ディスカッション	【予習】最終原稿の発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて最終原稿を修正してください。	4時間
第22回	対面	最終原稿の発表、ディスカッション	【予習】最終原稿の発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて最終原稿を修正してください。	4時間
第23回	対面	最終原稿の発表、ディスカッション	【予習】最終原稿の発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて最終原稿を修正してください。	4時間
第24回	対面	最終原稿に関する指導教員との質疑応答・追加・修正	【予習】最終原稿の発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて最終原稿を修正してください。	4時間
第25回	対面	最終原稿に関する指導教員との質疑応答・追加・修正	【予習】最終原稿の発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて最終原稿を修正してください。	4時間
第26回	対面	最終原稿に関する指導教員との質疑応答・追加・修正	【予習】最終原稿の発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて最終原稿を修正してください。	4時間
第27回	対面	最終原稿（修正版）の発表、ディスカッション	【予習】最終原稿（修正版）の発表資料を事前に準備	4時間

		ヨン	しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて最終原稿（修正版）を修正してください。	
第28回	対面	最終原稿（修正版）の発表、ディスカッション	【予習】最終原稿（修正版）の発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて最終原稿（修正版）を修正してください。	4時間
第29回	オンデマンド	授業全体の総括(1)	【予習】これまでの授業回の配布資料等を事前によく読んでおいてください。 【復習】授業後に、これまでの授業回の配布資料等について総復習してください。	4時間
第30回	オンデマンド	授業全体の総括(2)	【予習】これまでの授業回の配布資料等を事前によく読んでおいてください。 【復習】授業後に、これまでの授業回の配布資料等について総復習してください。	4時間

科目名	研究指導Ⅱ	開講年度	2024 年度春学期、2024 年度秋学期
担当者	前鶴 政和	配当年次	修士 2
科目ナンバリング	—	単位数	4 単位
グレード	—	授業方法	演習
科目区分	経済学研究科経済学専攻		
テーマ	国際経済における経済政策の効果		
授業の目的及び概要	<p>この授業では、1 年次に続き、国際経済学や経済政策の知識に基づき、政府の研究開発政策、貿易政策、環境政策等の政策が企業の利潤や経済厚生にどのような影響を及ぼすかについて学修します。</p> <p>前期には、修士論文の中間原稿に基づき、公開で行われる中間発表会において発表させ、他の教員や他の演習（研究指導）の学生も交えたディスカッションなどを通じ、修正します。</p> <p>後期には、前期までの研究内容や前期に実施した中間発表会における指導等を踏まえ、特に、現代社会が直面する経済的諸問題の中から国際経済における諸問題に対する解決の方策を提案できているかという点を重視して修正します。修正した原稿を本演習（研究指導）において再度発表させ、修士論文の完成を視野に入れた指導を行います。</p> <p>この授業を通じて、高度の専門的職業人に求められる、経済的諸問題の解決の方策を提案する能力を修得します。</p>		
履修条件・留意点			
DP との関連	—		
学修の到達目標	<p>1. 研究指導Ⅰにおいて受講生が作成した修士論文作成計画に沿って、文献・資料収集を行い、修士論文を作成することができるようになる。</p> <p>2. 現代社会が直面する経済的諸問題の中から国際経済における諸問題に対する解決の方策について提案し、表現することができるようになる。</p>		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	修士論文の中間原稿については、添削して返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。必要な資料を適宜配付します。	ISBN	なし
参考書	①環境経済学の政策デザイン：資源循環・低炭素・自然共生，細田衛士・大沼 あゆみ，慶應義塾大学出版会，2019 年	ISBN	①9784766426007
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	30	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	【定期試験】WEB 試験	0	
	その他（%）	50	
	その他の内容	修士論文の最終原稿	
この科目の受講にあたって	環境経済特論、経済政策特論の履修を推奨します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
-----	------	------	----------------	-----------

第1回	対面	前期の授業のねらいと進め方など授業の概要を説明します。	【予習】この授業のシラバスを事前によく読んでおいてください。 【復習】授業後に、ガイダンスの内容について復習してください。	2時間
第2回	オンデマンド	研究倫理教育 解説動画を視聴して、研究倫理に対する自身の心構えを文章にしたためる。	【予習】インターネットで研究不正とは何か調べる。 【復習】解説動画を再視聴する。	4時間
第3回	対面	国際経済における経済政策に関する研究テーマに関連する文献や資料の調査を行い、報告します。	【予習】関連する文献や資料に基づく発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて発表資料を修正してください。	4時間
第4回	対面	国際経済における経済政策に関する研究テーマに関連する文献や資料の調査を行い、報告します。	【予習】関連する文献や資料に基づく発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて発表資料を修正してください。	4時間
第5回	対面	国際経済における経済政策に関する研究テーマに関連する文献や資料の調査を行い、報告します。	【予習】関連する文献や資料に基づく発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて発表資料を修正してください。	4時間
第6回	対面	中間原稿の発表、ディスカッションを行います。	【予習】中間原稿の発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて中間原稿を修正してください。	4時間
第7回	対面	中間原稿の発表、ディスカッションを行います。	【予習】中間原稿の発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて中間原稿を修正してください。	4時間
第8回	対面	中間原稿の発表、ディスカッションを行います。	【予習】中間原稿の発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて中間原稿を修正してください。	4時間
第9回	対面	中間原稿に関する指導教員との質疑応答・追加・修正を行います。	【予習】中間原稿の発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて中間原稿を修正してください。	4時間
第10回	対面	中間原稿に関する指導教員との質疑応答・追加・修正を行います。	【予習】中間原稿の発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて中間原稿を修正してください。	4時間
第11回	対面	中間原稿に関する指導教員との質疑応答・追加・修正を行います。	【予習】中間原稿の発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて中間原稿を修正してください。	4時間
第12回	対面	中間原稿（修正版）の発表、ディスカッションを行います。	【予習】中間原稿（修正版）の発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて中間原稿（修正版）を修正してください。	4時間
第13回	対面	中間原稿（修正版）の発表、ディスカッションを行います。	【予習】中間原稿（修正版）の発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて中間原稿（修正版）を修正してください。	4時間
第14回	対面	中間原稿（修正版）の発表、ディスカッションを行います。	【予習】中間原稿（修正版）の発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて中間原稿（修正版）を修正してください。	4時間
第15回	対面	前期の授業の総括を行います。	【予習】これまでの授業の配布資料等を事前によく読んでおいてください。	6時間

			【復習】授業後に、これまでの授業の配布資料等を総復習してください。	
第16回	対面	後期の授業のねらいと進め方など授業の概要を説明します。	【予習】この授業のシラバスを事前によく読んでおいてください。 【復習】授業後に、ガイダンスの内容について復習してください。	2時間
第17回	オンデマンド	前期に学修した内容の復習を行います。	【復習】オンデマンド動画を視聴した上で、Learning Portalの「確認テスト」を解き、復習を行ってください。	4時間
第18回	対面	国際経済における経済政策に関する関連文献や資料の調査を行い、報告します。	【予習】関連文献や資料に基づく発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて発表資料を修正してください。	4時間
第19回	対面	国際経済における経済政策に関する関連文献や資料の調査を行い、報告します。	【予習】関連文献や資料に基づく発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて発表資料を修正してください。	4時間
第20回	対面	最終原稿の発表、ディスカッションを行います。	【予習】最終原稿の発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて最終原稿を修正してください。	4時間
第21回	対面	最終原稿の発表、ディスカッションを行います。	【予習】最終原稿の発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて最終原稿を修正してください。	4時間
第22回	対面	最終原稿の発表、ディスカッションを行います。	【予習】最終原稿の発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて最終原稿を修正してください。	4時間
第23回	対面	最終原稿の発表、ディスカッションを行います。	【予習】最終原稿の発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて最終原稿を修正してください。	4時間
第24回	対面	最終原稿に関する指導教員との質疑応答・追加・修正を行います。	【予習】最終原稿の発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて最終原稿を修正してください。	4時間
第25回	対面	最終原稿に関する指導教員との質疑応答・追加・修正を行います。	【予習】最終原稿の発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて最終原稿を修正してください。	4時間
第26回	対面	最終原稿に関する指導教員との質疑応答・追加・修正を行います。	【予習】最終原稿の発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて最終原稿を修正してください。	4時間
第27回	対面	最終原稿（修正版）の発表、ディスカッションを行います。	【予習】最終原稿（修正版）の発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて最終原稿（修正版）を修正してください。	4時間
第28回	対面	最終原稿（修正版）の発表、ディスカッションを行います。	【予習】最終原稿（修正版）の発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて最終原稿（修正版）を修正してください。	4時間
第29回	対面	最終原稿（修正版）の発表、ディスカッションを行います。	【予習】最終原稿（修正版）の発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて最終原稿（修正版）を修正してください。	4時間

第30回	対面	授業全体の総括を行います。	【予習】これまでの授業回の配布資料等を事前によく読んでおいてください。 【復習】授業後に、これまでの授業回の配布資料等について総復習してください。	6時間
------	----	---------------	--	-----

科目名	経営学研究の理論と方法	開講年度	2024 年度秋学期
担当者	深瀬 澄	配当年次	修士1・2
科目ナンバリング	—	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	経済学研究科経営学専攻		
テーマ	経営学研究、修士論文作成における、ケーススタディ、SNS データ解析のための定性分析手法		
授業の目的及び概要	ダイバーシティー化が進展する今、文化、信条、価値観の違いを超えた相互理解や合意形成に必要なのは客観的なエビデンスである。本講義の目的は、研究の進め方、研究論文の書き方など、経営管理、経営情報、会計の3領域に共通し、大学院生に求められる論理的な研究リテラシーと科学的な分析方法の修得にある。「ビジネス統計特論」で培った定量的分析に加え、本授業で質的データの定性分析を修得することで、量的・質的の両利きの研究アプローチが可能となる。扱うテーマは、①質的データ（属性やカテゴリ等）の多変量解析（数量化理論）、②SNS上の口コミ（VOC）、アンケートの自由記述、文献資料等の多言語データを分析するテキスト計量分析、③実証分析の手法、②対面調査によるデータ収集、③複数の事例研究より普遍性を論理的に評価する質的比較分析（QCA）であり、フリーソフトウェアを用いた実習により分析手法を習得する。		
履修条件・留意点	数量データの定量分析と、質的データ（文字、カテゴリ、事例等）の定性分析は全く異質のように思われるが、「ビジネス統計特論」で学んだ定量分析を基礎とする上位科目であることに留意いただきたい。		
DP との関連	—		
学修の到達目標	1. 論文での主張内容の論拠を、数値以外のカテゴリデータから、統計分析手法を用いて科学的に示すことができる。 2. SNS 上の口コミ、アンケート調査の自由記述、肉声データ等、言語データから、論理的な結論を導出することができる。 3. 少数の事例に基づいて導き出される成功要因等について、必要条件と十分条件から検討し、その普遍性を客観的に評価することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題については、授業中に解説及び講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	使用しない。 資料教材と実習用データを配布する。	ISBN	なし
参考書	①田村正紀(2006)、『リサーチ・デザイン』、白桃書房、2381 円＋税 ②田村正紀(2015)、『経営事例の質的比較分析』、白桃書房、2700 円（税） ③牛澤賢二(2018)、『やってみようテキストマイニング』、朝倉書店、2700 円＋税 ④石川美智子・松本みゆき(2018)、『教育を科学する力、教師のための量的・質的研究法』、学術研究出版会、3000 円＋税	ISBN	①ISBN978-4-561-26457-6 ②ISBN978-4-561-26664-8 ③ISBN978-4-254-12261-9 ④ISBN978-4-86584-319-4（ビジネス統計特論と共通）
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	25	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	30	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	【定期試験】WEB 試験	0	

	その他 (%)	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	全1年生の履修指定科目です。受講生の研究に役立つようにテーマに合わせて柔軟にアレンジしていきます。修士論文の一部として、レポートを作成して下さい	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 量的データの定性分析（春学期末試験問題）の復習	春学期に「ビジネス統計特論」で、中間試験以降に学んだことを復習して、学期末試験問題を解いてくること	4時間
第2回	対面	データの種類と相関分析 1. データの種類 2. 相関分析 数量データ×数量データ 質的データ×数量データ 質的データ×質的データ	【復習】配布資料を再度読み、復習しておくこと 【実習課題】課題に取り組み、ラーニングポータルに提出すること	4時間
第3回	対面	数量化理論Ⅲ類と多重対応分析 クロス集計されたデータの表側（回答者の属性）と表頭（質的な選択肢）のカテゴリーをマッピングして、同一平面上に布置して対応付ける手法である。次元軸が意味を持ち、解釈できる場合もある。分析事例としては、出身大学と就職先企業、職業と商品選択等	【復習】配布資料を再度読み、復習しておくこと 【実習課題】課題に取り組み、ラーニングポータルに提出すること	4時間
第4回	対面	潜在クラスター分析 様々な性質の変数が混在した膨大なデータから統計的にクラス分けする手法で、従来のクラスター分析では扱えない質的データを潜在的な変数として分析できる。特定のクラスに分類されるのではなく、量子統計学的に、各クラスへの所属確率として算出する。	【復習】配布資料を再度読み、復習しておくこと 【実習課題】課題に取り組み、ラーニングポータルに提出すること	4時間
第5回	対面	離散選択モデルと名義ロジスティック回帰分析 ロジスティック回帰分析は、医学分野では、喫煙や飲酒等の条件の変化が、病気の発症確率に及ぼす影響の分析に用いられるが、これを経営学に応用し、顧客のデモグラフィック情報（性別、職業、家族構成等）と、商品選択、顧客の購買額ランク分類等の質的な選択の予測に用いる。条件の変化による、選択確率の変化等についても分析する。	【復習】配布資料を再度読み、復習しておくこと 【実習課題】課題に取り組み、ラーニングポータルに提出すること	4時間
第6回	対面	グループインタビュー グルイン、フォーカスグループインタビュー（FGI）、集団面接法ともいう。調査対象者4～8人程度（同じ考え、同年代、同性など）でグループ構成し、モデレーター（司会者）が進行し、調査対象内容について質問をしながら、座談会のように自由に発言してもらい、消費者の考えや本音を収集する調査方法である。 実習では、受講生を被験者側とモデレータースタッフ側の2組に分け、グループインタビューをZoomで行い、発話内容を「フ	調査テーマを設定し、調査スタッフ役は質問とインタビューの進行を計画する。被験者役は、設定されたテーマについて、事前に考えを深め知識を整理しておく。 発話内容の音声データを話者と紐づけてテキストデータに変換する。Khcorderで分析できるように、EXCELのフォーマットでデータベース化し、ラーニングポータルに提出すること	4時間

		ルトランスクリプト」機能を利用してテキスト変換する予定。		
第7回	対面	Web スクレイピング Web スクレイピングとは、Web サイトから大量の情報を自動的に抽出する技術のことであり、特定のデータのみを抽出することもできる。 事前にフリーソフト（候補として Octoparse）をダウンロード、インストール、ライセンス登録し、スクレイピングを行う際の注意点を理解して上で、実習を行う。	Web スクレイピングにより抽出したテキストデータを、KHcorder で分析できるように、EXCEL のフォーマットでデータベース化し、ラーニングポータルに提出すること	4 時間
第8回	対面	テキスト計量分析① 形態素解析とデータクレンジング 形態素解析で、テキスト化された文章を辞書を使用して一語ずつの単語に分けるクレンジングで、カタカナ、ひらがな、漢字等の表記が異なる同一の単語を一まとめにする 頻出単語をランキングする	【予習】 予め、KHcorder をダウンロードして、PC にインストールしておく。 【実習課題】 課題に取り組み、ラーニングポータルに提出すること	4 時間
第9回	対面	テキスト計量分析② 語彙間および外部変数との相関分析 共起ネットワーク分析 多次元尺度構成法 対応分析 潜在的ドキュメント分析	【復習】 配布資料を再度読み、復習しておくこと 【実習課題】 課題に取り組み、ラーニングポータルに提出すること	4 時間
第10回	対面	テキスト計量分析③ 文書の分析 1. 探索的な分析： 特徴語の抽出、文書のクラスター分析、トピックモデル（LDA） 2. 仮説検証的な分析： 仮説コードの設定、仮説コードと外部変数のクロス集計、可視化	【復習】 配布資料を再度読み、復習しておくこと 【実習課題】 課題に取り組み、ラーニングポータルに提出すること	4 時間
第11回	対面	テキスト計量分析④ 研究事例 金 勝 鎮； 多 田 伶； 勝 又 壮太郎(2020)、「評価付き自然言語データの定量分析 どのような消費者レビューが「参考になった」を集めるのか?」、『行動計量学』第 47 巻第 2 号	特に LDA によるドキュメント分析など分析手法と考察結果を中心に、論文の要旨をまとめてくる。	4 時間
第12回	対面	質的比較分析（QCA）① 質的比較法の考え方 特定の成功事例から成功要因を後付けしても、論理的な普遍性は極めて脆弱である。質的比較分析（qualitative comparative analysis: QCA）は、Ragin (1987) によって提唱された分析手法であり、事例を複数の特性の組み合わせとしてとらえ、事例間の類似と差異を体系的に検討する手法である。真理表に基づくデータから因果関係における必要性和十分性の整合度と被覆度を求め、ブール代数的に必要十分条件を探索する。 ブール代数学の基礎：命題における必要条件と十分条件、整合度と被覆度	【復習】 配布資料を再度読み、復習しておくこと 【実習準備】 フリーソフト fs/QCA をダウンロードしてインストールしておくこと。	4 時間
第13回	オンデマンド	質的比較分析（QCA）② クリbsp集合の質的比較分析 Charles C. Ragin 教授（カリフォルニア大学）によって開発された fs/QCA を使用	【復習】 配布資料を再度読み、復習しておくこと 【実習課題】 課題に取り組み、ラーニングポータルに提出すること	4 時間

		して、クリスプ集合（0と1のみ）のデータについて、質的比較分析を実習する。		
第14回	対面	質的比較分析（QCA）③ 論理矛盾を含む場合、fuzzy 集合の質的比較分析 Charles C. Ragin 教授（カリフォルニア大学）によって開発された fs/QCA を使用して、論理矛盾を含むケースや、fuzzy 集合（0と1の間の値を含む）データについて、質的比較分析を実習する。	【復習】配布資料を再度読み、復習しておくこと 【実習課題】課題に取り組み、ラーニングポータルに提出すること	4 時間
第15回	対面	質的比較分析（QCA）④ 分析事例	課題論文について、分析手法と考察結果を中心に要旨をまとめてくる。	4 時間

科目名	経営管理特論 I	開講年度	2024 年度春学期
担当者	古殿 幸雄	配当年次	修士 1・2
科目ナンバリング	—	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	経済学研究科経営学専攻		
テーマ	経営管理理論について歴史を辿りながら考察します。		
授業の目的及び概要	経営管理理論について、テイラーの科学的管理法から始め歴史を辿りながら考察していきます。経営管理理論の生成発展の各段階について、それぞれが生成する歴史的な背景、提起された諸理論の内容、そこから提案された管理手法、及び企業で行われている実例について、その意図や成果について学びます。修得した知識に基づき、経営管理に関する課題と解決策について議論し、考察を行います。		
履修条件・留意点			
DPとの関連	—		
学修の到達目標	<p>この科目は経済学研究科経営学専攻修士課程の必修科目です。</p> <p>この授業では、経営管理理論について、歴史を辿りながら検討しますが、それぞれが生まれる歴史的な背景を理解し、各モデルが提唱する管理の実際について具体的な知識や制度及びそれらの今日的意義について修得し、さらにそれらの課題を発見する能力を身につけることを目標とします。</p> <p>この授業で学んだ知識を武器に、経営管理実践において、①当該企業がどのような管理モデルを使用しているかを分析できる、②その管理モデルによって経営戦略を効果的に実行することができるか、③その管理モデルは当該企業が採用している組織構造とうまくかみ合っているかを分析することができる。能力を身につけることを到達目標とします。</p>		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	適宜、授業中に課題を与え、その課題に対して考察していきます。 レポート課題に対しては、コメントを記すことでフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	古殿幸雄『入門ガイダンス 経営科学・経営工学 第3版』中央経済社、2022年	ISBN	ISBN978-4502436819
参考書	古殿幸雄『入門ガイダンス 情報のマネジメント 第2版』中央経済社、2020年	ISBN	ISBN978-4502350917
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	10	
	成果発表（口頭・実技）	10	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	50	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	【定期試験】WEB 試験	0	
	その他（％）		
その他の内容			
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業の進め方や注意事項などの説明を行います。	事前学修として、シラバスを読んでおくこと。（1時間程度）。	3時間

		経営管理の意義についても言及します。	事後学習として、経営管理の意義について説明できるか自己チェックしてください（2時間程度）。	
第2回	対面	成り行き任せの経営について取り上げ、ディスカッションし、考察します。	事前学修として、成り行き任せの経営について調べておくこと（2時間程度）。 事後学習として、計画的な経営の意義について説明できるかどうか自己チェックする（2時間程度）。	4時間
第3回	対面	テイラーの科学的管理法について取り上げ、ディスカッションし、考察します。	事前学修として、テイラーの科学的管理法について調べておくこと（2時間程度）。 事後学習として、テイラーの科学的管理法について説明できるかどうかを自己チェックする（2時間程度）。	4時間
第4回	対面	テイラーの科学的管理法が与えた影響についてディスカッションし、考察します。	事前学修として、科学的管理法の影響について調べておくこと（2時間程度）。 事後学習として、科学的管理法が批判される理由について、説明できるか確認する（2時間程度）。	4時間
第5回	対面	フォードシステムを取り上げ、ディスカッションし、考察します。	事前学修として、フォーディズムについて調べておくこと（2時間程度）。 事後学習として、フォードシステムを説明できるかどうかを自己チェックする（2時間程度）。	4時間
第6回	対面	フォードシステムが与えた影響についてディスカッションし、考察します。	事前学修として、フォーディズムの終焉について調べておくこと（2時間程度）。 事後学習として、フォーディズムについて説明できるかどうかを自分でチェックする（2時間程度）。	4時間
第7回	対面	デミング経営を取り上げ、ディスカッションし、考察します。	事前学修として、デミングについて調べておくこと（2時間程度）。 事後学習として、デミング経営について説明できるかどうか自己チェックする（2時間程度）。	4時間
第8回	対面	PDCA サイクルが与えた影響についてディスカッションし、考察します。	事前学修として、PDCA サイクルについて調べておくこと（2時間程度）。 事後学習として、PDCA サイクルが与えた影響について説明できるかどうかを自己チェックする（2時間程度）。	4時間
第9回	対面	ホーソン研究を取り上げ、ディスカッションし、考察します。	事前学修として、ホーソン研究について調べておくこと（2時間程度）。 事後学習として、ホーソン研究について説明できるかどうか自己チェックする（2時間程度）。	4時間
第10回	対面	人間関係論が与えた影響についてディスカッションし、考察します。	事前学修として、人間関係論について調べておくこと（2時間程度）。 事後学習として、人間関係論について説明できるかどうかを自己チェックする（2時間程度）。	4時間
第11回	対面	行動科学について取り上げ、ディスカッションし、考察します。	事前学修として、行動科学について調べておくこと（2時間程度）。 事後学習として、行動科学について説明できるかどうかを自己チェックする（2時間程度）。	4時間
第12回	対面	マズローの欲求五段階説を取り上げ、ディスカッションし、考察します。	事前学修として、マズローの欲求五段階説について調べておくこと（2時間程度）。 事後学習として、自己実現について説明できるかどうかを自己チェックする（2時間程度）。	4時間
第13回	対面	サイモンの意思決定について取り上げ、ディスカッションし、考察します。	事前学修として、サイモンの意思決定について調べておくこと（2時間程度）。 事後学習として、サイモンの意思決定について説明できるかどうか自己チェックする（2時間程度）。	4時間
第14回	対面	意思決定システムについて取り上げ、ディスカッションし、考察します。	事前学修として、意思決定システムについて調べておくこと（2時間程度）。 事後学習として、人工知能の研究と意思決定について説明できるかどうか自己チェックする（2時間程度）。	4時間

第15回	オンデマンド	前期の内容を総括します。	事前学修として、前期の内容を振り返っておくこと（2時間程度）。 事後学習として、前期の内容が説明できるかどうか自己チェックしてください（3時間程度）。	5時間
------	--------	--------------	--	-----

科目名	経営管理特論Ⅱ	開講年度	2024 年度秋学期
担当者	古殿 幸雄	配当年次	修士1・2
科目ナンバリング	—	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	経済学研究科経営学専攻		
テーマ	経営管理理論について生産やシステム、情報をキーワードにした現代への展開について考察します。		
授業の目的及び概要	この講義では、品質と経営から経営管理を検討することで、ものづくりやシステム、情報そして人工知能を視野に入れながら、現在から未来の経営管理について取り上げ、議論しながら、経営管理の意義や展開、今後の発展について考察します。したがって、今後の経営管理について実践・適応できる能力が養えることを目的としています。		
履修条件・留意点			
DP との関連	—		
学修の到達目標	①経営組織の主要形態を理解し、大小様々な企業の組織形態を同定できること。 ②経営組織の主要形態のメリット・デメリットについて指摘することができること。 ③現代の経営管理の在り方について説明できること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中に出了課題・レポートに対して、適時フィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	古殿幸雄著『入門ガイダンス 経営科学・経営工学 第3版』中央経済社、2022年	ISBN	ISBN978-4502436819
参考書	古殿幸雄『入門ガイダンス 情報のマネジメント 第2版』中央経済社、2020年	ISBN	ISBN978-4502350917
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	10	
	成果発表（口頭・実技）	10	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	50	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	【定期試験】WEB 試験	0	
	その他（%）		
その他の内容			
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	前期の内容を振り返り、後期の授業の進め方や注意事項などの説明を行います。	事前学習として、シラバスを読んでおくこと。（1時間） 事後学習として、「経営管理の発展」について説明できるかどうかを確認しておくこと。（2時間）	3時間
第2回	対面	品質と管理（1）を取り上げ、ディスカッションし、考察します。	事前学習として、設計品質と適合品質について調べておくこと。（2時間） 事後学習として、品質と経済性について説明できるかどうか確認すること。（2時間）	4時間
第3回	対面	品質と管理（2）を取り上げ、ディスカッ	事前学習として、TQC について調べておくこと。（2時	4時間

		ションし、考察します。	間) 事後学習として、TQMについて説明できるかどうかを確認すること。(2時間)	
第4回	対面	生産部門における管理について取り上げ、ディスカッションし、考察します。	事前学習として、生産管理について調べておくこと。(2時間) 事後学習として、QCDについて説明できるかどうかを確認すること。(2時間)	4時間
第5回	対面	生産管理システムを取り上げ、ディスカッションし、考察します。	事前学習として、生産管理システムについて調べておくこと。(2時間) 事後学習として、生産管理システムについて説明できるかどうか確認すること。(2時間)	4時間
第6回	対面	QC 七つ道具を取り上げ、ディスカッションし、考察します。	事前学習として、QC 七つ道具について調べておくこと。(2時間) 事後学習として、QC 七つ道具について説明できるかどうかを確認すること。(2時間)	4時間
第7回	対面	システム思考を取り上げ、ディスカッションし、考察します。	事前学習として、システムについて調べておくこと。(2時間) 事後学習として、システム思考について説明できるかどうかを確認すること。(2時間)	4時間
第8回	対面	システムズ・アプローチを取り上げ、ディスカッションし、考察します。	事前学習として、システムズ・アプローチについて調べておくこと。(2時間) 事後学習として、システムズ・アプローチについて説明できるかどうかを確認すること。(2時間)	4時間
第9回	対面	デザイン思考について取り上げ、ディスカッションし、考察します。	事前学習として、デザイン思考について調べておくこと。(2時間) 事後学習として、デザイン思考について、説明できるかどうかを確認すること。(2時間)。	4時間
第10回	対面	経営システムについて取り上げ、ディスカッションし、考察します。	事前学習として、経営システムについて調べておくこと。(2時間) 事後学習として、経営システムについて説明できるかどうか確認すること。(2時間)	4時間
第11回	対面	コンティンジェンシー理論を取り上げ、ディスカッションし、考察します。	事前学習として、コンティンジェンシー理論について調べておくこと。(2時間) 事後学習として、コンティンジェンシー理論について、説明できるかどうかを確認すること。(2時間)	4時間
第12回	対面	人工知能研究について取り上げ、ディスカッションし、考察します。	事前学習として、人工知能研究について調べておくこと。(2時間) 事後学習として、人工知能研究について説明できるかどうかを確認すること。(2時間)	4時間
第13回	対面	AI と経営管理システムを取り上げ、ディスカッションし、考察します。	事前学習として、AI システムについて調べておくこと。(2時間) 事後学習として、AI システムについて説明できるか確認すること。(2時間)	4時間
第14回	対面	未来の経営管理システムに関する課題を取り上げ、ディスカッションします。	事前学習として、未来の経営管理システムについて検討しておくこと。(2時間) 事後学習として、議論した内容をまとめておくこと。(2時間)	4時間
第15回	オンデマンド	全体を総括します。	事前学習として、これまでの講義内容を振り返っておくこと。(2時間) 事後学習として、これまでの講義内容が説明できるか確認すること。(2時間)	4時間

科目名	経営組織特論	開講年度	2024 年度秋学期
担当者	亀田 速穂	配当年次	修士1・2
科目ナンバリング	—	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	経済学研究科経営学専攻		
テーマ	経営組織の主要形態の生成発展		
授業の目的及び概要	<p>経営組織(又は単に組織)を広く捉えると、それを構成する個人や小集団を含みますし、リーダーシップ・意思決定・コミュニケーション・コンフリクト解決といった動的な組織過程を含みますが、この講義では、仕事の権限や責任、部門形成、部門間の関係など組織構造の問題を主に扱う、経営組織の主要形態の説明を中心に取り上げます。</p> <p>まず企業の環境適応行動の枠組みである ESSP (環境－戦略－組織－管理) モデルを示し、このモデルにおける経営組織の位置と役割について説明し、次いで経営組織の主要形態、環境変化と組織構造のコンティンジェンシー理論、新しい経営組織形態などについて講義します。</p>		
履修条件・留意点	履修条件は特にありませんが、経営組織と関連する経営戦略論や経営管理論との関連に留意してください。		
DP との関係	—		
学修の到達目標	<p>①ESSP モデルにおける経営組織の役割を理解し、説明できること。</p> <p>②経営組織の主要形態を理解した上で、多様な企業の組織形態を同定できること。</p> <p>③経営組織の主要形態と経営戦略との適合性を理解し、説明できること。</p> <p>④新しい組織形態の特徴を理解し、説明できること。</p>		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシートを利用して、提起した課題に解答してもらうことによって、受講生の理解度を確認します。コメントシートに対しては、提出した日の翌週の授業で講評を行うことで、フィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。 私の講義資料によって授業します。	ISBN	なし
参考書	井原久光編著『経営学入門キーコンセプト』ミネルヴァ書房、2013 年。	ISBN	978-4-623-06441-0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	70	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	【定期試験】WEB 試験	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	<p>企業経営の失敗の原因として経営組織実は、あまり目立ちません。経営の失敗が組織の失敗によることに、経営者の目が行き届かないからです。経営者はこれまでうまくいった時期の経営組織には強い信頼を持つ反面、自社の事業遂行に適合した新しい組織に対しては大きな不信感を抱きます。そのような場合、経営者や経営幹部が経営組織のあり方に対する正確な知識を備えていることが必要です。皆さんも将来に備えて、経営組織のあり方についての知識を蓄積してください。</p>		

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の
-----	----	------	----------------	-------

	形式		学修時間	
第1回	対面	「経営管理の体系的理解」 これまで展開してきた経営管理の流れから、管理、組織、戦略をとりだし、これらの要素をサブ・システムとする ESSP モデル (E=環境=業界、S=戦略、S=組織、P=管理) について説明します。ESSP は相互に連動して理解する必要がありますので、これを「ワンセット」として把握してください。そして、このモデルをもとに、「組織の環境適応行動の枠組み」を示して、組織行動の体系的 (全体的)・統合的に説明します。	事前学習として講義用プリント第1講をよく読んで不明な点を明らかにしておくこと。(2時間) 事後学習として「経営管理の発展」「ESSPモデル」「適合概念」を説明できるかどうかを確認してください。(2時間)	4時間
第2回	対面	「ESSPモデルにおける適合 (fit)」 適合概念について説明します。「適合」は「(適合状態に至る)過程」を意味すると同時に「(適合を達成している)状態」を意味します。理解を深めるために、サブ・システム間に生じる適合・不適合の事例をいくつか分析し、考察します。	事前学習として講義用プリント第2講をよく読んで不明な点を明らかにしておくこと。(2時間) 事後学習として不適合による失敗事例を振り返り、なぜ失敗したのかを説明できるかどうかを確認してください。(2時間)	4時間
第3回	対面	「組織とは何か」 歴史的に発展してきた「3つの組織概念」と、組織の常用的概念について解説し、それぞれが経営管理の場にどのように利用できるかについて考察します。	事前学習として講義用プリント第3講をよく読んで、不明な点を明らかにしておくこと。(2時間) 事後学習として「相互作用の体系 (システム)」と「活動の体系 (システム)」としての組織の違いについて説明できるかどうかを確認してください。(2時間)	4時間
第4回	対面	「組織原則論と経営組織の水平的構造」 経営における仕事のグループ (部門) はどのように形成されるでしょうか。小規模経営から大規模経営に至る部門形成とその構造と機能について考察します。	事前学習として講義用プリント第4講をよく読んで、不明な点を明らかにしておくこと。(2時間) 事後学習として、例えば「人事部」「経理部」などではその部門内に異なる役割を持つ仕事群が混在していること、「ラインの責任とスタッフの責任の違い」を説明できるかどうかを確認してください。(2時間)	4時間
第5回	対面	「経営組織の基本形態」 部門形成の結果、経営組織の基本形態が現れます。ライン組織、ファンクショナル組織、ライン・スタッフ組織のメリット・デメリットについて考察します。	事前学習として講義用プリント第5講をよく読み、特に「ファンクショナル組織」について調べおくこと。(2時間) 事後学習として中小企業事例にあたってどのような組織形態を採用しているかを説明できるかどうか確認してください。(2時間)	4時間
第6回	対面	「経営組織の垂直的構造 (1) - トップ・マネジメント組織の構造と役割 -」 今回から経営組織の水平的構造から垂直的構造の説明に移ります。トップ・マネジメント組織はアメリカ企業と日本の伝統的企業とは異なる場合があります。近年、大企業ではトップ・マネジメント組織のアメリカ化が見られますが、この動きの理由は何でしょうか。またそれは今後進展するでしょうか。こうした問題を考察します。	事前学習として講義用プリント第6講をよく読んで、不明な点を明らかにしておくこと。(2時間) 事後学習として「トップ・マネジメント組織の2つの役割」について説明できるかどうかを確認してください。(2時間)	4時間
第7回	対面	「経営組織の垂直的構造 (2) - トップ・マネジメントとガバナンス」 トップ・マネジメントの重要な役割は企業統治 (コーポレート・ガバナンス) にあります。近年の新しいアメリカ型トップ・マネジメント組織導入の動きは、伝統的な日本型のそれに比べて、どのようなガバナンス効果が期待されるでしょうか。このような問題について考察します。	事前学習として講義用プリント第7講をよく読んで、不明な点を明らかにしておくこと。(2時間) 事後学習として「日本型コーポレート・ガバナンスの問題点」について説明できるかどうかを確認してください。(2時間)	4時間

第8回	対面	「経営組織の垂直的構造（3）－ミドル／ロワー・マネジメントの役割－」 ミドルとロワー・マネジメントの基本的な役割を説明した上で、両者の最近の新しい役割について考察します。	事前学習として講義用プリント第8講をよく読んで、不明な点を明らかにしておくこと。（2時間） 事後学習として「京セラ・アメーバ経営」におけるロワー・マネジメントの役割についてより詳しく調べてみてください。（2時間）	4時間
第9回	対面	「経営組織の集権化－職能別部門組織」 職能別部門組織がなぜ集権的性格を持つのか、この組織はどのような環境条件や事業条件に適合するかについて考察します。	「事前学習として講義用プリント第9講をよく読んで、不明な点を明らかにしておくこと。（2時間） 事後学習として中小規模企業の事例に当たり、その企業がどのような組織形態を採用しているか確認してください。（2時間）	4時間
第10回	対面	「経営組織の分権化－事業部制組織」 この歴史的な生成経過と基本的な構造について解説し、この構造がどのような環境条件や事業条件に適合するか、またどのようなデメリットを持つのかについて考察します。	事前学習として講義用プリント第10講をよく読んで、不明な点を明らかにしておくこと。（2時間） 事後学習として「1920年代のデュポン社」について調べ、どのような経過により事業部制組織を創案したのか確認してください。（2時間）	4時間
第11回	対面	「経営組織の動態化－マトリクス組織」 この組織がどのような理由から生成したのか、どのような構造と役割をもっているのか歴史的な生成経過と基本的な構造について説明し、この組織がどのような環境条件や事業条件に適合するか、またこの組織構造の固有の問題点は何かなどについて考察します。	事前学習として講義用プリント第11講をよく読んで、不明な点を明らかにしておくこと。（2時間） 事後学習として「マトリクス組織の固有の問題」について、その他の解決策がないか、考えてみてください。（2時間）	4時間
第12回	対面	「環境適応と構造論的コンティンジェンシー理論」 環境適応のための組織のあり方を問題とした構造論的コンティンジェンシー理論の主要成果を取り上げ、環境（産業）の不確実性の程度が企業や部門の組織と管理にどのような影響を与えるかについて考察します。	事前学習として講義用プリント第12講をよく読んで、不明な点を明らかにしておくこと。（2時間） 事後学習として、「有機的管理システム」と「機械的管理システム」の違いを説明できるか確認してください。（2時間）	4時間
第13回	対面	「ネットワーク組織体制」 新しい組織体制の1つであるネットワーク組織について、なぜこの組織体制が生まれてきたのか、なぜ「組織体制」という言葉を使うのか、この組織と経営戦略や管理体制との関連性などについて考察します。	事前学習として講義用プリント第14講をよく読んで、不明な点を明らかにしておくこと。（2時間） 事後学習として「ネットワーク組織体制と戦略提携との関連」をまとめておきましょう。（2時間）	4時間
第14回	対面	「セル組織体制」。 もう1つの新しい組織体制であるセル組織体制について、なぜこの組織体制が生まれてきたのか生成理由、この組織と適合的な経営戦略と管理体制について、顧客ニーズの個別化、カスタム化戦略、セル組織の特質、自立型管理について考え、ディスカッションします。	事前学習として講義用プリント第14講をよく読んで、不明な点を明らかにしておくこと。（2時間） 事後学習として「組織の環境適応行動の枠組み」を見て、経営戦略の位置関係を確認してください。（2時間）	4時間
第15回	オンデマンド	総括及び期末レポート提出についての説明 この授業はオンデマンドにて行います。	事前学習として、これまでの講義資料を読み返し、全体の授業の流れを把握してください。（2時間） 事後学習として、今後自分なりに学修を深めたいと思うテーマを構想してみてください。（2時間）	4時間

科目名	経営戦略特論	開講年度	2024 年度秋学期
担当者	古殿 幸雄	配当年次	修士1・2
科目ナンバリング	—	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	経済学研究科経営学専攻		
テーマ	経営戦略の各種理論について史的な展開を辿りながら検討し、経営戦略の知識を身につけます。		
授業の目的及び概要	経営戦略論について史的展開を辿りながら、各回で取り上げられる理論について理解し現実の企業行動に当てはめることで、企業戦略の現状の分析や改善について検討・提案できるようになることを目的とします。		
履修条件・留意点			
DP との関連	—		
学修の到達目標	①経営戦略に関する基礎的な概念と理論について専門的な説明ができること。 ②企業の多様な戦略行動の是非を判断し、改善の提案ができること。 ③戦略行動と環境動向・組織構造・経営管理との関係を分析できること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	小テスト、コメントシートを利用して理解度を確認し、その結果を翌回の授業でフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは使用しません。 講義資料を用いて授業します。	ISBN	なし
参考書	なし	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		30
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		10
	成果発表（口頭・実技）		20
	中間試験		0
	【定期試験】レポート試験		40
	【定期試験】筆記試験（対面）		0
	【定期試験】WEB 試験		0
	その他（%） その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業の進め方や留意点などについて説明します。また、経営戦略の意義について議論します。	シラバスを読み、経営戦略について調べておいてください。	4 時間
第2回	対面	ランチェスター理論について考え、ディスカッションします。	事前学習としてランチェスターの法則について調べておいてください。 事後学修として授業で行った演習について振り返っておいてください。	4 時間
第3回	対面	ランチェスター戦略について議論します。	事前学習としてランチェスター戦略について調べ、不明な点を明らかにしておいてください。 事後学修としてランチェスター戦略の現実問題への適用について説明できるかどうかを自己チェックし	4 時間

			てください。	
第4回	対面	ランチェスター戦略の企業事例について解説し、議論します。	事前学習としてランチェスター戦略の企業事例について調べておいてください。 事後学修としてランチェスター戦略の企業事例について自分なりにまとめておいてください。	4時間
第5回	対面	アンゾフの成長マトリクスについて議論します。	事前学習としてアンゾフの成長マトリクスについて調べておくこと。 事後学修として市場浸透・新商品開発・新市場開発・多角化について説明できるかどうかを自己チェックしてください。	4時間
第6回	対面	成長マトリクスに実際の企業をあてはめて議論します。	事前学習として企業を取り上げて成長マトリクスにあてはめてみること。 事後学修として成長マトリクスについて説明できるかどうかを自己チェックしてください。	4時間
第7回	対面	ボストン・コンサルティング・グループが提唱した PPM 分析を取り上げ、これらについて考え、ディスカッションします。	事前学習として PPM 分析について調べておくこと。 事後学修として 4 つのポジションのそれぞれの意味について説明できるか、自己チェックしておいてください。	4時間
第8回	対面	SWOT 分析について考え、議論します。	事前学習として SWOT 分析について調べておくこと。 事後学修として内部環境の強み、弱み、外部環境の機会、脅威について説明できるか、自己チェックしておいてください。	4時間
第9回	対面	ポーターの競争戦略について考え、ディスカッションします。	事前学習としてポーターの競争戦略について調べておくこと。 事後学修としてファイブフォースについて説明できるかどうかを自己チェックしてください。	4時間
第10回	対面	企業のファイブフォース分析を行い、ディスカッションします。	事前学習として実際の企業を取り上げファイブフォース分析を行っておくこと。 事後学修としてコストリーダーシップ戦略、差別化戦略、集中戦略について説明できるかどうかを自己チェックしてください。	4時間
第11回	対面	バーニーのリソースベースドビューについて考え、ディスカッションします。	事前学習としてバーニーのリソースベースドビューについて調べておくこと。 事後学修としてポーターの競争戦略とバーニーの RBV の考え方の違いについて説明できるかどうかを自己チェックしてください。	4時間
第12回	対面	VRIO フレームワークを取り上げてディスカッションします。	事前学習として VRIO フレームワークについて調べておくこと。 事後学修として経済価値 (V)、希少性 (R)、模倣困難性 (I)、組織 (O) の 4 つの視点について説明できるかどうかを自己チェックしてください。	4時間
第13回	対面	実際の企業について VRIO フレームワークをあてはめて、ディスカッションします。	事前学習として実際の企業の VRIO 分析を行っておくこと。 事後学修として企業の経営資源における競争優位について説明できるかどうかを自己チェックしてください。	4時間
第14回	対面	ブルーオーシャン戦略を取り上げて、ディスカッションします。	事前学習としてブルーオーシャン戦略について調べておくこと。 事後学修として従来存在しなかった全く新しい市場は何かについて説明できるかどうかを自己チェックしてください。	4時間
第15回	オンデマンド	全体をまとめます。	事前学習としてこれまでの講義内容を振り返っておくこと。 事後学修として経営戦略の各論について説明できるかどうかを自己チェックしてください。	4時間

科目名	人的資源管理特論	開講年度	2024 年度春学期
担当者	城戸 亮	配当年次	修士1・2
科目ナンバリング	—	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	経済学研究科経営学専攻		
テーマ	日本の組織の人的資源管理を学びます。経営学における人的資源管理論およびビジネス現場における人的資源管理に関する基礎と応用を学びます。		
授業の目的及び概要	<p>本授業で扱う人的資源管理論 (Human Resource Management) は、企業 (組織) の中の人々の働き方やその管理・運営を対象としています。</p> <p>人的資源管理の全般的な知識・考え方について、テキストのうちから、興味・関心のある章を担当し、講師役として発表してもらいます。また、他の講師役の発表を聞いて、疑問点・論点について、討議の中から学んでいきます。</p> <p>これについて学ぶにしても、多様な面から考えなければなりません。皆さんが関心のある就職 (企業から見れば新卒採用、中途採用、通年採用) を考えれば、その時期だけについても春の新規 (卒業) 採用もありますし、それ以外の期間の採用や中途 (既卒者) 採用もあります。また、雇用 (形態) を考えれば、従来からある正規雇用者もあれば、パート・アルバイトがあり、これ以外にも派遣、出向、地域限定社員のような雇用 (形態) があります。企業の人的資源管理は、その企業の形態や組織の構造という内部の要因だけから影響を受けるわけではありません。競争企業の動向や、国際化の影響、資金調達や為替に関するお金の問題等のように外部の要因からも影響を受けています。よって、今日の人的資源管理についても企業の内・外部にある多様な要因と関連付けて考えることが重要です。</p>		
履修条件・留意点	履修条件はとくにありませんが、労働経済学や労働法、経営学の組織行動論等の知見のあることが望ましいです。		
DP との関連	—		
学修の到達目標	この授業では、人的資源管理の諸課題について、現実的・具体的に考えていくようにします。そして、この授業の到達目標は、取り上げるトピックスを中心に、理論的な理解・分析・説明ができ、実践的な提言ができるようになることが目標です。次に、それらが抱える現実的な課題について、自分なりの解決法を提案できるようになることが目標です。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業での発表について、それぞれ講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議/プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	1 からの人的資源管理, 西村孝史他編, 碩学舎, 2022 年	ISBN	9. 784502407e+12
参考書	経験から学ぶ人的資源管理 新版, 上林憲雄・厨子直之・森田雅也, 有斐閣, 2018 年	ISBN	9. 7846411844e+12
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表 (口頭・実技)	40	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	40	
	【定期試験】筆記試験 (対面)	0	
	【定期試験】WEB 試験	0	
	その他 (%)	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	<p>日頃からビジネス誌を読み、ビジネス情報に触れて、世界や日本の職場に関する出来事を把握してください。</p> <p>授業では活発な討議を期待しています。積極的に授業に参加するようにしてください。</p>		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス：授業の進め方、概要、成績評価の方法など、ガイダンスを行います。 第1章人的資源管理とは何か	【予習】テキストを購入し、全体を見て、どのような内容があるのかを認識しておいてください。興味・関心のある章など、担当したい章の候補を決めて、ガイダンス時に担当希望を表明できるようにします。 また、第1章を一読し、わからない用語などを調べておきます。 【復習】第1章を再度読み、理解を確実なものとして下さい。また、ガイダンスで決まった担当箇所を担当できるよう準備作業の計画を立てて、準備を進めていきます。	4時間
第2回	対面	第2章 組織構造・職場マネジメント 人的資源管理と組織、組織の時代、分業の方法、典型的な組織構造：機能別組織と事業部制組織、会社が想定する社員とは、人間モデル、代表的なモチベーション理論、管理者の役割、管理職（マネジャー）とリーダーシップ、人的資源管理から見た管理職	【予習】第2章を一読し、わからない用語などを調べておきます。発表者に対する質問項目を考えておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第3回	対面	第3章 日本的経営の成り立ち 人事異動と長期の人材育成、日本的経営の「三種の神器」、その他の日本的経営の要素、能力主義と成果主義	【予習】第3章を一読し、わからない用語などを調べておきます。発表者に対する質問項目を考えておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第4回	対面	第4章 社員区分制度と格付け制度 多様な雇用形態と仕事、社員区分制度、社員区分の基準、社員区分間の均衡問題、非正社員と外部人材、非正社員の基幹労働力化、非正社員の類型化、社員格付け制度、職能資格制度、職務等級制度、役割等級制度、人材ポートフォリオ、無期転換ルール	【予習】第4章を一読し、わからない用語などを調べておきます。発表者に対する質問項目を考えておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第5回	対面	第5章 採用・定着 就職活動と入社、企業の採用活動のプロセス、組織社会化、社会化エージェント、就職と就社、リアリティ・ショック	【予習】第5章を一読し、わからない用語などを調べておきます。発表者に対する質問項目を考えておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第6回	対面	第6章 評価 評価の仕組み、評価基準・内容、人事評価の目的、評価手法、能力評価・情意評価・行動評価、業績評価と目標管理制度、相対評価・絶対評価、多面評価、フィードバック、バイアス、多段階評価、組織的公正、目標設定理論	【予習】第6章を一読し、わからない用語などを調べておきます。発表者に対する質問項目を考えておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第7回	対面	第7章 配置・異動 人事異動、ジョブ・ローテーションの目的、人事異動の効果、昇進・昇格、昇格管理の特徴、昇進管理の特徴、出向・転籍の目的、出向の2類型	【予習】第7章を一読し、わからない用語などを調べておきます。発表者に対する質問項目を考えておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第8回	対面	第8章 人材育成とキャリア 「育つ」と「育てる」の両面性、人材育成が果たす機能、企業が従業員を「育てる」、働く人びとが自ら「育つ」、企業による人材育成の方法、仕事を通じた人材育成、仕事から離れての人材育成、日本企業におけ	【予習】第8章を一読し、わからない用語などを調べておきます。発表者に対する質問項目を考えておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間

		る人材育成の実態、人材育成の新たな展開と課題、エンプロイアビリティとキャリア開発、タレント・マネジメント、生涯現役時代の人材育成とキャリア、職場における学習		
第9回	対面	第9章報酬管理 給与と待遇の違い、報酬管理の据え方、賃金管理、総額賃金管理と個別賃金管理、基本給の決め方、昇給の仕組み、手当と賞与、福利厚生と退職給付の管理、福利厚生管理、退職給付管理、期待理論、同一労働同一賃金	【予習】第9章を一読し、わからない用語などを調べておきます。発表者に対する質問項目を考えておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第10回	対面	第10章退職管理・雇用調整 高齢者雇用、セカンドキャリア、ライフシフト、定年・雇用延長、雇用調整、整理解雇の4要件、早期退職、ワークシェアリング、心理的契約	【予習】第10章を一読し、わからない用語などを調べておきます。発表者に対する質問項目を考えておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第11回	対面	第11章労働時間管理 長時間労働のメカニズム、労働時間の現状、長時間労働の要因、労働時間短縮と働き方改革、労働時間制度、労働時間に対する規制、多様な労働時間制度、休日と休暇・休業制度、年次有給制度の現状と課題、育児・介護休業の現状と課題、ワーク・ライフ・バランス	【予習】第11章を一読し、わからない用語などを調べておきます。発表者に対する質問項目を考えておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第12回	対面	第12章健康経営・安全衛生 健康経営、健康経営の実践、ウェルビーイングへの注目、メンタルヘルス不調者の増加、職場のメンタルヘルス対策、ストレスチェック、職場のいじめからハラスメントへ、ハラスメントのタイプ、ハラスメント防止の取り組み	【予習】第12章を一読し、わからない用語などを調べておきます。発表者に対する質問項目を考えておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第13回	対面	第13章労使関係 労働組合の役割、日本の企業別組合、日本の労働組合の多層性、団体交渉・春闘、労使協議制、個別的労使関係、労働協議制の広がり、苦情処理、コミュニケーション	【予習】第13章を一読し、わからない用語などを調べておきます。発表者に対する質問項目を考えておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第14回	対面	第14章ダイバーシティと多様な働き方 ダイバーシティ、多様な働き方(テレワーク、副業)、インクルージョン(Inclusion:包摂)、知覚された組織的支援 第15章国際人事 グローバル化に対応した人事施策、国際化の影響、多国籍企業で働く人材への個別人事、海外駐在員、現地国籍人材、本国本社の外国籍人材、グローバル、HRM、国の文化の測定	【予習】第14・15章を一読し、わからない用語などを調べておきます。発表者に対する質問項目を考えておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第15回	オンデマンド	第1回～第15回までの復習	【予習】第1回～第15回までの該当箇所を読んで、わかりにくいところなどをチェックしておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度第1回～第15回までの該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間

科目名	経営情報特論 I	開講年度	2024 年度春学期
担当者	呉原 志賢	配当年次	修士 1・2
科目ナンバリング	—	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	経済学研究科経営学専攻		
テーマ	企業経営及び公共機関等における情報化について考察する。		
授業の目的及び概要	ICT の進歩により、企業が競争優位の源泉として情報を捉え、それらを活用することが重要な課題となっています。授業では、企業及び公共機関においてデータの活用・分析による戦略的意思決定支援、ICT の利活用、情報システム戦略について解説を行います。その際、情報の基本的概念説明及び技術やシステムの歴史的発展、現代的情報活用の事例等を取り扱うことで理解の促進を図ります。修得した知識に基づき、企業や公共機関等の情報化における課題の発見と解決の方策について議論し、考察を深めていきます。		
履修条件・留意点			
DP との関係	本科目と学位授与の方針（DP）との関係については、以下の URL から確認してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html</a>		
学修の到達目標	この授業では、グローバル化する企業経営において、企業競争力の強化と安定化を図る上で有効な、情動的相互作用を創出するための組織的アプローチやシステムの在り方について、考察する力を身につけることを目標とします。また、企業だけでなく公共機関等における情報化についても取り上げ、課題の発見と解決の方策（ソリューション）を提案できる力を身につけることを目指します。授業をとおして、企業や公共機関においてデータ活用・分析に基づく戦略的意思決定を支援する人材に必要な、能力を獲得できるようにします。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内で課した課題やレポートに対しては、講評を行うことでフィードバックを実施します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは使用しません。	ISBN	—
参考書	情報通信白書、総務省	ISBN	—
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	30	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	40	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	【定期試験】WEB 試験	0	
	その他（％）		
その他の内容			
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	企業経営及び公共機関等における情報化の課題について解説し、ディスカッションを行います。	参考書の該当部分を事前に読んで、発表の準備を行い、授業後に復習をしておくこと（4 時間 程度）	4 時間
第 2 回	対面	経営資源としての情報について着目し、情動的相互作用のメカニズムについてディスカッションを行い、考察します。	参考書の該当部分を事前に読んで、発表の準備を行い、授業後に復習をしておくこと（4 時間 程度）	4 時間

第3回	対面	組織コミュニケーションにおける不確実性と多義性について解説し、ICTによるソリューションについてディスカッションを行い、考察します。	参考書の該当部分を事前に読んで、発表の準備を行い、授業後に復習をしておくこと（4時間程度）	4時間
第4回	対面	競争優位の源泉として情報化をとらえ、企業経営における情報化戦略についてディスカッションを行い、考察します。	参考書の該当部分を事前に読んで、発表の準備を行い、授業後に復習をしておくこと（4時間程度）	4時間
第5回	対面	経営情報システムの発展の変遷をたどり、今日的経営情報システムの在り方についてディスカッションを行い、考察します。	参考書の該当部分を事前に読んで、発表の準備を行い、授業後に復習をしておくこと（4時間程度）	4時間
第6回	対面	ICTの進展の流れを概観し、企業経営への適用についてディスカッションを行い、考察します。	参考書の該当部分を事前に読んで、発表の準備を行い、授業後に復習をしておくこと（4時間程度）	4時間
第7回	対面	ネットワーク・コンピューティングの動向を探り、企業経営への適用についてディスカッションを行い、考察します。	参考書の該当部分を事前に読んで、発表の準備を行い、授業後に復習をしておくこと（4時間程度）	4時間
第8回	対面	クラウド・コンピューティングについて解説し、企業経営への適用についてディスカッションを行い、考察します。	参考書の該当部分を事前に読んで、発表の準備を行い、授業後に復習をしておくこと（4時間程度）	4時間
第9回	対面	構造化やオブジェクト志向等の経営情報システムに関する開発方法論について解説し、最適な開発手法についてディスカッションを行い、考察します。	参考書の該当部分を事前に読んで、発表の準備を行い、授業後に復習をしておくこと（4時間程度）	4時間
第10回	対面	外部開発とパッケージ利用による経営情報システム構築について解説し、システム構築の在り方についてディスカッションを行い、考察します。	参考書の該当部分を事前に読んで、発表の準備を行い、授業後に復習をしておくこと（4時間程度）	4時間
第11回	対面	情報化推進の組織体制について解説し、その在り方についてディスカッションを行い、考察します。	参考書の該当部分を事前に読んで、発表の準備を行い、授業後に復習をしておくこと（4時間程度）	4時間
第12回	対面	情報化の投資効果や付加価値について解説し、最適な資源投資についてディスカッションを行い、考察します。	参考書の該当部分を事前に読んで、発表の準備を行い、授業後に復習をしておくこと（4時間程度）	4時間
第13回	対面	グローバル化ビジネスのパラダイムシフトについて解説し、ICTの利活用を前提とした企業戦略についてディスカッションを行い、考察します。	参考書の該当部分を事前に読んで、発表の準備を行い、授業後に復習をしておくこと（4時間程度）	4時間
第14回	対面	eビジネスの最新の動向を探り、企業経営への活用についてディスカッションを行い、考察します。	参考書の該当部分を事前に読んで、発表の準備を行い、授業後に復習をしておくこと（4時間程度）	4時間
第15回	オンデマンド	これまでの授業内容について、総括を行います。	参考書の該当部分を事前に読んで、企業における情報化に関するレポート課題を作成すること（4時間程度）	4時間

科目名	経営情報特論Ⅱ	開講年度	2024 年度秋学期
担当者	呉原 志賢	配当年次	修士1・2
科目ナンバリング	—	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	経済学研究科経営学専攻		
テーマ	企業経営及び公共機関等における情報化についてのケーススタディを行う。		
授業の目的及び概要	「経営情報特論Ⅰ」で修得する知識や技能を前提に、現代の企業経営における情報活用やシステムの事例を取り上げたケーススタディを行い、企業の中長期戦略の策定や生産計画の立案、業務改善に資する情報システム戦略や ICT を活用したビジネスモデルの今後の進展についてディスカッションをします。ディスカッションを通して、現代の企業経営や公共機関の運営における諸課題に対して、経営情報の考え方に基づく解決策を提案する能力の修得を図ります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html</a>		
学修の到達目標	この授業では、経営情報の視点に立った企業競争力向上のためのアプローチやワークフローの変化によるプロセス革新、ビジネスのパラダイムシフトについて考察する力を身につけることを目標とします。また、企業だけでなく公共機関等における情報化についても取り上げ、課題の発見と解決の方策（ソリューション）を提案できる力を身につけることを目指します。授業をとおして、企業や公共機関においてデータ活用・分析に基づく戦略的意思決定を支援する人材に必要な、能力を獲得できるようにします。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内で課した課題やレポートに対しては、講評を行うことでフィードバックを実施します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは使用しません。	ISBN	—
参考書	情報通信白書、総務省	ISBN	—
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	30	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	40	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	【定期試験】WEB 試験	0	
	その他（％）		
その他の内容			
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	企業経営及び公共機関等における情報化の課題について解説し、ディスカッションを行います。	企業経営及び公共機関等における情報化に関して調査を行い、授業で報告し、授業後に復習すること（4時間程度）	4時間
第2回	対面	AI（Artificial Intelligence）を実現するための技術について解説し、企業経営及び公共機関等における情報化への応用についてディスカッションを行い、考察しま	AI（Artificial Intelligence）に関して調査を行い、授業で報告し、授業後に復習すること（4時間程度）	4時間

		す。		
第3回	対面	IoT (Internet of Things) を支える技術について解説し、企業経営及び公共機関等における情報化への応用についてディスカッションを行い、考察します。	IoT (Internet of Things) に関して調査を行い、授業で報告し、授業後に復習すること (4 時間程度)	4 時間
第4回	対面	ICT を用いたプロセスの革新についてディスカッションを行い、考察します。	ICT を用いたプロセスの革新に関して調査を行い、授業で報告し、授業後に復習すること (4 時間程度)	4 時間
第5回	対面	SCM (Supply Chain Management) の事例を取り上げ、ICT によるソリューションについてディスカッションを行い、考察します。	SCM (Supply Chain Management) に関して調査を行い、授業で報告し、授業後に復習すること (4 時間程度)	4 時間
第6回	対面	ERP (Enterprise Resource Planning) の事例を取り上げ、ICT によるソリューションについてディスカッションを行い、考察します。	ERP (Enterprise Resource Planning) に関して調査を行い、授業で報告し、授業後に復習すること (4 時間程度)	4 時間
第7回	対面	CRM (Customer Relationship Management) の事例を取り上げ、ICT によるソリューションについてディスカッションを行い、考察します。	CRM (Customer Relationship Management) に関して調査を行い、授業で報告し、授業後に復習すること (4 時間程度)	4 時間
第8回	対面	Web マーケティングの事例を取り上げ、ICT によるソリューションについてディスカッションを行い、考察します。	Web マーケティングに関して調査を行い、授業で報告し、授業後に復習すること (4 時間程度)	4 時間
第9回	対面	ビッグデータ解析の事例を取り上げ、ICT によるソリューションについてディスカッションを行い、考察します。	ビッグデータ解析に関して調査を行い、授業で報告し、授業後に復習すること (4 時間程度)	4 時間
第10回	対面	KM (Knowledge Management) の事例を取り上げ、ICT によるソリューションについてディスカッションを行い、考察します。	KM (Knowledge Management) に関して調査を行い、授業で報告し、授業後に復習すること (4 時間程度)	4 時間
第11回	対面	FintTech の事例を取り上げ、ICT によるソリューションについてディスカッションを行い、考察します。	FintTech に関して調査を行い、授業で報告し、授業後に復習すること (4 時間程度)	4 時間
第12回	対面	ICT を用いた小売サービスの事例を取り上げ、ディスカッションを行い、考察します。	ICT を用いた小売サービスに関して調査を行い、授業で報告し、授業後に復習すること (4 時間程度)	4 時間
第13回	対面	ICT を用いた公共サービスの事例を取り上げ、ディスカッションを行い、考察します。	ICT を用いた公共サービスに関して調査を行い、授業で報告し、授業後に復習すること (4 時間程度)	4 時間
第14回	対面	インバウンドへの対応の事例を取り上げ、ICT によるソリューションについてディスカッションを行い、考察します。	ICT を用いたインバウンドへの対応に関して調査を行い、授業で報告し、授業後に復習すること (4 時間程度)	4 時間
第15回	対面	これまでの授業内容について、総括します。	ICT の利活用に関するレポート課題を作成すること (4 時間程度)	4 時間

科目名	情報処理特論	開講年度	2024 年度春学期
担当者	津田 博	配当年次	修士1・2
科目ナンバリング	—	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	経済学研究科経営学専攻		
テーマ	人工知能（AI）を支える機械学習について、Python プログラミングを通して学修する。		
授業の目的及び概要	本講義では、現代の企業経営（マーケティングや営業、生産管理、顧客サポート等）において必要とされるデータの活用・分析能力を身につけるために、人工知能（AI）の一種である機械学習の手法を修得することを目的とします。Python プログラミングによるデータ解析によって情報処理の実践的な能力を養成します。		
履修条件・留意点	毎回到復習において、授業内容を確認すると同時に、発展問題の練習も行って下さい。		
DP との関連	—		
学修の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>Python の基本的な文法を理解し、コーディングをすることができる。</li> <li>教師あり学習による分類、回帰の原理を理解する。</li> <li>機械学習により、問題解決や利活用への応用力を養う。</li> </ul>		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	前回の復習を兼ねて毎回提出される課題について講評・コメントします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、民間企業でシステム開発担当者としての業務経験を持ち、システム開発やプログラミングなどの豊富な経験を有する。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	第1回から第3回：講義プリントを配布します。 第4回から第15回：スッキリわかる Python による機械学習入門、須藤秋良・株式会社フレアリンク、インプレス、2020 年	ISBN	9.7842950099e+12
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	30	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	【定期試験】WEB 試験	0	
	その他（％）	0	
その他の内容			
この科目の受講にあたって	演習課題を授業時間中にパソコンを用いて取り組み、その成果の提出を求めます。課題に取り組む時間中は質問や相談は自由に行ってください。できるだけ、自分のノートパソコンを授業に持参して、プログラムを実践するようにしてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	Python プログラミングを学習する意義と実行環境の構築 ・基本演算と変数	Learning Portal の講義プリントをよく読み、演習課題について、予習しておくようにして下さい。（2 時間） 授業中に解説したプログラミング演習課題を自ら実行し、レポートを提出して下さい。（2 時間）	4 時間
第2回	対面	Python プログラミングの基礎 ・制御構造	Learning Portal の講義プリントをよく読み、演習課題について、予習しておくようにして下さい。（2 時	4 時間

		・要素をもつデータ型	間) 授業中に解説したプログラミング演習課題を自ら実行し、レポートを提出して下さい。(2時間)	
第3回	対面	Python プログラミングの基礎 ・関数の利用 ・引数と戻り値	Learning Portal の講義プリントをよく読み、演習課題について、予習しておくようにして下さい。(2時間) 授業中に解説したプログラミング演習課題を自ら実行し、レポートを提出して下さい。(2時間)	4時間
第4回	対面	AI と機械学習 ・人工知能 (AI) とは ・機械学習とは ・ディープラーニングとニューラルネットワーク	テキスト第1章を事前に読んでください。(2時間) 授業中に解説したプログラミング演習課題を自ら実行し、レポートを提出して下さい。(2時間)	4時間
第5回	対面	機械学習に必要な基礎統計学 ・データの種類 ・基本統計量 ・統計学でよく使われるグラフ	テキスト第2章を事前に読んでください。(2時間) 授業中に解説したプログラミング演習課題を自ら実行し、レポートを提出して下さい。(2時間)	4時間
第6回	対面	機械学習によるデータ分析の流れ ・目的の明確化 ・データの収集と前処理 ・モデルの選択と学習 ・モデルの評価	テキスト第3章を事前に読んでください。(2時間) 授業中に解説したプログラミング演習課題を自ら実行し、レポートを提出して下さい。(2時間)	4時間
第7回	対面	機械学習の体験 ・きのこ派とたけのこ派に分類する ・pandas 超入門 ・データの前処理 ・モデルの準備と機械学習の実行 ・モデルの評価 ・モデルの保存	テキスト第4章を事前に読んでください。(2時間) 授業中に解説したプログラミング演習課題を自ら実行し、レポートを提出して下さい。(2時間)	4時間
第8回	対面	分類1：アヤメの判別(1) ・アヤメの花を分類する ・データの前処理 ・モデルの作成と学習	テキスト第5章を事前に読んでください。(2時間) 授業中に解説したプログラミング演習課題を自ら実行し、レポートを提出して下さい。(2時間)	4時間
第9回	対面	分類1：アヤメの判別(2) ・モデルの作成と学習 ・モデルの評価 ・決定木の図の作成	テキスト第5章を事前に読んでください。(2時間) 授業中に解説したプログラミング演習課題を自ら実行し、レポートを提出して下さい。(2時間)	4時間
第10回	対面	回帰1：映画の興行収入の予測(1) ・映画の興行収入を予測する ・データの前処理 ・モデルの作成と学習	テキスト第6章を事前に読んでください。(2時間) 授業中に解説したプログラミング演習課題を自ら実行し、レポートを提出して下さい。(2時間)	4時間
第11回	対面	回帰1：映画の興行収入の予測(2) ・モデルの作成と学習 ・モデルの評価 ・回帰式による影響度の分析	テキスト第6章を事前に読んでください。(2時間) 授業中に解説したプログラミング演習課題を自ら実行し、レポートを提出して下さい。(2時間)	4時間
第12回	対面	分類2：客船沈没事故での生存予測 ・客船沈没事故から生き残れるかを予測 ・データの前処理 ・モデルの作成と学習 ・モデルの評価 ・決定木による特徴量の考察	テキスト第7章を事前に読んでください。(2時間) 授業中に解説したプログラミング演習課題を自ら実行し、レポートを提出して下さい。(2時間)	4時間
第13回	対面	回帰2：住宅の平均価格の予測 ・住宅平均価格を予測する ・データの前処理 ・モデルの作成と学習 ・モデルの評価とチューニング	テキスト第8章を事前に読んでください。(2時間) 授業中に解説したプログラミング演習課題を自ら実行し、レポートを提出して下さい。(2時間)	4時間
第14回	対面	教師あり学習の総合演習	テキスト第9章を事前に読んでください。(2時間)	4時間

		・これまでのまとめ ・練習問題：金融機関のキャンペーン	授業中に解説したプログラミング演習課題を自ら実行し、レポートを提出して下さい。(2時間)	
第15回	オンデマンド	人工知能(AI)の利用例 まとめ	テキスト第1章から第9章を復習してください。(4時間)	4時間

科目名	マーケティングリサーチ特論	開講年度	2024 年度秋学期
担当者	深瀬 澄	配当年次	修士 2
科目ナンバリング	—	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	経済学研究科経営学専攻		
テーマ	市場動向と消費行動の分析手法		
授業の目的及び概要	<p>本講義では、製品開発、広告、市場導入、ブランド化、顧客創造など、マーケティングの各段階の問題を分析対象とします。どれも私たちの日常生活に身近なテーマですが、経営が求める解決策を得るのはそうたやすくありません。生活様式の変化やインターネット・SNS の出現等によって、消費者の情報伝達経路、行動価値観が、これまでとは大きく変化してきているからです。そこで本講義では、マーケティングにおける具体的なシーンでの状況を「経験や勘や度胸 (KKD)」に頼らずに、市場と消費者を読み解くためのさまざまな統計手法を駆使し、科学的な分析力を養い、迅速で的確な「次の一手」を講じていくことを目指します。フリーの統計ソフトを用いて、実際に科学的な分析にトライしながら学びます。</p> <p>実証分析によるアプローチをしている受講生の研究については、本人の希望があれば、学外の学会報告、論文投稿のレベルに引き上げるよう支援もします。</p>		
履修条件・留意点	<p>M1 の「ビジネス統計特論」で学んだ統計手法をベースに、分析手法を拡充してマーケティング戦略に応用します。</p> <p>受講生の要望があれば、授業計画に固執せず、弾力的に研究テーマに対応します。</p> <p>授業計画に記していませんが、人工知能（生成系 AI を除く）を用いたデータ分析にも対応します。</p>		
DP との関連	—		
学修の到達目標	<p>到達目標は、教科書の分析手法を各自の研究で実践し、新しく創造された知見を情報発信すること、即ち以下です。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学会報告を経験する。</li> <li>2. 学外の研究コンテストに論文を投稿する。</li> </ol> <p>上記目標の達成には、以下をクリアすることが必要です。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3. 科学的な思考法力（数式計算も含む）と、解りやすく説明するためのスキルを向上させる。</li> <li>4. 市場と消費者を読み解くためのさまざまなマーケティング・リサーチの手法を修得する。</li> <li>5. そのために、Excel 以外のフリーソフトの操作方法にも慣れる必要がある。</li> </ol>		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	<p>メインとなる学修はゼミ形式によるテキストの輪読であり、理解を助け実践力を養うために、適宜、フリーソフトを利用してパソコン実習も行う。</p> <p>テキストを輪読し、マーケティングの各段階での目的に応じて用いられるリサーチ手法の考え方を学ぶ。</p> <p>毎回、全員に下読みをしてきてもらい、理解できなかった箇所とその理由を授業始めに答えてもらう。</p> <p>報告者はテキストを丸読みするのではなく、報告資料（Word 版）を配り、プロジェクターを使用して、理解できた内容をわかりやすく解説することを期待する。</p> <p>教員より報告に対するフィードバックを行い、必要に応じて補足説明をする。報告の後、マーケティング担当者が現場でとるべき行動について話し合いも行う。</p>		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	照井伸彦・佐藤忠彦『現代マーケティング・リサーチ（新版）』、2022 年 有斐閣 2900 円＋税	ISBN	ISBN978-641-16608-0
参考書	<p>①長畑秀和、『R で学ぶマーケティングリサーチ』、日科技連、2022 年、4200 円＋税</p> <p>②古川一郎・守口剛・阿部誠『マーケティング・サイエンス入門 市場対応の科学的マネジメント（新版）』有斐閣アルマ、2018 年、2100 円＋税</p>	ISBN	<p>①ISBN978-4-8171-9770-2</p> <p>②ISBN978-4-641-12438-7</p>
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		30

	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
	成果発表（口頭・実技）	30
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	【定期試験】WEB 試験	0
	その他（%）	40
	その他の内容	修士論文における実証分析
この科目の受講にあたって	<p>データサイエンス・コースとして、修士論文には、文献研究に加えて、実証研究または理論研究の要素を含むことを期待する。</p> <p>修士レベルの統計手法は、標準の EXCEL には装備されていないため、専門的なソフトウェアの使い方にも習熟する必要がある。</p> <p>実証研究では、分析結果が仮説と乖離し、計画とおりに進捗しない場合もある。</p> <p>苦しい状況下でも研究倫理を遵守して前進させる強靱な精神力と、柔軟な対応力が必要である。</p>	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	第1回 ガイダンス 前期の授業のねらいと進め方など授業の概要を説明する。	【復習】次回からの実習に備え。フリーのソフトウェアRをインストールして、動作を確認しておいて下さい。	4時間
第2回	対面	第2回 データの取得と整理	【予習】テキストの第2章を熟読してきてください（2時間程度）。 【復習】フリーのソフトウェアRで、分析を実習して下さい（2時間程度）。	4時間
第3回	対面	第3回 サンプリング	【予習】テキストの第3章を熟読してきてください（2時間程度）。 【復習】フリーのソフトウェアRで、分析を実習して下さい（2時間程度）。	4時間
第4回	対面	第4回 市場反応分析（I） 回帰モデル 重回帰モデル 弾力性	【予習】テキストの第5章を熟読してきてください（2時間程度）。 【復習】フリーのソフトウェアRで、分析を実習して下さい（2時間程度）。	4時間
第5回	対面	第5回 市場の発見と知覚マップ 因子分析によるブランド力調査	【予習】テキストの第6章を熟読してきてください（2時間程度）。 【復習】フリーのソフトウェアRで、分析を実習して下さい（2時間程度）。	4時間
第6回	対面	第6回 市場セグメンテーションとターゲットिंग STP アプローチ クラスター分析	【予習】テキストの第7章を熟読してきてください（2時間程度）。 【復習】フリーのソフトウェアRで、分析を実習して下さい（2時間程度）。	4時間
第7回	対面	第7回 製品開発 コンジョイント分析による消費効用測定	【予習】テキストの第8章を熟読してきてください（2時間程度）。 【復習】フリーのソフトウェアRで、分析を実習して下さい（2時間程度）。	4時間
第8回	オンデマンド	第8回 新製品の普及 バスモデル	【予習】テキストの第9章を熟読してきてください（2時間程度）。 【復習】フリーのソフトウェアRで、分析を実習して下さい（2時間程度）。	4時間
第9回	対面	第9回 顧客の管理 RFM 分析 分散分析 ロジスティック回帰分析	【予習】テキストの第10章を熟読してきてください（2時間程度）。 【復習】フリーのソフトウェアRで、分析を実習して下さい（2時間程度）。	4時間

第10回	対面	第10回 市場反応分析(Ⅱ) 離散選択モデルによるブランド選択分析	【予習】テキストの第11章を熟読してきてください(2時間程度)。 【復習】フリーのソフトウェアRで、分析を実習して下さい(2時間程度)。	4時間
第11回	対面	第11回 ブランドと属性の同時マップ コレスポネンス分析による顧客のポジショニング	【予習】テキストの第12章を熟読してきてください(2時間程度)。 【復習】フリーのソフトウェアRで、分析を実習して下さい(2時間程度)。	4時間
第12回	対面	第12回 マーケットバスケットとクロスセリング アソシエーション分析による関連商品の紹介	【予習】テキストの第13章を熟読してきてください(2時間程度)。 【復習】フリーのソフトウェアRで、分析を実習して下さい(2時間程度)。	4時間
第13回	対面	第13回 定性調査データの分析 共分散構造分析による顧客満足度分析	【予習】テキストの第章を熟読してきてください(2時間程度)。 【復習】フリーのソフトウェアRで、分析を実習して下さい(2時間程度)。	4時間
第14回	対面	第14回 修士論文の報告と指導	各自の研究の実証分析の部分をバージョンアップして下さい。	4時間
第15回	対面	第15回 修士論文の報告と指導	各自の研究の実証分析の部分をバージョンアップして下さい。	4時間

科目名	ビジネス統計特論	開講年度	2024 年度春学期
担当者	深瀬 澄	配当年次	修士1・2
科目ナンバリング	—	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	経済学研究科経営学専攻		
テーマ	経営学研究、修士論文作成に用いる数量データの分析手法		
授業の目的及び概要	マーケティング・商品開発、行動経済学、人的資源管理、管理会計分野の学術的な実証的研究をするために必要な統計分析手法を「研究リテラシー」として全員が修得する。授業では、経営学分野を中心とする様々な社会科学・人文科学系で共通に用いられている比較的易しい手法について、統計学的な考え方と学術的な理論構築における使用例を解説し、PC 実習でソフトウェアの具体的な操作方法を体得する。社会心理学系のデータを多く扱うが、経営学研究では、意思決定（戦略論）、購買心理（マーケティング）、モチベーション（労務管理）、無形資産（会計学）等々、目に見えない意識・感情等の「構成概念」の分析が極めて重要であるため、最も役立つと考えている。		
履修条件・留意点			
DP との関係	—		
学修の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 因子分析を用いて、インタンジブルな（目に見えない）影響要因の本質を解明し、影響力を測定できる。</li> <li>2. 重回帰分析で生じる統計的な問題に対して適切に対処し、結論を誤らずに導くことができる。</li> <li>3. ある要因の影響について、他の条件の統一が困難な場合でも統計的な調整を施し、複数の集団間を比較して仮説検定をすることができる。</li> <li>4. 原因と結果との因果関係に対して、外部からの影響力（調整効果）の強さを求めることができる。</li> <li>5. 原因と結果との因果関係において、直接効果と他の媒介変数を經由する間接効果（媒介効果）に分解し、それぞれの影響力を求めることができる。</li> </ol>		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義内容に関する質問については、授業内で受け付けて回答する。</li> <li>2. PC 実習の質問については、復習時にオンデマンド動画で対応する。</li> <li>3. テストに対しては、正解と講評を示しフィードバックする。</li> <li>4. 授業改善のためのアンケートを実施し、回答結果に対する改善案を示しフィードバックする。</li> </ol>		
アクティブ・ラーニングの取組み	反転授業／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	『社会心理学のための統計学』、清水裕士・荘島宏二郎、誠信書、2017 年、2800 円＋税	ISBN	ISBN978-4-414-30189-2、C3311
参考書	<ol style="list-style-type: none"> <li>①石川美智子・松本みゆき『教育を科学する力、教師のための量的・質的研究方法』、学術出版界、3000 円＋税</li> <li>②田村正紀『リサーチ・デザイン』白桃書房、2381 円＋税</li> </ol>	ISBN	<ol style="list-style-type: none"> <li>①ISBN978-4-86584-319-4</li> <li>②ISBN978-4-561-26457-6</li> </ol>
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	35	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	30	
	【定期試験】WEB 試験	0	
	その他（%）	0	

	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	英国で研究をされた亀田教授によれば、世界標準の経営学研究は、理論をより厳密化し科学的に考察するために、統計分析を重視する潮流がみられるそうである。現在では、研究手法が従来のケーススタディを中心とする帰納法的アプローチから、仮説を立ててデータを集め、統計処理して分析する演繹的アプローチが主流になっている。ここで、研究テーマは無数にあるが、分析に用いる統計手法は限られていることに気づいて欲しい。つまり分野横断的に分析の流れは類似しており、特にマーケティング分野では消費者心理、購買行動、商品開発、広告効果、デザイン選好等の分析に心理学的な統計手法が積極的に導入されてきたのである。本授業で扱う多変量解析や媒介効果分析等は、Excel で分析できるレベルを超えているため、PC 実習では専門のフリーソフトを用いる。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	第1章 心についての構成概念の測定① 「構成概念」の測定尺度と実習で使うソフトウェア1 「態度」とは、体験より獲得する心の状態で、人の周りの対象に対して、行動を起こしたり変えたりする構成概念である。例えばファンの心理を直接に測定することはできないが、支援願望、憧憬、到達目標、生き甲斐、献身・自己犠牲等の感情の度合いより推定される。このようにそれ自体は直接には観測できないが、現象を説明するのに便利な科学的な仮定を構成概念という。構成概念の測定法を「態度」を事例として講義する。	テキスト pp. 1-18 を理解すること。 【予習】 オンデマンドの講義動画教材を視聴してください（2時間） 【復習】 フリーソフトウェアをインストールして、動作を確認して下さい。（2時間）	4時間
第2回	対面	第1章 心についての構成概念の測定② 「構成概念」の測定尺度と実習で使うソフトウェア2 第1講 「自尊心」の測定方法 第2講 分析に用いる統計手法 第3講 フリーソフトウェアによる PC 実習： データ読み込み、データ変換、基本統計、ヒストグラム、I-T 相関	【予習】 テキスト pp. 1-18 を熟読してくること（2時間） 【復習】 オンデマンドの PC 実習動画教材を視聴し、実習課題を提出して下さい（2時間）	4時間
第3回	対面	第2章 対人認知構造を明らかにする 因子分析1 潜在因子の抽出 無数にある色彩も、わずか3色の原色で構成されている。このように複雑な観測データ（結果）を、少ない潜在因子（原因とする構成概念）に集約し、因子の意味を割り出す統計手法を因子分析という。 「他人に対する印象形成の構造解明」を分析事例とし、因子分析の手法を説明する。ある人物 A の印象について 10 項目の質問を行い得られた回答者 200 人の評価結果より、人の印象がどのような潜在的要因によって形成されているのか、因子分析による構造解明を実習する	テキスト pp. 20-28 を理解すること。 【予習】 オンデマンドの講義動画教材を視聴してください（2時間） 【復習】 オンデマンドの PC 実習動画教材を視聴し、実習課題を提出して下さい（2時間）。	4時間
第4回	対面	第2章 対人認知構造を明らかにする② 因子分析3 因子得点と尺度得点による類型化とポジショニング 人は幼児期の親子関係から愛情を得るための心の仕組み（愛着）を形成し（内的作業モデル）、成人後の自己や他者に対して持つ期待や信念の個人差のことを「成人の	テキスト pp. 29-39 を理解すること。 【予習】 オンデマンドの講義動画教材を視聴してください（2時間） 【復習】 オンデマンドの PC 実習動画教材を視聴し、実習課題を提出して下さい（2時間）。	4時間

		<p>愛着スタイル」という。</p> <p>「成人の愛着スタイル」について、Bartholmew&amp;Hoerwitz(1991)は、「自己に対する自信」と「他者に対する信頼」の測定尺度による座標系を想定し、それぞれの回答者を座標上の因子得点（構成概念の測定値）に位置付け、4タイプに類型化した。ここでは、日本の測定尺度研究事例の短縮版を用いて、サンプルデータの類型化を実習する。</p> <p>第1講 因子分析の理論 第2講 因子分析の手順と分析 第3講 パソコン実習（別の動画） 第4講 マーケティングリサーチへの応用</p>		
第5回	対面	<p>第3章 他者への期待や信念の類型化－尺度の信頼性と妥当性</p> <p>因子分析4 因子分析のディテールよ分析結果の評価</p> <p>前回作成した因子得点を測定する評価尺度の信頼性（安定性と一貫性）をクローンバック <math>\alpha</math> 係数、<math>\omega</math> 係数等を用いて評価し、妥当性（関連基準、内容的、構成概念）についても検討をする。</p> <p>第1項 マーケティングにおける他者理解の意義</p> <p>第2講 愛着スタイルと先行研究</p> <p>第3講 実習の分析内容：「学生の恋人に対する想い」</p> <p>第4講 因子分析3（上級者編）</p> <p>第5講 尺度の信頼性と妥当性の検討</p> <p>第6講 被験者の測定結果</p>	<p>テキスト pp. 40-56 を理解すること。</p> <p>【予習】 オンデマンドの講義動画教材を視聴してください（2時間）</p> <p>【復習】 オンデマンドのPC実習動画教材を視聴し、実習課題を提出して下さい（2時間）</p>	4時間
第6回	対面	<p>STP戦略におけるポジショニング</p> <p>因子分析の応用</p>	<p>テキストにはありません。</p> <p>【予習】 オンデマンドの講義動画教材を視聴してください。</p> <p>【復習】 実習課題を提出して下さい。</p>	4時間
第7回	対面	<p>第4章 似ている人は好き</p> <p>回帰分析1 単回帰分析と分析結果の評価</p> <p>他者のことを好きになることを「対人魅力」という。Byrne&amp;Nelson（1965）による「初対面でも、自分と「態度」が似ている人を好きになる」とする「類似性魅力仮説」の実証事例について、単回帰分析の実習をする。単回帰の既習者も多いだろうが、ここではより専門的に、回帰分析を実行するための前提（残差の独立性・分散均一性・正規性）や予測力の評価にも留意する。</p> <p>第1講 類似性魅力仮説</p> <p>第2講 回帰分析の理論</p> <p>第3講 本日の実習概要</p> <p>第4講 出力結果の解釈</p>	<p>テキスト pp. 57-72 を理解すること。</p> <p>【予習】 オンデマンドの講義動画教材を視聴してください。</p> <p>【復習】 実習課題を提出して下さい。</p>	4時間
第8回	対面	<p>第5章 一緒にいたい気持ちを予測する</p> <p>回帰分析2 重回帰分析に因子分析の結果を利用する</p> <p>「ある対象と関りをもちたい」という心理</p>	<p>テキスト pp. 73-90 を理解すること。</p> <p>【予習】 オンデマンドの講義動画教材を視聴してください</p> <p>【復習】 実習課題を提出して下さい</p>	4時間

		<p>的な強度を「コミットメント」という。Rusbult (1980) は、「対人関係へのコミットメントがどのように形成されるのか」について、「コミットメント＝関係に近づく力-遠避ける力+留めようとする力」の葛藤であるとする「投資モデル」を用いて説明した。しかし、分析に用いるデータは構成概念であり直接には計測できない。そこで因子分析によりこれらの因子得点を測定し、重回帰分析に利用するのである。</p> <p>「コミットメントを予測する投資モデル」において、3つの説明変数の影響力を比較し、多重共線性の問題とその解決について検討する。</p> <p>第1講 インTRODクシヨN  第2講 ラズバルトの投資モデル  第3講 本日の実習概要  第4講 重回帰分析と偏回帰係数  第5講 効果量と標準偏回帰係数  第6講 多重共線性の問題</p>		
第9回	オンデマンド	<p>中間試験の講評と正解</p> <p>第1講 中間試験の講評  第2講 中間試験の正解  第3講 授業改善アンケート結果報告</p>	試験範囲の復習（4時間）	4時間
第10回	対面	<p>共第6章 集団への所属意識を予測するものは①</p> <p>分散分析(ANCOVA)1 効果比較の分析  変数間の因果関係を分析する「共分散構造分析」と、グループ間の平均との差を検定する「共分散分析」は別な分析手法である。共分散分析を学ぶ前の準備として、分散分析を復習しておく。</p> <p>第1講 一要因分散分析  第2講 2要因分散分析とは  第3講 2要因分散分析の理論  第4講 多重比較の補足説明</p>	<p>テキストにはありません</p> <p>【予習】 オンデマンドの講義動画教材を視聴してきてください</p> <p>【復習】 実習課題を提出して下さい（2時間）</p>	4時間
第11回	対面	<p>第6章 集団への所属意識を予測するものは②</p> <p>共分散分析(ANCOVA)2 共分散分析と重回帰分析の関係</p> <p>自分を集団によって定義したり認識することを「社会的アイデンティティ」といい、それは集団内における他集団との区別の意識の有無より実証される。「他社との比較」により、「自社への愛着度」が高まるかを共分散分析により検証する。この分析に必要な不等価群事前事後テスト計画、余剰変数の統制、共変量などの考え方について講義する。「他社との比較」意識による「自社への愛着度」の促進効果について、</p> <p>①実験群と統制群との「共分散分析」、②ダミー変数を用いた重回帰分析によって、分析実習をする。</p> <p>第0講 インターナルマーケティング  第1講 社会的アイデンティティ理論  第2講 第3講 共分散分析  第4講 共分散分析と重回帰分析実験と準</p>	<p>テキスト pp. 91-106 を理解すること。</p> <p>【予習】 オンデマンドの講義動画教材を視聴してきてください。</p> <p>【復習】 実習課題を提出して下さい。</p>	4時間

第12回	対面	<p>第7章 リーダーシップ・スタイルの相乗効果 階層的重回帰分析と調整効果分析1 調整効果分析の概要 三隅(1996)のPM理論では、リーダーシップの機能には、P(Performance:課題達成)機能とM(Maintenance:関係維持)機能の2つがあるとし、リーダーシップ・スタイルを両機能の高低の組合せで4つに類型化した。P型リーダー、M型リーダーによるモチベーション管理において、残る他方の機能による調整効果(相乗効果)について、階層的重回帰分析を用いて検証する。単純勾配変化からも検討する。 なお、この考え方を、新製品の開発、顧客満足度改善等、多方面のマーケティング戦略に応用することを期待している。 第1講 リーダーシップ研究の系譜 第2講 交互作用とは 第3講 PM理論と本日の分析概要 第4講 調整効果分析の理論</p>	<p>テキスト pp. 107-125 を理解すること。 【予習】 オンデマンドの講義動画教材を視聴してください 【復習】 実習課題を提出して下さい</p>	4時間
第13回	対面	<p>第8章 心の文化差を説明する媒介効果分析 媒介効果分析 「自分に対して、人は危害を加えない」という意識を一般的信頼という。Yuuki et al. (2007)は、「流動性が高い環境では一般的信頼が必要だが、人間関係が固定的な環境では不要」、すなわち、「関係流動性が一般的信頼に関する文化の差の要因である」とした。「日米間の一般的信頼の文化の差に、関係流動性が影響している」という仮説について、媒介分析による4段階の手続きを踏む実証を実習する。さらに「日米間の一般的信頼の文化の差における関係流動性による間接効果」の有意性について、①ソバル検定、②ブートストラップ法を用いた検定を実習する。</p>	<p>テキスト pp126-141 を理解すること。 【予習】 オンデマンドの講義動画教材を視聴してください 【復習】 実習課題を提出して下さい</p>	4時間
第14回	対面	<p>定性分析と数量化理論 第1講 定量分析と定性分析 第2講 クロス集計 第3講 <math>\chi^2</math> (カイ2乗) 検定 第4講 残差分析 第5講 周辺分布 第6講 バイズの定理</p>	<p>テキストにはありません。 【予習】 オンデマンドの講義動画教材を視聴してください (2時間) 【復習】 オンデマンドのPC実習動画教材を視聴し。実習課題を提出して下さい (2時間)</p>	4時間
第15回	対面	<p>学期末試験に備えて 中間試験以降の後半の授業で勉強してきたことを総括する。</p>	試験範囲の復習 (4時間)	4時間

科目名	財務会計特論 I	開講年度	2024 年度春学期
担当者	島本 克彦	配当年次	修士 1・2
科目ナンバリング	—	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	経済学研究科経営学専攻		
テーマ	財務会計の基礎理論を学ぶ		
授業の目的及び概要	本講義では、企業の情報開示制度における中心的手段である財務諸表について、当該制度が成立する歴史的背景を理解し、各財務諸表要素の認識、測定および表示・開示に関する基本的思考を中心に検討し、営利組織体の財務会計問題を中心に考察する。そして、財務諸表の経済社会における役立ちと、その作成の基礎にある思考について理解し、現代経済社会における財務会計問題の解決策についてディスカッションできる能力を修得する。		
履修条件・留意点	株式会社の簿記について日商簿記 3 級程度の知識が必要です。留意点として、必ずテキストを購入し、予習・復習を行ってください。なお、理由なき欠席は認めません。		
DP との関連	—		
学修の到達目標	この授業では、企業の情報開示制度における中心的手段である財務諸表について、当該制度が成立する歴史的背景を理解し、各財務諸表要素の認識、測定および表示・開示に関する基本的思考を修得し、財務会計の課題や問題を発見することができる。さらに、比較の対象として非営利組織体の財務会計問題についても取り上げ、現代経済社会における財務会計問題の解決策を提案できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題については、授業中に解説及び講評を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	新・現代会計入門 第 5 版, 伊藤邦雄, 日経 BP 日本経済新聞出版, 2022 年。	ISBN	9. 7845321353e+12
参考書	必要に応じて適宜指示・紹介する。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	50	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	【定期試験】WEB 試験	0	
	その他（%）	0	
その他の内容			
この科目の受講にあたって	この科目を深く理解するためには、簿記の知識が必須となる。各自簿記については学んでおくこと。また、講義に出席し、参考書や配布資料を利用して事前・事後学修を必ず行う。いうまでもないが病気等以外の欠席は禁じる。積極的な演習活動を望む。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	授業の進め方、授業の内容についてのオリエンテーションを行い、序章 現代の企業会計について学修する。	・事前学修は、テキスト・配布資料等を使用して今回のディスカッションに向けた準備（レジュメ作成等）をしてください（2 時間程度）。 ・事後学修は、テキスト・配布資料等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備（レジュメ作成等）をしてください（2 時間程度）。	4 時間

第2回	対面	第1部 第2章 企業会計の本質とフレームワーク(Accounting Today)について学修する。	・事前学修は、テキスト・配布資料等を使用して今回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、テキスト・配布資料等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。	4時間
第3回	対面	第2章 企業会計の本質とフレームワーク(Theory and History)について学修する。	・事前学修は、テキスト・配布資料等を使用して今回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、テキスト・配布資料等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。	4時間
第4回	対面	第3章 会計制度の論理と体系(Accounting Today)について学修する。	・事前学修は、テキスト・配布資料等を使用して今回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、テキスト・配布資料等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。	4時間
第5回	対面	第3章 会計制度の論理と体系(Theory and History)について学修する。	・事前学修は、テキスト・配布資料等を使用して今回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、テキスト・配布資料等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。	4時間
第6回	対面	第4章 企業のディスクロージャー(Accounting Today)について学修する。	・事前学修は、テキスト・配布資料等を使用して今回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、テキスト・配布資料等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。	4時間
第7回	対面	第4章 企業のディスクロージャー(Theory and History)・統合報告について学修する。	・事前学修は、テキスト・配布資料等を使用して今回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、テキスト・配布資料等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。	4時間
第8回	対面	簿記の基礎・基本について学修する。	・事前学修は、テキスト・配布資料等を使用して今回のビデオ授業に向けた準備をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、テキスト・配布資料等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。	4時間
第9回	対面	第5章 損益計算書のパラダイム(Theory and History)について学修する。	・事前学修は、テキスト・配布資料等を使用して今回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、テキスト・配布資料等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。	4時間
第10回	対面	第6章 経営パフォーマンスの測定と表示(Accounting Today)について学修する。	・事前学修は、テキスト・配布資料等を使用して今回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、テキスト・配布資料等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。	4時間
第11回	対面	第6章 経営パフォーマンスの測定と表示(Theory and History)・キャッシュ・フローについて学修する。	・事前学修は、テキスト・配布資料等を使用して今回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。	4時間

			・事後学修は、テキスト・配布資料等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備(レジюме作成等)をしてください(2時間程度)。	
第12回	対面	第Ⅲ部 第7章 貸借対照表のパラダイム(Accounting Today)について学修する。	・事前学修は、テキスト・配布資料等を使用して今回のディスカッションに向けた準備(レジюме作成等)をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、テキスト・配布資料等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備(レジюме作成等)をしてください(2時間程度)。	4時間
第13回	対面	第7章 貸借対照表のパラダイム(Theory and History)について学修する。	・事前学修は、テキスト・配布資料等を使用して今回のディスカッションに向けた準備(レジюме作成等)をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、テキスト・配布資料等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備(レジюме作成等)をしてください(2時間程度)。	4時間
第14回	対面	第8章 資産の会計(Accounting Today)について学修する。	・事前学修は、テキスト・配布資料等を使用して今回のディスカッションに向けた準備(レジюме作成等)をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、テキスト・配布資料等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備(レジюме作成等)をしてください(2時間程度)。	4時間
第15回	オンデマンド	会計の機能について	・事前学修は、テキスト・配布資料等を使用して今回のディスカッションに向けた準備(レジюме作成等)をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、テキスト・配布資料等を使用して振り返る(2時間程度)。	4時間

科目名	財務会計特論Ⅱ	開講年度	2024 年度秋学期
担当者	島本 克彦	配当年次	修士1・2
科目ナンバリング	—	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	経済学研究科経営学専攻		
テーマ	財務会計の基礎理論を学ぶ。		
授業の目的及び概要	本講義では、企業の情報開示制度における中心的手段である財務諸表について、当該制度が成立する歴史的背景を理解し、各財務諸表要素の認識、測定および表示・開示に関する基本的思考を中心に検討し、営利組織体の財務会計問題を中心に考察する。そして、財務諸表の経済社会における役立ちと、その作成の基礎にある思考について理解し、現代経済社会における財務会計問題の解決策についてディスカッションできる能力を修得する。また、会計専門職の制度説明会や最近の会計の動向に関する講演会を講義の一環として行う。		
履修条件・留意点	株式会社の簿記について日商簿記3級程度の知識が必要です。留意点として、必ずテキストを購入し、予習・復習を行い、理由なき欠席は認めません。またこの科目を履修するにあたっては、財務会計特論Ⅰの履修が必要です。財務会計特論Ⅰを履修していることが条件ですので、留意してください。		
DPとの関連	—		
学修の到達目標	この授業では、企業の情報開示制度における中心的手段である財務諸表について、当該制度が成立する歴史的背景を理解し、各財務諸表要素の認識、測定および表示・開示に関する基本的思考を修得し、財務会計の課題や問題を発見することができる。さらに、比較の対象として非営利組織体の財務会計問題についても取り上げ、現代経済社会における財務会計問題の解決策を提案できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題については、授業中に解説及び講評を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	新・現代会計入門 第5版, 伊藤邦雄, 日経BP 日本経済新聞出版, 2022年。	ISBN	9.7845321353e+12
参考書	必要に応じて適宜指示・紹介する。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表(口頭・実技)	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	50	
	【定期試験】筆記試験(対面)	0	
	【定期試験】WEB試験	0	
	その他(%)	0	
その他の内容			
この科目の受講にあたって	この科目を深く理解するためには、簿記の知識が必須となる。各自簿記については学んでおくようする。また、講義に出席し、テキストや配布資料を利用して事前・事後学修を必ず行う。いうまでもないが病気等以外の欠席は禁じる。積極的な演習活動を望む。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	対面	第8章 資産の会計(Theory and History)・減価償却	・事前学修は、テキスト・配布資料等を使用して今回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。	4時間

			・事後学修は、テキスト・配布資料等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。	
第2回	対面	第9章 持分の会計(Theory and History)・負債と資本の区分について学修する。	・事前学修は、テキスト・配布資料等を使用して今回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、テキスト・配布資料等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。	4時間
第3回	対面	第IV章 第10章 金融商品の会計(Accounting Today)について学修する。	・事前学修は、テキスト・配布資料等を使用して今回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、テキスト・配布資料等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。	4時間
第4回	対面	第10章 金融商品の会計(Theory and History)について学修する。	・事前学修は、テキスト・配布資料等を使用して今回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、テキスト・配布資料等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。	4時間
第5回	対面	第11章 従業員給付の会計(Accounting Today)について学修する。	・事前学修は、テキスト・配布資料等を使用して今回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、テキスト・配布資料等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。	4時間
第6回	対面	第11章 従業員給付の会計(Theory and History)について学修する。	・事前学修は、テキスト・配布資料等を使用して今回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、テキスト・配布資料等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。	4時間
第7回	対面	第V章 第12章 連結グループの会計(Accounting Today)について学修する。	・事前学修は、テキスト・配布資料等を使用して今回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、テキスト・配布資料等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。	4時間
第8回	対面	第12章 連結グループの会計(Theory and History)について学修する。	【予習】テキストの「企業倫理と企業の社会的責任(p.180-190)」を事前に読んでおくこと(2時間程度)。 【復習】テキストの「企業倫理と企業の社会的責任(p.180-190)」と配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認すること(2時間程度)。	4時間
第9回	対面	第13章 企業結合・事業分離等の会計(Accounting Today)について学修する(その1)。	・事前学修は、テキスト・配布資料等を使用して今回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、テキスト・配布資料等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。	4時間
第10回	対面	第13章 企業結合・事業分離等の会計(Theory and History)について学修する(その2)。	・事前学修は、テキスト・配布資料等を使用して今回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、テキスト・配布資料等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。	4時間
第11回	対面	第14章 グローバリゼーションの会計(A	・事前学修は、テキスト・配布資料等を使用して今回	4時間

		ccounting Today)について学修する(その1)。	のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、テキスト・配布資料等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。	
第12回	対面	第14章 グローバリゼーションの会計(Theory and History)について学修する(その2)。	・事前学修は、テキスト・配布資料等を使用して今回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、テキスト・配布資料等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。	4時間
第13回	対面	終章 戦略的企業評価に向けてについて学修する。	・事前学修は、テキスト・配布資料等を使用して今回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、テキスト・配布資料等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。	4時間
第14回	対面	終章 戦略的企業評価に向けて一具体的な実例と活用について学修する。伊藤レポートを読む。	・事前学修は、テキスト・配布資料等を使用して今回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、テキスト・配布資料等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。	4時間
第15回	オンデマンド	退職給付会計についての復習、授業全体の振り返り	・事前学修は、テキスト・配布資料等を使用して今回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、テキスト・配布資料等を使用して振り返り、講義で得た知識を確認すること(2時間程度)。	4時間

科目名	税務会計特論	開講年度	2024 年度秋学期
担当者	島本 克彦	配当年次	修士 2
科目ナンバリング	—	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	経済学研究科経営学専攻		
テーマ	税務会計論の研究-所得概念を中心として—		
授業の目的及び概要	本授業における税務会計とは、企業会計の利益計算を前提に、法人税法の規定に従って課税所得および税額を計算するための会計のことをいいます。この授業では、企業会計の理解をふまえて、法人税法の規定にしたがって、法人が課税所得および税額を計算し、申告し、納税する一連の税務会計手続について解説します。また、テーマに関する事例について意見交換を行います。		
履修条件・留意点	日商簿記 3 級程度の基礎・基本知識が必要です。留意点として、テキストを必ず購入し、予習復習を行い、理由なき欠席をしないことです。財務会計特論の科目を履修していることが条件になります。留意してください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html</a>		
学修の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・税法における所得概念について会計との異同点について理解できる。</li> <li>・企業会計と法人税法の関係を理解したうえで、会計上の処理・手続と税務上の処理・手続の異同を説明することができる。</li> <li>・法人税法にしたがって、法人の課税所得および税額を計算することができる。</li> </ul>		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・意見交換については、講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	現代税務会計論〈第 6 版〉, 成道 秀雄 (監修), 坂本 雅士 (著, 編集), 中央経済グループパブリッシング, 2023 年。	ISBN	9.7845024567e+12
参考書	適宜配布、指示します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	30	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	50	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	【定期試験】WEB 試験	0	
	その他（％）	0	
その他の内容	0		
この科目の受講にあたって	この科目を深く理解するためには、簿記の知識と技能が必須です。また財務会計論の基礎理論を学ぶことを推奨します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	授業の概要及び到達目標、成績評価の方法等についてガイダンスを行ったあと、税務会計の概要について学びます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修は、テキスト等を使用して今回のディスカッションに向けた準備（レジュメ作成等）をしてください（2 時間程度）。</li> <li>・事後学修は、テキスト等を使用して振り返り、次のディスカッションに向けた準備（レジュメ作成等）</li> </ul>	4 時間

			をしてください (2 時間程度)。	
第 2 回	対面	課税所得の計算構造—その 1— 第 1 確定決算主義 第 2 企業会計と課税所得計算 ~ 通達の取扱い~ 第 3 「別段の定め」と租税特別措置法	・事前学修は、テキスト等を使用して今回のディスカッションに向けた準備 (レジュメ作成等) をしてください (2 時間程度)。 ・事後学修は、テキスト等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備 (レジュメ作成等) をしてください (2 時間程度)。	4 時間
第 3 回	対面	課税所得の計算構造—その 2— 第 4 税務調整 第 5 益金の範囲 第 6 損金の範囲 第 7 資本等取引	・事前学修は、テキスト・配布資料等を使用して今回のディスカッションに向けた準備 (レジュメ作成等) をしてください (2 時間程度)。 ・事後学修は、テキスト・配布資料等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備 (レジュメ作成等) をしてください (2 時間程度)。	4 時間
第 4 回	対面	補足—会計上・経済上の利益と税務上の所得概念の異同について	・事前学修は、テキスト・配布資料等を使用して今回のディスカッションに向けた準備 (レジュメ作成等) をしてください (2 時間程度)。 ・事後学修は、テキスト・配布資料等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備 (レジュメ作成等) をしてください (2 時間程度)。	4 時間
第 5 回	対面	第 2 章 益金の会計 第 1 収益の計上基準 第 2 工事の請負	・事前学修は、テキスト等を使用して今回のディスカッションに向けた準備 (レジュメ作成等) をしてください (2 時間程度)。 ・事後学修は、テキスト等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備 (レジュメ作成等) をしてください (2 時間程度)。	4 時間
第 6 回	対面	第 2 章 益金の会計 第 3 受取配当等 第 4 有価証券の譲渡損益および評価損益 第 5 その他の収益	・事前学修は、テキスト等を使用して今回のディスカッションに向けた準備 (レジュメ作成等) をしてください (2 時間程度)。 ・事後学修は、テキスト等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備 (レジュメ作成等) をしてください (2 時間程度)。	4 時間
第 7 回	対面	第 3 章 損金の会計 第 1 売上原価 第 2 固定資産の減価償却 第 3 特別償却	・事前学修は、テキスト等を使用して今回のディスカッションに向けた準備 (レジュメ作成等) をしてください (2 時間程度)。 ・事後学修は、テキスト等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備 (レジュメ作成等) をしてください (2 時間程度)。	4 時間
第 8 回	対面	第 3 章 損金の会計 第 4 資本的支出と修繕費 第 5 繰延資産の償却 第 6 給 与 等 第 7 寄 附 金 第 8 交際費等	・事前学修は、テキスト等を使用して今回のディスカッションに向けた準備 (レジュメ作成等) をしてください (2 時間程度)。 ・事後学修は、テキスト等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備 (レジュメ作成等) をしてください (2 時間程度)。	4 時間
第 9 回	対面	第 3 章 損金の会計 第 12 貸倒損失 第 13 使途秘匿金 第 14 租税公課 第 15 その他の費用	・事前学修は、テキスト等を使用して今回のディスカッションに向けた準備 (レジュメ作成等) をしてください (2 時間程度)。 ・事後学修は、テキスト等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備 (レジュメ作成等) をしてください (2 時間程度)。	4 時間
第 10 回	対面	第 4 章 課税所得・税額の計算 第 1 課税所得計算と欠損金 第 2 法人税額の計算 第 3 税額控除	・事前学修は、テキスト等を使用して今回のディスカッションに向けた準備 (レジュメ作成等) をしてください (2 時間程度)。 ・事後学修は、テキスト等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備 (レジュメ作成等) をしてください (2 時間程度)。	4 時間
第 11 回	対面	第 5 章 申告、納付、申告内容の是正等 第 1 申 告	・事前学修は、テキスト等を使用して今回のディスカッションに向けた準備 (レジュメ作成等) をしてくだ	4 時間

		<p>第2 納付および還付 第3 申告内容の是正 第4 不服申立てと訴訟 ～審査請求前置主義～</p>	<p>さい(2時間程度)。 ・事後学修は、テキスト等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。</p>	
第12回	対面	<p>第①章 同族会社課税 第1 同族会社に対する特別な取扱い 第2 同族会社の判定 第3 同族会社に対する特別規定 第4 特定同族会社の特別税率(留保金課税) 第5 留保金課税の計算</p>	<p>・事前学修は、テキスト等を使用して今回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、テキスト等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。</p>	4時間
第13回	対面	<p>第②章 グループ通算制度 第1 グループ通算制度の概要 第2 グループ通算制度の申請と承認の効力等 第3 所得計算および法人税額の計算 第4 グループ通算制度の適用開始・新規加入に伴う資産の時価評価と欠損金の切捨て</p>	<p>・事前学修は、テキスト等を使用して今回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、テキスト等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。</p>	4時間
第14回	対面	<p>第①章 国際課税の概略 ～日本法のしくみ 第1 全世界所得課税と領土内所得課税 第2 納税義務者の区分 第3 国際的二重課税と二重非課税が生じるケース 第4 国際的二重課税と租税回避・国際的二重非課税への対応</p>	<p>・事前学修は、テキスト等を使用して今回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、テキスト等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。</p>	4時間
第15回	オンデマンド	<p>所得概念についての振り返りとまとめ。定期試験について。</p>	<p>・事前学修は、テキスト等を使用して今回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、テキスト等を使用して振り返り、レポート試験の準備をしてください(2時間程度)。</p>	4時間

科目名	コーポレートファイナンス特論	開講年度	2024 年度秋学期
担当者	桑井 淳子	配当年次	修士1・2
科目ナンバリング	—	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	経済学研究科経営学専攻		
テーマ	企業価値を高めるための資金の調達・運用、設備投資等について考える。		
授業の目的及び概要	この授業は、企業における資金の調達・運用、設備投資等に関して包括的に学び、理論を正確に理解した上で、その応用力を身につけることを目的とします。 授業では、テキストを用いて基本的なファイナンスに関する理論、企業における資金調達と資本構成の実態、資本コストの考え方やその算出方法、企業における配当政策、債券と株式の評価方法、現在価値の概念を用いたキャッシュフローの評価方法等に関する知識をスライドや配布プリントを利用して修得します。さらに、テキストの内容についての発表や課題の提出を行っていただき、ディスカッションを行います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	—		
学修の到達目標	基本的なコーポレートファイナンスの考え方を身につけ、グローバル化する現代ビジネスの諸課題に創造的に対応できる力を身につけます。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	テキストの内容についての発表や課題については授業中に講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	『コーポレートファイナンス 戦略と実践』中村慎一、保田隆明著 ダイアモンド社 2019 年	ISBN	ISBN:978-4-478-10541-2
参考書	授業中にお知らせします。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	【定期試験】WEB 試験	0	
	その他（％）	0	
その他の内容			
この科目の受講にあたって	授業を受ける前にスライドや配布プリントなどの配布資料等で予習し、授業準備をしてください。 また発表の際には、発表用資料等の準備をしてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 第1章ファイナンスの全体像	【予習】事前にシラバスに目を通しテキストの第1章の部分を読んでおきましょう。 【復習】テキストの第1章の部分や配布資料等を利用して知識を確認してください。	4 時間
第2回	対面	会計とファイナンス1 B/S と P/L	【予習】事前にテキストの第2章 01 及び 02 の部分や配布資料等を利用して予習しましょう。 【復習】テキストの第2章 01 及び 02 の部分や配布資料等を利用して知識を確認してください。	4 時間

第3回	対面	会計とファイナンス2 キャッシュフロー	【予習】事前にテキストの第2章03~07の部分や配布資料等を利用して予習しましょう。 【復習】テキストの第2章03~07の部分や配布資料等を利用して知識を確認してください。	4時間
第4回	対面	会計とファイナンス3 財務諸表の活用	【予習】事前にテキストの第3章01~03の部分や配布資料等を利用して予習しましょう。 【復習】テキストの第3章01~03の部分や配布資料等を利用して知識を確認してください。	4時間
第5回	対面	会計とファイナンス4 株式市場での評価	【予習】事前にテキストの第3章04~08の部分や配布資料等を利用して予習しましょう。 【復習】テキストの第3章04~08の部分や配布資料等を利用して知識を確認してください。	4時間
第6回	対面	企業価値1 現在価値	【予習】事前にテキストの第4章の部分や配布資料等を利用して予習しましょう。 【復習】テキストの第4章の部分や配布資料等を利用して知識を確認してください。	4時間
第7回	対面	企業価値2 資本コスト	【予習】事前にテキストの第5章の部分や配布資料等を利用して予習しましょう。 【復習】テキストの第5章の部分や配布資料等を利用して知識を確認してください。	4時間
第8回	対面	企業価値3 事業評価	【予習】事前にテキストの第6章01~03の部分や配布資料等を利用して予習しましょう。 【復習】テキストの第6章01~03の部分や配布資料等を利用して知識を確認してください。	4時間
第9回	対面	企業価値4 企業価値	【予習】事前にテキストの第6章04~08の部分や配布資料等を利用して予習しましょう。 【復習】テキストの第6章04~08の部分や配布資料等を利用して知識を確認してください。	4時間
第10回	対面	企業価値5 類似会社比較法	【予習】事前にテキストの第7章の部分や配布資料等を利用して予習しましょう。 【復習】テキストの第7章の部分や配布資料等を利用して知識を確認してください。	4時間
第11回	対面	企業価値6 M&A	【予習】事前にテキストの第8章の部分や配布資料等を利用して予習しましょう。 【復習】テキストの第8章の部分や配布資料等を利用して知識を確認してください。	4時間
第12回	対面	株主還元政策	【予習】事前にテキストの第9章の部分や配布資料等を利用して予習しましょう。 【復習】テキストの第9章の部分や配布資料等を利用して知識を確認してください。	4時間
第13回	対面	IR戦略	【予習】事前にテキストの第10章の部分や配布資料等を利用して予習しましょう。 【復習】テキストの第10章の部分や配布資料等を利用して知識を確認してください。	4時間
第14回	対面	ベンチャーファイナンス	【予習】事前にテキストの第11章の部分や配布資料等を利用して予習しましょう。 【復習】テキストの第11章の部分や配布資料等を利用して知識を確認してください。	4時間
第15回	オンデマンド	まとめ	【予習】企業価値について学修したことをまとめてみましょう。 【復習】企業価値について学修したことを振り返り、応用する際の課題について考えましょう。	4時間

科目名	外国文献研究	開講年度	2024 年度春学期
担当者	古殿 幸雄	配当年次	修士1・2
科目ナンバリング	—	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	経済学研究科経営学専攻		
テーマ	英語書籍を朗読・翻訳しながら、文献調査についての理解を深めます。		
授業の目的及び概要	英語で書かれた書籍を教材として、授業では、その内容を順番に輪読し、日本語に訳して、その内容について議論します。外国の文献を読み解く力を養い、今後の文献調査の方法や意義について修得することを目的とします。		
履修条件・留意点			
DP との関連	—		
学修の到達目標	①経営や経済に関する学術文献の英文を正しく理解できる。 ②経営に関する英語の専門用語を日本語で説明できる。 ③経営の諸問題に対して外国文献を参考にして解決策を探ることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	受講生は教材を事前に分担して日本語に翻訳していきます。その翻訳内容に対して随時フィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし 教材を配布します。	ISBN	なし
参考書	なし	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	30	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	【定期試験】WEB 試験	0	
	その他（%）	20	
その他の内容	担当部分の翻訳・意味理解、考察への評価		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業の進め方や注意事項などの説明を行います。次に、教材に対して、日本語に翻訳する担当部分を決めます。	【予習】教材を読み込み、日本語訳を事前に準備しておいてください（2時間程度）。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて日本語訳を修正してください（2時間程度）。	4 時間
第2回	対面	担当者が、担当する部分を翻訳します。また、その部分の意味を議論します。	【予習】教材を読み込み、日本語訳を事前に準備しておいてください（2時間程度）。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて日本語訳を修正してください（2時間程度）。	4 時間
第3回	対面	担当者が、担当する部分を翻訳します。また、その部分の意味を議論します。	【予習】教材を読み込み、日本語訳を事前に準備しておいてください（2時間程度）。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて	4 時間

			て日本語訳を修正してください(2時間程度)。	
第4回	対面	担当者が、担当する部分を翻訳します。また、その部分の意味を議論します。	【予習】教材を読み込み、日本語訳を事前に準備しておいてください(2時間程度)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて日本語訳を修正してください(2時間程度)。	4時間
第5回	対面	担当者が、担当する部分を翻訳します。また、その部分の意味を議論します。	【予習】教材を読み込み、日本語訳を事前に準備しておいてください(2時間程度)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて日本語訳を修正してください(2時間程度)。	4時間
第6回	対面	担当者が、担当する部分を翻訳します。また、その部分の意味を議論します。	【予習】教材を読み込み、日本語訳を事前に準備しておいてください(2時間程度)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて日本語訳を修正してください(2時間程度)。	4時間
第7回	対面	担当者が、担当する部分を翻訳します。また、その部分の意味を議論します。	【予習】教材を読み込み、日本語訳を事前に準備しておいてください(2時間程度)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて日本語訳を修正してください(2時間程度)。	4時間
第8回	対面	担当者が、担当する部分を翻訳します。また、その部分の意味を議論します。	【予習】教材を読み込み、日本語訳を事前に準備しておいてください(2時間程度)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて日本語訳を修正してください(2時間程度)。	4時間
第9回	対面	担当者が、担当する部分を翻訳します。また、その部分の意味を議論します。	【予習】教材を読み込み、日本語訳を事前に準備しておいてください(2時間程度)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて日本語訳を修正してください(2時間程度)。	4時間
第10回	対面	担当者が、担当する部分を翻訳します。また、その部分の意味を議論します。	【予習】教材を読み込み、日本語訳を事前に準備しておいてください(2時間程度)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて日本語訳を修正してください(2時間程度)。	4時間
第11回	対面	担当者が、担当する部分を翻訳します。また、その部分の意味を議論します。	【予習】教材を読み込み、日本語訳を事前に準備しておいてください(2時間程度)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて日本語訳を修正してください(2時間程度)。	4時間
第12回	対面	担当者が、担当する部分を翻訳します。また、その部分の意味を議論します。	【予習】教材を読み込み、日本語訳を事前に準備しておいてください(2時間程度)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて日本語訳を修正してください(2時間程度)。	4時間
第13回	対面	担当者が、担当する部分を翻訳します。また、その部分の意味を議論します。	【予習】教材を読み込み、日本語訳を事前に準備しておいてください(2時間程度)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて日本語訳を修正してください(2時間程度)。	4時間
第14回	対面	担当者が、担当する部分を翻訳します。また、その部分の意味を議論します。	【予習】教材を読み込み、日本語訳を事前に準備しておいてください(2時間程度)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて日本語訳を修正してください(2時間程度)。	4時間
第15回	オンデマンド	全体の総括を行います。	【予習】これまでの内容を振り返ってください(2時間程度)。 【復習】全体の内容をまとめ、理解を深めてください(2時間程度)。	4時間

科目名	研究指導 I	開講年度	2024 年度春学期、2024 年度秋学期
担当者	糸井 淳子	配当年次	修士 1
科目ナンバリング	—	単位数	4 単位
グレード	—	授業方法	演習
科目区分	経済学研究科経営学専攻		
テーマ	企業金融の課題		
授業の目的及び概要	<p>目的： 企業の財務政策、利益還元政策、M&amp;A 戦略、企業価値評価、ESG 投資、インバスターリレーションズ、コーポレートガバナンス改革、ベンチャー企業の資金調達など、企業金融の諸課題について考察し、解決に向けての方法を探る。</p> <p>概要： 大学院での学修を通じて関心を持ったテーマに基づく調査研究を行うにあたり、大学院における調査研究の方法や修士論文の執筆方法を修得します。 前期は企業金融の諸課題の中から各受講生の研究テーマを決定し、テーマに基づいた修士論文の研究計画書を作成します。 後期は各受講生の研究成果の中間報告を行い、修士論文の 1 次原稿を作成します。</p>		
履修条件・留意点			
DP との関係	本科目と学位授与の方針（DP）との関係については、以下の URL から確認してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html</a>		
学修の到達目標	企業金融を考察・研究することにより各自が設定したテーマに深く取り組むことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	発表や提出ファイル等については授業中に講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	授業中に提示します。	ISBN	授業中に提示します。
参考書	授業中に提示します。	ISBN	授業中に提示します。
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		40
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		0
	成果発表（口頭・実技）		0
	中間試験		0
	【定期試験】レポート試験		0
	【定期試験】筆記試験（対面）		0
	【定期試験】WEB 試験		0
	その他（％）		60
その他の内容	研究計画書、修士論文の一次原稿		
この科目の受講にあたって	コーポレートファイナンス特論の履修を推奨します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	前期のガイダンス 前期の研究指導のねらいと進め方など授業の概要を説明します。	事前学修 シラバスを確認してください。また、企業金融の諸課題について図書館や新聞、ニュース等で情報収集してください。 事後学修 授業の内容を確認してください。	4 時間
第 2 回	オンデ	研究倫理教育	事前学修 インターネットで研究不正とは何か調べ	4 時間

	マンド	解説動画を視聴して、研究倫理に対する自身の心構えを文章にしたための。	る。 事後学修 解説動画を再視聴する。	
第3回	対面	研究方法について1 大学院における資料収集や調査研究の方法を説明します。	事前学修 企業金融の諸課題について図書館や新聞、ニュース等で情報収集してください。 事後学修 授業の内容をもとに、企業金融の諸課題について図書館や新聞、ニュース等で情報収集し、関心のあるテーマを探してください。	4時間
第4回	対面	研究方法について2 修士論文の執筆方法を説明します。	事前学修 企業金融の諸課題について図書館や新聞、ニュース等で情報収集し、関心のあるテーマを探してください。 事後学修 企業金融の諸課題について図書館や新聞、ニュース等で情報収集し、関心のあるテーマを探してください。	4時間
第5回	対面	テキスト輪読1	事前学修 テキストの範囲について準備をしておいてください。 事後学修 授業で得た知識を整理しておきましょう。	4時間
第6回	対面	テキスト輪読2	事前学修 テキストの範囲について準備をしておいてください。 事後学修 授業で得た知識を整理しておきましょう。	4時間
第7回	対面	テキスト輪読3	事前学修 テキストの範囲について準備をしておいてください。 事後学修 授業で得た知識を整理しておきましょう。	4時間
第8回	対面	テキスト輪読4	事前学修 テキストの範囲について準備をしておいてください。 事後学修 授業で得た知識を整理しておきましょう。	4時間
第9回	対面	修士論文研究計画1 修士論文研究計画の作成指導を行います。	事前学修 授業で報告できるように、事前に修士論文の作成計画を準備してください。 事後学修 担当教員による指導内容を確認して、修士論文の計画を修正してください。	4時間
第10回	対面	修士論文研究計画2 修士論文研究計画の作成指導を行います。	事前学修 授業で報告できるように、事前に修士論文の作成計画を準備してください。 事後学修 担当教員による指導内容を確認して、修士論文の計画を修正してください。	4時間
第11回	対面	修士論文研究計画3 修士論文研究計画の作成指導を行います。	事前学修 授業で報告できるように、事前に修士論文の作成計画を準備してください。 事後学修 担当教員による指導内容を確認して、修士論文の計画を修正してください。	4時間
第12回	対面	レポート報告1 レポートの発表とディスカッションを行います。	事前学修 授業で報告できるように、事前にレポートを作成してください。 事後学修 担当教員による指導内容を確認して、レポートを修正してください。	4時間
第13回	対面	レポート報告2 レポートの発表とディスカッションを行います。	事前学修 授業で報告できるように、事前にレポートを作成してください。 事後学修 担当教員による指導内容を確認して、レポートを修正してください。	4時間
第14回	対面	レポート報告3 レポートの発表とディスカッションを行います。	事前学修 授業で報告できるように、事前にレポートを作成してください。 事後学修 担当教員による指導内容を確認して、レポートを修正してください。	4時間
第15回	対面	前期の総括	事前学修 前期の研究成果を振り返りましょう。 事後学修 後期に向けて計画を立てましょう。	4時間
第16回	対面	後期のガイダンス 後期の授業の進め方の説明を行います。	事前学習 これまでに収集した文献を整理し、レジメを作成・印刷して、授業で報告してください。	4時間

		また、収集した文献について検討を行います。	事後学習 担当教員による指導内容を確認して、修正等を行ってください。	
第17回	対面	関連文献の輪読1 研究テーマに関連する文献の購読と発表、ディスカッションを行います。	事前学習 事前に関連文献を理解したうえで、レジメを作成・印刷し、授業で報告してください。 事後学習 担当教員による指導内容を確認して、修正等を行ってください。	4時間
第18回	対面	関連文献の輪読2 研究テーマに関連する文献の購読と発表、ディスカッションを行います。	事前学習 事前に関連文献を理解したうえで、レジメを作成・印刷し、授業で報告してください。 事後学習 担当教員による指導内容を確認して、修正等を行ってください。	4時間
第19回	対面	関連文献の輪読3 研究テーマに関連する文献の購読と発表、ディスカッションを行います。	事前学習 事前に関連文献を理解したうえで、レジメを作成・印刷し、授業で報告してください。 事後学習 担当教員による指導内容を確認して、修正等を行ってください。	4時間
第20回	対面	先行研究のサーベイ1 研究テーマに関連する先行研究のサーベイと発表を行います。	事前学習 事前に関連文献を理解したうえで、レジメを作成・印刷し、授業で報告してください。 事後学習 担当教員による指導内容を確認して、修正を行ってください。	4時間
第21回	対面	先行研究のサーベイ2 研究テーマに関連する先行研究のサーベイと発表を行います。	事前学習 事前に関連文献を理解したうえで、レジメを作成・印刷し、授業で報告してください。 事後学習 担当教員による指導内容を確認して、修正を行ってください。	4時間
第22回	対面	先行研究のサーベイ3 研究テーマに関連する先行研究のサーベイと発表を行います。	事前学習 事前に関連文献を理解したうえで、レジメを作成・印刷し、授業で報告してください。 事後学習 担当教員による指導内容を確認して、修正を行ってください。	4時間
第23回	対面	先行研究のサーベイ4 研究テーマに関連する先行研究のサーベイと発表を行います。	事前学習 事前に関連文献を理解したうえで、レジメを作成・印刷し、授業で報告してください。 事後学習 担当教員による指導内容を確認して、修正を行ってください。	4時間
第24回	対面	修士論文1次原稿の発表1	事前学習 事前に1次原稿をまとめ、レジメを作成・印刷し、授業で報告してください。 事後学習 担当教員による指導内容を確認して、修正を行ってください。	4時間
第25回	対面	修士論文1次原稿の発表2	事前学習 事前に1次原稿をまとめ、レジメを作成・印刷し、授業で報告してください。 事後学習 担当教員による指導内容を確認して、修正を行ってください。	4時間
第26回	対面	修士論文1次原稿の発表3	事前学習 事前に1次原稿をまとめ、レジメを作成・印刷し、授業で報告してください。 事後学習 担当教員による指導内容を確認して、修正を行ってください。	4時間
第27回	対面	一次原稿修正版1 一次原稿修正版の発表を行います。	事前学習 事前に一次原稿修正版をまとめ、レジメを作成・印刷し、授業で報告してください。 事後学習 担当教員による指導内容を確認して、修正を行ってください。	4時間
第28回	対面	一次原稿修正版2 一次原稿修正版の発表を行います。	事前学習 事前に一次原稿修正版をまとめ、レジメを作成・印刷し、授業で報告してください。 事後学習 担当教員による指導内容を確認して、修正を行ってください。	4時間
第29回	対面	一次原稿修正版3 一次原稿修正版の発表を行います。	事前学習 事前に一次原稿修正版をまとめ、レジメを作成・印刷し、授業で報告してください。 事後学習 担当教員による指導内容を確認して、修正を行ってください。	4時間

			正を行ってください。	
第30回	オンデ マンド	授業全体の総括を行います。	事前学修 1年間の研究成果を振り返りましょう。 事後学修 次年度に向けて計画を立てましょう。	4時間

科目名	研究指導 I	開講年度	2024 年度春学期、2024 年度秋学期
担当者	引地 夏奈子	配当年次	修士 1
科目ナンバリング	—	単位数	4 単位
グレード	—	授業方法	演習
科目区分	経済学研究科経営学専攻		
テーマ	現代の財務会計にかかわる問題領域を幅広く理解し、各自の問題意識から会計理論を考察する。		
授業の目的及び概要	<p>「研究指導 I」は 1 年次の必修科目である。前期においては、調査研究の方法や修士論文の作成方法について学修する。また、修士論文のテーマや構成、研究計画などを作成していく。後期においては、各々研究の成果を何度か中間発表を行い、互いに議論しあい、修士論文の一次原稿を作成することを目的とする。</p> <p>本演習（研究指導）は、財務会計の知識に基づき、コンバージェンス、アドプション、エンドースメント等、様々に表現されているわが国制度会計を理解するとともに、その変化が正当化される会計理論について考察することを目的とし、研究指導を行う。ただ理論を学ぶだけではなく、適宜最新のケーススタディを織り交ぜながら、ディスカッションをおこなう。</p>		
履修条件・留意点			
DP との関連	—		
学修の到達目標	本演習（研究指導）は、大学院における調査研究の方法や修士論文の作成方法について修得するとともに、コンバージェンス、アドプション、エンドースメント等、様々な言葉で表現されているわが国制度会計制度に関する諸問題について考察する力を身につける。また、ケーススタディを織り交ぜることから、理論と実務を結び付け、深い専門知識を備えた人材に必要な能力を獲得する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	修士論文の作成計画や一次原稿については、添削して返却する。課題に対してはフィードバックを実施する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しない。適宜各自の研究テーマに合わせて指示致します。	ISBN	なし
参考書	適宜各自の研究テーマに合わせて指示致します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	【定期試験】WEB 試験	0	
	その他（%）	60	
その他の内容	修士論文の一次原稿		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	前期の授業のねらいと進め方など授業の概要を説明する	<p>【予習】この授業のシラバスを事前によく読んでおいて下さい。</p> <p>【復習】授業後に、ガイダンスの内容について復習を</p>	4 時間

			しておいて下さい。	
第2回	オンデマンド	研究倫理教育 解説動画を視聴して、研究倫理に対する自身の心構えを文章にしたためる。	【予習】 インターネットで研究不正とは何か調べる。 【復習】 解説動画を再視聴する。	4時間
第3回	対面	修士論文の執筆方法を説明する。	【予習】 修士論文の執筆方法に関する配布資料を読んでおいてください。 【復習】 授業後に、修士論文の執筆方法に関する配布資料を復習してください。	4時間
第4回	対面	財務会計に関する教材の講読、受講生による発表、ディスカッション	【予習】 教材に基づく発表資料を事前に準備しておいて下さい。 【復習】 授業後に、担当教員からのコメントに基づいて資料を修正してください。	4時間
第5回	対面	財務会計に関する教材の講読、受講生による発表、ディスカッション	【予習】 教材に基づく発表資料を事前に準備しておいて下さい。 【復習】 授業後に、担当教員からのコメントに基づいて資料を修正してください。	4時間
第6回	対面	財務会計に関する教材の講読、受講生による発表、ディスカッション	【予習】 教材に基づく発表資料を事前に準備しておいて下さい。 【復習】 授業後に、担当教員からのコメントに基づいて資料を修正してください。	4時間
第7回	対面	財務会計に関する研究テーマ・分析方法の検討	【予習】 研究テーマ・分析方法の決定に関する配布資料を事前によく読んでおいてください。 【復習】 授業後に、研究テーマ・分析方法の決定に関する配布資料を復習してください。	4時間
第8回	対面	修士論文作成計画の作成指導	【予習】 修士論文作成計画を事前に準備しておいてください。 【復習】 授業後に、担当教員からのコメントに基づいて、論文作成計画を修正してください。	4時間
第9回	対面	修士論文作成計画の作成指導	【予習】 修士論文作成計画を事前に準備しておいてください。 【復習】 授業後に、担当教員からのコメントに基づいて、論文作成計画を修正してください。	4時間
第10回	対面	修士論文作成計画の作成指導	【予習】 修士論文作成計画を事前に準備しておいてください。 【復習】 授業後に、担当教員からのコメントに基づいて、論文作成計画を修正してください。	4時間
第11回	対面	修士論文作成計画の作成指導	【予習】 修士論文作成計画を事前に準備しておいてください。 【復習】 授業後に、担当教員からのコメントに基づいて、論文作成計画を修正してください。	4時間
第12回	対面	財務会計に関する研究テーマに基づくレポートの発表・ディスカッション	【予習】 レポートを事前に作成しておいてください。 【復習】 授業後に、担当教員からのコメントに基づいてレポートを修正してください。	4時間
第13回	対面	財務会計に関する研究テーマに基づくレポートの発表・ディスカッション	【予習】 レポートを事前に作成しておいてください。 【復習】 授業後に、担当教員からのコメントに基づいてレポートを修正してください。	4時間
第14回	対面	財務会計に関する研究テーマに基づくレポートの発表・ディスカッション	【予習】 レポートを事前に作成しておいてください。 【復習】 授業後に、担当教員からのコメントに基づいてレポートを修正してください。	4時間
第15回	オンデマンド	前期の授業の総括	【予習】 これまでの授業の配布資料等を事前によく読んでおいてください。 【復習】 授業後に、これまでの授業の配布資料等を再度よく読んでおいてください。	4時間
第16回	対面	前期の復習、後期の授業のねらいと進め方など授業の概要を説明する。	【予習】 この授業のシラバスを事前によく読み、前期に学修した範囲の復習をしてください。 【復習】 授業後に、再度前期の演習内容、ガイダンス、前期に学修した範囲について復習してください。	4時間

第17回	対面	財務会計に関する研究テーマに関連する教材の講読、受講生による発表	【予習】研究テーマに関連する各種文献・資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業後に、研究テーマ関連する各種文献等について復習してください。	4時間
第18回	対面	財務会計に関する研究テーマに関連する教材の講読、受講生による発表	【予習】研究テーマに関連する各種文献・資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業後に、研究テーマ関連する各種文献等について復習してください。	4時間
第19回	対面	財務会計に関する研究テーマに関連する教材の講読、受講生による発表	【予習】研究テーマに関連する各種文献・資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業後に、研究テーマ関連する各種文献等について復習してください。	4時間
第20回	対面	財務会計に関する研究テーマに関連する教材の講読、受講生による発表	【予習】研究テーマに関連する各種文献・資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業後に、研究テーマ関連する各種文献等について復習してください。	4時間
第21回	対面	財務会計に関する研究テーマに関連する教材の講読、受講生による発表	【予習】研究テーマに関連する各種文献・資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業後に、研究テーマ関連する各種文献等について復習してください。	4時間
第22回	対面	財務会計に関する研究テーマに関連する教材の講読、受講生による発表	【予習】研究テーマに関連する各種文献・資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業後に、研究テーマ関連する各種文献等について復習してください。	4時間
第23回	対面	財務会計に関する研究テーマに関連する教材の講読、受講生による発表	【予習】研究テーマに関連する各種文献・資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業後に、研究テーマ関連する各種文献等について復習してください。	4時間
第24回	対面	一次原稿の発表、ディスカッション	【予習】一次原稿の発表資料を事前に準備しておいて下さい。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて、現行を修正してください。	4時間
第25回	対面	一次原稿の発表、ディスカッション	【予習】一次原稿の発表資料を事前に準備しておいて下さい。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて、現行を修正してください。	4時間
第26回	対面	一次原稿の発表、ディスカッション	【予習】一次原稿の発表資料を事前に準備しておいて下さい。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて、現行を修正してください。	4時間
第27回	対面	一次原稿に関する指導教員との質疑応答・追加・修正	【予習】一次原稿の発表資料を事前に準備しておいて下さい。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて、現行を修正してください。	4時間
第28回	対面	一次原稿に関する指導教員との質疑応答・追加・修正	【予習】一次原稿の発表資料を事前に準備しておいて下さい。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて、現行を修正してください。	4時間
第29回	対面	一次原稿に関する指導教員との質疑応答・追加・修正	【予習】一次原稿の発表資料を事前に準備しておいて下さい。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて、現行を修正してください。	4時間
第30回	オンデマンド	授業全体の総括	【予習】これまでの授業回の配布資料等を事前によく読んでおいてください。	4時間

			【復習】授業後に、これまでの授業回の配布資料等について総復習してください。	
--	--	--	---------------------------------------	--

科目名	研究指導 I	開講年度	2024 年度春学期、2024 年度秋学期
担当者	岩見 真希	配当年次	修士 1
科目ナンバリング	—	単位数	4 単位
グレード	—	授業方法	演習
科目区分	経済学研究科経営学専攻		
テーマ	修士論文の作成に向けて		
授業の目的及び概要	1 年間をかけて修士論文を執筆することを目的とします。 「研究指導 I」の履修の際に確定した個々の受講生の研究課題に基づきつつ、一年間をかけて修士論文の作成に向けて、段階に応じた指導を行います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html</a>		
学修の到達目標	適切な課題設定と研究方法に基づく、論理性のある修士論文を書き上げることを目標とします。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	受講生の進捗状況に応じて、コメントや添削等を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	使用しません	ISBN	なし
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	【定期試験】WEB 試験	0	
	その他（％）	80	
	その他の内容	修士論文の評価	
この科目の受講にあたって	少しずつ行う学習・研究の積み重ねで、修士論文が完成することを目指します。 毎週、きちんと進めることを心がけてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	1 年次の総括と、今後の研究の進め方	事前に 1 年次に作成した一次原稿を読み直して、今後の研究の進め方を検討し、発表の準備をしてください。 事後には、研究の進め方を再検討してください。	4 時間
第 2 回	オンデマンド	研究倫理教育 解説動画を視聴して、研究倫理に対する自身の心構えを文章にしたためる。	【予習】インターネットで研究不正とは何か調べる。 【復習】解説動画を再視聴する。	4 時間
第 3 回	対面	各種文献や資料の検討（1） 各自の報告に基づいて、ディスカッションします。	事前に、各自のテーマに関わる文献を読み、また、資料の調査・整理を行い、報告の準備をしてください。 事後には、課題を整理して、どのように進めるべきかを検討してください。	4 時間
第 4 回	対面	各種文献や資料の検討（2）	事前に、各自のテーマに関わる文献を読み、また、資	4 時間

		各自の報告に基づいて、ディスカッションします。	料の調査・整理を行い、報告の準備をしてください。事後には、課題を整理して、どのように進めるべきかを検討してください。	
第5回	対面	各種文献や資料の検討(3) 各自の報告に基づいて、ディスカッションします。	事前に、各自のテーマに関わる文献を読み、また、資料の調査・整理を行い、報告の準備をしてください。事後には、課題を整理して、どのように進めるべきかを検討してください。	4時間
第6回	対面	各種文献や資料の検討(4) 各自の報告に基づいて、ディスカッションします。	事前に、各自のテーマに関わる文献を読み、また、資料の調査・整理を行い、報告の準備をしてください。事後には、課題を整理して、どのように進めるべきかを検討してください。	4時間
第7回	対面	各種文献や資料の検討(5) 各自の報告に基づいて、ディスカッションします。	事前に、各自のテーマに関わる文献を読み、また、資料の調査・整理を行い、報告の準備をしてください。事後には、課題を整理して、どのように進めるべきかを検討してください。	4時間
第8回	対面	各種文献や資料の検討(6) 各自の報告に基づいて、ディスカッションします。	事前に、各自のテーマに関わる文献を読み、また、資料の調査・整理を行い、報告の準備をしてください。事後には、課題を整理して、どのように進めるべきかを検討してください。	4時間
第9回	対面	各種文献や資料の検討(7) 各自の報告に基づいて、ディスカッションします。	事前に、各自のテーマに関わる文献を読み、また、資料の調査・整理を行い、報告の準備をしてください。事後には、課題を整理して、どのように進めるべきかを検討してください。	4時間
第10回	対面	各種文献や資料の検討(8) 各自の報告に基づいて、ディスカッションします。	事前に、各自のテーマに関わる文献を読み、また、資料の調査・整理を行い、報告の準備をしてください。事後には、課題を整理して、どのように進めるべきかを検討してください。	4時間
第11回	対面	各種文献や資料の検討(9) 各自の報告に基づいて、ディスカッションします。	事前に、各自のテーマに関わる文献を読み、また、資料の調査・整理を行い、報告の準備をしてください。事後には、課題を整理して、どのように進めるべきかを検討してください。	4時間
第12回	対面	各種文献や資料の検討(10) 各自の報告に基づいて、ディスカッションします。	事前に、各自のテーマに関わる文献を読み、また、資料の調査・整理を行い、報告の準備をしてください。事後には、課題を整理して、どのように進めるべきかを検討してください。	4時間
第13回	対面	各種文献や資料の検討(11) 各自の報告に基づいて、ディスカッションします。	事前に、各自のテーマに関わる文献を読み、また、資料の調査・整理を行い、報告の準備をしてください。事後には、課題を整理して、どのように進めるべきかを検討してください。	4時間
第14回	対面	修士論文の中間原稿の発表(1) 中間原稿を発表してもらい、ディスカッションします。	事前に、一次原稿を修正・加筆して、中間原稿としてまとめて、発表の準備をしてください。事後には、ディスカッションの結果を受けて、発表内容を修正してください。	4時間
第15回	対面	修士論文の中間原稿の発表(2) 中間原稿を発表してもらい、ディスカッションします。	事前に、一次原稿を修正・加筆して、中間原稿としてまとめて、発表の準備をしてください。事後には、ディスカッションの結果を受けて、発表内容を修正してください。	4時間
第16回	対面	夏休み中の振り返りと、今後の進め方の検討	事前に、春学期までの総括、および、夏季休暇中に進めた研究について、報告の準備をしてください。事後には、ディスカッションを受けて、今後の進め方を再検討してください。	4時間
第17回	対面	各種文献や資料の検討(12) 各自の報告に基づいて、ディスカッションします。	事前に、各自のテーマに関わる文献を読み、また、資料の調査・整理を行い、報告の準備をしてください。事後には、課題を整理して、どのように進めるべきかを検討してください。	4時間
第18回	対面	各種文献や資料の検討(13) 各自の報告に基づいて、ディスカッション	事前に、各自のテーマに関わる文献を読み、また、資料の調査・整理を行い、報告の準備をしてください。	4時間

		します。	事後には、課題を整理して、どのように進めるべきかを検討してください。	
第19回	対面	各種文献や資料の検討(14) 各自の報告に基づいて、ディスカッション します。	事前に、各自のテーマに関わる文献を読み、また、資料の調査・整理を行い、報告の準備をしてください。 事後には、課題を整理して、どのように進めるべきかを検討してください。	4時間
第20回	対面	各種文献や資料の検討(15) 各自の報告に基づいて、ディスカッション します。	事前に、各自のテーマに関わる文献を読み、また、資料の調査・整理を行い、報告の準備をしてください。 事後には、課題を整理して、どのように進めるべきかを検討してください。	4時間
第21回	対面	各種文献や資料の検討(16) 各自の報告に基づいて、ディスカッション します。	事前に、各自のテーマに関わる文献を読み、また、資料の調査・整理を行い、報告の準備をしてください。 事後には、課題を整理して、どのように進めるべきかを検討してください。	4時間
第22回	対面	各種文献や資料の検討(17) 各自の報告に基づいて、ディスカッション します。	事前に、各自のテーマに関わる文献を読み、また、資料の調査・整理を行い、報告の準備をしてください。 事後には、課題を整理して、どのように進めるべきかを検討してください。	4時間
第23回	対面	各種文献や資料の検討(18) 各自の報告に基づいて、ディスカッション します。	事前に、各自のテーマに関わる文献を読み、また、資料の調査・整理を行い、報告の準備をしてください。 事後には、課題を整理して、どのように進めるべきかを検討してください。	4時間
第24回	対面	修士論文の最終原稿の発表(1)	事前に、最終原稿を執筆して、発表の準備をしてください。 事後には、ディスカッションを通した方向に、原稿を追加・修正してください。	4時間
第25回	対面	修士論文の最終原稿の発表(2)	事前に、最終原稿を執筆して、発表の準備をしてください。 事後には、ディスカッションを通した方向に、原稿を追加・修正してください。	4時間
第26回	対面	修士論文の最終原稿の修正(1)	事前に、最終原稿の追加・修正を行なって、発表の準備をしてください。 事後には、ディスカッションを通した方向に、原稿を追加・修正してください。	4時間
第27回	対面	修士論文の最終原稿の修正(2)	事前に、最終原稿の追加・修正を行なって、発表の準備をしてください。 事後には、ディスカッションを通した方向に、原稿を追加・修正してください。	4時間
第28回	対面	修士論文の最終原稿の修正(3)	事前に、最終原稿の追加・修正を行なって、発表の準備をしてください。 事後には、ディスカッションを通した方向に、原稿を追加・修正してください。	4時間
第29回	対面	修士論文の最終原稿の修正(4)	事前に、最終原稿の追加・修正を行なって、発表の準備をしてください。 事後には、ディスカッションを通した方向に、原稿を追加・修正してください。	4時間
第30回	オンデマンド	まとめ	最終原稿の追加・修正を完了してください。	4時間

科目名	研究指導 I	開講年度	2024 年度春学期、2024 年度秋学期
担当者	城戸 亮	配当年次	修士 1
科目ナンバリング	—	単位数	4 単位
グレード	—	授業方法	演習
科目区分	経済学研究科経営学専攻		
テーマ	日本企業等の人材・組織マネジメントについて考える。		
授業の目的及び概要	<p>この研究指導では、経営資源である人材を活かし、組織の力を最大化する観点から、日本企業等の人材・組織マネジメントに関する様々な課題、対応策等について学修する。</p> <p>前期には、すべての受講生に共通の学修内容として、文献に基づく学修に加え、大学院における調査研究の方法、修士論文の執筆方法について、修得する。そして、人材・組織マネジメントに関連する研究テーマを決定し、研究計画を作成する。</p> <p>後期には、すべての受講生に共通の学修内容として、文献に基づく学修に加え、先行研究論文に基づく学修を進め、人材・組織マネジメントに関する最近の研究動向をレビューします。さらに研究テーマに関連する文献や資料の調査を行うとともに、修士論文の一次原稿を作成し、発表、討論等を通じて修正していく。</p>		
履修条件・留意点			
DP との関係	—		
学修の到達目標	<p>大学院における調査研究の方法や修士論文の作成方法について修得する。</p> <p>問題意識や関心がある研究テーマを設定し、修士論文の研究計画を策定し、修士論文の一次原稿を作成することができる。</p> <p>経営資源である人材を活かし、組織の力を最大化することに必要な知識を身につける。</p>		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	演習での発表・報告は、その都度コメントし、指導する。提出物については、修正すべき点等を明示し、返却する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし (注) 第 1 回ガイダンスで説明する。	ISBN	なし
参考書	<p>①マネジメント・テキスト 人事管理入門(新装版)、今野浩一郎・佐藤博樹、日本経済新聞出版、2022 年</p> <p>②経験から学ぶ人的資源管理 新版、上林憲雄・厨子直之・森田雅也、有斐閣、2018 年</p> <p>③キャリアで語る経営組織【第 2 版】 一個人の論理と組織の論理一、稲葉祐之・井上龍彦・鈴木竜太・山下勝、有斐閣、2022 年</p>	ISBN	<p>①9784532135287</p> <p>②9784641184398</p> <p>③9784641222014</p>
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		30
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		0
	成果発表（口頭・実技）		30
	中間試験		0
	【定期試験】レポート試験		0
	【定期試験】筆記試験（対面）		0
	【定期試験】WEB 試験		0
	その他（％）		40
	その他の内容	期末提出の修士論文一次原稿及び研究計画書	
この科目の受講にあたって	自分の研究テーマについては、常に最新の情報を吸収するように努めること。学術論文だけではなく、ニュースや一般雑誌などにも関連する資料があり、幅広く目を通すこと。また、他の受講生の発表についても、自らの研究テーマとは異なるが、切り口、視点、関連情報など、自		

分の研究にも参考になる部分が多いので、議論などに積極的に参加すること。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	前期の演習の進め方について、説明する。 また、自己紹介、自分の研究テーマ（候補）に関する現在に至るまでの取り組み状況について、報告すること。	【予習】シラバスを読み、自分の研究テーマ（候補）に関する現在までの取り組みの状況について、資料等整理し、演習で説明できるようにしておく。 【復習】演習での内容等を踏まえ、研究テーマの選定、方向性等について、検討を進める。	4時間
第2回	オンデマンド	研究倫理教育 解説動画を視聴して、研究倫理に対する自身の心構えを文章にしたためる。	【予習】インターネットで研究不正とは何か調べる。 【復習】解説動画を再視聴する。	4時間
第3回	対面	大学院における資料収集や調査研究の方法、修士論文の執筆方法を説明する。	【予習】調査研究の方法や資料収集に関する配布資料等を読み、研究計画の作成準備を行う。修士論文の執筆方法に関して調べて、修士論文の執筆作業についてイメージしておくこと。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、研究計画書の作成、修士論文の執筆等の具体的な作業を始める。	4時間
第4回	対面	人材・組織マネジメントについての諸問題に関する文献の購読、受講生による発表、議論	【予習】課題の論文等を読み、レジュメを作成し、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、課題の論文等を理解する。	4時間
第5回	対面	人材・組織マネジメントについての諸問題に関する文献の購読、受講生による発表、議論	【予習】課題の論文等を読み、レジュメを作成し、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、課題の論文等を理解する。	4時間
第6回	対面	人材・組織マネジメントについての諸問題に関する文献の購読、受講生による発表、議論	【予習】課題の論文等を読み、レジュメを作成し、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、課題の論文等を理解する。	4時間
第7回	対面	人材・組織マネジメントについての諸問題に関する研究テーマ、分析方法の検討	【予習】自分の研究テーマ、分析方法を検討し、報告できるよう準備する。 【復習】指導内容を踏まえ、研究テーマの選定、分析方法、研究の方向性等について、適宜修正の上、検討を進める。	4時間
第8回	対面	修士論文の研究計画の検討	【予習】論文の研究計画について、検討する。 【復習】演習での説明を踏まえ、検討を進める。	4時間
第9回	対面	修士論文の研究計画の発表	【予習】論文の研究計画について、検討する。 【復習】演習での討議を踏まえ、検討を進める。	4時間
第10回	対面	修士論文の研究計画の発表	【予習】論文の研究計画について、検討する。 【復習】演習での討議を踏まえ、検討を進める。	4時間
第11回	対面	修士論文の研究計画の発表	【予習】論文の研究計画について、検討する。 【復習】演習での討議を踏まえ、検討を進める。	4時間
第12回	対面	研究テーマに基づくレポートの発表、議論	【予習】発表するレポートを作成し、発表の準備を行う。 【復習】演習での討議を踏まえ、研究テーマの検討を進める。	4時間
第13回	対面	研究テーマに基づくレポートの発表、議論	【予習】発表するレポートを作成し、発表の準備を行う。 【復習】演習での討議を踏まえ、研究テーマの検討を進める。	4時間
第14回	対面	研究テーマに基づくレポートの発表、議論	【予習】発表するレポートを作成し、発表の準備を行う。 【復習】演習での討議を踏まえ、研究テーマの検討を進める。	4時間

第15回	対面	前期の総括	【予習】修士論文の作成計画を完成させる。 【復習】修士論文の作成計画を踏まえ、修士論文の一次原稿の作成準備を始める。	4時間
第16回	対面	後期の演習の進め方について、説明する。 また、研究テーマに関する夏休みの進捗状況について、報告する。	【予習】研究テーマに関する夏休みの進捗状況について整理し、演習で説明できるようにしておく。 【復習】指導内容等を踏まえ、研究の検討を進める。	4時間
第17回	オンデマンド	10月提出の研究計画書の作成について、オンライン個別指導を行う。	【予習】研究計画書を作成・検討しておく。 【復習】指導での指摘を思い出し、それらを踏まえて、研究計画書を精査する。	4時間
第18回	対面	人材・組織マネジメントについての諸問題に関する文献の購読、受講生による発表、議論	【予習】課題の論文等を読み、レジュメを作成し、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、課題の論文等を理解しておく。	4時間
第19回	対面	人材・組織マネジメントについての諸問題に関する文献の購読、受講生による発表、議論	【予習】課題の論文等を読み、レジュメを作成し、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、課題の論文等を理解する。	4時間
第20回	対面	研究テーマに関連する先行研究・文献・資料の検討	【予習】先行研究・文献・資料を読み込み整理し、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、さらに検討を深める。	4時間
第21回	対面	研究テーマに関連する先行研究・文献・資料の検討	【予習】先行研究・文献・資料を読み込み整理し、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、さらに検討を深める。	4時間
第22回	対面	研究テーマに関連する先行研究・文献・資料の検討	【予習】先行研究・文献・資料を読み込み整理し、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、さらに検討を深める。	4時間
第23回	対面	研究テーマに関連する先行研究・文献・資料の検討	【予習】先行研究・文献・資料を読み込み整理し、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、さらに検討を深める。	4時間
第24回	対面	修士論文の一次原稿の発表、討議	【予習】一次原稿をまとめて、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正していく。	4時間
第25回	対面	修士論文の一次原稿の発表、討議	【予習】一次原稿をまとめて、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正していく。	4時間
第26回	対面	修士論文の一次原稿の発表、討議	【予習】一次原稿をまとめて、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正していく。	4時間
第27回	対面	修士論文の一次原稿の修正	【予習】一次原稿をまとめて、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、さらに加筆・修正していく。	4時間
第28回	対面	修士論文の一次原稿の修正	【予習】一次原稿をまとめて、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、さらに加筆・修正していく。	4時間
第29回	対面	修士論文の一次原稿の修正	【予習】一次原稿をまとめて、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、さらに加筆・修正していく。	4時間
第30回	対面	全体の総括	【予習】一次原稿を完成させる。 【復習】演習での指摘を踏まえて、一次原稿を修正し完成させる。	4時間

科目名	研究指導 I	開講年度	2024 年度春学期、2024 年度秋学期
担当者	氏田 壮一郎	配当年次	修士 1
科目ナンバリング	—	単位数	4 単位
グレード	—	授業方法	演習
科目区分	経済学研究科経営学専攻		
テーマ	日本企業における経営管理について考える。		
授業の目的及び概要	<p>この研究指導では、日本企業の経営に関する様々な様々な課題、対応策等について学修する。前期には、すべての受講生に共通の学修内容として、文献に基づく学修に加え、大学院における調査研究の方法、修士論文の執筆方法について、修得する。そして、経営管理に関連する研究テーマを決定し、研究計画を作成する。</p> <p>後期には、すべての受講生に共通の学修内容として、文献に基づく学修に加え、先行研究論文に基づく学修を進め、経営管理に関する最近の研究動向をレビューします。さらに研究テーマに関連する文献や資料の調査を行うとともに、修士論文の一次原稿を作成し、発表、討論等を通じて修正していく。</p>		
履修条件・留意点			
DP との関連	—		
学修の到達目標	<p>大学院における調査研究の方法や修士論文の作成方法について修得する。</p> <p>問題意識や関心がある研究テーマを設定し、修士論文の研究計画を策定し、修士論文の一次原稿を作成することができる。</p> <p>経営管理に関する自身の研究に必要な知識を身につける。</p>		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	演習での発表・報告は、その都度コメントし、指導する。提出物については、修正すべき点等を明示し、返却する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし (注) 第 1 回ガイダンスで説明する。	ISBN	なし
参考書	必要に応じて紹介する。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	30	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	【定期試験】WEB 試験	0	
	その他（％）	40	
その他の内容	期末提出の修士論文一次原稿及び研究計画書		
この科目の受講にあたって	自分の研究テーマについては、常に最新の情報を吸収するように努めること。学術論文だけではなく、ニュースや一般雑誌などにも関連する資料があり、幅広く目を通すこと。また、他の受講生の発表についても、自らの研究テーマとは異なるが、切り口、視点、関連情報など、自分の研究にも参考になる部分が多いので、議論などに積極的に参加すること。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	前期の演習の進め方について、説明する。 また、自己紹介、自分の研究テーマ（候補）	【予習】シラバスを読み、自分の研究テーマ（候補）に関する現在までの取り組みの状況について、資料	4 時間

		に関する現在に至るまでの取り組み状況について、報告すること。	等整理し、演習で説明できるようにしておく。 【復習】演習での内容等を踏まえ、研究テーマの選定、方向性等について、検討を進める。	
第2回	オンデマンド	研究倫理教育 解説動画を視聴して、研究倫理に対する自身の心構えを文章にしたためる。	【予習】インターネットで研究不正とは何か調べる。 【復習】解説動画を再視聴する。	4時間
第3回	対面	大学院における資料収集や調査研究の方法、修士論文の執筆方法を説明する。	【予習】調査研究の方法や資料収集に関する配布資料等を読み、研究計画の作成準備を行う。修士論文の執筆方法に関して調べて、修士論文の執筆作業についてイメージしておくこと。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、研究計画書の作成、修士論文の執筆等の具体的な作業を始める。	4時間
第4回	対面	経営についての諸問題に関する文献の購読、受講生による発表、議論	【予習】課題の論文等を読み、レジュメを作成し、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、課題の論文等を理解する。	4時間
第5回	対面	経営についての諸問題に関する文献の購読、受講生による発表、議論	【予習】課題の論文等を読み、レジュメを作成し、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、課題の論文等を理解する。	4時間
第6回	対面	経営についての諸問題に関する文献の購読、受講生による発表、議論	【予習】課題の論文等を読み、レジュメを作成し、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、課題の論文等を理解する。	4時間
第7回	対面	経営についての諸問題に関する研究テーマ、分析方法の検討	【予習】自分の研究テーマ、分析方法を検討し、報告できるよう準備する。 【復習】指導内容を踏まえ、研究テーマの選定、分析方法、研究の方向性等について、適宜修正の上、検討を進める。	4時間
第8回	対面	修士論文の研究計画の検討	【予習】論文の研究計画について、検討する。 【復習】演習での説明を踏まえ、検討を進める。	4時間
第9回	対面	修士論文の研究計画の発表	【予習】論文の研究計画について、検討する。 【復習】演習での討議を踏まえ、検討を進める。	4時間
第10回	対面	修士論文の研究計画の発表	【予習】論文の研究計画について、検討する。 【復習】演習での討議を踏まえ、検討を進める。	4時間
第11回	対面	修士論文の研究計画の発表	【予習】論文の研究計画について、検討する。 【復習】演習での討議を踏まえ、検討を進める。	4時間
第12回	対面	研究テーマに基づくレポートの発表、議論	【予習】発表するレポートを作成し、発表の準備を行う。 【復習】演習での討議を踏まえ、研究テーマの検討を進める。	4時間
第13回	対面	研究テーマに基づくレポートの発表、議論	【予習】発表するレポートを作成し、発表の準備を行う。 【復習】演習での討議を踏まえ、研究テーマの検討を進める。	4時間
第14回	対面	研究テーマに基づくレポートの発表、議論	【予習】発表するレポートを作成し、発表の準備を行う。 【復習】演習での討議を踏まえ、研究テーマの検討を進める。	4時間
第15回	対面	前期の総括	【予習】修士論文の作成計画を完成させる。 【復習】修士論文の作成計画を踏まえ、修士論文の一次原稿の作成準備を始める。	4時間
第16回	対面	後期の演習の進め方について、説明する。また、研究テーマに関する夏休みの進捗状況について、報告する。	【予習】研究テーマに関する夏休みの進捗状況について整理し、演習で説明できるようにしておく。 【復習】指導内容等を踏まえ、研究の検討を進める。	4時間
第17回	オンデマンド	10月提出の研究計画書の作成について、	【予習】研究計画書を作成・検討しておく。	4時間

	マンド	オンライン個別指導を行う。	【復習】指導での指摘を思い出し、それらを踏まえて、研究計画書を精査する。	
第18回	対面	経営管理についての諸問題に関する文献の購読、受講生による発表、議論	【予習】課題の論文等を読み、レジュメを作成し、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、課題の論文等を理解しておく。	4時間
第19回	対面	経営管理についての諸問題に関する文献の購読、受講生による発表、議論	【予習】課題の論文等を読み、レジュメを作成し、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、課題の論文等を理解する。	4時間
第20回	対面	研究テーマに関連する先行研究・文献・資料の検討	【予習】先行研究・文献・資料を読み込み整理し、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、さらに検討を深める。	4時間
第21回	対面	研究テーマに関連する先行研究・文献・資料の検討	【予習】先行研究・文献・資料を読み込み整理し、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、さらに検討を深める。	4時間
第22回	対面	研究テーマに関連する先行研究・文献・資料の検討	【予習】先行研究・文献・資料を読み込み整理し、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、さらに検討を深める。	4時間
第23回	対面	研究テーマに関連する先行研究・文献・資料の検討	【予習】先行研究・文献・資料を読み込み整理し、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、さらに検討を深める。	4時間
第24回	対面	修士論文の一次原稿の発表、討議	【予習】一次原稿をまとめて、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正していく。	4時間
第25回	対面	修士論文の一次原稿の発表、討議	【予習】一次原稿をまとめて、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正していく。	4時間
第26回	対面	修士論文の一次原稿の発表、討議	【予習】一次原稿をまとめて、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正していく。	4時間
第27回	対面	修士論文の一次原稿の修正	【予習】一次原稿をまとめて、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、さらに加筆・修正していく。	4時間
第28回	対面	修士論文の一次原稿の修正	【予習】一次原稿をまとめて、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、さらに加筆・修正していく。	4時間
第29回	対面	修士論文の一次原稿の修正	【予習】一次原稿をまとめて、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、さらに加筆・修正していく。	4時間
第30回	対面	全体の総括	【予習】一次原稿を完成させる。 【復習】演習での指摘を踏まえて、一次原稿を修正し完成させる。	4時間

科目名	研究指導 I	開講年度	2024 年度春学期、2024 年度秋学期
担当者	島本 克彦	配当年次	修士 1
科目ナンバリング	—	単位数	4 単位
グレード	—	授業方法	演習
科目区分	経済学研究科経営学専攻		
テーマ	現代の財務会計における問題領域を幅広く理解し、各自の問題意識からより深く会計理論を考察する。		
授業の目的及び概要	本演習（研究指導）は、簿記・会計の知識・技能に基づき、わが国の制度会計を理解する。そして歴史的な観点を踏まえながら会計理論について深く考察することを目的として研究指導を行う。ただ理論を学ぶだけでなく、ディスカッションを行うことによって批判的思考力を養成する。		
履修条件・留意点	株式会社の簿記について日商簿記 3 級ないし 2 級程度の知識が必要です。留意点として、必ずテキストを購入し、予習・復習を行ってください。なお、理由なき欠席は認めません。		
DP との関連	—		
学修の到達目標	本研究指導 I は、簿記・会計の知識・技能に基づき、理論面につき深く理解できるようになることを目標とする。たとえばリース取引におけるリース資産・リース負債を計上するという現行の処理において、なぜそのような会計処理が行なわれているのか、歴史的にはどうなのか、どういう考え方が根底にあるのか、他の類似取引とどこが違うのかという観点から、リースという会計事象を考察することにより、会計的によりよく考える能力（批判的思考力）を養うことができるようになる。受講生の関心や問題意識に基づき、修士論文のテーマや構成、研究計画と修士論文の一次原稿の作成を目標とする。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中に課した課題や発表に対しては、講評と添削を行う。修士論文の作成計画や一次原稿については、添削して返却する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	資料は授業時に配布します。	ISBN	資料は授業時に配布します。
参考書	授業中に適宜指示する。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	30	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	【定期試験】WEB 試験	0	
	その他（%）	50	
	その他の内容	研究計画書および修士論文の一次原稿	
この科目の受講にあたって	日商簿記検定 3 級ないし 2 級の知識が必要である。財務会計特論 I・II、管理会計特論の履修を推奨する。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	前期の授業の目標と進め方など授業の概要を説明する。	【予習】この授業のシラバスを事前によく読んでおいてください（2 時間）。	4 時間

			【復習】授業後に、ガイダンスの内容について復習してください(2時間)。	
第2回	オンデマンド	研究倫理教育 解説動画を視聴して、研究倫理に対する自身の心構えを文章にしたためる。	【予習】インターネットで研究不正とは何か調べる(2時間)。 【復習】解説動画を再視聴し、要点をまとめる(2時間)。	4時間
第3回	対面	前の対面授業時に配布された資料による報告(発表)、ディスカッション	【予習】前の対面授業時に配布された資料に基づく報告(発表)原稿を事前に準備しておいてください(2時間)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて報告(発表)原稿を修正してください(2時間)。	4時間
第4回	対面	前時に配布された資料による報告(発表)、ディスカッション	【予習】前時に配布された資料に基づく報告(発表)原稿を事前に準備しておいてください(2時間)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて報告(発表)原稿を修正してください(2時間)。	4時間
第5回	対面	前時に配布された資料による報告(発表)、ディスカッション	【予習】前時に配布された資料に基づく報告(発表)原稿を事前に準備しておいてください(2時間)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて報告(発表)原稿を修正してください(2時間)。	4時間
第6回	対面	前時に配布された資料による報告(発表)、ディスカッション	【予習】前時に配布された資料に基づく報告(発表)原稿を事前に準備しておいてください(2時間)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて報告(発表)原稿を修正してください(2時間)。	4時間
第7回	対面	前時に配布された資料による報告(発表)、ディスカッション	【予習】前時に配布された資料に基づく報告(発表)原稿を事前に準備しておいてください(2時間)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて報告(発表)原稿を修正してください(2時間)。	4時間
第8回	対面	前時に配布された資料による報告(発表)、ディスカッション	【予習】前時に配布された資料に基づく報告(発表)原稿を事前に準備しておいてください(2時間)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて報告(発表)原稿を修正してください(2時間)。	4時間
第9回	対面	前時に配布された資料による報告(発表)、ディスカッション	【予習】前時に配布された資料に基づく報告(発表)原稿を事前に準備しておいてください(2時間)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて報告(発表)原稿を修正してください(2時間)。	4時間
第10回	対面	前時に配布された資料による報告(発表)、ディスカッション	【予習】前時に配布された資料に基づく報告(発表)原稿を事前に準備しておいてください(2時間)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて報告(発表)原稿を修正してください(2時間)。	4時間
第11回	対面	前時に配布された資料による報告(発表)、ディスカッション	【予習】前時に配布された資料に基づく報告(発表)原稿を事前に準備しておいてください(2時間)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて報告(発表)原稿を修正してください(2時間)。	4時間
第12回	対面	前時に配布された資料による報告(発表)、ディスカッション	【予習】前時に配布された資料に基づく報告(発表)原稿を事前に準備しておいてください(2時間)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて報告(発表)原稿を修正してください(2時間)。	4時間
第13回	対面	前時に配布された資料による報告(発表)、ディスカッション	【予習】前時に配布された資料に基づく報告(発表)原稿を事前に準備しておいてください(2時間)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて報告(発表)原稿を修正してください(2時間)。	4時間
第14回	対面	前時に配布された資料による報告(発表)、ディスカッション	【予習】前時に配布された資料に基づく報告(発表)原稿を事前に準備しておいてください(2時間)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて報告(発表)原稿を修正してください(2時間)。	4時間
第15回	対面	前時に配布された資料による報告(発表)、ディスカッション。振り返り。	【予習】前時に配布された資料に基づく報告(発表)原稿を事前に準備しておいてください(2時間)。	4時間

			【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて報告（発表）原稿を修正してください（2時間）。	
第16回	対面	前期の復習、後期の授業の目標と進め方など授業の概要を説明する。	【予習】この授業のシラバスを事前によく読み、前期の復習をしてください（2時間）。 【復習】授業後に、再度前期の演習内容、ガイダンスの内容について復習してください（2時間）。	4時間
第17回	対面	財務会計に関する研究テーマに関連する文献・資料の準備と熟読、受講生による報告（発表）	【予習】研究テーマに関連する文献・資料を事前に準備し、報告原稿を作成しておいてください（2時間）。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて報告（発表）原稿を修正してください（2時間）。	4時間
第18回	対面	財務会計に関する研究テーマに関連する文献・資料の準備と熟読、受講生による報告（発表）	【予習】研究テーマに関連する文献・資料の資料を事前に準備し、報告原稿を作成しておいてください（2時間）。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて報告（発表）原稿を修正してください（2時間）。	4時間
第19回	対面	財務会計に関する研究テーマに関連する文献・資料の準備と熟読、受講生による報告（発表）	【予習】研究テーマに関連する文献・資料の資料を事前に準備し、報告原稿を作成しておいてください（2時間）。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて報告（発表）原稿を修正してください（2時間）。	4時間
第20回	対面	財務会計に関する研究テーマに関連する文献・資料の準備と熟読、受講生による報告（発表）	【予習】研究テーマに関連する文献・資料の資料を事前に準備し、報告原稿を作成しておいてください（2時間）。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて報告（発表）原稿を修正してください（2時間）。	4時間
第21回	対面	財務会計に関する研究テーマに関連する文献・資料の準備と熟読、受講生による報告（発表）	【予習】研究テーマに関連する文献・資料の資料を事前に準備し、報告原稿を作成しておいてください（2時間）。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて報告（発表）原稿を修正してください（2時間）。	4時間
第22回	対面	財務会計に関する研究テーマに関連する文献・資料の準備と熟読、受講生による報告（発表）	【予習】研究テーマに関連する文献・資料の資料を事前に準備し、報告原稿を作成しておいてください（2時間）。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて報告（発表）原稿を修正してください（2時間）。	4時間
第23回	対面	財務会計に関する研究テーマに関連する文献・資料の準備と熟読、受講生による報告（発表）	【予習】研究テーマに関連する文献・資料の資料を事前に準備し、報告原稿を作成しておいてください（2時間）。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて報告（発表）原稿を修正してください（2時間）。	4時間
第24回	対面	財務会計に関する研究テーマに関連する文献・資料の準備と熟読、受講生による報告（発表）	【予習】研究テーマに関連する文献・資料の資料を事前に準備し、報告原稿を作成しておいてください（2時間）。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて報告（発表）原稿を修正してください（2時間）。	4時間
第25回	対面	財務会計に関する研究テーマに関連する文献・資料の準備と熟読、受講生による報告（発表）	【予習】研究テーマに関連する文献・資料の資料を事前に準備し、報告原稿を作成しておいてください（2時間）。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて報告（発表）原稿を修正してください（2時間）。	4時間
第26回	対面	財務会計に関する研究テーマに関連する文献・資料の準備と熟読、受講生による報告（発表）、一次原稿の作成	【予習】研究テーマに関連する文献・資料の資料を事前に準備し、報告原稿を作成しておいてください（2時間）。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて報告（発表）原稿を修正してください（2時間）。	4時間
第27回	対面	一次原稿に関する指導教員との質疑応答・追加・修正	【予習】研究テーマに関連する文献・資料の資料を事前に準備し、報告原稿を作成しておいてください（2時間）。	4時間

			時間)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて報告(発表)原稿を修正してください(2時間)。	
第28回	対面	研究テーマの一次原稿に関する指導教員との質疑応答・追加・修正	【予習】追加・修正した研究テーマの一次原稿の報告(発表)を事前に準備しておいてください(2時間)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて再度一次原稿を修正してください(2時間)。	4時間
第29回	対面	一次原稿に関する指導教員との質疑応答・追加・修正	【予習】追加・修正した一次原稿の報告(発表)原稿を事前に準備しておいてください(2時間)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて再度一次原稿を修正してください(2時間)。	4時間
第30回	オンデマンド	一次原稿に関する指導教員との質疑応答・追加・修正	授業全体の振り返り 【予習】追加・修正した一次原稿の報告(発表)原稿を事前に準備しておいてください(2時間)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて再度一次原稿を修正してください(2時間)。	4時間

科目名	研究指導 I	開講年度	2024 年度春学期、2024 年度秋学期
担当者	深瀬 澄	配当年次	修士 1
科目ナンバリング	—	単位数	4 単位
グレード	—	授業方法	演習
科目区分	経済学研究科経営学専攻		
テーマ	経済・経営・社会・文化活動における潜在的「原因と結果」の構造的因果関係の分析		
授業の目的及び概要	<p>「研究指導 I」は 1 年次の必修科目である。前期においては、調査研究の方法や修士論文の作成方法について学修する。また、修士論文のテーマや構成、研究計画などを作成していく。後期においては、各々研究の成果を何度か中間発表し、お互いに議論しあい、修士論文の一次原稿を作成することを目的とする。</p> <p>■本研究室では、経済・経営・社会・文化活動における諸問題に対し、顧客や同僚の「心理面」に配慮しつつ、実証的なアプローチにより有効な方策を提言し実践することを目指している。具体的な学修としては、「現状における原因と結果との構造的な因果関係の解明」に重点が置かれる。しかし、実証分析においては、相関関係の検証は容易だが因果関係の検証は難しい。そこで、汎用性が広く学術的にも高度とされる「共分散構造分析」の手ほどきを最初に行い、個別のテーマ内容に応じて多様な手法を指導していく。</p> <p>前期に学ぶ共分散構造分析(CSA, Covariance Structure Analysis)とは、構造方程式モデリング(SEM, Structural Equation Modeling)ともいい、因子分析と重回帰分析の利点を兼ね備えた、構造的な因果関係を分析するための統計手法である。潜在変数も含めた変数間の構造的な因果関係をパス図を用いてモデル化し、用いたデータとモデルとの整合性、1 本 1 本のパス(因果関係)の有意性と影響強度等について分析していく。想定した原因がダイレクトに結果に影響せず、思いもよらない別の要因を経由して間接的に影響しているようなケースも頻繁に解明される。新規の見解の開拓が期待できるため、方策を立案する際に非常に有益な情報を示唆することができる。</p> <p>■ゼミ生の研究テーマに応じて、データ分析手法については、多変量解析、計量経済学、人工知能(ニューラルネットワーク)、形態素解析等々、柔軟に対応して指導する。</p>		
履修条件・留意点			
DP との関連	—		
学修の到達目標	<p>■前期目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 相関関係と因果関係の違いを明確に理解し、原因と結果の構造的な因果関係を分析する力を修得する。</li> <li>2. 授業を中心に修士論文で用いる学術的な実証分析の手法の概要をまとめる。</li> <li>3. 実証的学術論文をサーバイし、テーマを絞り、研究計画書を完成させる。</li> </ol> <p>■夏休み目標</p> <p>以下 1～3 の到達目標に従い、修士論文(一次稿)の半分(①課題設定、②論文構成(目次の概要説明)、③現状分析(フィールド調査実習)、④先行研究のサーバイ、⑤分析手法)を完成させる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 先行研究文献を詳細にサーバイし、概念、モデル、分析手法、結論等を修士論文の一部としてまとめる。必要に応じて、論文未参考文献リストの資料をサーバイに追加する。</li> <li>2. テーマに関するフィールド調査に向き、現状把握、因果構造仮説のデザイン、調査票の作成に必要な情報を収集する。</li> <li>3. 分析に用いるデータの入手方法を具体的に計画する(アンケート調査票原案も作成)。</li> </ol> <p>■後期到達目標</p> <p>研究テーマに関する問題構造における本質的なロジックをパス図(仮説モデル)として整理し、実証分析に必要なデータを入手し、共分散構造分析により検証、考察して結論を導く。得られた研究の成果を何度か中間発表し、お互いに議論しあい、最終的に「修士論文の一次原稿」を完成させる。</p> <p>■到達目標として想定される研究テーマ例。</p> <p>パニラカップアイスのおいしさの感性的評価 東京ディズニーランドにみる日常から非日常への心理的变化 おしゃれの二面性尺度の作成(母世代・娘世代の比較) 女性労働をめぐる職場環境と家庭生活の相互作用 2チャンネルが盛り上がるダイナミズム</p>		

	サッカーゲームにおける攻撃技能の因果構造 自転車放置者への説得的なコミュニケーション		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	個別に研究内容の指摘と改善の方向性を示す。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	『共分散構造分析（AMOS 編）』、豊田秀樹(2011)、東京図書 3200 円＋税	ISBN	9. 7844890201e+12
参考書	参考文献として、 <マーケティング分野の学術誌（トップジャーナル）> Journal of Marketing Journal of Marketing Research Journal of Consumer Research (JCR) Marketing Science	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	【定期試験】WEB 試験	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	学外の論文投稿	
この科目の受講にあたって	<p>データサイエンス・コースとして、修士論文には、文献研究に加えて、実証研究または理論研究の要素を含むことを期待する。</p> <p>修士レベルの統計手法は、標準の EXCEL には装備されていないため、専門的なソフトウェアの使い方にも習熟する必要がある。</p> <p>実証研究では、分析結果が仮説と乖離し、計画とおりに進捗しない場合もある。苦しい状況下でも研究倫理を遵守して前進させる強靱な精神力と柔軟な対応力が必要である。</p> <p>8 月 日本ホスピタリティマネジメント学会（渋谷） 9 月 日本商業学会第 13 回「マーケティング夏の学校」 12 月 NTT データ数理システム 学生研究奨励賞コンテスト（投稿締め切り 12 月初旬） 12 月 留学生論文コンテスト（投稿締め切り 12 月中旬）</p>		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	※計画は暫定的なものであり、受講生の修士論文作成を最優先し、柔軟に対応する。 1. 自己紹介および学部時代の卒業研究概要を学生より報告 2. ガイダンス（研究指導 I の運営方針、勉強法、スケジュールなど） 3. 共分散構造分析の概要について教員より説明	◎次回までに実習用の専門ソフトをインストール（2 時間）して、動作を確認（2 時間）してこ	4 時間
第 2 回	オンデマンド	研究倫理教育 解説動画を視聴して、研究倫理に対する自身の心構えを文章にしたためる。	【予習】 インターネットで研究不正とは何か調べる。 【復習】 解説動画を再視聴する。	4 時間
第 3 回	対面	【実習課題】セミナー受講者の満足度調査の分析	テキスト pp. 26-49 を理解すること（2 時間） 授業後の復習として、再度ソフトウェアを起動し、モ	4 時間

		<p>前回の分析事例について、より詳細な推定法、出力のオプションと出力結果の解釈法を解説する</p> <p>①使用データ：生データ／分散共分散行列／相関係数行列／「分散タイプ」／「分析対象の共分散」</p> <p>②モデル構築と変数：逐次モデルと非逐次モデル／外生変数と内生変数／観測変数の数と推定パラメータ数／飽和モデルと独立モデル／識別問題とその対処法</p> <p>③推定法：「正規性と異常値の検定」／最尤推定法／一般化最小2乗法／ADF法（漸近的分布非依存法）</p> <p>④出力オプション：／修正指数／推定値の共分散・相関／標本の積率／モデルの積率／残差の積率／重相関係数の平方／直接効果・間接効果・総合効果</p>	<p>モデルを再設定して出力結果を確認すること（2時間）</p>	
第4回	対面	<p>■教員より、共分散構造分析で代表的な「MIMIC (Multiple Indicator Multiple Cause) モデル」、「PLS (Partial Least Square) モデル」について説明。</p> <p>■受講生が、共分散構造分析以外の、逐次モデル、非逐次モデル、重回帰分析による分析を実習する。</p> <p>①携帯電話の購買意欲（重回帰分析）</p> <p>②結婚相談所における女性による男性の格付け（逐次モデル）</p> <p>③野球球団Aに対する応援の「態度」を巡る夫婦とその両親との因果関係（非逐次モデル）</p>	<p>テキスト pp. 52-59 を理解すること（2時間）</p> <p>授業後の復習として、再度ソフトウェアを起動し、モデルを再設定して出力結果を確認すること（2時間）</p>	4時間
第5回	対面	<p>■前回に続き、受講生より、共分散分析、確認的因子分析、階層因子分析等の多様なモデルを実習する。</p> <p>④高校生の期末試験の成績に及ぼす知能、勉強時間、睡眠時間の影響（多変量重回帰）</p> <p>⑤コンピュータ学修は英語の能力を向上させるのか（共分散分析）</p> <p>⑥学校における子供の仲間評価（2次因子分析・階層因子分析）</p> <p>⑦母子関係における母親の絶対視観（ファントム変数登用モデル）</p>	<p>テキスト pp. 60-71 を理解すること（2時間）</p> <p>授業後の復習として、再度ソフトウェアを起動し、モデルを再設定して出力結果を確認すること（2時間）</p>	4時間
第6回	対面	<p>■多母集団分析とは、属性の異なるデータが混在する場合の分析法である。</p> <p>【実習課題①】：難関校と低位校の入学時偏差値と学校生活が、卒業時学力差に及ぼす影響</p> <p>【実習課題②】：数的処理能力における小学6年生と中学1年生の学力差要因</p> <p>■平均共分散構造分析とは、変数間の平均値の違いを考慮した分析であり、属性間における平均値の差の検定もできる。</p> <p>【実習課題③】セミナーの満足度評価の平均共分散構造分析（相関データに平均情報を組込む）</p> <p>【実習課題④】算数の学力変化における教授法による影響分析</p>	<p>テキスト pp. 74-97 を理解すること（2時間）</p> <p>授業後の復習として、再度ソフトウェアを起動し、モデルを再設定して出力結果を確認すること（2時間）</p>	4時間
第7回	対面	<p>■成長曲線モデルについて、縦断的データ</p>	<p>テキスト pp. 100-107 を理解すること（2時間）</p>	4時間

		<p>(同一対象を複数回測定)の推移を示す曲線を仮定し、その経時的に一貫したパラメータを推定する。</p> <p>【実習課題】大学入学時後の運動と学年別の体重変化予測</p> <p>■研究テーマ検討1： 受講生による研究テーマ報告とディスカッション</p>	<p>授業後の復習として、再度ソフトウェアを起動し、モデルを再設定して出力結果を確認すること(2時間)</p>	
第8回	対面	<p>■完全にランダムな欠損(MCAR)の対処について、完全情報最尤法、多重代入法(回帰代入法、確率的代入法、ベイズ代入法)を実習する</p> <p>【実習課題】欠損データを含む試験成績の分析における対処</p> <p>■研究テーマ検討2： 受講生による研究計画報告とディスカッション</p>	<p>テキスト pp. 110-127 を理解すること(2時間)</p> <p>授業後の復習として、再度ソフトウェアを起動し、モデルを再設定して出力結果を確認すること(2時間)</p>	4時間
第9回	対面	<p>■ブートストラップ法を用い、標本データ数の不足や偏りで分析が困難な場合に、既存データセットより仮想的なデータセットを生成して補い、問題に対処する。また、複数の構造仮説モデルを比較し、最も適合度の良いものを選択する。</p> <p>【実習課題】試験成績の分析における推定値のバイアス修正、構造仮説モデル間の適合度の比較</p> <p>■研究テーマ検討3： 受講生による研究テーマ報告とディスカッション</p>	<p>テキスト pp. 120-127 を理解すること(2時間)</p> <p>授業後の復習として、再度ソフトウェアを起動し、モデルを再設定して出力結果を確認すること(2時間)</p>	4時間
第10回	対面	<p>■モデル探索機能を用いて、仮説の因果構造図で不足している可能性があるパスを探索する。</p> <p>【実習課題①】難関校と低位校の入学時偏差値と学校生活が、卒業時学力差に及ぼす影響(第6回)の分析結果の改良を試みる。</p> <p>【実習課題②】「ニセコヴィラ・スキー場」の因子分析におけるイメージ抽出モデルの比較検討</p> <p>■先行研究文献報告1： 研究計画書作成の参考として、テーマに関する先行研究の論文構成、調査対象、結論を中心に報告</p>	<p>テキスト pp. 130-137 を理解すること(2時間)</p> <p>授業後の復習として、再度ソフトウェアを起動し、モデルを再設定して出力結果を確認すること(2時間)</p>	4時間
第11回	対面	<p>■多母集団平均構造分析により、母集団間の平均構造が潜在因子やその後の推移への影響に関連させて分析する</p> <p>【実習課題】学力を決定する潜在因子に関する大学間比較</p> <p>■先行研究文献報告2： 研究計画書作成の参考として、テーマに関する先行研究の論文構成、調査対象、結論を中心に報告</p>	<p>テキスト pp. 140-147 を理解すること(2時間)</p> <p>授業後の復習として、再度ソフトウェアを起動し、モデルを再設定して出力結果を確認すること(2時間)</p>	4時間
第12回	オンデマンド	<p>■ベイズ推定とは、未知の母数の推定値をその事前情報(確率分布)を考慮して求める統計手法の概念である。MCMC法では、マルコフ連鎖の概念とモンテカルロ・シミュレーションを用いて近似的な事後分布を生成する。事後分布(形状、パラメータ)</p>	<p>テキスト pp. 150-157 を理解すること(2時間)</p> <p>授業後の復習として、再度ソフトウェアを起動し、モデルを再設定して出力結果を確認すること(2時間)</p>	4時間

		を予め設定しそれに収束させることにより高精度のパス係数推定が可能となる。 【実習課題】：知能（構成概念）による個別能力（観測変数）へのパス係数のMCMC推定 ■研究計画討論1： テーマに関するデータの入手方法の報告とディスカッション		
第13回	対面	■数量区分の選択肢において、「〇〇以上」のように一括され曖昧なデータを「打ち切りデータ」という。このようなデータに対し、MCMC法を用いて対処する。 【実習課題】病気患者の投薬療法による完治までの経過日数への、年齢と体重による影響（途中転院による打ち切りデータを含む） ■研究計画討論2： フィールド調査による現状把握方法に関する報告とディスカッション	テキスト pp. 160-164 を理解すること（2時間） 授業後の復習として、再度ソフトウェアを起動し、モデルを再設定して出力結果を確認すること（2時間）	4時間
第14回	対面	■「非常に良い」「やや良い」「どちらともいえない」等の順序カテゴリカルデータについて、MCMC法を用いて分析する 【実習課題】順序カテゴリカルデータの因子分析におけるMCMC法による因子負荷量の推定 ■研究計画討論3： フィールド調査による現状把握方法に関する報告とディスカッション	テキスト pp. 168-177 を理解すること（2時間） 授業後の復習として、再度ソフトウェアを起動し、モデルを再設定して出力結果を確認すること（2時間）	4時間
第15回	対面	1. 研究計画書（一次稿）の報告 2. 夏休み到達目標の確認 3. 振り返り	学会報告（北海道）に向けて、夏休み中にプレゼンを完成させる（4時間）	4時間
第16回	対面	1. フィールド調査の学修成果報告 2. 研究計画書の更新 3. 分析データの具体的な入手方法（アンケート調査票）検討	コメントをしますので、授業の一週間前に事前に課題を提出すること（4時間）	4時間
第17回	対面	1. フィールド調査の学修成果報告 2. 研究計画書の更新 3. 分析データの具体的な入手方法（アンケート調査票）検討	コメントで、指摘を受けた箇所を中心に改善と更なる充実をすること（4時間）	4時間
第18回	対面	研究テーマに関する先行研究サーベイの学生報告、ディスカッション	コメントで、指摘を受けた箇所を中心に改善と更なる充実をすること（4時間）	4時間
第19回	対面	研究テーマに関する先行研究サーベイの学生報告、ディスカッション	コメントで、指摘を受けた箇所を中心に改善と更なる充実をすること（4時間）	4時間
第20回	対面	データ集計～分析～考察についての学生報告、ディスカッション	コメントで、指摘を受けた箇所を中心に改善と更なる充実をすること（4時間）	4時間
第21回	対面	データ集計～分析～考察についての学生報告、ディスカッション	コメントで、指摘を受けた箇所を中心に改善と更なる充実をすること（4時間）	4時間
第22回	対面	論文概要の報告、ディスカッション	コメントで、指摘を受けた箇所を中心に改善と更なる充実をすること（4時間）	4時間
第23回	対面	論文概要の報告、ディスカッション	コメントで、指摘を受けた箇所を中心に改善と更なる充実をすること（4時間）	4時間
第24回	対面	論文概要の報告、ディスカッション	コメントで、指摘を受けた箇所を中心に改善と更なる充実をすること（4時間）	4時間
第25回	対面	一次原稿の発表、ディスカッション	コメントで、指摘を受けた箇所を中心に改善と更なる充実をすること（4時間）	4時間
第26回	対面	次原稿の発表、ディスカッション	コメントで、指摘を受けた箇所を中心に改善と更なる充実をすること（4時間）	4時間

第27回	対面	指導教員との質疑応答・追加・修正	コメントで、指摘を受けた箇所を中心に改善と更なる充実をすること（4時間）	4時間
第28回	対面	指導教員との質疑応答・追加・修正	コメントで、指摘を受けた箇所を中心に改善と更なる充実をすること（4時間）	4時間
第29回	対面	指導教員との質疑応答・追加・修正	コメントで、指摘を受けた箇所を中心に改善と更なる充実をすること（4時間）	4時間
第30回	対面	総括 2年次の研究計画 春休み中の到達目標（理論、政策面の強化を重点的に） 日本行動経済学会（学生論文コンテスト）への投稿、学会報告について <a href="http://www.abef.jp/topics/20180207/733/">http://www.abef.jp/topics/20180207/733/</a>	コメントで、指摘を受けた箇所を中心に改善と更なる充実をすること（4時間）	4時間

科目名	研究指導 I	開講年度	2024 年度春学期、2024 年度秋学期
担当者	呉原 志賢	配当年次	修士 1
科目ナンバリング	—	単位数	4 単位
グレード	—	授業方法	演習
科目区分	経済学研究科経営学専攻		
テーマ	企業や行政における情報の利活用		
授業の目的及び概要	<p>「研究指導 I」は 1 年次の必修科目です。前期においては、調査研究の方法や修士論文の作成方法について学修します。また、修士論文のテーマや構成、研究計画などを作成していきます。後期においては、各々研究の成果を何度か中間発表し、お互いに議論しあい、修士論文の一次原稿を作成することを目的とします。</p> <p>本演習（研究指導）は、経営情報の考え方にに基づき、企業や行政の効率的かつ効果的な情報の利活用について、組織的取組や制度、システム構築や調達、クラウドコンピューティングや AI（人工知能）、IoT 等に関する諸問題について考察します。理論と事例をベースに多面的なディスカッションを行います。</p>		
履修条件・留意点			
DP との関連	—		
学修の到達目標	<p>1. 受講生の関心や問題意識に基づき、修士論文の作成計画及び修士論文の一次原稿を作成することができるようになる。</p> <p>2. 企業や行政が直面する経営的諸問題の中から情報の利活用に関する調査・分析ができるようになる。</p>		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	修士論文の作成計画や一次原稿については、添削して返却する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは使用しません。	ISBN	—
参考書	情報通信白書、総務省	ISBN	—
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	30	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	【定期試験】WEB 試験	0	
	その他（％）	50	
	その他の内容	修士論文の一次原稿	
この科目の受講にあたって	経営情報特論 I・II の履修を推奨します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	前期の授業のねらいと進め方など授業の概要を説明します。	【予習】この授業のシラバスを事前によく読んでおいてください（1 時間程度）。 【復習】授業後に、ガイダンスの内容について復習してください（1 時間程度）。	4 時間
第 2 回	対面	大学院における資料収集や調査研究の方	【予習】大学院における資料収集や調査研究の方法	4 時間

		法を説明します。	に関する配布資料を事前によく読んでおいてください(2時間程度)。 【復習】授業後に、大学院における資料収集や調査研究の方法に関する配布資料を復習してください(2時間程度)。	
第3回	対面	修士論文の執筆方法を説明します。	【予習】修士論文の執筆方法に関する配布資料を事前によく読んでおいてください(2時間程度)。 【復習】授業後に、修士論文の執筆方法に関する配布資料を復習してください(2時間程度)。	4時間
第4回	対面	企業や行政における情報の利活用に関する教材の講読、受講生による発表、ディスカッション	【予習】教材に基づく発表資料を事前に準備しておいてください(2時間程度)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて発表資料を修正してください(2時間程度)。	4時間
第5回	対面	企業や行政における情報の利活用に関する教材の講読、受講生による発表、ディスカッション	【予習】教材に基づく発表資料を事前に準備しておいてください(2時間程度)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて発表資料を修正してください(2時間程度)。	4時間
第6回	対面	企業や行政における情報の利活用に関する教材の講読、受講生による発表、ディスカッション	【予習】教材に基づく発表資料を事前に準備しておいてください(2時間程度)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて発表資料を修正してください(2時間程度)。	4時間
第7回	対面	企業や行政における情報の利活用に関する研究テーマ・分析方法の決定	【予習】研究テーマ・分析方法の決定に関する配布資料を事前によく読んでおいてください(2時間程度)。 【復習】授業後に、研究テーマ・分析方法の決定に関する配布資料を復習してください(2時間程度)。	4時間
第8回	対面	修士論文作成計画の作成指導	【予習】修士論文作成計画の作成に関する配布資料を事前によく読んでおいてください(2時間程度)。 【復習】授業後に、修士論文作成計画の作成に関する配布資料を復習してください(2時間程度)。	4時間
第9回	対面	修士論文作成計画の発表	【予習】修士論文作成計画を事前に準備しておいてください(2時間程度)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて修士論文作成計画を修正してください(2時間程度)。	4時間
第10回	対面	修士論文作成計画の発表	【予習】修士論文作成計画を事前に準備しておいてください(2時間程度)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて修士論文作成計画を修正してください(2時間程度)。	4時間
第11回	対面	修士論文作成計画の発表	【予習】修士論文作成計画を事前に準備しておいてください(2時間程度)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて修士論文作成計画を修正してください(2時間程度)。	4時間
第12回	対面	企業や行政における情報の利活用に関する研究テーマに基づくレポートの発表・ディスカッション	【予習】レポートを事前に作成しておいてください(2時間程度)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいてレポートを修正してください(2時間程度)。	4時間
第13回	対面	企業や行政における情報の利活用に関する研究テーマに基づくレポートの発表・ディスカッション	【予習】レポートを事前に作成しておいてください(2時間程度)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいてレポートを修正してください(2時間程度)。	4時間
第14回	対面	企業や行政における情報の利活用に関する研究テーマに基づくレポートの発表・ディスカッション	【予習】レポートを事前に作成しておいてください(2時間程度)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいてレポートを修正してください(2時間程度)。	4時間
第15回	オンデ	前期の授業の総括を行う。	【予習】これまでの授業の配布資料等を事前によく	4時間

	マンド		読んでおいてください(3時間程度)。 【復習】授業後に、これまでの授業の配布資料等を総復習してください(3時間程度)。	
第16回	対面	後期の授業のねらいと進め方など授業の概要を説明する。	【予習】教材に基づく発表資料を事前に準備しておいてください(2時間程度)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて発表資料を修正してください(2時間程度)。	4時間
第17回	対面	企業や行政における情報の利活用に関する研究テーマに関連する教材の講読、受講生による発表	【予習】教材に基づく発表資料を事前に準備しておいてください(2時間程度)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて発表資料を修正してください(2時間程度)。	4時間
第18回	対面	企業や行政における情報の利活用に関する研究テーマに関連する教材の講読、受講生による発表	【予習】教材に基づく発表資料を事前に準備しておいてください(2時間程度)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて発表資料を修正してください(2時間程度)。	4時間
第19回	対面	企業や行政における情報の利活用に関する研究テーマに関連する教材の講読、受講生による発表	【予習】教材に基づく発表資料を事前に準備しておいてください(2時間程度)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて発表資料を修正してください(2時間程度)。	4時間
第20回	対面	企業や行政における情報の利活用に関する研究テーマに関連する各種文献・資料の検討	【予習】研究テーマに関連する各種文献・資料を事前によく読んでおいてください(2時間程度)。 【復習】授業後に、研究テーマ関連する各種文献・資料を復習してください(2時間程度)。	4時間
第21回	対面	企業や行政における情報の利活用に関する研究テーマに関連する各種文献・資料の検討	【予習】研究テーマに関連する各種文献・資料を事前によく読んでおいてください(2時間程度)。 【復習】授業後に、研究テーマ関連する各種文献・資料を復習してください(2時間程度)。 4時間	4時間
第22回	対面	企業や行政における情報の利活用に関する研究テーマに関連する各種文献・資料の検討	【予習】研究テーマに関連する各種文献・資料を事前によく読んでおいてください(2時間程度)。 【復習】授業後に、研究テーマ関連する各種文献・資料を復習してください(2時間程度)。	4時間
第23回	対面	企業や行政における情報の利活用に関する研究テーマに関連する各種文献・資料の検討	【予習】研究テーマに関連する各種文献・資料を事前によく読んでおいてください(2時間程度)。 【復習】授業後に、研究テーマ関連する各種文献・資料を復習してください(2時間程度)。	4時間
第24回	対面	一次原稿の発表、ディスカッション	【予習】一次原稿の発表資料を事前に準備しておいてください(2時間程度)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて一次原稿を修正してください(2時間程度)。	4時間
第25回	対面	一次原稿の発表、ディスカッション	【予習】一次原稿の発表資料を事前に準備しておいてください(2時間程度)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて一次原稿を修正してください(2時間程度)。	4時間
第26回	対面	一次原稿の発表、ディスカッション	【予習】一次原稿の発表資料を事前に準備しておいてください(2時間程度)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて一次原稿を修正してください(2時間程度)。	4時間
第27回	対面	一次原稿に関する指導教員との質疑応答・追加・修正	【予習】一次原稿の発表資料を事前に準備しておいてください(2時間程度)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて一次原稿を修正してください(2時間程度)。	4時間
第28回	対面	一次原稿に関する指導教員との質疑応答・追加・修正	【予習】一次原稿の発表資料を事前に準備しておいてください(2時間程度)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて一次原稿を修正してください(2時間程度)。	4時間
第29回	対面	一次原稿に関する指導教員との質疑応答・	【予習】一次原稿の発表資料を事前に準備しておい	4時間

		追加・修正	てください(2時間程度)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて一次原稿を修正してください(2時間程度)。	
第30回	オンデマンド	授業全体の総括を行う。	【予習】これまでの授業回の配布資料等を事前によく読んでおいてください(2時間程度)。 【復習】授業後に、これまでの授業回の配布資料等について総復習してください(2時間程度)。	4時間

科目名	研究指導Ⅱ	開講年度	2024年度春学期、2024年度秋学期
担当者	深瀬 澄	配当年次	修士2
科目ナンバリング	—	単位数	4単位
グレード	—	授業方法	演習
科目区分	経済学研究科経営学専攻		
テーマ	「AI・マーケティングサイエンス」の手法を学際的に用いて、経済・経営・社会・文化活動における潜在的な「原因と結果」の構造的因果関係を分析する		
授業の目的及び概要	<p>「研究指導Ⅰ」は1年次の必修科目である。前期においては、調査研究の方法や修士論文の作成方法について学修する。また、修士論文のテーマや構成、研究計画などを作成していく。後期においては、各々研究の成果を何度か中間発表し、お互いに議論しあい、修士論文の一次原稿を作成することを目的とする。</p> <p>■本研究室では、経済・経営・社会・文化活動における諸問題に対し、顧客や同僚の「心理面」に配慮しつつ、実証的なアプローチにより有効な方策を提言し実践することを目指している。具体的な学修としては、「現状における原因と結果との構造的な因果関係の解明」に重点が置かれる。しかし、実証分析においては、相関関係の検証は容易だが因果関係の検証は難しい。そこで、汎用性が広く学術的にも高度とされる「共分散構造分析」の手ほどきを最初に行い、個別のテーマ内容に応じて多様な手法を指導していく。</p> <p>前期に学ぶ共分散構造分析(CSA, Covariance Structure Analysis)とは、構造方程式モデリング(SEM, Structural Equation Modeling)ともいい、因子分析と重回帰分析の利点を兼ね備えた、構造的な因果関係を分析するための統計手法である。潜在変数も含めた変数間の構造的な因果関係をパス図を用いてモデル化し、用いたデータとモデルとの整合性、1本1本のパス(因果関係)の有意性と影響強度等について分析していく。想定した原因がダイレクトに結果に影響せず、思いもよらない別の要因を経由して間接的に影響しているようなケースも頻繁に解明される。新規の知見の開拓が期待できるため、方策を立案する際に非常に有益な情報を示唆することができる。</p> <p>■ゼミ生の研究テーマに応じて、データ分析手法については、多変量解析、計量経済学、人工知能(ニューラルネットワーク)、形態素解析等々、柔軟に対応して指導する。</p>		
履修条件・留意点			
DPとの関連	—		
学修の到達目標	<p>■前期目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 相関関係と因果関係の違いを明確に理解し、原因と結果の構造的な因果関係を分析する力を修得する。</li> <li>2. 授業を中心に修士論文で用いる学術的な実証分析の手法の概要をまとめる。</li> <li>3. 実証的学術論文をサーベイし、テーマを絞り、研究計画書を完成させる。</li> </ol> <p>■夏休み目標</p> <p>以下1～3の到達目標に従い、修士論文(一次稿)の半分(①課題設定、②論文構成(目次の概要説明)、③現状分析(フィールド調査実習)、④先行研究のサーベイ、⑤分析手法)を完成させる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 先行研究文献を詳細にサーベイし、概念、モデル、分析手法、結論等を修士論文の一部としてまとめる。必要に応じて、論文末参考文献リストの資料をサーベイに追加する。</li> <li>2. テーマに関するフィールド調査に出向き、現状把握、因果構造仮説のデザイン、調査票の作成に必要な情報を収集する。</li> <li>3. 分析に用いるデータの入手方法を具体的に計画する(アンケート調査票原案も作成)。</li> </ol> <p>■後期到達目標</p> <p>研究テーマに関する問題構造における本質的なロジックをパス図(仮説モデル)として整理し、実証分析に必要なデータを手直し、共分散構造分析により検証、考察して結論を導く。得られた研究の成果を何度か中間発表し、お互いに議論しあい、最終的に「修士論文の一次原稿」を完成させる。</p> <p>■到達目標として想定される研究テーマ例。</p> <p>バニラカップアイスのおいしさの感性的評価 東京ディズニーランドにみる日常から非日常への心理的变化 おしゃれの二面性尺度の作成(母世代・娘世代の比較) 女性労働をめぐる職場環境と家庭生活の相互作用</p>		

	2チャンネルが盛り上がるダイナミズム サッカーゲームにおける攻撃技能の因果構造 自転車放置者への説得的なコミュニケーション		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	個別に研究内容の指摘と改善の方向性を示す。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	『共分散構造分析（AMOS 編）』、豊田秀樹、2011 年以降の最新版、東京図書 3200 円＋税	ISBN	ISBN978-4-489-020087-7、
参考書	参考文献として、 <マーケティング分野の学術誌（トップジャーナル）> Journal of Marketing Journal of Marketing Research Journal of Consumer Research (JCR) Marketing Science	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	【定期試験】WEB 試験	0	
	その他（%）	30	
	その他の内容	学外の論文投稿	
この科目の受講にあたって	<p>データサイエンス・コースとして、修士論文には、文献研究に加えて、実証研究または理論研究の要素を含むことを期待する。</p> <p>修士レベルの統計手法は、標準の EXCEL には装備されていないため、専門的なソフトウェアの使い方にも習熟する必要がある。</p> <p>実証研究では、分析結果が仮説と乖離し、計画とおりに進捗しない場合もある。苦しい状況下でも研究倫理を遵守して前進させる強靱な精神力と柔軟な対応力が必要である。</p> <p>8 月 日本ホスピタリティマネジメント学会（渋谷） 9 月 日本商業学会第 13 回「マーケティング夏の学校」 12 月 NTT データ数理システム 学生研究奨励賞コンテスト（投稿締め切り 12 月初旬） 12 月 留学生論文コンテスト（投稿締め切り 12 月中旬）</p>		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	<p>※計画は暫定的なものであり、受講生の修士論文作成を最優先し、柔軟に対応する。</p> <p>1. 自己紹介および学部時代の卒業研究概要を学生より報告</p> <p>2. ガイダンス（研究指導 I の運営方針、勉強法、スケジュールなど）</p> <p>3. 共分散構造分析の概要について教員より説明</p>	◎次回までに実習用の専門ソフトをインストール（2時間）して、動作を確認（2時間）してくること	4 時間
第 2 回	オンデマンド	<p>研究倫理教育</p> <p>解説動画を視聴して、研究倫理に対する自身の心構えを文章にしたためる。</p>	<p>【予習】インターネットで研究不正とは何か調べる。</p> <p>【復習】解説動画を再視聴する。</p>	4 時間

第3回	対面	<p>【実習課題】セミナー受講者の満足度調査の分析      前回の分析事例について、より詳細な推定法、出力のオプションと出力結果の解釈法を解説する</p> <p>①使用データ：生データ／分散共分散行列／相関係数行列／「分散タイプ」／「分析対象の共分散」      ②モデル構築と変数：逐次モデルと非逐次モデル／外生変数と内生変数／観測変の数と推定パラメータ数／飽和モデルと独立モデル／識別問題とその対処法      ③推定法：「正規性と異常値の検定」／最尤推定法／一般化最小2乗法／ADF法（漸近的分布非依存法）      ④出力オプション：／修正指数／推定値の共分散・相関／標本の積率／モデルの積率／残差の積率／重相関係数の平方／直接効果・間接効果・総合効果</p>	<p>テキスト pp. 26-49 を理解すること（2時間）      授業後の復習として、再度ソフトウェアを起動し、モデルを再設定して出力結果を確認すること（2時間）</p>	4時間
第4回	対面	<p>■教員より、共分散構造分析で代表的な「MIMIC (Multiple Indicator Multiple Cause) モデル」、「PLS (Partial Least Square) モデル」について説明。      ■受講生が、共分散構造分析以外の、逐次モデル、非逐次モデル、重回帰分析による分析を実習する。</p> <p>①携帯電話の購買意欲（重回帰分析）      ②結婚相談所における女性による男性の格付け（逐次モデル）      ③野球球団Aに対する応援の「態度」を巡る夫婦とその両親との因果関係（非逐次モデル）</p>	<p>テキスト pp. 52-59 を理解すること（2時間）      授業後の復習として、再度ソフトウェアを起動し、モデルを再設定して出力結果を確認すること（2時間）</p>	4時間
第5回	対面	<p>■前回到続き、受講生より、共分散分析、確認的因子分析、階層因子分析等の多様なモデルを実習する。</p> <p>④高校生の期末試験の成績に及ぼす知能、勉強時間、睡眠時間の影響（多変量回帰）      ⑤コンピュータ学修は英語の能力を向上させるのか（共分散分析）      ⑥学校における子供の仲間評価（2次因子分析・階層因子分析）      ⑦母子関係における母親の絶対視観（ファントム変数登用モデル）</p>	<p>テキスト pp. 60-71 を理解すること（2時間）      授業後の復習として、再度ソフトウェアを起動し、モデルを再設定して出力結果を確認すること（2時間）</p>	4時間
第6回	対面	<p>■多母集団分析とは、属性の異なるデータが混在する場合の分析法である。</p> <p>【実習課題①】：難関校と低位校の入学時偏差値と学校生活が、卒業時学力差に及ぼす影響      【実習課題②】：数的処理能力における小学6年生と中学1年生の学力差要因</p> <p>■平均共分散構造分析とは、変数間の平均値の違いを考慮した分析であり、属性間における平均値の差の検定もできる。</p> <p>【実習課題③】セミナーの満足度評価の平均共分散構造分析（相関データに平均情報を組込む）      【実習課題④】算数の学力変化における教授法による影響分析</p>	<p>テキスト pp. 74-97 を理解すること（2時間）      授業後の復習として、再度ソフトウェアを起動し、モデルを再設定して出力結果を確認すること（2時間）</p>	4時間

第7回	対面	<p>■成長曲線モデルについて、縦断的データ（同一対象を複数回測定）の推移を示す曲線を仮定し、その経時的に一貫したパラメータを推定する。</p> <p>【実習課題】大学入学時後の運動と学年別の体重変化予測</p> <p>■研究テーマ検討1： 受講生による研究テーマ報告とディスカッション</p>	<p>テキスト pp. 100-107 を理解すること（2時間）</p> <p>授業後の復習として、再度ソフトウェアを起動し、モデルを再設定して出力結果を確認すること（2時間）</p>	4時間
第8回	対面	<p>■完全にランダムな欠損（MCAR）の対処について、完全情報最尤法、多重代入法（回帰代入法、確率的代入法、ベイズ代入法）を実習する</p> <p>【実習課題】欠損データを含む試験成績の分析における対処</p> <p>■研究テーマ検討2： 受講生による研究計画報告とディスカッション</p>	<p>テキスト pp. 110-127 を理解すること（2時間）</p> <p>授業後の復習として、再度ソフトウェアを起動し、モデルを再設定して出力結果を確認すること（2時間）</p>	4時間
第9回	対面	<p>■ブートストラップ法を用い、標本データ数の不足や偏りで分析が困難な場合に、既存データセットより仮想的なデータセットを生成して補い、問題に対処する。また、複数の構造仮説モデルを比較し、最も適合度の良いものを選択する。</p> <p>【実習課題】試験成績の分析における推定値のバイアス修正、構造仮説モデル間の適合度の比較</p> <p>■研究テーマ検討3： 受講生による研究テーマ報告とディスカッション</p>	<p>テキスト pp. 120-127 を理解すること（2時間）</p> <p>授業後の復習として、再度ソフトウェアを起動し、モデルを再設定して出力結果を確認すること（2時間）</p>	4時間
第10回	対面	<p>■モデル探索機能を用いて、仮説の因果構造図で不足している可能性があるパスを探索する。</p> <p>【実習課題①】難関校と低位校の入学時偏差値と学校生活が、卒業時学力差に及ぼす影響（第6回）の分析結果の改良を試みる。</p> <p>【実習課題②】「ニセコヴィラ・スキー場」の因子分析におけるイメージ抽出モデルの比較検討</p> <p>■先行研究文献報告1： 研究計画書作成の参考として、テーマに関する先行研究の論文構成、調査対象、結論を中心に報告</p>	<p>テキスト pp. 130-137 を理解すること（2時間）</p> <p>授業後の復習として、再度ソフトウェアを起動し、モデルを再設定して出力結果を確認すること（2時間）</p>	4時間
第11回	対面	<p>■多母集団平均構造分析により、母集団間の平均構造が潜在因子やその後の推移への影響に関連させて分析する</p> <p>【実習課題】学力を決定する潜在因子に関する大学間比較</p> <p>■先行研究文献報告2： 研究計画書作成の参考として、テーマに関する先行研究の論文構成、調査対象、結論を中心に報告</p>	<p>テキスト pp. 140-147 を理解すること（2時間）</p> <p>授業後の復習として、再度ソフトウェアを起動し、モデルを再設定して出力結果を確認すること（2時間）</p>	4時間
第12回	オンデマンド	<p>■ベイズ推定とは、未知の母数の推定値をその事前情報（確率分布）を考慮して求める統計手法の概念である。MCMC法では、マルコフ連鎖の概念とモンテカルロ・シミュレーションを用いて近似的な事後分布を</p>	<p>テキスト pp. 150-157 を理解すること（2時間）</p> <p>授業後の復習として、再度ソフトウェアを起動し、モデルを再設定して出力結果を確認すること（2時間）</p>	4時間

		生成する。事後分布（形状、パラメータ）を予め設定しそれに収束させることにより高精度のパス係数推定が可能となる。 【実習課題】：知能（構成概念）による個別能力（観測変数）へのパス係数のMCMC推定 ■研究計画討論1： テーマに関するデータの入手方法の報告とディスカッション		
第13回	対面	■数量区分の選択肢において、「〇〇以上」のように一括され曖昧なデータを「打ち切りデータ」という。このようなデータに対し、MCMC法を用いて対処する。 【実習課題】病気患者の投薬療法による完治までの経過日数への、年齢と体重による影響（途中転院による打ち切りデータを含む） ■研究計画討論2： フィールド調査による現状把握方法に関する報告とディスカッション	テキスト pp.160-164 を理解すること（2時間） 授業後の復習として、再度ソフトウェアを起動し、モデルを再設定して出力結果を確認すること（2時間）	4時間
第14回	対面	■「非常に良い」「やや良い」「どちらともいえない」等の順序カテゴリカルデータについて、MCMC法を用いて分析する 【実習課題】順序カテゴリカルデータの因子分析におけるMCMC法による因子負荷量の推定 ■研究計画討論3： フィールド調査による現状把握方法に関する報告とディスカッション	テキスト pp.168-177 を理解すること（2時間） 授業後の復習として、再度ソフトウェアを起動し、モデルを再設定して出力結果を確認すること（2時間）	4時間
第15回	対面	1. 研究計画書（一次稿）の報告 2. 夏休み到達目標の確認 3. 振り返り	学会報告（北海道）に向けて、夏休み中にプレゼンを完成させる（4時間）	4時間
第16回	対面	1. フィールド調査の学修成果報告 2. 研究計画書の更新 3. 分析データの具体的な入手方法（アンケート調査票）検討	コメントをしますので、授業の一週間前に事前に課題を提出すること（4時間）	4時間
第17回	対面	1. フィールド調査の学修成果報告 2. 研究計画書の更新 3. 分析データの具体的な入手方法（アンケート調査票）検討	コメントで、指摘を受けた箇所を中心に改善と更なる充実をすること（4時間）	4時間
第18回	対面	研究テーマに関する先行研究サーベイの学生報告、ディスカッション	コメントで、指摘を受けた箇所を中心に改善と更なる充実をすること（4時間）	4時間
第19回	対面	研究テーマに関する先行研究サーベイの学生報告、ディスカッション	コメントで、指摘を受けた箇所を中心に改善と更なる充実をすること（4時間）	4時間
第20回	対面	データ集計～分析～考察についての学生報告、ディスカッション	コメントで、指摘を受けた箇所を中心に改善と更なる充実をすること（4時間）	4時間
第21回	対面	データ集計～分析～考察についての学生報告、ディスカッション	コメントで、指摘を受けた箇所を中心に改善と更なる充実をすること（4時間）	4時間
第22回	対面	論文概要の報告、ディスカッション	コメントで、指摘を受けた箇所を中心に改善と更なる充実をすること（4時間）	4時間
第23回	対面	論文概要の報告、ディスカッション	コメントで、指摘を受けた箇所を中心に改善と更なる充実をすること（4時間）	4時間
第24回	対面	論文概要の報告、ディスカッション	コメントで、指摘を受けた箇所を中心に改善と更なる充実をすること（4時間）	4時間
第25回	対面	一次原稿の発表、ディスカッション	コメントで、指摘を受けた箇所を中心に改善と更なる充実をすること（4時間）	4時間
第26回	対面	次原稿の発表、ディスカッション	コメントで、指摘を受けた箇所を中心に改善と更なる	4時間

			る充実をすること（4時間）	
第27回	対面	指導教員との質疑応答・追加・修正	コメントで、指摘を受けた箇所を中心に改善と更なる充実をすること（4時間）	4時間
第28回	対面	指導教員との質疑応答・追加・修正	コメントで、指摘を受けた箇所を中心に改善と更なる充実をすること（4時間）	4時間
第29回	対面	指導教員との質疑応答・追加・修正	コメントで、指摘を受けた箇所を中心に改善と更なる充実をすること（4時間）	4時間
第30回	対面	総括 2年次の研究計画 春休み中の到達目標（理論、政策面の強化を重点的に） 日本行動経済学会（学生論文コンテスト）への投稿、学会報告について¥ <a href="http://www.abef.jp/topics/20180207/733/">http://www.abef.jp/topics/20180207/733/</a>	コメントで、指摘を受けた箇所を中心に改善と更なる充実をすること（4時間）	4時間

科目名	研究指導Ⅱ	開講年度	2024年度春学期、2024年度秋学期
担当者	城戸 亮	配当年次	修士2
科目ナンバリング	—	単位数	4単位
グレード	—	授業方法	演習
科目区分	経済学研究科経営学専攻		
テーマ	日本企業等の人材・組織マネジメントについての修士論文の完成に向けた研究指導		
授業の目的及び概要	この研究指導では、日本企業等の組織・人材マネジメントに関する様々な課題、対応策等について学修する。前期には、4月末の研究計画書提出、10月の中間発表会発表を念頭に、1年次修了時に提出した修士論文の一次原稿を引き続き加筆・修正等していく。後期は、前期までの研究内容や中間発表会における指導等を踏まえ、特に、現代企業が直面する人的資源管理の諸問題に対する解決方策を提案できているかという点を重視して修正させる。修正した原稿を本研究指導において議論し、修士論文の完成にもっていく。		
履修条件・留意点			
DPとの関連	—		
学修の到達目標	研究計画書に沿って、周到な文献・資料収集を行うことができ、論理的な思考と記述に則した修士論文を完成させることができる。 この学修を通じて、人的資源管理・組織の課題に関する調査・分析・提言の能力を習得できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	各回の学生の報告に対して教員が不十分な点を指摘するとともに、論文原稿を添削する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし	ISBN	なし
参考書	なし	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	70	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	【定期試験】WEB試験	0	
	その他（％）	0	
その他の内容			
この科目の受講にあたって	この演習では原則として、毎回受講生の報告と発表が行われる。活発な議論を引き出すためには、日頃から十分な調査・研究に努力することが求められる。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	前期のねらいと進め方など、演習の進め方について説明する。 研究計画書を点検・指導する。	【予習】4月末に提出予定の研究計画書を改訂しておく。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正していく。	4時間
第2回	オンデマンド	研究倫理教育 解説動画を視聴して、研究倫理に対する自身の心構えを文章にしたためる。	【予習】インターネットで研究不正とは何か調べる。 【復習】解説動画を再視聴する。	4時間
第3回	対面	研究計画書を充実させる。	【予習】4月末に提出予定の研究計画書を改訂してお	4時間

			く。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正していく。	
第4回	対面	研究計画書を完成させる。	【予習】4月末に提出予定の研究計画書を改訂しておく。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正し、完成させる。	4時間
第5回	対面	研究計画書に沿って、調査研究と論文原稿作成を点検・指導する。	【予習】研究計画に沿って、各自進めた調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正し、報告・発表した調査研究と論文原稿に反映させる。	4時間
第6回	対面	研究計画書に沿って、調査研究と論文原稿作成を点検・指導する。	【予習】研究計画に沿って、各自進めた調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正し、報告・発表した調査研究と論文原稿に反映させる。	4時間
第7回	対面	研究計画書に沿って、調査研究と論文原稿作成を点検・指導する。	【予習】研究計画に沿って、各自進めた調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正し、報告・発表した調査研究と論文原稿に反映させる。	4時間
第8回	対面	研究計画書に沿って、調査研究と論文原稿作成を点検・指導する。	【予習】研究計画に沿って、各自進めた調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正し、報告・発表した調査研究と論文原稿に反映させる。	4時間
第9回	対面	研究計画書に沿って、調査研究と論文原稿作成を点検・指導する。	【予習】研究計画に沿って、各自進めた調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正し、報告・発表した調査研究と論文原稿に反映させる。	4時間
第10回	対面	研究計画書に沿って、調査研究と論文原稿作成を点検・指導する。	【予習】研究計画に沿って、各自進めた調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正し、報告・発表した調査研究と論文原稿に反映させる。	4時間
第11回	対面	研究計画書に沿って、調査研究と論文原稿作成を点検・指導する。	【予習】研究計画に沿って、各自進めた調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正し、報告・発表した調査研究と論文原稿に反映させる。	4時間
第12回	対面	10月末の中間発表会に向けて、調査研究と論文原稿について点検・指導する。	【予習】中間発表会に向けて各自進めた調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正し、報告・発表した調査研究と論文原稿に反映させる。	4時間
第13回	対面	10月末の中間発表会に向けて、調査研究と論文原稿について点検・指導する。	【予習】中間発表会に向けて各自進めた調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正し、報告・発表した調査研究と論文原稿に反映させる。	4時間
第14回	対面	10月末の中間発表会に向けて、調査研究と論文原稿について点検・指導する。	【予習】中間発表会に向けて各自進めた調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正し、報告・発表した調査研究と論文原稿に反映させる。	4時間

第15回	対面	前期の授業の総括と夏休みの研究計画に対する指導。	【予習】各自進めた調査研究と論文原稿を総点検し、夏休みの研究計画の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、夏休みの調査研究活動を具体的に決める。	4時間
第16回	対面	夏休み中に行った研究結果の報告。後期の演習の進め方などについて説明する。	【予習】夏休みに行った調査研究の成果をとりまとめ、報告・発表する準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正し、報告・発表した調査研究と論文原稿に反映させる。	4時間
第17回	オンデマンド	10月末の中間発表会に向けて、オンライン個別指導を行う。	【予習】中間発表会に向けて各自進めた調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する準備を行う。 【復習】個別指導での指摘を踏まえて、加筆・修正し、報告・発表した調査研究と論文原稿に反映させる。	4時間
第18回	対面	10月末の中間発表会に向けて、調査研究と論文原稿について点検・指導する。	【予習】中間発表会に向けて各自進めた調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正し、報告・発表した調査研究と論文原稿に反映させる。	4時間
第19回	対面	10月末の中間発表会に向けて、調査研究と論文原稿について点検・指導する。	【予習】中間発表会に向けて各自進めた調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正し、報告・発表した調査研究と論文原稿に反映させる。	4時間
第20回	対面	修士論文の完成に向けて、調査研究と論文作成を指導する。	【予習】中間発表会における各教員からの指導を踏まえ、調査研究と論文原稿を修正しておく。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正し、報告・発表した調査研究と論文原稿に反映させる。	4時間
第21回	対面	修士論文の完成に向けて、調査研究と論文作成を指導する。	【予習】研究計画に沿って、各自進めた調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正し、報告・発表した調査研究と論文原稿に反映させる。	4時間
第22回	対面	修士論文の作成に向けて、調査研究と論文作成を指導する。	【予習】研究計画に沿って、各自進めた調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正し、報告・発表した調査研究と論文原稿に反映させる。	4時間
第23回	対面	修士論文の作成に向けて、調査研究と論文作成を指導する。	【予習】研究計画に沿って、各自進めた調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正し、報告・発表した調査研究と論文原稿に反映させる。	4時間
第24回	対面	修士論文の完成に向けた調査研究内容と最終原稿について指導する。	【予習】研究計画に沿って、各自進めた調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正し、報告・発表した調査研究と論文原稿に反映させる。	4時間
第25回	対面	修士論文の完成に向けた調査研究内容と最終原稿について指導する。	【予習】研究計画に沿って、各自進めた調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正し、報告・発表した調査研究と論文原稿に反映させる。	4時間
第26回	対面	修士論文の完成に向けた調査研究内容と最終原稿について指導する。	【予習】研究計画に沿って、各自進めた調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正し、報告・発表した調査研究と論文原	4時間

			稿に反映させる。	
第27回	対面	修士論文の完成に向けた調査研究内容と最終原稿について指導する。	【予習】 修士論文の完成に向けた調査研究内容を点検し、最終原稿の報告を準備する。 【復習】 演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正し、報告・発表した論文原稿に反映させる。	4時間
第28回	対面	修士論文の完成に向けた調査研究内容と最終原稿について指導する。	【予習】 修士論文の完成に向けた調査研究内容を点検し、最終原稿の報告を準備する。 【復習】 演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正し、報告・発表した論文原稿に反映させる。	4時間
第29回	対面	修士論文の完成に向けた調査研究内容と最終原稿について指導する。	【予習】 修士論文の完成に向けた調査研究内容を点検し、最終原稿の報告を準備する。 【復習】 演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正し、報告・発表した論文原稿に反映させる。	4時間
第30回	対面	演習全体の総括を行い、修士論文を完成させる。	【予習】 修士論文の完成原稿をチェックリストに基づいて最終点検し、報告発表する準備をする。 【復習】 演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正し、修士論文を完成させる。	4時間

科目名	研究指導Ⅱ	開講年度	2024 年度春学期、2024 年度秋学期
担当者	津田 博	配当年次	修士 2
科目ナンバリング	—	単位数	4 単位
グレード	—	授業方法	演習
科目区分	経済学研究科経営学専攻		
テーマ	企業や行政における情報の利活用		
授業の目的及び概要	<p>本演習（研究指導）では、1 年次に続き、経営情報の考え方にに基づき、企業や行政の効率的かつ効果的な情報の利活用について、組織的取組や制度、システム構築や調達、クラウドコンピューティングや AI（人工知能）、IoT 等に関する諸問題について考察します。そして、理論と事例をベースに多面的なディスカッションを行います。</p> <p>春学期には、修士論文の中間原稿に基づき、公開で行われる中間発表会において発表し、他の教員や他の演習（研究指導）の学生も交えたディスカッションなどを通じ修正します。</p> <p>秋学期には、前期までの研究内容や前期に実施した中間発表会における指導等を踏まえ、特に、現代企業が直面する経営情報の諸問題の中から経営改革の方向を提案できているかという点を重視して修正します。修正した原稿を本演習（研究指導）において再度発表し、修士論文の完成を視野に入れた指導を行います。</p> <p>以上を通して、高度専門職業人としての知識・技能を身につけられるようにします。</p>		
履修条件・留意点	アンケートや企業等に対するヒアリングを行う際には、アンケート等の内容を十分に吟味し、複数の協力者に評価してもらってから実施するようにしてください。		
DP との関連	—		
学修の到達目標	<p>研究指導Ⅰにおいて受講生が作成した修士論文作成計画に沿って、周到な文献・資料収集を行うことができ、論理的な思考と記述に則した修士論文を完成させることができる。</p> <p>この学修を通じて、企業が直面する経営管理の諸問題の中から経営戦略、組織構造を含む経営情報に関する調査・分析・提言の能力を習得できる。</p>		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	各回の学生の報告書に対して教員が不十分な点を指摘するとともに、修論原稿を添削し、フィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、民間企業でシステム開発担当者としての業務経験を持ち、システム開発やプログラミングなどの豊富な経験を有する。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	テキストは使用しません。	ISBN	なし
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		50
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		0
	成果発表（口頭・実技）		0
	中間試験		0
	【定期試験】レポート試験		0
	【定期試験】筆記試験（対面）		0
	【定期試験】WEB 試験		0
	その他（%）		50
	その他の内容	修士論文発表の評価 修士論文の評価	
この科目の受講にあたって	この演習では原則として、毎回受講生の報告と発表が行われる。活発な議論を引き出すためには、日頃から十分な調査・研究に努力することが求められる。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	前期の授業のねらいと進め方など授業の概要を説明する。 研究計画書に沿って、調査研究と論文原稿作成を点検・指導する。	事前学修として、研究計画に沿って、各自進めた調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する（2時間程度）。 事後学修として、教員からのコメントを復習し、報告・発表した調査研究と論文原稿に反映させる（2時間程度）。	4時間
第2回	オンデマンド	研究倫理教育 解説動画を視聴して、研究倫理に対する自身の心構えを文章にしたためる。【予習】インターネットで研究不正とは何か調べる。【復習】解説動画を再視聴する。4時間	【予習】インターネットで研究不正とは何か調べる。 【復習】解説動画を再視聴する。	4時間
第3回	対面	研究計画書に沿って、調査研究と論文原稿作成を点検・指導する。	事前学修として、研究計画に沿って、各自進めた調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する（2時間程度）。 事後学修として、教員からのコメントを復習し、報告・発表した調査研究と論文原稿に反映させる（2時間程度）。	4時間
第4回	対面	研究計画書に沿って、調査研究と論文原稿作成を点検・指導する。	事前学修として、研究計画に沿って、各自進めた調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する（2時間程度）。 事後学修として、教員からのコメントを復習し、報告・発表した調査研究と論文原稿に反映させる（2時間程度）。研	4時間
第5回	対面	研究計画書に沿って、調査研究と論文原稿作成を点検・指導します。	事前学修として、研究計画に沿って、各自進めた調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する（2時間程度）。 事後学修として、教員からのコメントを復習し、報告・発表した調査研究と論文原稿に反映させる（2時間程度）。	4時間
第6回	対面	研究計画書に沿って、調査研究と論文原稿作成を点検・指導します。	事前学修として、研究計画に沿って、各自進めた調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する（2時間程度）。 事後学修として、教員からのコメントを復習し、報告・発表した調査研究と論文原稿に反映させる（2時間程度）。	4時間
第7回	対面	研究計画書に沿って、調査研究と論文原稿作成を点検・指導します。	事前学修として、研究計画に沿って、各自進めた調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する（2時間程度）。 事後学修として、教員からのコメントを復習し、報告・発表した調査研究と論文原稿に反映させる（2時間程度）。	4時間
第8回	対面	研究計画書に沿って、調査研究と論文原稿作成を点検・指導します。	事前学修として、研究計画に沿って、各自進めた調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する（2時間程度）。 事後学修として、教員からのコメントを復習し、報告・発表した調査研究と論文原稿に反映させる（2時間程度）。	4時間
第9回	対面	中間原稿の発表、ディスカッション	事前学修として、これまで報告した調査研究と論文原稿を中間発表としてまとめ発表する準備する（2時間程度）。 事後学修として、教員のコメントを復習し、調査研究内容と論文原稿の加筆修正に反映させる（2時間程度）。	4時間

第10回	対面	中間原稿の発表、ディスカッション	事前学修として、これまで報告した調査研究と論文原稿を中間発表としてまとめ発表する準備する(2時間程度)。 事後学修として、教員のコメントを復習し、調査研究内容と論文原稿の加筆修正に反映させる(2時間程度)。	4時間
第11回	対面	中間原稿の発表、ディスカッション	事前学修として、これまで報告した調査研究と論文原稿を中間発表としてまとめ発表する準備する(2時間程度)。 事後学修として、教員のコメントを復習し、調査研究内容と論文原稿の加筆修正に反映させる(2時間程度)。	4時間
第12回	対面	これまでで修正された中間発表の調査研究と論文原稿について追加的な指導します。	事前学修として、修正された中間原稿を点検し、新たに必要となった調査研究を行い、論文原稿を作成し、報告を準備する(2時間程度)。 事後学修として、教員のコメントを復習し、それを調査研究と修正された中間原稿作成に反映させる(2時間程度)。	4時間
第13回	対面	これまでで修正された中間発表の調査研究と論文原稿について追加的な指導します。	事前学修として、修正された中間原稿を点検し、新たに必要となった調査研究を行い、論文原稿を作成し、報告を準備する(2時間程度)。 事後学修として、教員のコメントを復習し、それを調査研究と修正された中間原稿作成に反映させる(2時間程度)。	4時間
第14回	対面	これまでで修正された中間発表の調査研究と論文原稿について追加的な指導します。	事前学修として、修正された中間原稿を点検し、新たに必要となった調査研究を行い、論文原稿を作成し、報告を準備する(2時間程度)。 事後学修として、教員のコメントを復習し、それを調査研究と修正された中間原稿作成に反映させる(2時間程度)。	4時間
第15回	対面	前期の授業の総括と夏休みの研究計画に対する指導します。	事前学修として、春学期に行った調査研究と作成した論文原稿を総点検し、研究の不足している部分、原稿の加筆修正が必要な部分を洗い出し、夏休みに行く研究計画の報告準備する(2時間程度)。 事後学修として、教員のコメントを復習し、秋学期に向けた調査研究の方向を確認する(2時間程度)。	4時間
第16回	対面	夏休み中に行った研究結果および秋学期の授業のポイント・進め方などについて指導します。	事前学修として、夏休み中に行った調査研究の内容と新たに作成した論文原稿をまとめ、報告発表の準備をする(2時間程度)。 事後学修として、教員からのコメントを復習し、調査研究内容と論文原稿の修正に反映させる(2時間程度)。	4時間
第17回	対面	10月の中間発表会に向けての調査研究と原稿作成の指導を行います。	事前学修として、10月の中間発表会に向けた調査研究内容・論文原稿・文献資料を点検し、発表内容を準備する(2時間程度)。 事後学修として、教員からのコメントを復習し、中間発表会の発表内容に反映させる(2時間程度)。	4時間
第18回	対面	10月の中間発表会に向けての調査研究と原稿作成の指導を行います。	事前学修として、10月の中間発表会に向けた調査研究内容・論文原稿・文献資料を点検し、発表内容を準備する(2時間程度)。 事後学修として、教員からのコメントを復習し、中間発表会の発表内容に反映させる(2時間程度)。	4時間
第19回	対面	研究計画書に基づいて、調査研究と論文作成を指導します。	事前学修として、研究計画に沿って、各自進めた調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する(2時間程度)。 事後学修として、教員からのコメントを復習し、報告・発表した調査研究と論文原稿に反映させる(2時間程度)。	4時間

			間程度)。	
第20回	対面	研究計画書に基づいて、調査研究と論文作成を指導します。	事前学修として、研究計画に沿って、各自進めた調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する(2時間程度)。 事後学修として、教員からのコメントを復習し、報告・発表した調査研究と論文原稿に反映させる(2時間程度)。	4時間
第21回	対面	研究計画書に基づいて、調査研究と論文作成を指導します。	事前学修として、研究計画に沿って、各自進めた調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する(2時間程度)。 事後学修として、教員からのコメントを復習し、報告・発表した調査研究と論文原稿に反映させる(2時間程度)。	4時間
第22回	対面	研究計画書に基づいて、調査研究と論文作成を指導します。	事前学修として、研究計画に沿って、各自進めた調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する(2時間程度)。 事後学修として、教員からのコメントを復習し、報告・発表した調査研究と論文原稿に反映させる(2時間程度)。	4時間
第23回	対面	研究計画書に基づいて、調査研究と論文作成を指導します。	事前学修として、研究計画に沿って、各自進めた調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する(2時間程度)。 事後学修として、教員からのコメントを復習し、報告・発表した調査研究と論文原稿に反映させる(2時間程度)。	4時間
第24回	対面	修士論文の完成に向けた調査研究内容と最終原稿について指導します。	事前学修として、修士論文の完成に向けた調査研究内容を点検し、最終原稿の報告を準備する(2時間程度)。 事後学修として、教員のコメントを復習し、最終原稿に反映させる(2時間程度)。	4時間
第25回	対面	修士論文の完成に向けた調査研究内容と最終原稿について指導します。	事前学修として、修士論文の完成に向けた調査研究内容を点検し、最終原稿の報告を準備する(2時間程度)。 事後学修として、教員のコメントを復習し、最終原稿に反映させる(2時間程度)。	4時間
第26回	対面	修士論文の完成に向けた調査研究内容と最終原稿について指導します。	事前学修として、修士論文の完成に向けた調査研究内容を点検し、最終原稿の報告を準備する(2時間程度)。 事後学修として、教員のコメントを復習し、最終原稿に反映させる(2時間程度)。	4時間
第27回	対面	修士論文の完成に向けた調査研究内容と最終原稿について指導します。	事前学修として、修士論文の完成に向けた調査研究内容を点検し、最終原稿の報告を準備する(2時間程度)。 事後学修として、教員のコメントを復習し、最終原稿に反映させる(2時間程度)。	4時間
第28回	対面	修士論文の完成に向けた調査研究内容と最終原稿について指導します。	事前学修として、修士論文の完成に向けた調査研究内容を点検し、最終原稿の報告を準備する(2時間程度)。 事後学修として、教員のコメントを復習し、最終原稿に反映させる(2時間程度)。	4時間
第29回	対面	修士論文の完成に向けた調査研究内容と最終原稿について指導します。	事前学修として、修士論文の完成に向けた調査研究内容を点検し、最終原稿の報告を準備する(2時間程度)。 事後学修として、教員のコメントを復習し、最終原稿に反映させる(2時間程度)。	4時間
第30回	オンデマンド	授業全体の総括を行い、修士論文の完成原稿について報告してもらう。	事前学修として、修士論文の完成原稿をチェックリストに基づいて最終点検し、報告発表する準備する	6時間

			<p>(3時間程度)。 事後学修として、教員のコメントを修士論文の完成 原稿に反映させる (3時間程度)。</p>	
--	--	--	---	--

科目名	研究指導Ⅱ	開講年度	2024年度春学期、2024年度秋学期
担当者	荒木 康代	配当年次	修士2
科目ナンバリング	—	単位数	4単位
グレード	—	授業方法	演習
科目区分	経済学研究科経営学専攻		
テーマ	修士論文完成に向けての研究 人々の働き方の変化と課題及び企業組織と企業の人的資源管理について考える。		
授業の目的及び概要	受講生の興味関心に基づいたテーマをもとに、大学院における調査研究の方法や論文の執筆方法を修得させ、修士論文を完成させる。これらの学修を通じて、現代社会や企業が直面する様々な課題の中から、特に人々の働き方や企業における人材の問題に対する分析・提案能力を修得させる。		
履修条件・留意点	—		
DPとの関連	—		
学修の到達目標	本演習（研究指導）は、人的資源管理や能力開発及び経営倫理、企業における女性労働及び女性活用、高齢者雇用、ワークライフバランスなどに関する諸問題についての知識を獲得するとともに、研究テーマに基づき資料を収集し、分析・考察し、修士論文を完成させることを到達目標とする。同時にこの作業を通じて、論理的な思考能力、分析能力、文章作成能力を身につけることを目標とする。		
資格・検定試験への対応	—		
フィードバックの方法	授業での発表についてはその都度追加、修正すべき事項について教員が指導する。また、提出したレポートについては、添削したうえで返却することで、フィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	—		
テキスト	なし	ISBN	なし
参考書	授業中に必要に応じて紹介する。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	70	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	【定期試験】WEB試験	0	
	その他（％） その他の内容		
この科目の受講にあたって	日頃から、自らの研究テーマについて常にアンテナを張って広範囲に情報収集に努めること。自らの研究テーマに関する資料・文献に関しては、日ごろから積極的に収集に努めること。修士論文作成のための情報収集と分析、論文作成には多くの時間とエネルギーが必要です。大変な作業ですが、真摯に取り組んでください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 授業のねらいと進め方など 授業の概要及び修士論文作成についての説明	修士論文計画書の作成	4時間
第2回	オンデ	研究倫理教育	【予習】インターネットで研究不正とは何か調べる。	4時間

	マンド	解説動画を視聴して、研究倫理に対する自身の心構えを文章にしたためる。	【復習】解説動画を再視聴する。	
第3回	対面	修士論文原稿の作成、発表とディスカッション、教員によるコメント	研究テーマに関する文献、資料の収集、まとめ。授業中に指摘されたコメント等を参考に修士論文原稿を修正、作成する。	4時間
第4回	対面	修士論文原稿の作成、発表とディスカッション、教員によるコメント	研究テーマに関する文献、資料の収集、まとめ。授業中に指摘されたコメント等を参考に修士論文原稿を修正、作成する。	4時間
第5回	対面	修士論文原稿の作成、発表とディスカッション、教員によるコメント	研究テーマに関する文献、資料の収集、まとめ。授業中に指摘されたコメント等を参考に修士論文原稿を修正、作成する。	4時間
第6回	対面	修士論文原稿の作成、発表とディスカッション、教員によるコメント	研究テーマに関する文献、資料の収集、まとめ。授業中に指摘されたコメント等を参考に修士論文原稿を修正、作成する。	4時間
第7回	対面	修士論文原稿の作成、発表とディスカッション、教員によるコメント	研究テーマに関する文献、資料の収集、まとめ。授業中に指摘されたコメント等を参考に修士論文原稿を修正、作成する。	4時間
第8回	対面	修士論文原稿の作成、発表とディスカッション、教員によるコメント	研究テーマに関する文献、資料の収集、まとめ。授業中に指摘されたコメント等を参考に修士論文原稿を修正、作成する。	4時間
第9回	対面	修士論文原稿の作成、発表とディスカッション、教員によるコメント	研究テーマに関する文献、資料の収集、まとめ。授業中に指摘されたコメント等を参考に修士論文原稿を修正、作成する。	4時間
第10回	対面	修士論文原稿の作成、発表とディスカッション、教員によるコメント	研究テーマに関する文献、資料との収集、整理。授業中に指摘されたコメント等を参考に修士論文原稿を修正、作成する。	4時間
第11回	対面	修士論文原稿の作成、発表とディスカッション、教員によるコメント	研究テーマに関する文献、資料との収集、整理。授業中に指摘されたコメント等を参考に修士論文原稿を修正、作成する。	4時間
第12回	対面	修士論文原稿の作成、発表とディスカッション、教員によるコメント	研究テーマに関する文献、資料との収集、整理。授業中に指摘されたコメント等を参考に修士論文原稿を修正、作成する。	6時間
第13回	対面	修士論文原稿の作成、発表とディスカッション、教員によるコメント	研究テーマに関する文献、資料との収集、整理。授業中に指摘されたコメント等を参考に修士論文原稿を修正、作成する。	6時間
第14回	対面	修士論文原稿の作成、発表とディスカッション、教員によるコメント	研究テーマに関する文献、資料の収集、整理。授業中に指摘されたコメント等を参考に修士論文原稿を修正、作成する。	6時間
第15回	対面	修士論文原稿の作成、発表、教員によるコメント、添削	修士論文計画書に従って、研究を進める。研究テーマに関する文献、資料との収集、整理、まとめ。授業中に指摘されたコメント等を参考に修士論文原稿を修正、作成、提出する。	6時間
第16回	対面	修士論文原稿の作成、発表とディスカッション、教員によるコメント	研究テーマに関する文献、資料との収集、整理。授業中に指摘されたコメント等を参考に修士論文原稿を修正、作成する。	6時間
第17回	対面	修士論文原稿の作成、発表とディスカッション、教員によるコメント	研究テーマに関する文献、資料との収集、整理。授業中に指摘されたコメント等を参考に修士論文原稿を修正、作成する。	4時間
第18回	対面	修士論文原稿の作成、発表とディスカッション、教員によるコメント	研究テーマに関する文献、資料との収集、整理。授業中に指摘されたコメント等を参考に修士論文原稿を修正、作成する。	4時間
第19回	対面	修士論文原稿の作成、発表とディスカッション、教員によるコメント	修士論文計画書に従って研究を進める。研究テーマに関する文献、資料の収集、整理。修士論文の作成	6時間
第20回	対面	修士論文原稿の作成、発表とディスカッション、教員によるコメント	研究テーマに関する文献、資料との収集、整理。修士論文の作成	6時間

第21回	対面	修士論文原稿の作成、発表とディスカッション、教員によるコメント	授業中に指摘されたコメント等を参考に修士論文原稿を修正、作成する。	6時間
第22回	対面	修士論文原稿の作成、発表とディスカッション、教員によるコメント	授業中に指摘されたコメント等を参考に修士論文原稿を修正、作成する。	6時間
第23回	対面	修士論文原稿の作成、発表とディスカッション、教員によるコメント	授業中に指摘されたコメント等を参考に修士論文原稿を修正、作成する。	6時間
第24回	対面	修士論文原稿の作成、発表とディスカッション、教員によるコメント	授業中に指摘されたコメント等を参考に修士論文原稿を修正、作成する。	6時間
第25回	対面	修士論文原稿の作成、発表とディスカッション、教員によるコメント	授業中に指摘されたコメント等を参考に修士論文原稿を修正、作成する。	6時間
第26回	対面	修士論文原稿の作成、発表とディスカッション、教員によるコメント	授業中に指摘されたコメント等を参考に修士論文原稿を修正、作成する。	6時間
第27回	対面	修士論文原稿の作成、発表とディスカッション、教員によるコメント	授業中に指摘されたコメント等を参考に修士論文原稿を修正、作成する。	6時間
第28回	対面	修士論文原稿の作成、発表とディスカッション、教員によるコメント	修士論文原稿の作成	6時間
第29回	対面	修士論文原稿の作成、発表、教員によるコメント、添削	修士論文原稿の完成、最終チェック、提出。	6時間
第30回	オンデマンド	修士論文口述試問資料PPの作成、発表、教員によるコメント	修士論文口述試問用資料PPの修正、練習	6時間

科目名	研究指導Ⅱ	開講年度	2024 年度春学期、2024 年度秋学期
担当者	島本 克彦	配当年次	修士 2
科目ナンバリング	—	単位数	4 単位
グレード	—	授業方法	演習
科目区分	経済学研究科経営学専攻		
テーマ	現代の財務会計における問題領域を幅広く理解し、各自の問題意識からより深く会計理論を考察する。		
授業の目的及び概要	本研究指導Ⅱは、研究指導Ⅰの内容を踏まえて、理論面につきより深く理解できるようになり、各自テーマによる修士論文を完成することを目標とする。各自の論文テーマの文献・資料を再度熟読し、その研究成果を何度か中間報告（発表）し、教員を交えてお互いに議論しあい、修士論文を作成することを目標とする。その目標を達成することにより、企業が直面する諸問題を会計的に分析することができるようになる。		
履修条件・留意点	理由なき欠席をすることなく、各自のテーマについて文章化して報告する。研究指導Ⅰの履修が条件である。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html</a>		
学修の到達目標	修士論文を完成させるのが目標である。そのため、研究テーマに関連する多くの先行研究を収集し、それを十分理解するとともに、なぜそうなのかというような問題意識を持つことが大切である。そのために各自が自己のテーマに即した内容を吟味、文章化することが必要である。論文の論理的展開と内容について教員や他の学生とディスカッションをすることが要求される。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	各回の学生の報告及びその報告書に対して不正確・不十分な点を指摘するとともに、修論原稿を添削し、フィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	各自のテーマに関連した資料を適宜配布する。	ISBN	使用しない。
参考書	適宜足りない文献は指示する。	ISBN	使用しない。
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	30	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	【定期試験】WEB 試験	0	
	その他（%）	50	
その他の内容	修論の報告及び原稿の内容により評価します。		
この科目の受講にあたって	日商簿記検定 2 級の知識が必要である。財務会計特論Ⅰ・Ⅱ、管理会計特論、税務会計特論の履修を推奨する。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	授業の目標と進め方など授業展開の概要を説明する。	【事前学修】修論テーマに関連する文献や資料を事前に準備しておいてください（2 時間程度）。 【事後学修】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて資料の整理・追加してください（2 時間程度）	4 時間





第25回	対面	研究テーマに関する文献や資料を熟読し報告原稿を作成し発表する。	【事前学修】修論テーマに関連する文献や資料に基づく発表原稿を事前に準備しておいてください(2時間程度)。 【事後学修】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて報告原稿を修正してください(2時間程度)	4時間
第26回	対面	研究テーマに関する文献や資料を熟読し報告原稿を作成し発表する。	【事前学修】修論テーマに関連する文献や資料に基づく発表原稿を事前に準備しておいてください(2時間程度)。 【事後学修】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて報告原稿を修正してください(2時間程度)	4時間
第27回	対面	研究テーマに関する文献や資料を熟読し報告原稿を作成し発表する。	【事前学修】修論テーマに関連する文献や資料に基づく発表原稿を事前に準備しておいてください(2時間程度)。 【事後学修】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて報告原稿を修正してください(2時間程度)	4時間
第28回	対面	研究テーマに関する文献や資料を熟読し報告原稿を作成し発表する。	【事前学修】修論テーマに関連する文献や資料に基づく発表原稿を事前に準備しておいてください(2時間程度)。 【事後学修】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて報告原稿を修正してください(2時間程度)	4時間
第29回	オンデマンド	研究テーマに関する文献や資料を熟読し報告原稿を作成し発表する。	【事前学修】修論テーマに関連する文献や資料に基づく発表原稿を事前に準備しておいてください(2時間程度)。 【事後学修】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて報告原稿を修正してください(2時間程度)。	4時間
第30回	オンデマンド	研究テーマに関する文献や資料を熟読し報告原稿を作成し発表する。	【事前学修】修論テーマに関連する文献や資料に基づく発表原稿を事前に準備しておいてください(2時間程度)。 【事後学修】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて最終原稿を作成してください(2時間程度)	4時間